別記様式第２号（その１の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

基　本　計　画　書

基　本　計　画									
事　項		記　入　欄							備　考
計画の区分		学部の学科の設置							
フリガナ 設置者		ｶﾞｯｺｳ ﾎｳｼﾞﾝ　ﾀﾏｶﾞﾜｶﾞｸｴﾝ 学校法人　玉川学園							
フリガナ 大学の名称		ﾀﾏｶﾞﾜﾀﾞｲｶﾞｸ 玉川大学 (Tamagawa University)							
大学本部の位置		東京都町田市玉川学園六丁目1番1号							
大学の目的		本大学は、教育基本法及び学校教育法の規定に基づき、更にキリストの教えに従い、玉川学園建学の理想にかんがみ、「全人教育」をもって教育精神とし、広い教養と深い専門の学術の理論及び応用を教授する。宗教、芸術教育を重んじ魂を醇化し、浄らかな情操を養成し、厳粛な道義心を涵養することをもって人格を陶冶し、併せて人類の幸福と世界の文化の進展に寄与するものとする。							
新設学部等の目的		演劇・舞踊学科は、上演芸術の理論や歴史および創造プロセスを多角的に学修し、上演芸術の価値および社会における使命や役割について説くことができ、創造の現場および社会に貢献する人材を養成する。							
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	
	芸術学部 ［College of Arts］ 演劇・舞踊学科 ［Department of Theatre and Performance］	年 4	人 90	年次人 -	人 360	学士 （芸術学） 【Bachelor of Arts】	年　月 第　年次 令和3年4月 第1年次	東京都町田市 玉川学園六丁目1番1号	
	計		90	-	360				
同一設置者内における変更状況 （定員の移行，名称の変更等）		○学部の学科の設置 芸術学部　音楽学科　(　80)　(令和2年 5月届出) アート・デザイン学科　(　100)　(令和2年 5月届出) ○学生募集の停止 芸術学部　パフォーミング・アーツ学科（廃止）　（△130） メディア・デザイン学科（廃止）　（△ 90） 芸術教育学科（廃止）　（△ 50） ※令和3年4月学生募集停止 ○入学定員の変更 農学部　生産農学科　〔定員減〕（△ 10）（令和3年4月） 教育学部　教育学科　〔定員減〕（△ 20）（令和3年4月） 観光学部　観光学科　〔定員増〕（　30）（令和3年4月）							
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数					卒業要件単位数		
		講義	演習	実験・実習	計				
	芸術学部演劇・舞踊学科	122　科目	81　科目	32　科目	235　科目		124　単位		

教員組織の概要	学部等の名称		専任教員等 教授	准教授	講師	助教	計	助手	兼任教員等	
			人	人	人	人	人	人	人	
	新設分	芸術学部　演劇・舞踊学科	4 (4)	2 (2)	0 (0)	1 (1)	7 (7)	3 (3)	129 (92)	
		音楽学科	5 (5)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	7 (7)	1 (1)	186 (139)	令和2年5月届出
		アート・デザイン学科	7 (7)	2 (2)	0 (0)	1 (1)	10 (10)	1 (1)	157 (99)	令和2年5月届出
		計	16 (16)	6 (6)	0 (0)	2 (2)	24 (24)	5 (5)	－ (－)	
	既設分	文学部　国語教育学科	5 (5)	3 (3)	0 (0)	0 (1)	8 (9)	0 (0)	132 (132)	
		英語教育学科	9 (10)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	11 (12)	0 (0)	136 (138)	
		農学部　生産農学科	9 (11)	9 (9)	0 (0)	0 (0)	18 (20)	5 (5)	136 (137)	
		環境農学科	4 (4)	4 (4)	0 (0)	1 (1)	9 (9)	2 (2)	110 (111)	
		先端食農学科	6 (7)	2 (0)	0 (0)	1 (2)	9 (9)	2 (2)	107 (107)	
		工学部　情報通信工学科	4 (5)	4 (2)	0 (0)	0 (1)	8 (8)	1 (1)	133 (137)	
		ｿﾌﾄｳｪｱｻｲｴﾝｽ学科	5 (5)	3 (2)	0 (0)	0 (1)	8 (8)	1 (1)	132 (134)	
		ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄｻｲｴﾝｽ学科	5 (5)	2 (2)	0 (0)	1 (1)	8 (8)	0 (0)	138 (139)	
		ｴﾝｼﾞﾆｱﾘﾝｸﾞﾃﾞｻﾞｲﾝ学科	5 (5)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	8 (8)	2 (2)	134 (135)	
		経営学部　国際経営学科	7 (9)	7 (4)	0 (0)	0 (1)	14 (14)	0 (0)	121 (124)	
		教育学部　教育学科 教育学科（通信教育課程）	32 (32)	11 (11)	0 (0)	1 (1)	44 (44)	0 (0)	191 (209)	
		乳幼児発達学科	8 (8)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	10 (10)	0 (0)	128 (131)	
		ﾘﾍﾞﾗﾙｱｰﾂ学部ﾘﾍﾞﾗﾙｱｰﾂ学科	12 (14)	6 (6)	0 (0)	4 (4)	22 (24)	0 (0)	127 (130)	
		観光学部　観光学科	7 (7)	7 (7)	0 (0)	0 (0)	14 (14)	0 (0)	105 (106)	
		教育博物館	2 (2)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	
		学術研究所	4 (5)	1 (0)	1 (1)	4 (5)	10 (11)	0 (1)	2 (2)	
		脳科学研究所	5 (5)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	7 (7)	0 (0)	0 (0)	
		量子情報科学研究所	4 (4)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	5 (5)	0 (0)	0 (0)	
		教師教育リサーチセンター	0 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (1)	0 (0)	24 (35)	
		ELFセンター	0 (0)	6 (6)	0 (0)	2 (3)	8 (9)	0 (0)	39 (42)	
		TAPセンター	0 (0)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	
		計	133 (144)	78 (69)	2 (2)	14 (21)	227 (236)	13 (14)	－ (－)	
	合計		149 (160)	84 (75)	2 (2)	16 (23)	251 (260)	18 (19)	－ (－)	

教員以外の職員の概要	職種	専任	兼任	計
		人	人	人
	事務職員	230 (233)	290 (290)	520 (523)
	技術職員	14 (14)	1 (1)	15 (15)
	図書館専門職員	10 (10)	3 (3)	13 (13)
	その他の職員	4 (4)	0 (0)	4 (4)
	計	258 (261)	294 (294)	552 (555)

校地等	区分	専用	共用	共用する他の学校等の専用	計	<共有する他の学校の名称・収容定員・校地面積基準>
	校舎敷地	0.00 ㎡	345,867.43 ㎡	0.00 ㎡	345,867.43 ㎡	玉川学園高等部 795人 13,020㎡ 玉川学園中学部 705人 12,390㎡ 玉川学園小学部 840人 10,980㎡ 玉川学園幼稚部 140人 1,000㎡
	運動場用地	0.00 ㎡	58,264.56 ㎡	0.00 ㎡	58,264.56 ㎡	
	小計	0.00 ㎡	404,131.99 ㎡	0.00 ㎡	404,131.99 ㎡	
	その他	0.00 ㎡	204,923.58 ㎡	0.00 ㎡	204,923.58 ㎡	
	合計	0.00 ㎡	609,055.57 ㎡	0.00 ㎡	609,055.57 ㎡	

校舎	専用	共用	共用する他の学校等の専用	計
	108,048.53 ㎡ (108,048.53 ㎡)	0.00 ㎡ (0.00 ㎡)	0.00 ㎡ (0.00 ㎡)	108,048.53 ㎡ (108,048.53 ㎡)

教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体
	78 室	57 室	216 室	0 室 (補助職員 0 人)	0 室 (補助職員 0 人)	全学生にノートPCの所有・持参を義務付けているため、専用の教室は設置していない

専任教員研究室	新設学部等の名称	室数
	芸術学部演劇・舞踊学科	7 室

図書・設備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	学部・学科単位での特定不能なため、大学全体の数
	演劇・舞踊学科	1,007,000〔310,000〕 (977,000〔305,000〕)	9,020〔2,360〕 (8,920〔2,300〕)	9,350〔9,300〕 (9,350〔9,300〕)	32,200 (32,000)	6,424 (6,424)	8 (8)	
	計	1,007,000〔310,000〕 (977,000〔305,000〕)	9,020〔2,360〕 (8,920〔2,300〕)	9,350〔9,300〕 (9,350〔9,300〕)	32,200 (32,000)	6,424 (6,424)	8 (8)	

図書館	面積	閲覧座席数	収納可能冊数	大学全体
	9,022.42 ㎡	1,040 席	1,301,220 冊	

体育館	面積	体育館以外のスポーツ施設の概要			
	4,226.96 ㎡	屋内プール 弓道場 洋弓場 ゴルフ場	東京都町田市玉川学園六丁目１番１号	昭和47年8月 昭和41年9月 昭和59年3月 昭和38年7月	2,766.30 ㎡ 1,314.00 ㎡ 2,053.00 ㎡ 4,862.00 ㎡

経費の見積及び維持方法の概要	区分	開設前年度	第１年次	第２年次	第３年次	第４年次	第５年次	第６年次	共同研究費、図書、設備購入費は芸術学部全体の予算を記載。図書は他に大学として毎年度17,000千円を計画
経費の見積り	教員１人当り研究費等		400 千円	400 千円	400 千円	400 千円	— 千円	— 千円	
	共同研究費等		2,000 千円	2,000 千円	2,000 千円	2,000 千円	— 千円	— 千円	
	図書購入費	1,493 千円	1,500 千円	1,500 千円	1,500 千円	1,500 千円	— 千円	— 千円	
	設備購入費	82,297 千円	3,000 千円	3,000 千円	3,000 千円	3,000 千円	— 千円	— 千円	

学生１人当り納付金	第１年次	第２年次	第３年次	第４年次	第５年次	第６年次
	1,986 千円	1,746 千円	1,756 千円	1,766 千円	— 千円	— 千円

学生納付金以外の維持方法の概要	私立大学等経常経費補助金、資産運用収入、雑収入　等

	大学の名称	玉川大学								
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
		年	人	年次人	人		倍			
既設大学等の状況	文学部						1.08		東京都町田市玉川学園六丁目1番1号	
	国語教育学科	4	60	-	240	学士（文学）	1.12	平成29年度		
	英語教育学科	4	80	-	320	学士（文学）	1.05	平成27年度		
	人間学科	4	-	-	-	学士（文学）	-	平成14年度		※平成29年度より学生募集停止（人間学科）
	農学部						0.96			
	生産農学科	4	165	-	660	学士（農学）	0.97	平成29年度		※平成29年度より学生募集停止（生物資源学科）
	環境農学科	4	70	-	280	学士（農学）	0.86	平成29年度		
	先端食農学科	4	70	-	280	学士（農学）	1.04	平成29年度		※平成29年度より学生募集停止（生物環境ｼｽﾃﾑ学科）
	生物資源学科	4	-	-	-	学士（農学）	-	昭和24年度		
	生物環境ｼｽﾃﾑ学科	4	-	-	-	学士（農学）	-	平成17年度		※平成29年度より学生募集停止（生命化学科）
	生命化学科	4	-	-	-	学士（農学）	-	平成17年度		
	工学部						1.10			
	情報通信工学科	4	60	-	240	学士（工学）	1.05	平成29年度		
	ｿﾌﾄｳｪｱｻｲｴﾝｽ学科	4	60	-	240	学士（工学）	1.30	平成20年度		
	ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄｻｲｴﾝｽ学科	4	60	-	240	学士（工学）	1.24	平成16年度		
	ｴﾝｼﾞﾆｱﾘﾝｸﾞﾃﾞｻﾞｲﾝ学科	4	60	-	240	学士（工学）	0.85	平成27年度		※平成29年度より学生募集停止（機械情報ｼｽﾃﾑ学科）
	機械情報ｼｽﾃﾑ学科	4	-	-	-	学士（工学）	-	平成20年度		
	経営学部						1.18			
	国際経営学科	4	130	-	520	学士（経営学）	1.18	平成13年度		
	教育学部						1.14			
	教育学科	4	240	-	960	学士（教育学）	1.15	平成14年度		
	乳幼児発達学科	4	75	-	300	学士（教育学）	1.14	平成15年度		
	芸術学部						1.06			
	ﾊﾟﾌｫｰﾐﾝｸﾞ・ｱｰﾂ学科	4	130	-	520	学士（芸術学）	1.03	平成14年度		
	ﾒﾃﾞｨｱ・ﾃﾞｻﾞｲﾝ学科	4	90	-	360	学士（芸術学）	1.19	平成26年度		
	芸術教育学科	4	50	-	200	学士（芸術学）	0.96	平成26年度		
	ﾘﾍﾞﾗﾙｱｰﾂ学部						1.17			
	ﾘﾍﾞﾗﾙｱｰﾂ学科	4	160	-	640	学士（ﾘﾍﾞﾗﾙｱｰﾂ）	1.17	平成19年度		
	観光学部						1.28			
	観光学科	4	90	-	360	学士（観光学）	1.28	平成25年度		
	通信教育部						0.04			
	教育学部教育学科	4	1,500	-	6,000	学士（教育学）	0.04	平成14年度		

既設大学等の状況	大学院 文学研究科 人間学専攻 （修士課程）	2	5	-	10	修士（文学）	0.10	平成22年度	東京都町田市 玉川学園 六丁目1番1号	
	英語教育専攻 （修士課程）	2	7	-	14	修士（文学）	0.42	平成22年度		
	農学研究科 資源生物学専攻 （修士課程）	2	12	-	24	修士（農学）	0.95	昭和52年度		
	資源生物学専攻 （博士課程後期）	3	4	-	12	博士（農学）	0.16	昭和54年度		
	工学研究科 機械工学専攻 （修士課程）	2	16	-	32	修士（工学）	0.18	昭和42年度		
	電子情報工学専攻 （修士課程）	2	16	-	32	修士（工学）	0.34	昭和42年度		
	ｼｽﾃﾑ科学専攻 （博士課程後期）	3	3	-	9	博士（工学）	0.44	平成19年度		
	ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ研究科 ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ専攻 （修士課程）	2	7	-	14	修士（ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ）	0.49	平成17年度		
	教育学研究科 教育学専攻 （修士課程）	2	10	-	20	修士（教育学）	1.05	平成18年度		
	教職専攻 （専門職学位課程）	2	20	-	40	教職修士（専門職）	0.72	平成20年度		
	脳科学研究科 心の科学専攻 （修士課程）	2	5	-	10	修士（工学） 修士（学術）	0.10	平成26年度		
	脳科学専攻 （博士課程後期）	3	3	-	9	博士（工学） 博士（学術）	0.55	平成26年度		

附属施設の概要	学術研究所		
	①目的	文系、理系の諸領域にわたる専門的・学際的な研究活動を展開し、広く学術・文化の発展に貢献することを目的としている。現在、K-16一貫教育研究センター、ミツバチ科学研究センター、生物機能開発研究センター、菌学応用研究センター、人文科学研究センター、高等教育開発センター、先端知能・ロボット研究センター（AIBot研究センター）の7つの研究センターで構成されている。	
	②所在地	東京都町田市玉川学園六丁目１番１号	
	③設置年月	昭和54年11月	
	④規模等	研究センター棟 建物3018.55㎡（脳科学研究所・量子情報科学研究所 と共用） Future Sci Tech Lab 建物1646.45㎡（量子情報科学研究所 と共用）	
	脳科学研究所		
	①目的	「こころ」のはたらきの基盤となる判断や意思決定と行動、喜怒哀楽の感情や情動、そして知能発達やコミュニケーションについて研究し、その成果を広く世界に発信することを目的としている。基礎脳科学研究センターと応用脳科学研究センターの2つのセンターで構成されている。	
	②所在地	東京都町田市玉川学園六丁目１番１号	
	③設置年月	平成19年4月	
	④規模等	研究センター棟 建物3018.55㎡（学術研究所・量子情報科学研究所 と共用） ＧＢＩ棟 建物320.82㎡	
	量子情報科学研究所		
	①目的	量子情報・量子通信の基礎理論の研究を実施し、さらなる量子力学の原理の発見を目指し、その原理を産業界に役立てることを目的としている。特に、新量子暗号として脚光を浴びている光通信量子信号Y-00の実用化研究を実施している。量子情報数理研究センターと超高速量子通信研究センターの２つのセンターで構成されている。	
	②所在地	東京都町田市玉川学園六丁目１番１号	
	③設置年月	平成23年3月	
	④規模等	研究センター棟 建物3018.55㎡（学術研究所・脳科学研究所 と共用） Future Sci Tech Lab 建物1646.45㎡（学術研究所 と共用）	

（注）
1　共同学科等の認可の申請及び届出の場合，「計画の区分」，「新設学部等の目的」，「新設学部等の概要」，「教育課程」及び「教員組織の概要」の「新設分」の欄に記入せず，斜線を引くこと。
2　「教員組織の概要」の「既設分」については，共同学科等に係る数を除いたものとすること。
3　私立の大学又は高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の届出を行おうとする場合は，「教育課程」，「教室等」，「専任教員研究室」，「図書・設備」，「図書館」及び「体育館」の欄に記入せず，斜線を引くこと。
4　大学等の廃止の認可の申請又は届出を行おうとする場合は，「教育課程」，「校地等」，「校舎」，「教室等」，「専任教員研究室」，「図書・設備」，「図書館」，「体育館」及び「経費の見積もり及び維持方法の概要」の欄に記入せず，斜線を引くこと。
5　「教育課程」の欄の「実験・実習」には，実技も含むこと。
6　空欄には，「－」又は「該当なし」と記入すること。

別記様式第2号（その2の1）

教育課程等の概要

（芸術学部 演劇・舞踊学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考	
ユニバーシティ・スタンダード科目群（全学共通科目）	玉川教育・FYE科目群	一年次セミナー101	1前	2				○		1	1		1			
		一年次セミナー102	1後	2				○		1	1		1			
		玉川の教育	1後	0.3			○			1						※演習
		健康教育	1前	1					○						兼 2	※講義
		音楽I	1前	0.7					○						兼 2	
		音楽II	1後	1					○						兼 2	
		全人教育論	2前・後		2		○								兼 1	
		二年次セミナー201	2前		2			○							兼 1	
		二年次セミナー202	2後		2			○							兼 1	
		三年次セミナー301	3前		2			○							兼 1	
		三年次セミナー302	3後		2			○							兼 1	
		ピアリーダー	2前・後		2			○							兼 1	
		小計（ 12 科目）	－	7	12	0	－			2	1	0	1	0	兼 8	－
	人文科学科目群	文化人類学	1・2・3・4前・後		2		○								兼 1	
		民俗学入門	1・2・3・4後		2		○								兼 1	
		美術史	1・2・3・4前・後		2		○								兼 1	
		ことばと文化	1・2・3・4前・後		2		○								兼 1	
		比較文化論	1・2・3・4前・後		2		○								兼 1	
		日本文学	1・2・3・4前・後		2		○								兼 1	
		外国文学	1・2・3・4前・後		2		○								兼 1	
		歴史（世界）	1・2・3・4前・後		2		○								兼 1	
		歴史（日本）	1・2・3・4前・後		2		○								兼 1	
		音楽史	1・2・3・4前・後		2		○								兼 1	
		哲学	1・2・3・4前・後		2		○								兼 1	
		倫理学	1・2・3・4後		2		○								兼 1	
		ロジック	1・2・3・4前・後		2		○								兼 1	
		科学史	2・3・4後		2		○								兼 1	
		宗教学	1・2・3・4前・後		2		○								兼 1	
		世界の宗教と文化	1・2・3・4後		2		○								兼 1	
		演劇史	1・2・3・4前・後		2		○								兼 1	
		キリスト教学	2・3・4前		2		○								兼 1	
		英語学	1・2・3・4前・後		2		○								兼 1	
		日本語学	1・2・3・4前・後		2		○								兼 1	
		日本学入門	1・2・3・4前		2		○								兼 1	
		Japanology	3・4前		2		○								兼 1	
		Japanese Pop Culture	3・4後		2		○								兼 1	
		Modern Japanese History	3・4前		2		○								兼 1	
		East Asian History	4前		2		○								兼 1	
		Issues in Japanese Studies A	4前		2		○								兼 1	
		Issues in Japanese Studies B	4後		2		○								兼 1	
		人文科学ｱｶﾃﾞﾐｯｸｽｷﾙｽﾞ（ﾘｰﾃﾞｨﾝｸﾞ）	1・2・3・4前・後		1			○							兼 1	
		人文科学ｱｶﾃﾞﾐｯｸｽｷﾙｽﾞ（ﾗｲﾃｨﾝｸﾞ）	1・2・3・4前・後		1			○							兼 1	
		名著講読（人文科学）	2・3・4前・後		1			○							兼 1	
		小計（ 30 科目）	－	0	57	0	－			0	0	0	0	0	兼 25	－

教育課程等の概要

（芸術学部 演劇・舞踊学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
ユニバーシティ・スタンダード科目群（全学共通科目）	社会科学科目群	会計学	1･2･3･4前・後		2		○								兼 1	
		コミュニケーション論	1･2･3･4前・後		2		○								兼 1	
		Academic Communication	2･3･4前		2		○								兼 1	
		経済学（国際経済を含む。）	1･2･3･4前		2		○								兼 1	
		国際関係論	2･3･4前・後		2		○								兼 1	
		市民社会と法	1･2･3･4後		2		○								兼 1	
		経営学	1･2･3･4前・後		2		○								兼 1	
		マーケティング	1･2･3･4前・後		2		○								兼 1	
		政治学（国際政治を含む。）	1･2･3･4前・後		2		○								兼 1	
		心理学	1･2･3･4前・後		2		○								兼 1	
		社会学	1･2･3･4前・後		2		○								兼 1	
		ボランティア概論	1･2･3･4後		2		○								兼 1	
		現代社会の教育課題	3･4前・後		2		○								兼 1	
		科学技術社会論	2･3･4後		2		○								兼 1	
		観光学入門	1･2･3･4前		2		○								兼 1	
		社会科学ｱｶﾃﾞﾐｯｸｽｷﾙｽﾞ（ﾘｰﾃﾞｨﾝｸﾞ）	1･2･3･4前・後		1			○							兼 1	
		社会科学ｱｶﾃﾞﾐｯｸｽｷﾙｽﾞ（ﾗｲﾃｨﾝｸﾞ）	1･2･3･4前・後		1			○							兼 1	
		名著講読（社会科学）	2･3･4前・後		1			○							兼 1	
		小計（ 18 科目）	－	0	33	0	－			0	0	0	0	0	兼 16	－
	自然科学科目群	情報科学入門	1･2･3･4前・後		2		○								兼 1	
		ネットワーク入門	1･2･3･4前・後		2		○								兼 1	
		データ処理	1･2･3･4前・後		2			○							兼 1	
		マルチメディア表現	1･2･3･4前・後		2			○							兼 1	
		化学入門	1･2･3･4前・後		2		○								兼 1	
		生物学入門	1･2･3･4前・後		2		○								兼 1	
		環境科学	1･2･3･4前・後		2		○								兼 1	
		数学入門	1･2･3･4前・後		2		○								兼 1	
		解析学入門	1･2･3･4前・後		2		○								兼 1	
		代数学入門	1･2･3･4前・後		2		○								兼 1	
		統計学入門	1･2･3･4前・後		2		○								兼 1	
		物理学入門	1･2･3･4前・後		2		○								兼 1	
		実践の物理学	2･3･4前		2		○								兼 1	
		科学入門	1･2･3･4前・後		2		○								兼 1	
		地球科学	2･3･4前・後		2		○								兼 1	
		エネルギー科学	2･3･4前		2		○								兼 1	
		宇宙科学	2･3･4前・後		2		○								兼 1	
		STEM入門（科学と社会）	1･2･3･4後		2		○								兼 1	
		人工知能と社会	2･3･4後		2		○								兼 1	
		自然科学ｱｶﾃﾞﾐｯｸｽｷﾙｽﾞ（ﾘｰﾃﾞｨﾝｸﾞ）	1･2･3･4前・後		1			○							兼 1	
		自然科学ｱｶﾃﾞﾐｯｸｽｷﾙｽﾞ（ﾗｲﾃｨﾝｸﾞ）	1･2･3･4前・後		1			○							兼 1	
		名著講読（自然科学）	2･3･4前・後		1			○							兼 1	
		小計（ 22 科目）	－	0	41	0	－			0	0	0	0	0	兼 14	－

教育課程等の概要

（芸術学部 演劇・舞踊学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考	
ユニバーシティ・スタンダード科目群（全学共通科目）	学際科目群	ミクロ脳科学	1後・2・3・4前・後		2		○								兼 1	
		マクロ脳科学	1・2・3・4前・後		2		○								兼 1	
		健康スポーツ理論	1・2・3・4前・後		2		○								兼 1	
		生涯スポーツ演習	1・2・3・4前・後		2			○							兼 1	
		環境教育	1・2・3・4前・後		2		○								兼 1	
		スポーツ史	2・3・4後		2		○								兼 1	
		オリンピック文化論	1・2・3・4前・後		2		○								兼 1	
		栄養学	3・4前		2		○								兼 1	
		病理学	3・4後		2		○								兼 1	
		マスメディアと社会	1・2・3・4前・後		2		○								兼 1	
		現代文化論	2・3・4前		2		○								兼 1	
		プレゼンテーションスキル	1・2・3・4後		2		○								兼 1	
		Presentation Skills in English	2・3・4後		2		○								兼 1	
		複合領域研究 201～299	2・3・4前・後		2		○								兼 2	
		情報倫理と社会	1・2・3・4前		2		○								兼 1	
		野外教育	2・3・4後		2		○								兼 1	
		TAPファシリテーション Ⅰ	1・2・3・4前・後		2			○							兼 1	
		TAPファシリテーション Ⅱ	1・2・3・4後		2		○								兼 1	
		環境教育ワークショップ Ⅰ	1・2・3・4後		2			○							兼 1	
		環境教育ワークショップ Ⅱ	2・3・4前		2			○							兼 1	
		コーオプ・プログラム	2・3・4前・後		2				○						兼 1	
		キャリア・マネジメント	3・4前・後		2		○								兼 1	
		海外留学入門	1・2・3・4前・後		2		○								兼 1	
		インターンシップA	1・2・3・4前・後		2				○						兼 1	
		インターンシップB	1・2・3・4前・後		2				○						兼 1	
		インターンシップC	1・2・3・4前・後		1				○						兼 1	
		インターンシップD	1・2・3・4前・後		1				○						兼 1	
		国際研究A	1後・2・3・4前・後		2				○						兼 1	
		国際研究B	1後・2・3・4前・後		2				○						兼 1	
		国際研究C	1後・2・3・4前・後		2				○						兼 1	
		国際研究D	1後・2・3・4前・後		3				○						兼 1	
		国際研究E	1後・2・3・4前・後		4				○						兼 1	
		国際研究F	1後・2・3・4前・後		5				○						兼 1	
		Japanese Studies Overseas A	3・4後		2				○						兼 1	
		Japanese Studies Overseas B	3・4後		2				○						兼 1	
		Japanese Studies Overseas C	3・4後		2				○						兼 1	
		フィールドワークA	1・2・3・4前・後		2			○							兼 1	
		フィールドワークB	1・2・3・4前・後		2			○							兼 1	
		フィールドワークC	1・2・3・4前・後		2			○							兼 1	
		地域創生プロジェクトA	1・2・3・4前・後		1			○							兼 1	
		地域創生プロジェクトB	1・2・3・4前・後		1			○							兼 1	
		地域創生プロジェクトC	1・2・3・4前・後		2			○							兼 1	
		地域創生プロジェクトD	1・2・3・4前・後		2			○							兼 1	
		地域創生プロジェクトE	1・2・3・4前・後		3			○							兼 1	
		地域創生プロジェクトF	1・2・3・4前・後		3			○							兼 1	
		小計（ 45 科目）	―	0	94	0	―			0	0	0	0	0	兼 23	―

教育課程等の概要

(芸術学部 演劇・舞踊学科)

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考	
ユニバーシティ・スタンダード科目群(全学共通科目)	言語表現科目群	ELF 101	1・2・3・4前・後		4			○							兼 1	
		ELF 102	1・2・3・4前・後		4			○							兼 1	
		ELF 201	1・2・3・4前・後		4			○							兼 1	
		ELF 202	1後・2・3・4前・後		4			○							兼 1	
		ELF 301	1・2・3・4前・後		4			○							兼 1	
		ELF 302	1後・2・3・4前・後		4			○							兼 1	
		ELF 401	1・2・3・4前・後		4			○							兼 1	
		ELF 402	1・2・3・4前・後		4			○							兼 1	
		日本語表現 101	1・2・3・4前・後		2			○							兼 1	
		日本語表現 102	1・2・3・4後		2			○							兼 1	
		フランス語 101	1・2・3・4前・後		2			○							兼 1	
		フランス語 102	1・2・3・4後		2			○							兼 1	
		ドイツ語 101	1・2・3・4前・後		2			○							兼 1	
		ドイツ語 102	1・2・3・4後		2			○							兼 1	
		スペイン語 101	1・2・3・4前・後		2			○							兼 1	
		スペイン語 102	1・2・3・4後		2			○							兼 1	
		中国語 101	1・2・3・4前・後		2			○							兼 1	
		中国語 102	1・2・3・4後		2			○							兼 1	
		小計(18 科目)	―	0	52	0	―			0	0	0	0	0	兼 10	―
	資格関連科目群	学校経営と学校図書館	1・2前		2		○								兼 1	
		学校図書館メディアの構成	1・2前		2		○								兼 1	
		学習指導と学校図書館	3・4前		2		○								兼 1	
		読書と豊かな人間性	2・3後		2		○								兼 1	
		情報メディアの活用	1・2前・後		2		○								兼 1	
		生涯学習概論	1・2前		2		○								兼 1	
		図書館概論	1・2前		2		○								兼 1	
		図書館情報技術論	1・2後		2		○								兼 1	
		図書館制度・経営論	1・2前		2		○								兼 1	
		図書館サービス概論	1・2後		2		○								兼 1	
		情報サービス論	1・2後		2		○								兼 1	
		児童サービス論	1・2後		2		○								兼 1	
		情報サービス演習A	3・4前		1			○							兼 1	
		情報サービス演習B	3・4前		1			○							兼 1	
		図書館情報資源概論	1・2後		2		○								兼 1	
		情報資源組織論	2・3前		2		○								兼 1	
		情報資源組織演習A	2・3後		1			○							兼 1	
		情報資源組織演習B	2・3後		1			○							兼 1	
		図書館情報資源特論	1・2前		1		○								兼 1	
		図書・図書館史	1・2前		1		○								兼 1	
		図書館施設論	1・2後		1		○								兼 1	
		生涯学習と生涯教育	1・2後		2		○								兼 1	
		生涯学習支援論A	2・3後		2		○								兼 1	
		生涯学習支援論B	2・3前		2		○								兼 1	
		社会教育経営論A	2・3後		2		○								兼 1	
		社会教育経営論B	2・3前		2		○								兼 1	
		社会教育実習	2・3後		2				○						兼 1	
		社会教育課題研究	2・3前		2		○								兼 1	
		社会体育論	2・3前		2		○								兼 1	
		博物館概論	2・3前		2		○								兼 1	
		博物館経営論	2・3後		2		○								兼 1	
		博物館資料論	2・3後		2		○								兼 1	
		博物館資料保存論	2・3前		2		○								兼 1	
		博物館展示論	2・3前		2		○								兼 1	
		博物館教育論	2・3後		2		○								兼 1	
		博物館情報・メディア論	2・3後		2		○								兼 1	
		博物館実習	3・4前・後		3				○						兼 1	
		小計(37 科目)	―	0	68	0	―			0	0	0	0	0	兼 19	―

教育課程等の概要

（芸術学部 演劇・舞踊学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門科目群	100番台科目	芸術概論	1前	2			○			4	2		1		兼 2	オムニバス
		演技・舞踊入門	1前	2				○		1			1		兼 6	オムニバス
		演技・舞踊基礎演習	1後	2				○		2			1		兼 5	
		舞台技術基礎演習	1前・後	2				○		1					兼 4	オムニバス・共同（一部）
		上演基礎実習	1後	4					○	4	2		1		兼 8	共同・オムニバス（一部）※講義
		日本文化芸術論	1前・後		2		○			1					兼 3	オムニバス
		世界演劇・舞踊史Ⅰ	1前	2			○				1					
		世界演劇・舞踊史Ⅱ	1後	2			○								兼 1	
		Performing in English	1前		1			○		1						
		小計（ 9 科目）	－	16	3	0	－			4	2	0	1	0	兼 19	－
	200番台科目	演技・舞踊演習Ⅰ	2前		4			○		2					兼 9	
		演技・舞踊演習Ⅱ	2後		4			○		2					兼 9	
		日本演劇・舞踊史Ⅰ	2前	2			○								兼 2	
		日本演劇・舞踊史Ⅱ	2後	2			○								兼 2	
		演劇理論	2前・後		2		○				1					
		芸術と社会	2前・後		2		○			1						
		所作・擬闘	2前・後		2			○		1					兼 1	※講義
		シアターデザイン基礎演習Ⅰ	2前		2			○							兼 2	
		シアターデザイン基礎演習Ⅱ	2後		2			○							兼 2	
		メイクアップ	2前・後		2			○							兼 2	
		上演実習A	2前		4				○						兼 6	共同
		上演実習B	2後		4				○						兼 6	共同
		舞台創造演習Ⅰ	2前		4			○		1					兼 5	オムニバス
		舞台創造演習Ⅱ	2後		4			○		1					兼 5	
		芸術創造演習Ⅰ	2前		4			○		1	1		1		兼 3	※講義
		芸術創造演習Ⅱ	2後		4			○		1	1		1		兼 3	※講義
		応用演劇演習Ⅰ	2・3前		2			○							兼 6	※講義
		応用演劇演習Ⅱ	2・3後		2			○							兼 6	※講義
		芸術プロジェクトA	2前・後		2				○						兼 1	集中
		芸術プロジェクトB	2前・後		2				○						兼 1	集中
		小計（ 20 科目）	－	4	52	0	－			4	2	0	1	0	兼 21	－
	300番台科目	演技・舞踊演習Ⅲ	3前		4			○		2					兼 9	
		演技・舞踊演習Ⅳ	3後		4			○		2					兼 9	
		オーディション演習	3前・後・4前		2			○		1					兼 3	オムニバス・共同（一部）※講義
		上演実習C	3前		4				○						兼 6	共同
		上演実習D	3後		4				○						兼 6	共同
		劇場接遇演習（ゲストリレーション）	3前・後		2			○		1	1					オムニバス
		舞台創造演習Ⅲ	3前		4			○		1					兼 4	
		舞台創造演習Ⅳ	3後		4			○		1					兼 4	
		芸術プロジェクトC	3前・後		2				○						兼 1	集中
		芸術プロジェクトD	3前・後		2				○						兼 1	集中
		アナウンス・ナレーション研究	3前・後		2			○							兼 2	
		劇空間デザイン研究	3前・後		2			○		1					兼 2	オムニバス
		舞台芸術研究Ⅰ	3前	2			○			4	2		1			
		舞台芸術研究Ⅱ	3後	2			○			4	2		1			
		芸術創造演習Ⅲ	3前		4			○		1	1		1		兼 3	
		芸術創造演習Ⅳ	3後		4			○		1	1		1		兼 3	
		応用演劇演習Ⅲ	3・4前		2			○					1		兼 4	
		応用演劇演習Ⅳ	3・4後		2			○					1		兼 4	
		小計（ 18 科目）	－	4	48	0	－			4	2	0	1	0	兼 18	－

教育課程等の概要

（芸術学部 演劇・舞踊学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考	
専門科目群	400番台科目	芸術プロジェクトE	4前・後		2				○						兼 1	集中
		芸術プロジェクトF	4前・後		2				○						兼 1	集中
		卒業創作・研究A	4前	4					○	4	2		1			共同
		卒業創作・研究B	4後	4					○	4	2		1			共同
		舞台芸術研究Ⅲ	4前	2			○			4	2		1			
		舞台芸術研究Ⅳ	4後	2			○			4	2		1			
		小計（ 6 科目）	－	12	4	0	－			4	2	0	1	0	兼 2	－
合計（ 235 科目）			－	43	464	0	－			4	2	0	1	0	兼 129	－

学位又は称号	学士(芸術学)	学位又は学科の分野	美術関係／音楽関係

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
①修業年限を満たすこと。 ②全科目の修得単位の合計が124単位以上であること。 ③累積GPAが2.00以上であること。 ④ユニバーシティ・スタンダード科目のうち、玉川教育・FYE科目群から必修科目をすべて含み7単位以上を修得していること。 ⑤ユニバーシティ・スタンダード科目のうち、人文科学科目群・社会科学科目群・自然科学科目群・学際科目群からそれぞれ2単位以上、言語表現科目群から「ELF」科目を含み4単位以上、合計12単位以上を修得していること。 ⑥演劇・舞踊学科専門科目群の必修科目36単位を修得していること。 （履修科目の登録の上限：16単位（1学期））	1学年の学期区分	2 学期
	1学期の授業期間	15 週
	1時限の授業時間	50 分

※本学では1時限の授業時間を50分とし、時間割上の時限を第1時限から第10時限まで設定している。

別記様式第2号 （その3の1）

授 業 科 目 の 概 要

（芸術学部　演劇・舞踊学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
US科目群	玉川教育・FYE科目群	一年次セミナー101	秋学期に開講される『一年次セミナー102』と併せて、新しく大学に入学した者を対象に、大学生活を成功させるための戦略と戦術を提供する。この科目を通して学生は玉川大学における教育への積極的適応と同化をはかり、学修に対するモチベーションを向上させることが求められる。なお、授業では、①なぜ大学で学ぶのか、②時間管理の技術、③ノートをとる、④試験を受ける、⑤効果的な学修方法、⑥学問とは何か、⑦読書の方法、⑧文章作成の方法、⑨大学の支援資源の活用方法を集中的に学ぶ。	
US科目群	玉川教育・FYE科目群	一年次セミナー102	春学期に開講された『一年次セミナー101』と併せて、新しく大学に入学した者を対象に、大学生活を成功させるための戦略と戦術を提供する。この科目を通して学生は玉川大学における大学教育への積極的適応と同化をはかり、学修に対するモチベーションを向上させることが求められる。なお、授業では、①社会生活とメディア、②社会貢献について考える、③コミュニケーションのあり方、④情報の活用と倫理、⑤個人情報の保護と関わり方、⑥セルフマネジメント、⑦ライフデザインとキャリアデザインを集中的に学ぶ。	
US科目群	玉川教育・FYE科目群	玉川の教育	大学一年生が玉川大学の教育についての理解を深めるために用意されている。具体的には、「全人教育入門」と題された講座のなかで玉川大学の教育理念である全人教育と玉川大学の歴史を学ぶ。また、「礼拝」と「宗教講義」を通して宗教および宗教を学ぶ意義についてキリスト教の立場から考察する。加えて、この科目では、各学部が独自に計画、設定した「労作」を実施することで、玉川教育の実践的側面を体験してもらう。	講義3時間 演習2時間
US科目群	玉川教育・FYE科目群	健康教育	体育の目的は、健全なる身体の育成とそれに必要な知識を得ることである。一方、教養、文化さらに娯楽志向から、体育・スポーツは生活の一部としても不可欠であり、生涯を通じて関わりを持つものである。講義では、身体構造、ヒトの特異性、健康観、精神衛生、スポーツの功罪などについて理解を深める。実技では、これらの理論に基づいた運動・スポーツを実践する。	講義7時間 実技24時間
US科目群	玉川教育・FYE科目群	音楽I	全人教育の理念に基づいて、音楽を理解し、広く親しみ愛好し、生活の中に取り組むことを目的とする。以下に示す内容を通して、音楽する喜び、音楽に参加する喜びを獲得する。歌曲やカノン等、混声合唱曲、讃美歌を合唱する。 愛吟集に掲載されている歌曲・国内外の合唱曲・讃美歌等がきちんと歌えるようになること。加えて、混声合唱に向けてパート練習を重ねることにより、混声合唱の響きの中で自分のパートをしっかりと歌えるようになること。そして、歌唱を通して合唱への理解も深まり、さらに音楽全般への理解を深めることを目標とする。	
US科目群	玉川教育・FYE科目群	音楽II	『音楽I』の講義の概要に示した内容を基礎として、音楽性、芸術性のある、より崇高な音楽を求めようとする心と技を養う。ベートーヴェン作曲の第九交響曲終楽章の合唱を管弦楽とともにステージで行う。 ベートーヴェン作曲の交響曲第九番「合唱付き」第4楽章の担当パート(ドイツ語歌詞)を、伴奏に合わせて暗譜で歌えるようになること。また、「第九」の作品についての理解が深まり、合唱の歌い方など説明ができるようになることを目標とする。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
US科目群	玉川教育・FYE科目群	全人教育論	本学の掲げる「全人教育」とは、真（学問）、善（道徳）、美（芸術）、聖（宗教）、健（身体）、富（生活）の六つの文化価値の調和的形成を目指すものである。本講義においては、たえず全人とは何か、という問いかけを根底に置き、小原國芳の提唱した「全人教育」とは具体的にどのような教育思想にもとづくものであったのかを明らかにしていく。それとともに全人教育論のもつ現代的意義について考察する。	
US科目群	玉川教育・FYE科目群	二年次セミナー201	昨今、社会に出ることを拒否する若者が問題視されている。これは、学生から社会人への転換が円滑にできない若者が、社会的にさまざまな影響を及ぼすようになったためと考えられる。また、就職しても行動・思考などが「大人」とは思えない社会人がいることも確かである。本科目では、社会人とは何か、社会人になるためにはどのような知識とマナーが必要であるか、それらを身に付けるためにどのようなノウハウが必要であるのか、また、その奥に存在する「社会人」としてのあるべき姿と理念はどのようなものなのかを検討する。	
US科目群	玉川教育・FYE科目群	二年次セミナー202	高等教育への進学率が50％を越え、もはや大学卒は普通のこととなりつつある。そのため、大学、大学生の意義やその役割について、社会全体、また教育制度全体の中で再検討が求められている。大学卒がエリートを意味し、生涯の生活が保障される時代はすでに遠い昔のこととなり、社会の大学への期待度が低下するにつれて社会と大学生の関わりも変化した。そのような時代にあって、大学は何をするべきなのか、大学生はどうあるべきなのか。本科目では、大学生活を有意義なものにするために大学生がもつべき価値観、認識などを考察する。	
US科目群	玉川教育・FYE科目群	三年次セミナー301	大学生活の後半期にある学生がやがて社会に出るにあたり、支援する科目として『三年次セミナー301・302』は用意されている。『三年次セミナー301』は、学生がこれまで学んできたユニバーシティ・スタンダード科目と所属学部の専門科目で得た知見をもとに、人類を豊かにしてきた古典と向かい合う科目である。古典は、時代を超えて人間の生にかかわってきた書物であり、多くの先人が、古典から生き続けていくための知と力を獲得してきた。この科目を通して、古典との向かい合い方を学ぶことで、生涯学び続ける意義を体得する。	
US科目群	玉川教育・FYE科目群	三年次セミナー302	大学生活の後半期にある学生がやがて社会に出るにあたり、支援する科目として『三年次セミナー301・302』は用意されている。『三年次セミナー302』では、まもなく社会に出る学生を対象に、社会を形成するうえで欠かすことのできない「市民としての権利と義務」について学ぶ。具体的には、日本における政治と選挙制度の仕組み、税金制度の仕組み、年金制度の仕組み、各種保険制度の仕組み、地域社会で生きていくことの意味と生きていくうえでの役割等について、メソッド・スタディおよびケース・スタディの形式で学んでいく。	
US科目群	玉川教育・FYE科目群	ピアリーダー	ピアリーダーとは学生による学生の支援を指す。海外の大学においては、ピアリーダーの取り組みが、支援を受ける学生と支援する学生の双方に、多大の教育的効果を上げていることが報告されている。ここで展開される科目では、履修学生に対してピアリーダーは、既に修得済みの知識（あるいは経験）をベースに、「如何にして支援するのか」を考え、計画を立て支援し、改善することを通して実践的な知識を修得することを目指す。	
US科目群	人文科学科目群	文化人類学	文化人類学は、世界の様々な民族の持つ文化や社会について比較研究する学問である。ここでは文化の進化と伝播、人間の生活と歴史、宗教と儀礼、言語、家族、婚姻などのテーマを扱い、世界の民族が持つ文化と生活の関連性を考察する。受講者は、この授業を通して、民族の価値観の多様性と個別文化の意義を知り、日本文化の位置づけや自己のアイデンティティの確立に対して一定の手がかりを得ることが期待される。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
US科目群	人文科学科目群	民俗学入門	人間の日常生活文化の成り立ちや伝統的な思考方法のあり方を、古くから民間で伝承されてきた様々な有形、無形の資料の採取と検証を通して明らかにし、私たちの「今、ここ」で営まれる生き方を問い直すのが民俗学である。本講義では、我が国の様々な生活の基層文化に触れつつ、柳田邦男、折口信夫、宮本常一、谷川健一といった日本民俗学の成立に関わった主要人物の業績を通して、こうした民俗学の学問としての視点と方法を学ぶことを目的とする。	
US科目群	人文科学科目群	美術史	過去の美術作品を「研究」の対象とする、それはいったいどのようなことか。いったいどのようにすれば、その作品を研究、または理解したことになるのか。そもそも美術史を学ぶとはいかなることか。この講義では、西洋・日本・東洋の美術史を学ぶ上での重要なキーワードを学びつつ、いくつかの具体的な作品について考察し、それについての理解を深めると同時に、たとえば「様式」や「図像学」など、作品を分析するそのしかたについても触れる。	
US科目群	人文科学科目群	ことばと文化	「ことば」のない文化はないし、文化のない「ことば」も人造言語以外はない。従って、ことばは文化と一体のものである。ことばを使う人間は、それぞれのことばを通して文化や社会を構築していく。ここでは、ことばを介した相互理解の問題、ことばにかかわるさまざまな事象（イメージ、認知、解読、など）、ことばの担い手としての個人差、などについて、言語が成立した文化的背景を理解しながら、時代とともに変化することばの多面性および創造性を考察する。	
US科目群	人文科学科目群	比較文化論	「外国語を知ることによって、初めて母国語の何たるかを知る」と言われるが、それは文化についても同じことである。他国の文化を知ることにより、日本の文化を知ることが出来る。本科目では、世界の文化を比較することによって、文化の何たるかを考えていく。ヨーロッパを始めとする世界の様々な文化の中から、風景、都市、庭園、映像などの文化を取り上げ、それぞれの文化相を通して見えてくるものを日本の文化と比較し、文化を解釈することを試みる。文化の解釈の仕方を学ぶことにより、文化の意義を考察することを学ぶ。	
US科目群	人文科学科目群	日本文学	日本文学を学ぶということは、自分とは切り離された過去を学ぶことではなく、過去に書かれた文学作品を一つの手段として現代、さらには現代に生きる自らを考えるということに他ならない。文学に接するとき、文学の向こう側には私たちが何者かを教えてくれる他者が存在する。その他者と対話する技術を学ぶことが、日本文学を学ぶ目的である。本科目では、小説、詩歌、神話などさまざまな作品を取り上げ、読み手の想像力を重視した自由な読み方で内容を理解し、作品が書かれた時代背景の中で考察していく。	
US科目群	人文科学科目群	外国文学	人が一生に経験できることは限られているが、文学を通して想像力を広げることで、経験をより豊かにすることができる。今日の国際社会においては、異文化を理解することが重要である。「ことば」は、人の生活と思考に深く根ざし、文化の枠組みの中で育まれたものだが、「ことば」が創り出した文学は、世界を、日本を、さらには私たち自身を知る手掛かりを提供してくれる。本科目では、文学の技法にも関心を持ちながら、さまざまな作品の時代と文化的背景を探ることで異文化理解を図り、「人間とは何か」という普遍的な課題を探究する。	
US科目群	人文科学科目群	歴史（世界）	歴史は過去と現在の対話だと言われる。私達は現代社会をよりよく理解するために、過去の歴史に学ぶのである。本科目では、他国の歴史を政治・経済・社会・文化・芸術など多方面から捉え、各時代の流れや特色を考えながら、歴史の面白さを味わい、歴史を見る眼を養うことを目標とする。さまざまな歴史的重要事項についての基礎知識を得て、それらを現代の社会と結び付けて考える力を養う。また、現在の国際社会を作り出した歴史の諸相を知り、世界、また日本にとっての近現代の価値観を客観的に捉え、今後の日本についての考え方の基礎を作る。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
US科目群	人文科学科目群	歴史（日本）	国際化が進展し異文化交流が盛んな時代だからこそ、広い視野に立って日本の歴史を確認し、自らの発信情報の礎を築かねばならない。過去を知ることは、現在を把握し未来を見定める方途でもある。本科目では、日本の歴史について世界との関係をふまえ、その歴史的諸側面を、文字・絵画・遺物・口碑伝承・民間信仰などの史料から読み取っていく。同時に、歴史学的思考とはどのようなものかを習得し、歴史学は解釈学であることを理解することを目標とする。	
US科目群	人文科学科目群	音楽史	音楽史とは何か、音楽の歴史を学ぶことの意義は何かといった問題意識を持ちつつ、音楽を学ぶ上で知らねばならない重要なキーワードを取り上げ解説する。その際、洋の東西を問わない音楽の歴史を念頭におくよう努める。すなわち、西洋音楽史に限らず日本音楽史、それ以外の民族の音楽史を含め、更に、いわゆるクラシックの音楽史にとらわれることなくポピュラー音楽の歴史も見据えた観点から、広い意味での音楽の歴史に関わる講義を行う。	
US科目群	人文科学科目群	哲学	哲学とは、自分の生きる世界（自然・社会・歴史等）や、世界の中で起こる様々な出来事、あるいはそうした世界に身を置いて生きる自分自身の姿（意識・思考・感覚・行動等）を反省的につかまえ、自分自身の未来形成に役立てていく学問である。ここで取り上げることは特別なことではなく、普段は当たり前に思っているが、どんな人にも関わる重要な問である。そうした諸問題を日常から取り上げて考える。哲学の基本的問題について考察し、哲学的思考方法を身に付けること、さらに、自分で考えるようにできることを本科目の目標とする。	
US科目群	人文科学科目群	倫理学	人間は、必ずある一定の歴史的・社会的環境の中に産み落とされ、その環境が醸し出すモードを身にまといながら生き、感じ、考え、行動する存在である。しかし、自分たちのモードは、決して完全なものでも絶対のものでもない。なぜなら、自分たちと異なる環境に育った人間もまた、多数存在するからである。このことについて考究し、また、なぜ倫理学を学ぶかの意味についても言及する。	
US科目群	人文科学科目群	ロジック	昨今、討論や論文、またそもそも一般的思考において、学生の論理・推論力の低下が目立つ。しかしながら、実際に日々行なう行動は思考の結果であり、そうした思考は「論理」に基づいて行なわれている。本科目では、「論理」が持つ特長や力を伝統的思想の中で検討しながら、論理的思考に注目し、実践的に鍛えることにより、言語や思考といったさまざまな論理的側面に対し、正確な分析と効果的な対処の仕方を学ぶことを目標とし、簡単な記号化を通して、ロジカルな推理ができるようにする。	
US科目群	人文科学科目群	科学史	人類の歴史における科学の誕生は、技術の誕生に遅れること約2000年と言われるが、これは何を意味するのだろうか。科学が、それに加え、科学技術とも呼ばれるようになったのは何故なのだろうか。本科目では諸分野における科学と技術の比較考察から始め、その成立・発展経緯と、その後の融合と分離の在り方および将来に向かっての科学と科学技術のイメージについてまでを歴史、特に、社会史と文化史とのかかわりを通して、広い視点から考察する。	
US科目群	人文科学科目群	宗教学	人類の歴史と共に長い歴史を持つ宗教を理解することを通して、人間存在の特質に対する深い認識を獲得することができる。宗教学は、宗教現象を客観的に研究し、宗教一般の本質や構造を問題とする。そのためには、宗教といわれるものについての知識が当然必要とされる。それゆえ、ここでは、諸宗教の歴史的・思想的特質についても考察する。「宗教とは何か」を考えることを通して「人間とは何か」という難問を探求すると同時に、グローバルな時代に必要な宗教についての知識を学ぶ。	
US科目群	人文科学科目群	世界の宗教と文化	現代のグローバル化した世界では、異なる宗教的背景を持つ他者と出会い、関わり、共に生きる力が必要とされる。本講では、世界三大宗教であるキリスト教、イスラム教、仏教をはじめ、世界の諸々の宗教を、歴史や思想の観点からだけでなく、現代世界の宗教に関わる諸問題や議論も視野に入れて考察する。この科目では200番台以上で展開される宗教学関連科目で必要とされる、世界の宗教文化の基本的な事実と一定の知識を獲得することができる。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
US科目群	人文科学科目群	演劇史	演劇や舞踊という舞台芸術を学ぶ上で、この芸術の先輩達によって築かれ、後世に残された智恵に触れること、つまり演劇史の知識は、演劇や舞踊というライブな芸術の素晴らしさを改めて認識する上でも、また、これから新しい舞台芸術を創造していくに際して、その過程における無駄な試行錯誤を避けるためにも、非常に大切である。この授業では、蓄積された膨大な演劇史の豊かな智恵の海を効率よく渡るために必要な、最も基礎的な演劇史の理解を助けるキーワードについて学ぶことを目的としている。	
US科目群	人文科学科目群	キリスト教学	玉川大学は「キリストの教えに従う」ことを教育精神として掲げている。この教えに基づいて成立したキリスト教は世界宗教の一つであり、2000年近くにわたり、世界の多くの地域・分野に影響を及ぼしている。本講義では、キリスト教に関する基礎的知識を修得し、その理解を深めることを目的とする。また、聖書に語られた、世界観、人間観、歴史観、さらには、歴史の中で展開されたキリスト教の様々な思想や文化的な営みを考察し、各自の生き方や自分が生きている社会のあり方について、より深く考察できるようになることを目的とする。	
US科目群	人文科学科目群	英語学	英語の歴史的発達（社会文化的側面と言語発達）、言語的諸相および分析方法について学びながら、英語の一般的特徴とはたらきについて記述することができる基礎的な知識の習得と分析能力の養成を目的とする。講義では、英語を分析するために発達した主要研究分野（英語史研究、音声・音韻、文法、意味、語法、辞書学、会話分析、文学と文体論、談話分析、語用論、コンピュータによる言語分析など）を取り上げ、英語の言語的特徴を体系的に理解し、客観的に分析するための知識の習得をはかる。また、英語学の知識と分析アプローチを理解し、応用しながら、英語の生きた姿をとらえるための基礎的な言語分析能力の養成をはかる。	
US科目群	人文科学科目群	日本語学	日本語を世界にある言語の一つとして客観的に認識し、音声、文法、語彙、意味、待遇表現といったさまざまな分野について、その特徴や体系をとらえていく。また、日常生活において無意識に使用している日本語に関する基礎的知識を身に付けるとともに、言語を客観的に分析する方法について学び、日本語の構造や法則について自ら分析できるようになることも目的とする。	
US科目群	人文科学科目群	日本学入門	日本学（Japanology）とはそもそも諸外国において日本を対象とする研究に対して命名されたものであるが、本講座では、過去から現在に至るまで日本という国に生きた人々が、所与の時代の現実の中でどのような問題に直面し、それらを解決せんとしてどのように生きたのかを、諸学問の領域を横断しながら、あるいは領域という枠組みに硬直せずに検討する。と同時に、日本の歴史・文化・思想を脱伝統の文脈からも読み直し、異文化との交流や摩擦なども視野に入れ理解していくための基礎的な研究方法や思考方法について学ぶ。	
US科目群	人文科学科目群	Japanology	『日本学入門』の内容を引き継ぎながら、海外における日本学（Japanology）の過去から現在に至るまでの状況を視野に入れて、学際的に探究していく。海外から日本を眺める客観的な視野が、日本人であることにより逆に見失われがちな点をどのように相対化しうる可能性をはらんでいるのか、という点に留意しながら、現代における日本学の必要性について認識することを目的とする。授業は英語で行う。	
US科目群	人文科学科目群	Japanese Pop Culture	日本のアニメ、マンガ、ポップスをはじめとするポップカルチャーは、近年海外においても注目され、今後その注目度は益々高くなることが予想される。この授業ではそれらを取り上げて、社会的、歴史的、芸術的、様々な角度から分析・評価していく方法論について、具体的にいくつかの材料を取り上げながら学んで身に付けていくことを目的とする。授業は英語で行う。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
US科目群	人文科学科目群	Modern Japanese History	近世から近現代にかけての日本史を概観するとともに、歴史学的方法論を用いて近世以来の日本の諸分野を考察して再構成することで、現代日本の諸事象を把握することができる。特に近世江戸時代の社会制度および構造と文化思想が近代明治期以降の西洋化の中でどのように西洋文化や思想を受容しつつ現代にいたるかの過程を確認することで近代および現代日本の特性と意義を明らかにする。授業は英語で行う。	
US科目群	人文科学科目群	East Asian History	東アジア地域の様々な歴史を理解するのが目的である。時代区分に基づいての考察や、政治、経済、宗教、思想、文化、芸術など諸分野のうち特定のジャンルを中心に論述する。ただし、全ての時代区分、地域、ジャンルにわたって1セメスターで完結することはできないので、時代を特定し、地域の諸特徴を考慮しつつ、幾つかのジャンルに分けることによって、科目の目的を実現する。授業は英語で行う。	
US科目群	人文科学科目群	Issues in Japanese Studies A	日本学で扱われる諸学問の領域の中から対象を絞り込み、その領域に関して深く探求していく。その一方で、探求の結果として得られた成果を、学際的な視点から改めて再評価し、相対化していくことを常に心がけて、日本学の研究方法を明確に意識化できるレベルで身に付けることを目的とする。授業は英語で行う。 『Issues in Japanese Studies B』とはプログラム、開講時期が異なる。	
US科目群	人文科学科目群	Issues in Japanese Studies B	本講座では日本学で扱われる諸学問の領域の中から対象を絞り込み、その領域に関して深く探求していく。その一方で、探求の結果として得られた成果を、学際的な視点から改めて再評価し、相対化していくことを常に心がけて、日本学の研究方法を明確に意識化できるレベルで身に付けることを目的とする。授業は英語で行う。 『Issues in Japanese Studies A』とはプログラム、開講時期が異なる。	
US科目群	人文科学科目群	人文科学ｱｶﾃﾞﾐｯｸｽｷﾙｽﾞ（ﾘｰﾃﾞｨﾝｸﾞ）	人文科学領域に属する学問（文学、哲学、歴史学、芸術学、他）の基本的な文献を読む訓練を行う。文献に書かれている内容をたんに理解するだけでなく、著者や編者の意図をくみとるためにはどのような読み方（読み方の技術）が必要になるかを学ぶ。リーディングにおいては、テキストの枠組みと方向性を示唆する先行オーガナイザーの設定が重要な役割を果たす。この科目では、そうしたことにも十分に着目して授業を展開する。	
US科目群	人文科学科目群	人文科学ｱｶﾃﾞﾐｯｸｽｷﾙｽﾞ（ﾗｲﾃｨﾝｸﾞ）	人文科学領域に属する学問（文学、哲学、歴史学、芸術学、他）におけるレポート執筆および発表原稿執筆の基本的な訓練を行う。大学で求められるレポートや発表は自分の自由な思いを綴った作文や感想文ではない。学生に期待されるのは、学問的客観性と普遍性が保たれたうえで、書き手の独自性が論理的に展開されている文章を書くことである。	
US科目群	人文科学科目群	名著講読（人文科学）	人文科学（文学、哲学、歴史学、芸術学、他）における古典や名著といわれるいくつかの文献の講読を通して、読解、解釈、内容把握、要約、議論を行っていく。こうした取り組みを通じて、過去の人類の叡知を学び、現代における意義を考え直し、またその限界も含めて検討していく。これにより、履修者自身の視野の拡大、思考力の醸成を図ることを目的とする。また当該学問領域において基礎的な知見や技術を習得することも目的とする。	
US科目群	社会科学科目群	会計学	会計学入門として複式簿記の基本原理を学習する。会計とは、取引を複式簿記の原理により測定し、財務諸表に集約することにより利用者に伝達する、計算制度である。そこで会計学を学ぶためにはまずこの複式簿記の原理を理解することから始めなければならない。この講義では、複式簿記の基本原理を、簿記一巡の手続き、決算整理、財務諸表の作成等を通じて習得する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
US科目群	社会科学科目群	コミュニケーション論	コミュニケーションは、人間が社会の中で生きていく上で不可欠なものである。異なる文化を背景にもつ人々が行なうコミュニケーションの問題点についてさまざまな角度から探り、より効果的なコミュニケーションについて理解を深める。生活のあらゆる場面がコミュニケーションの場であることを踏まえ、日常的な話題を提示して理解へと結び付けることで、物事を考える力を養っていく。コミュニケーション理論の理解と日常生活への応用を目標とする。	
US科目群	社会科学科目群	Academic Communication	本科目の主な目的は、効果的な学術的意見交換や意思疎通を図るために必要となる英語のコミュニケーションスキルを涵養することである。スピーキング、リスニング、リーディング、ライティングの4技能の習熟を通して、批判的思考力（クリティカルシンキング）を培い、言語意識を発達させることに焦点を当てる。到達目標として、幅広い分野を網羅する学術的な会話に参画したり、専門的かつ確信を持って口頭、書面でそれらの概念を表現する方法を修得する。授業は英語で行う。	
US科目群	社会科学科目群	経済学（国際経済を含む。）	日常よく使われる経済学の基本的な諸概念を解説し、経済についての基本的な知識を養うことを目標としている。それと同時に、現代経済学の主要な議論・論争と、“福祉破綻”や“環境破壊”など現実の経済問題とのつながりを探ることで、問題の本当の在り方を見つけ出して行く。その他、なぜ経済学を学ぶかの意味といったプロフェッショナル性にも言及する。	
US科目群	社会科学科目群	国際関係論	21世紀をむかえた現在、宗教対立や民族対立から始まる幾多のテロ活動や戦争、自然災害や人間の倫理的対応の欠如によってもたらされる環境破壊、世界規模といわれる金融危機等、人類は地球的規模での諸問題に直面し、国際関係・協力が必須のものになっている。本科目では、悠久の宇宙・人類史の流れの中での現在という立場から、具体的な国際情勢を取り上げながら、新しい学問といわれる国際関係論の歴史と理論と学問的課題を考究する。	
US科目群	社会科学科目群	市民社会と法	市民社会とは、自由と平等を重視し市民の基本的人権の保障を目指す社会であるが、そこにおいて私達市民と法は密接な関わりがあると言えよう。本講義では、私達市民が法とどのように関わり、また法からどのような影響を与えられているのか、市民的な教養として基本知識を得、理解を深めることを目的とする。具体的には、契約法、不法行為法、親族・相続法、刑法、民事・刑事訴訟法など、私達が身近に関わる法規範を中心に学ぶ。	
US科目群	社会科学科目群	経営学	経営学は社会科学の分野に分類される学問である。まだ100年程度の歴史しかない新しい科学分野であるが、常に経済活動とともに発展を遂げてきた。目的は企業をはじめとする組織的活動から生まれる問題の解決である。問題解決のために基礎学問分野（経済学、法律学、数学、物理学、情報工学等）の研究成果を利用し、時代に応じて多くの経営上の問題について多様な解決方法を生み出すことで発展してきた。そのため経営学は基礎学問ではなく、それを利用する応用の学問と言われる。つまり経営学は唯一の方法や理論があるのではなく、科学としての側面を持つ一方で、特定の優れた個人の技能という面を強く持つ学問と言える。授業は、新聞・雑誌の経営関係の記事や企業のホームページなどを積極的に活用しながら、今日の企業の具体的な事例を取り上げ、経営学の思考方法や基礎的な用語を理解する。	
US科目群	社会科学科目群	マーケティング	マーケティングは顧客および社会全体にとって価値のある商品やサービスを創造、コミュニケート、提供し続けるための活動の全てを表す概念であり、その目的は市場創造である。顧客心理や市場環境・競争のリサーチ・分析から始まり、マーケティング戦略の策定と実行、ブランディングや顧客との関係性の構築にいたるマーケティングの体系、理論と思考（顧客志向）について学ぶ。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
US科目群	社会科学科目群	政治学（国際政治を含む。）	政治についての学問である政治学は、理論、哲学、歴史、思想史、制度論、課程論、政策論、行政学など他分野にわたる。その中から、いくつかの分野を選び、政治を解明する。その際、政治に関する近年の理論・哲学を紹介・分析し、身近なところにも認められる政治を通してまず政治に対する目を養う。そして、政治家、政党、選挙、国会、官僚等に焦点を当てながら、日本の国内政治の仕組みを、さらに国際政治の現実や特徴、安全保障や国際政治経済の考え方を考察・分析し、現在の政治の基本的あり方を学修する。	
US科目群	社会科学科目群	心理学	心理学は人間の心の働きや行動の法則性を科学的に解明しようとする学問である。この科目では、認知、感情、欲求、思考、学習、パーソナリティ、発達、社会的行動等の基礎領域の学習を通して、心理学ではどのような方法を用いて研究が行われ、どのような研究成果が得られているのかを、私たちの日常生活や身近な現象と関連づけながら学び、心理学的視点を養うことを目的とする。	
US科目群	社会科学科目群	社会学	社会学の研究領域には、家族、農村、都市、産業、社会病理などがある。これらのうちから、社会病理をとりあげて、講義を進めていく。周知のとおり、現代の社会は社会問題に満ちている。今こそ社会学者が手腕を振るい社会学の実用的価値を世に問えるのかもしれない。近代社会の発展を遂げてきた社会学を現代社会の諸問題の解決と接点を模索しながら、社会学という学問を学び、かつ教える立場での社会学的視点の理解について学習する。	
US科目群	社会科学科目群	ボランティア概論	ボランティア活動の理念・歴史から始め、ボランティア活動の実際、またボランティア活動を支える機能や役割について考察し、現代社会におけるボランティアの意義と課題についての洞察を深める。ボランティアの理念や意義について、歴史や事例等を踏まえて、自らの考えを述べられること、ボランティア活動を支える制度や行政の役割について、その歴史や課題も踏まえた説明ができること、ボランティア活動を支えるコーディネーションや協働の在り方について、実践的に語ることができること、異なる価値観の人とも対話をし、省察的に協働することができることを目標とする。	
US科目群	社会科学科目群	現代社会の教育課題	各教育段階における多様性を認め合う仲間作りを中心とした学級経営や保護者対応の課題、IT化に伴う情報リテラシー教育（AIの正しい理解と活用課題を含む）、ICT利活用の授業実践、など、現代の日本が抱える教育課題を理解しつつ、次世代を担う人材を育成する教育のあるべき姿について考察する。	
US科目群	社会科学科目群	科学技術社会論	科学技術と社会は決して分離しているわけではないことは論を待たない。科学技術は、現代の我々が直面している様々な問題に対処しようと努力してきたし、社会に及ぼす影響は非常に大きい。しかし科学技術が深く大きくなるにしたがって社会における利便性と共にリスクが表面化し、我々はそれらのトレードオフに直面している。だからこそ科学技術を専門家のみに任せるのではなく、市民が主体となって科学技術をコントロールしていく必要がある。この授業では、科学技術に関する事件を例示しながら、科学技術を自らの問題として議論し、市民が科学技術にコミットする方法について考察することを目的とする。	
US科目群	社会科学科目群	観光学入門	2000年以降の日本では、観光立国にむけて様々な取り組みがなされており、21世紀のリーディング産業としても注目されている。本講義では、初学者を対象として、「観光」の現状や最新動向、ならびに社会現象のひとつとして分析していくうえでの多様な視点を提示する。講義では、観光とtourismの概念を検討したうえで、観光需要の動向を国内、インバウンド、アウトバウンドの3つにわけて分析する。さらに、観光による経済効果と社会文化効果、観光のネガティブな影響、観光政策と行政の役割、旅行業や交通業、宿泊業など観光に関連する諸産業の現状と特質、観光まちづくり、観光による地域活性化のあり方について、概要を学習する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
US科目群	社会科学科目群	社会科学ｱｶﾃﾞﾐｯｸｽｷﾙｽﾞ（ﾘｰﾃﾞｨﾝｸﾞ）	社会科学領域に属する学問（政治学、経済学、経営学、社会学、他）の基本的な文献を読む訓練を行う。文献に書かれている内容をたんに理解するだけでなく、著者や編者の意図をくみとるためにはどのような読み方（読み方の技術）が必要になるかを学ぶ。リーディングにおいては、テキストの枠組みと方向性を示唆する先行オーガナイザーの設定が重要な役割を果たす。この科目では、そうしたことにも十分に着目して授業を展開する。	
US科目群	社会科学科目群	社会科学ｱｶﾃﾞﾐｯｸｽｷﾙｽﾞ（ﾗｲﾃｨﾝｸﾞ）	社会科学領域に属する学問（政治学、経済学、経営学、社会学、他）におけるレポート執筆および発表原稿執筆の基本的な訓練を行う。大学で求められるレポートや発表は自分の自由な思いを綴った作文や感想文ではない。学生に期待されるのは、学問的客観性と普遍性が保たれたうえで、書き手の独自性が論理的に展開されている文章を書くことである。	
US科目群	社会科学科目群	名著講読（社会科学）	社会科学領域に属する学問（政治学、経済学、経営学、社会学、教育学、観光学他）の古典や名著といわれる文献の講読を通して、文献の読解力、概略的な内容の把握、概略の理解、解釈的な意味の認識等についての能力を養成する。名著に触れることによって、視野の拡大、自己の思考力の活用力、主題設定に対する重要性の理解を図っていく。該当領域において広く有用であると認められる知見・技術・考え方を開拓するものとなるように、知識の蓄積を増やすことを目的とする。	
US科目群	自然科学科目群	情報科学入門	現代社会においては、コンピュータは不可欠な存在となり、さまざまな場面で必要とされている。しかしながら、その原理・構造を知った上で活用できている人は稀である。そこで本科目では、コンピュータの原理や構造について、情報の表現方法やハードウェア、ソフトウェアの観点から詳しく学ぶ。また、コンピュータの動作とプログラムの動き、あるいは処理対象となるデータやファイルの管理など、情報処理の基礎となる考え方を学ぶ。さらに応用として、情報システムの原理やサービスについてもコンピュータとネットワークの観点から取り上げる。	
US科目群	自然科学科目群	ネットワーク入門	現代は、コンピュータを通して情報を発信することもまた情報を収集することも容易になっている。では、情報とは何か、そしてそれはどのように利用されるのか、本科目では、情報の持つ特異な性質、便利な利用方法や正しい扱い方について考える。授業では情報のデジタル表現と通信の原理、またこれらを活用した情報システムとネットワークについて学ぶ。また、インターネットの仕組みや正しい使用方法、その応用についても詳しく学ぶ。	
US科目群	自然科学科目群	データ処理	コンピュータを用いて論文やレポートを作成したりプレゼンテーションを行う時に、必要となるデータや情報の表現方法と処理方法の基本について学ぶ。また、情報処理の基本となるデータや処理手順のモデル化や各種チャートによる表現について学び、これらの図表を他の人たちとの共同作業時の意思疎通のための手段・媒介として活用する方法について学ぶ。さらに、このことにより、コンピュータ上のデータを生かし、社会の発展へとつなげていく意義を学ぶ。	
US科目群	自然科学科目群	マルチメディア表現	自己の考えをわかりやすく伝え、他者に理解を求めることは、社会で生きる上において、不可欠なことである。そのためにはさまざまな方法、手段が用いられるが、コンピュータもその手段の一つである。現代のコンピュータは、文章だけではなく、マルチメディアを用いた表現を可能にしている。本科目は、コンピュータを用いた、写真、イラスト、動画などの初歩的な表現技術を学ぶ。	
US科目群	自然科学科目群	化学入門	自然界にはいろいろな物質が存在している。海、空気、地殻も物質でできており、生物も物質から成り立っている。そもそも物質とはなんだろうか。そして、なぜ物質がこのような複雑な環境や生命活動を担えるのだろうか。このような問いに答える学問が化学である。物質の示す様々な性質を原子、分子といったレベルで理解し、さらに物質間の相互作用によって起きる化学反応を理解することにより上記の答えが少しずつ解明されてきている。本講義では化学の歴史と基本的概念を学んだあと、自然界あるいは日常身近に起きる様々な現象を化学的に理解できるようにすることを目標とする。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
US科目群	自然科学科目群	生物学入門	地球上に生命が誕生したのは30億年以上前といわれている。不思議なことに、生命体＝生物はそれぞれの種により、同じ形や動きをしていたり、物質やエネルギーの代謝系をもっている。生物には恒常性と調節機能があるのも特徴といえる。生物は、時間の流れの中で環境に適応するように変化＝進化し、人間はそのメカニズムを解明し医学や農業などに利用している。本科目は、生命誕生からの流れの中で、生物がどのように進化してきたのか、それに地球環境がどのように影響したのかを学ぶ。	
US科目群	自然科学科目群	環境科学	我々の生活は膨大なエネルギー消費によって快適なものとなっているが、それは地球環境に負荷を負わせることに他ならない。地球規模での環境悪化の問題は常に論じられているが、我々はどこまでその本質を理解しているだろうか。環境問題の本質に迫るには、人間の活動と環境への影響の両面を考える必要がある。本科目では、学際的な学問である「環境科学」をさまざまな角度から検討し、地球環境をひとつのシステムとして理解する。未来の地球に向けて我々がどのような行動をとるべきか、個々人の見解を形成することを目標とする。	
US科目群	自然科学科目群	数学入門	数学は論理的思考の基礎となるものである。その基礎的知識と問題解決能力は、文系・理系を問わず、大学での学習において不可欠な知識・能力といえよう。本科目では、数学の基本的な問題を解くことによって、問題や課題の解決能力と数学的思考能力を養う。その結果、数学における基本的な概念の理解を深め、数学に対して興味・関心をもち、数学的活動を通して創造性を培い、数学的な見方・考え方を獲得して、積極的に活用できるようにする。数学の楽しさ、面白さ、有用性を理解することを目標とする。	
US科目群	自然科学科目群	解析学入門	一変数関数に関する、より高度な微分法の応用と積分法について理解し、その計算力を身に付けることを目標として講義する。まず、テイラー、マクローリンの定理を理解し、級数の形で初等関数がどのような関係にあるかを学ぶ。次に、定積分の数学的定義を通して現実の面積・体積が数学のなかでどのように表現され計算されるかを学習する。また、微分の逆演算としての原始関数（不定積分）が定積分とどのように関係するかを理解しながら、その計算方法を多くの問題を解きながら身に付ける。	
US科目群	自然科学科目群	代数学入門	代数学は数学の基礎として重要な科目である。本科目では、連立一次方程式を中心に取り上げ、数ベクトルと行列の定義、行列の基本計算、正則行列と逆行列の定義、連立方程式の行列表現、行列の基本変形と基本行列、連立方程式の解法、逆行列の求め方、ベクトル空間の定義と線形写像、ベクトルの独立性、基底、時限と階数といった内容から、ベクトル、行列の基本的取り扱いを習得し、線形構造の基本を理解することを目標とする。	
US科目群	自然科学科目群	統計学入門	現代の情報化社会において、あふれている情報をいかに効率よく、正確に獲得するかは重要な課題となっている。人は個人によって情報の種類、情報の高さが異なる。したがって、個人個人が必要な情報を取得し、分析し、判断していかなければならない。統計学は、一人一人の知的活動が求められる高度知識社会に必要な分析力・判断力の基となるものといえる。本科目では、情報やデータを分析・判断し活用するための統計処理の基礎を身に付けることを目標とする。	
US科目群	自然科学科目群	物理学入門	物理学のなかでも身近な事例（力学・電気）について講義する。社会人になったときに、科学的な内容の話に積極的に参加できる程度の基礎知識を身に付けられるようにし、簡単な計算ができるようにする。合理的な考え方、新しいものの開発や発想は物理的なものの見方が不可欠であるので、順序よくものごとを見て考え方を組み立てることを学ぶ。さらに原子の世界について簡単に学び、エネルギー問題について考察する。最終的には、運動の法則や力学的エネルギーを中心とするニュートン力学、初歩の電磁気学、そして原子の世界などの理解を目標とする。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
US科目群	自然科学科目群	実践の物理学	物理法則には、簡単な式で表わすことができ実際の現象とよく一致するものや、多くの補正を加えなければ一致しないものがある。物理法則とよく一致する現象について、講義および自らが行う簡単な実習により、物理法則と測定結果を比較検討し、その原理を説明できるようになることを目的とする。テーマは、力学、電気、熱、光波、音波など広い範囲の物理学について学ぶことが出来るように選んである。これらを修得することにより、様々な物理現象の原理の簡単な説明および簡単な機器操作の実行をすることができる。	
US科目群	自然科学科目群	科学入門	普段は意識することはないが、現代の生活は様々な科学の成果で成り立っている。この授業では我々自身の生活のなかの科学を基礎的な実験で学ぶ。基礎的な科学実験によって科学に対して興味や関心を持つことができるようになったり、生活と科学の関連性について意見を述べることができるようになったりすることを目的とする。さらに科学の様々な現象の原理の簡単な説明をすることができるようになることを目指す。	
US科目群	自然科学科目群	地球科学	1960年代から70年代にかけて誕生し成長したプレートテクトニクスの枠組みによって、人類の地球観は大きく変貌した。ほぼ同時期から発展した宇宙技術によって宇宙から地球を観測したり他の惑星を直接観測したりすることも可能となった。その後も新たな知見をもたらしながら、地球科学は発展を続けている。本科目ではプレートテクトニクスをもとにして、固体地球の大規模な変動や地震・火山などの地学現象を体系的に理解することを一つの目標とする。また、地球以外の惑星にも視点を広げ、地球と惑星を関連させながら理解を深めることも目指す。	
US科目群	自然科学科目群	エネルギー科学	我々はエネルギーを使用することによって、現代の様々な利便性を享受していることは明らかである。エネルギーは、機械エネルギー、熱エネルギー、電気エネルギー、原子力エネルギー、等様々な形態をとり、それぞれ変換可能である。しかしながら、我々が使用できる形態のエネルギーを得るには多くのコストとリスクを伴う。さりとて低コスト小リスクでは現代の文明を維持することは困難である。この授業では、エネルギーの種類や生成法などの基礎知識を簡単に学び、そのコストとリスクをメリットと比較考量し、これからのエネルギー問題に対処する自分自身の考えをまとめられるようにすることが目標である。	
US科目群	自然科学科目群	宇宙科学	近年、望遠鏡等の観測装置やロケット等の宇宙機技術の進歩によって、宇宙についての認識が大きく変化してきている。本講義では、現在までに得られた最新の宇宙像に基づいて、宇宙の誕生から現在までの進化や、現時点で把握されている宇宙の構造や様々な天体について理解することを目的とする。また、宇宙を解明するための技術の基本についても理解する。同時に、人類がこれまでどのように宇宙に接してきたのかについても学び、人類と宇宙との様々な関わりについて考えを深める。	
US科目群	自然科学科目群	STEM入門（科学と社会）	普段は意識することはないが、現代の生活は様々な科学（STEM）の成果で成り立っている。STEMとは何かを様々な視点から理解を深め、STEMが重要視される歴史と背景を概観し、Science, Technology, Engineering, Mathematicsの各分野における先端的研究を取り上げ、現代社会の関わりと課題、未来の展開について主体的に調査・探究し考察する。	
US科目群	自然科学科目群	人工知能と社会	人工知能の歴史を学ぶと共に様々な分野に応用されている応用例を元に人工知能の基本的な手法や、様々なトピックスを理解することで、現代社会で利用されている人工知能の実態を学習し、現代社会や私たちの生活に与える影響について学ぶ。人工知能が人間に与えるかもしれない将来の影響について、自分自身で説明でき、他人とディスカッションできること、また、人工知能も含め、人間にとって技術がどんな意味をもつか、歴史的観点から説明できることを目標とする。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
US科目群	自然科学科目群	自然科学ｱｶﾃﾞﾐｯｸｽｷﾙｽﾞ（ﾘｰﾃﾞｨﾝｸﾞ）	自然科学領域に属する学問（生物学、化学、物理学、数学、他）の基本的な文献を読む訓練を行う。文献に書かれている内容を理解するだけでなく、著者や編者の意図をくみとるためにどのような読み方（読み方の技術）が必要になるかを学ぶ。リーディングにおいては、テキストの枠組みと方向性を示唆する先行オーガナイザーの設定が重要な役割を果たす。この科目では、そうしたことにも十分に着目して授業を展開する。	
US科目群	自然科学科目群	自然科学ｱｶﾃﾞﾐｯｸｽｷﾙｽﾞ（ﾗｲﾃｨﾝｸﾞ）	自然科学領域に属する学問（生物学、化学、物理学、数学、他）におけるレポート執筆および発表原稿執筆の基本的な訓練を行う。大学で求められるレポートや発表は自分の自由な思いを綴った作文や感想文ではない。学生に期待されるのは、学問的客観性と普遍性が保たれたうえで、書き手の独自性が論理的に展開されている文章を書くことである。	
US科目群	自然科学科目群	名著講読（自然科学）	自然科学領域に属する学問（生物学、化学、物理学、数学、他）の古典や名著といわれる文献の講読を通して、文献の読解力、概略的な内容の把握、概略の理解、解釈的な意味の認識等についての能力を養成する。名著に触れることによって、視野の拡大、自己の思考力の活用力、主題設定に対する重要性の理解を図っていく。該当領域において広く有用であると認められる知見・技術・考え方を開拓するものとなるように、知識の蓄積を増やすことを目的とする。	
US科目群	学際科目群	ミクロ脳科学	『ミクロ脳科学』では人間の心のはたらきを司る脳と神経の基礎的なはたらきの詳細についてミクロレベルで理解することを目的とする。まず、脳と神経系の成り立ち、出来上がる仕組み（発生・発達）、脳神経回路での信号と伝達を概説する。その上で、知覚、情動、記憶、動機づけ、意思決定、運動、および行動制御のミクロレベルでの脳内メカニズムについて言及する。	
US科目群	学際科目群	マクロ脳科学	『マクロ脳科学』では人間の心のはたらきを司る脳の基礎的なはたらきとその成果の展開についてマクロレベルで理解する。まず、脳と神経系の成り立ち、出来上がる仕組み（発生・発達）、脳神経回路での信号と伝達、および脳について、マクロレベルで概説する。我々の知覚、思考、行動はすべて脳の電気的活動によって制御されていることを学び、神経科学上の成果が人間理解や社会生活に大きな影響を及ぼし始めていることを理解することを目標とする。	
US科目群	学際科目群	健康スポーツ理論	WHO（World Health Organization）によると、健康とは「肉体的・精神的及び社会的に最良の状態をいい、万人の享有する基本的人権のひとつ」である。しかし、現代の生活は、「健康」といえるものになっているだろうか。一方、スポーツは健康のためには欠かせないものではあるが、一部のスポーツへの取り組みは健康を脅かすものとなっていないだろうか。本科目では、健康に対する理解を深めると同時に、健康とスポーツの関わり、スポーツの功罪などについて考察する。健康を尊重し、その維持、増進に積極的に取り組む姿勢を養うことを目指す。	
US科目群	学際科目群	生涯スポーツ演習	体を動かすということは、人間にとって最も根源的な欲求である。生活の中で適度にスポーツを取り入れることは、心身両面の健康体を築くためには不可欠である。本科目では、多様なプログラムを用意し、それぞれの種目を通して、健康に対する基礎的知識、また、生涯にわたりスポーツを楽しむ生活習慣を身に付けることを目標とする。さらに、種目のルール、マナーを学ぶことによって、社会性の育成、健全な競技精神、安全管理についての習慣・態度を育成する。	
US科目群	学際科目群	環境教育	我々の生活は膨大なエネルギー消費によって快適なものとなっているが、それは地球環境に負荷を負わせることに他ならない。地球規模での環境悪化の問題は常に論じられているが、我々はどこまでその本質を理解しているのか。環境教育の現状と課題を理解し、環境問題と環境教育の専門的知識を習得し、未来の地球に向けて我々がどのような行動をとるべきか、個々人の見解を形成することを目標とする。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
US科目群	学際科目群	スポーツ史	スポーツは人類の文化である。その原初の形は戦い、狩猟、踊り、祈りなど生活の中から生まれてきた。しかし現代では一国の政治・経済とも関わる存在となってきている。我が国においても1961年に制定された「スポーツ振興法」では、国民の明るく豊かな心身の健全な発達を図る目的と個々人の権利を保障する内容であった。2011年に制定された「スポーツ基本法」では、スポーツ立国の実現を目指し、国家戦略として推進するとまでスポーツの価値が変化している。本講義では、スポーツの発生から、古代オリンピック、近代スポーツ、さらには、ニュースポーツ、アダプテッドスポーツなどの歴史を探る中でスポーツの文化を学習する。	
US科目群	学際科目群	オリンピック文化論	オリンピックの諸問題を分析的・総合的に考え、「幅広くかつ深く知る力」を身に付ける。① オリンピック・リテラシー：心身ともに調和のとれた若者を育てるという「教育運動」及び平和な世界の構築を目指す「平和運動」としてのオリンピックのもつ文化性を理解する。② テクスト・クリティーク：新聞やwebsiteなど物語展開や映像を批判的に読み解く能力を養うとともに、近代オリンピックの光と影の両面について批判的に考える。また、自分の考えを適切に表現する。③ メディア・リテラシー：オリンピックを別次元のことと見なさないで、メディアの問題も視野に入れ、自分の現実の生活と関連づけながら、メディア情報を適切に読み解く。	
US科目群	学際科目群	栄養学	栄養学的素養は子どもたちの健全な発育を促すのに不可欠である。健康づくりの柱として栄養・運動・休養があるが、運動と栄養の関係は密接である。授業では、栄養素の基本的働きなどをふまえ、運動と栄養の関係について、様々な角度から検討する。	
US科目群	学際科目群	病理学	形態学的に、「病気の原因」、「仕組み」、それに「経過」を学ぶ。顕微鏡や電子顕微鏡を用いて、肉体的あるいは精神的な病（やまい）の基礎をなす“構造上の変化（組織学的変化）”が明らかにされた疾患について理解を深める。それは、今後とも病気知らずで過ごしていくことに役立つばかりではなく、なおいっそう健康を増進させていくことにも結びつく。	
US科目群	学際科目群	マスメディアと社会	人が現代社会で生きるために、切っても切り離せない情報とは何かということを学ぶ。情報といっても、それだけで成り立っているわけではない。多種多様な情報があり、新聞や雑誌、インターネットやメールなどの電子情報のメディアがある。場合に応じて、さまざまな現れ方、使われ方をされている。しかも、その情報によって、人の生き方や政治、経済、生活が変わってしまうほどの価値がある。公的にも私的にも情報はさまざまな役割を担っている。教科書をそのまま学習するのではなく、教科書で得たものを身に付けたうえで、個人が一メディアとして機能しうる表現力を身に付けることを目指す。	
US科目群	学際科目群	現代文化論	世界が身近になり、「文明の衝突」に象徴されるように多様な価値間の摩擦が顕著になっている。こうした衝突は21世紀においては一層激化されることが懸念されている。私たちを取り巻く現代の文明の位置関係や構造と融和について学ぶ。現代社会における文化の諸相についてふれながら、文化研究と社会学の基礎的な概念および研究視角について修得し、自らが関係する文化のあり方、さらに自己が関係する文化のありようを理解し、自らその意味を問うことを目標とする。	
US科目群	学際科目群	プレゼンテーションスキル	現代社会において、必要な情報活用能力のうち他者と協力してコミュニケーションを図る力や自分の考えやイメージを的確に伝える力は、不可欠である。本授業では、こうしたコミュニケーションに不可欠な力を育成するために、コミュニケーションに欠かせないデジタル資料を使ったプレゼンテーション技術や口頭によるプレゼンテーション技術の基礎を学ぶとともに、その実践を通してプレゼンテーションに必要な力を養う。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
US科目群	学際科目群	Presentation Skills in English	英語による研究発表を首尾よく計画し実行するのに不可欠な英語コミュニケーション、プレゼンテーションスキルや研究手法、コンピュータスキルを育成する。個人で、グループで、また正式、また略式（公式、準公式）的にプレゼンテーションを行う方法を学ぶ。聴衆からの質問への対応の仕方等発表の過程のあらゆる段階で丁寧に（詳細に、細かく）指導する。本質的で根本にある目標は、学生が英語で効果的な発表を行うのに必要な自信を養うことにある。授業は英語で行う。	
US科目群	学際科目群	複合領域研究 201～299	知識基盤社会の本格的な到来をむかえ、高度化、グローバル化、複雑化する現代社会において、多角的な視点で物事を捉え、新たな未来を構築できる人材が求められている。そのため、学問においても、既存の学問領域の枠組みでは捉えきれない事象について、様々な学問の知見を援用しながら学ぶことが必要になってきている。この科目では、現代社会での諸問題を取り上げ、多様な観点から考察する。特に、その時々の社会的な課題の中から複数のテーマを設定し、人文科学、社会科学、自然科学といった個々の枠組みではなく、それらを複合した領域の視点から、その諸課題に対する総合的な検討に取り組んでいく。	
US科目群	学際科目群	情報倫理と社会	情報化とグローバル化が加速する現代社会における技術者の倫理について、さまざまな事例を参照しながら学び考察する。デジタル社会の一員としてのふさわしさを考え、コンピュータとネットワークの急速な進歩とともに課題となっている知的所有権に関わる問題、不正アクセス、セキュリティなどの問題に特に重点を置く。また、それ以外にも企業倫理、内部告発、PL法と品質管理、工場所有権、グローバル活動に伴う倫理、喫緊の要事である環境倫理、新たな技術に伴う課題を抱える生命倫理についても講義する。	
US科目群	学際科目群	野外教育	総合的な野外活動としてキャンプを捉え、その基礎的な理論（特性・歴史・計画・運営・マネジメント・危機管理・評価など）を通し、野外での教育活動（自然体験・冒険活動・環境保護活動）を理解し、自然と人が共生していく必要性について学ぶ。また、体験学習法であるTAP（Tamagawa Adventure Program）の基礎的な考え方を通し、他者との関わり方やコミュニケーションのとり方などについて理解し、対人的に安全な環境作りの手法や人と自然を尊重する心について学ぶ。	
US科目群	学際科目群	TAPファシリテーションI	学校教育、企業、地域等の様々な場面において、TAP（Tamagawa Adventure Program）を活用し、ファシリテートできるようになるための、具体的なスキルを習得することを目的とする。授業では、学内に常設されているチャレンジコースも使用しながら、まずはTAPを実際に体験していく。その中で、グループ内におけるリーダーシップのあり方について学んだり、グループの発達を実際に体験したりすると共に、TAPをファシリテートしていく上で必要となる、基礎的なスキルを習得する。	
US科目群	学際科目群	TAPファシリテーションII	学校教育、企業、地域等の様々な場面において、TAP（Tamagawa Adventure Program）を活用し、ファシリテートできるようになるための、知識の習得を目的とする。授業では、これまでに実際に体験してきたTAPの体験をベースとして、TAPの歴史的背景や基礎理論、またファシリテーターとして求められる基礎知識を学んでいく。	
US科目群	学際科目群	環境教育ワークショップI	環境への関心や理解を深めるため、環境教育を推進することができる態度・知識を身に付けることを目的としている。授業では、環境教育概説・体験学習の理論・プログラムデザイン・プレゼンテーションスキルなどの基礎を学び、「子ども環境講座プログラム」の模擬授業に応用できる力を養う。また、玉川大学環境エデュケーター資格を取得するために必要な条件である、学生環境保全委員会活動に参画し、活動する上で必要な基礎的スキルを身に付ける。	
US科目群	学際科目群	環境教育ワークショップII	環境への関心や理解を深めるため、環境教育を推進することができる実践力を身に付けることを目的としている。授業では、ファシリテーションスキル・コミュニケーションスキルの基礎知識を学び、「子ども環境講座プログラム」の模擬授業を通し実践力を養う。また、玉川大学環境エデュケーター資格を取得するために必要な条件である学生環境保全委員会活動に参画し、活動する上で必要な基礎的スキルを身に付ける。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
US科目群	学際科目群	コーオプ・プログラム	高等教育における創造的人材育成の一環として、企業・大学の産学連携により行われる、インターンシップなどのプログラム。学生は、在学中に自らの専攻、将来のキャリア形成に関連した業種、職種の企業内でインターンシップ（就業体験）をすることで、大学で学ぶ理論の知識と仕事の現場での実践による学び（智）を結び付けること、および学生自身の将来のキャリアビジョンをより明確化することを目的とする。	
US科目群	学際科目群	キャリア・マネジメント	21世紀初頭は、終身雇用制度、年功序列による賃金制度といった日本の従来の人的資源管理は崩壊の一途をたどり、雇用情勢は変化している。ビジネスパーソンは、高いエンプロイアビリティ（雇用される能力、雇用可能性、転職能力、自分の市場価値）を身に付けることにより、このような雇用不安を払拭し、キャリアを確立することができるといえる。そこで、社会の現状を把握し、雇用形態の多様化や自立的キャリア形成等の観点から、これからのキャリアマネジメントを学ぶ。	
US科目群	学際科目群	海外留学入門	海外留学のシステム・意味・学修成果から留学計画・準備の進め方まで包括的かつ体系的に学ぶものである。具体的には、日本と留学先国（主に欧米・オセアニアなど）の国際教育交流に関する政策・制度、そして海外留学プログラムの種類や特徴を比較し、海外留学の意義、学修方法や成果、キャリアに与えるメリット等について学ぶ。更に、ディスカッションをしながら、各自の「なりたい自分」に向けた具体的な留学計画や今すべきことを明らかにしていく。 グローバル人材・市民像、及びそれらに必要な資質・能力の修得に向け、海外留学の重要性を認識し、留学に対する具体的な計画・準備を進めることができる。また、海外留学の意義、学修経験・成果、キャリアにおける留学のメリットを確認し、自身にとっての留学意義や目的を見出し、それらを日本語もしくは英語で発表できることを目標とする。	
US科目群	学際科目群	インターンシップA	在学中に一定期間、企業・自治体・団体等で、自らの専攻、将来のキャリアに関連した就業体験を行う教育プログラム。この就業体験を通して、①実社会の中で視野を広め、社会的問題意識を高める、②大学での学習を実践の中で見つめ直し、目的意識と学習意欲を喚起する、③職業観を養い、将来の進路選択やキャリアデザインを考える、④社会人として求められる資質や態度を体得する、等の機会を得ることができる。 『インターンシップB』とは実習先が異なる。『インターンシップC』『インターンシップD』とは、実習先、期間、時間が異なる。	
US科目群	学際科目群	インターンシップB	在学中に一定期間、企業・自治体・団体等で、自らの専攻、将来のキャリアに関連した就業体験を行う教育プログラム。この就業体験を通して、①実社会の中で視野を広め、社会的問題意識を高める、②大学での学習を実践の中で見つめ直し、目的意識と学習意欲を喚起する、③職業観を養い、将来の進路選択やキャリアデザインを考える、④社会人として求められる資質や態度を体得する、等の機会を得ることができる。 『インターンシップA』とは実習先が異なる。『インターンシップC』『インターンシップD』とは、実習先、期間、時間が異なる。	
US科目群	学際科目群	インターンシップC	在学中に一定期間、企業・自治体・団体等で、自らの専攻、将来のキャリアに関連した就業体験を行う教育プログラム。この就業体験を通して、①実社会の中で視野を広め、社会的問題意識を高める、②大学での学習を実践の中で見つめ直し、目的意識と学習意欲を喚起する、③職業観を養い、将来の進路選択やキャリアデザインを考える、④社会人として求められる資質や態度を体得する、等の機会を得ることができる。 『インターンシップD』とは実習先が異なる。『インターンシップA』『インターンシップB』とは、実習先、期間、時間が異なる。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
US科目群	学際科目群	インターンシップD	在学中に一定期間、企業・自治体・団体等で、自らの専攻、将来のキャリアに関連した就業体験を行う教育プログラム。この就業体験を通して、①実社会の中で視野を広め、社会的問題意識を高める、②大学での学習を実践の中で見つめ直し、目的意識と学習意欲を喚起する、③職業観を養い、将来の進路選択やキャリアデザインを考える、④社会人として求められる資質や態度を体得する、等の機会を得ることができる。 『インターンシップC』とは実習先が異なる。『インターンシップA』『インターンシップB』とは、実習先、期間、時間が異なる。	
US科目群	学際科目群	国際研究A	海外実地視察を通して問題意識を高めるとともに、海外事情についての認識を深めることを目的とする。『国際研究A～F』では、訪問の対象となる地域の歴史的文化遺産と同時に、最新の社会・文化を視察することで、各地域のこれまで果たしてきた役割と21世紀における可能性、および日本との今後の関係のあり方を考察する。帰国後、事前指導において設定した調査研究課題に関する調査分析について報告する。 『国際研究B』『国際研究C』とは訪問先が異なる。『国際研究D』『国際研究E』『国際研究F』とは訪問先、期間、時間が異なる。	
US科目群	学際科目群	国際研究B	海外実地視察を通して問題意識を高めるとともに、海外事情についての認識を深めることを目的とする。『国際研究A～F』では、訪問の対象となる地域の歴史的文化遺産と同時に、最新の社会・文化を視察することで、各地域のこれまで果たしてきた役割と21世紀における可能性、および日本との今後の関係のあり方を考察する。帰国後、事前指導において設定した調査研究課題に関する調査分析について報告する。 『国際研究A』『国際研究C』とは訪問先が異なる。『国際研究D』『国際研究E』『国際研究F』とは訪問先、期間、時間が異なる。	
US科目群	学際科目群	国際研究C	海外実地視察を通して問題意識を高めるとともに、海外事情についての認識を深めることを目的とする。『国際研究A～F』では、訪問の対象となる地域の歴史的文化遺産と同時に、最新の社会・文化を視察することで、各地域のこれまで果たしてきた役割と21世紀における可能性、および日本との今後の関係のあり方を考察する。帰国後、事前指導において設定した調査研究課題に関する調査分析について報告する。 『国際研究A』『国際研究B』とは訪問先が異なる。『国際研究D』『国際研究E』『国際研究F』とは訪問先、期間、時間が異なる。	
US科目群	学際科目群	国際研究D	海外実地視察を通して問題意識を高めるとともに、海外事情についての認識を深めることを目的とする。『国際研究A～F』では、訪問の対象となる地域の歴史的文化遺産と同時に、最新の社会・文化を視察することで、各地域のこれまで果たしてきた役割と21世紀における可能性、および日本との今後の関係のあり方を考察する。帰国後、事前指導において設定した調査研究課題に関する調査分析について報告する。 『国際研究A』『国際研究B』『国際研究C』『国際研究E』『国際研究F』とは、訪問先、期間、時間が異なる。	
US科目群	学際科目群	国際研究E	海外実地視察を通して問題意識を高めるとともに、海外事情についての認識を深めることを目的とする。『国際研究A～F』では、訪問の対象となる地域の歴史的文化遺産と同時に、最新の社会・文化を視察することで、各地域のこれまで果たしてきた役割と21世紀における可能性、および日本との今後の関係のあり方を考察する。帰国後、事前指導において設定した調査研究課題に関する調査分析について報告する。 『国際研究A』『国際研究B』『国際研究C』『国際研究D』『国際研究F』とは、訪問先、期間、時間が異なる。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
US科目群	学際科目群	国際研究F	海外実地視察を通して問題意識を高めるとともに、海外事情についての認識を深めることを目的とする。『国際研究A～F』では、訪問の対象となる地域の歴史的文化遺産と同時に、最新の社会・文化を視察することで、各地域のこれまで果たしてきた役割と21世紀における可能性、および日本との今後の関係のあり方を考察する。帰国後、事前指導において設定した調査研究課題に関する調査分析について報告する。 『国際研究A』『国際研究B』『国際研究C』『国際研究D』『国際研究E』とは、訪問先、期間、時間が異なる。	
US科目群	学際科目群	Japan Studies Overseas A	海外での様々な体験は、日本における「標準」が絶対的なものではないことを、いやが上でも日本に暮らす我々に意識化させる。本講では受講者各自が問題意識を持って調査対象と目的を設定し、それを実現する具体的な方法を決定して実際に海外で調査を行い、研究報告書としてまとめ上げていく過程を通じて、様々な文化や社会の価値観を相対化していく視野を身に付けることを目的とする。授業は英語で行う。 『Japan Studies Overseas B』『Japan Studies Overseas C』とはプログラムが異なる。	
US科目群	学際科目群	Japan Studies Overseas B	海外での様々な体験は、日本における「標準」が絶対的なものではないことを、いやが上でも日本に暮らす我々に意識化させる。本講では受講者各自が問題意識を持って調査対象と目的を設定し、それを実現する具体的な方法を決定して実際に海外で調査を行い、研究報告書としてまとめ上げていく過程を通じて、様々な文化や社会の価値観を相対化していく視野を身に付けることを目的とする。授業は英語で行う。 『Japan Studies Overseas A』『Japan Studies Overseas C』とはプログラムが異なる。	
US科目群	学際科目群	Japan Studies Overseas C	海外での様々な体験は、日本における「標準」が絶対的なものではないことを、いやが上でも日本に暮らす我々に意識化させる。本講では受講者各自が問題意識を持って調査対象と目的を設定し、それを実現する具体的な方法を決定して実際に海外で調査を行い、研究報告書としてまとめ上げていく過程を通じて、様々な文化や社会の価値観を相対化していく視野を身に付けることを目的とする。授業は英語で行う。 『Japan Studies Overseas A』『Japan Studies Overseas B』とはプログラムが異なる。	
US科目群	学際科目群	フィールドワークA	国内におけるさまざまな規模のコミュニティ（小集団、群衆、社会等）に入り込み、協働や交流をして観察および分析を行うことで、動的性質や構造の理解を深めることを目的とする。学生が対象コミュニティに飛び込み、そのコミュニティの構成メンバーと連携し、さまざまな実践的活動を行う点を特徴とする。具体的には、指導教員のもと学生が自身の学修課題ないし計画を設定し、それらに沿った観察、分析、意見交換、そして計画の再構成などを繰り返しながら、最終的に成果発表を行う。	
US科目群	学際科目群	フィールドワークB	国内におけるさまざまな規模のコミュニティ（市町村、都市、地方、自治体等）に入り込み、協働や交流をして観察および分析を行うことで、動的性質や構造の理解を深めることを目的とする。学生が対象コミュニティに飛び込み、そのコミュニティの構成メンバーと連携し、さまざまな実践的活動を行う点を特徴とする。具体的には、指導教員のもと学生が自身の学修課題ないし計画を設定し、それらに沿った観察、分析、意見交換、そして計画の再構成などを繰り返しながら、最終的に成果発表を行う。	
US科目群	学際科目群	フィールドワークC	国内におけるさまざまな規模のコミュニティ（劇場、協会、企業、学校等）に入り込み、協働や交流をして観察および分析を行うことで、動的性質や構造の理解を深めることを目的とする。学生が対象コミュニティに飛び込み、そのコミュニティの構成メンバーと連携し、さまざまな実践的活動を行う点を特徴とする。具体的には、指導教員のもと学生が自身の学修課題ないし計画を設定し、それらに沿った観察、分析、意見交換、そして計画の再構成などを繰り返しながら、最終的に成果発表を行う。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
US科目群	学際科目群	地域創生プロジェクトA	本学では隣接する地域との連携を深め、大学や地域の自治体・団体が持つ資源をより有効に活用するために、行政と締結した協定に基づきさまざまな取り組みを実施している。それぞれの地域では特色を生かした村おこし、魅力あふれる町づくりのために、工夫を凝らしたイベントを開催している。そういった実践的活動に参加することにより、地域の活動を理解し、最終的に成果発表を行う。 『地域創生プロジェクトB』とは訪問先が異なる。『地域創生プロジェクトC』『地域創生プロジェクトD』『地域創生プロジェクトE』『地域創生プロジェクトF』とは訪問先、期間、時間が異なる。	
US科目群	学際科目群	地域創生プロジェクトB	本学では隣接する地域との連携を深め、大学や地域の自治体・団体が持つ資源をより有効に活用するために、行政と締結した協定に基づきさまざまな取り組みを実施している。それぞれの地域では特色を生かした村おこし、魅力あふれる町づくりのために、工夫を凝らしたイベントを開催している。そういった実践的活動に参加することにより、地域の活動を理解し、最終的に成果発表を行う。 『地域創生プロジェクトA』とは訪問先が異なる。『地域創生プロジェクC』『地域創生プロジェクトD』『地域創生プロジェクトE』『地域創生プロジェクトF』とは訪問先、期間、時間が異なる。	
US科目群	学際科目群	地域創生プロジェクトC	本学では隣接する地域との連携を深め、大学や地域の自治体・団体が持つ資源をより有効に活用するために、行政と締結した協定に基づきさまざまな取り組みを実施している。それぞれの地域では特色を生かした村おこし、魅力あふれる町づくりのために、工夫を凝らしたイベントを開催している。そういった実践的活動に参加することにより、地域の活動を理解し、最終的に成果発表を行う。 『地域創生プロジェクトD』とは訪問先が異なる。『地域創生プロジェクトA』『地域創生プロジェクトB』『地域創生プロジェクトE』『地域創生プロジェクトF』とは訪問先、期間、時間が異なる。	
US科目群	学際科目群	地域創生プロジェクトD	本学では隣接する地域との連携を深め、大学や地域の自治体・団体が持つ資源をより有効に活用するために、行政と締結した協定に基づきさまざまな取り組みを実施している。それぞれの地域では特色を生かした村おこし、魅力あふれる町づくりのために、工夫を凝らしたイベントを開催している。そういった実践的活動に参加することにより、地域の活動を理解し、最終的に成果発表を行う。 『地域創生プロジェクトC』とは訪問先が異なる。『地域創生プロジェクトA』『地域創生プロジェクトB』『地域創生プロジェクトE』『地域創生プロジェクトF』とは訪問先、期間、時間が異なる。	
US科目群	学際科目群	地域創生プロジェクトE	本学では隣接する地域との連携を深め、大学や地域の自治体・団体が持つ資源をより有効に活用するために、行政と締結した協定に基づきさまざまな取り組みを実施している。それぞれの地域では特色を生かした村おこし、魅力あふれる町づくりのために、工夫を凝らしたイベントを開催している。そういった実践的活動に参加することにより、地域の活動を理解し、最終的に成果発表を行う。 『地域創生プロジェクトF』とは訪問先が異なる。『地域創生プロジェクトA』『地域創生プロジェクトB』『地域創生プロジェクトC』『地域創生プロジェクトD』とは訪問先、期間、時間が異なる。	
US科目群	学際科目群	地域創生プロジェクトF	本学では隣接する地域との連携を深め、大学や地域の自治体・団体が持つ資源をより有効に活用するために、行政と締結した協定に基づきさまざまな取り組みを実施している。それぞれの地域では特色を生かした村おこし、魅力あふれる町づくりのために、工夫を凝らしたイベントを開催している。そういった実践的活動に参加することにより、地域の活動を理解し、最終的に成果発表を行う。 『地域創生プロジェクトE』とは訪問先が異なる。『地域創生プロジェクトA』『地域創生プロジェクトB』『地域創生プロジェクトC』『地域創生プロジェクトD』とは訪問先、期間、時間が異なる。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
US科目群	言語表現科目群	ELF 101	ELFとはEnglish as a Lingua Francaの略語である。 グローバル化された社会において、英語は国際共通語としての役割をもっている。ELFは、そうした英語を十全に使いこなすために用意された科目である。『ELF 101』では、高等学校までの英語学習をもとに、「読む」「書く」「聴く」「話す」の4技能において、それぞれの弱点を理解し、克服しながら、得意な領域についてはさらに伸ばしながら確実に運用ができるようにするため、日常生活に関わるいくつかのトピックを設定し、特にリーディング、リスニングを中心に授業を展開し、英語の基礎的理解力を確実なものとする。	
US科目群	言語表現科目群	ELF 102	ELFとはEnglish as a Lingua Francaの略語である。 グローバル化された社会において、英語は国際共通語としての役割をもっている。ELFは、そうした英語を十全に使いこなすために用意された科目である。ここでは、『ELF 101』で学習したことをもとに、「読む」「書く」「聴く」「話す」の4技能において、それぞれの弱点を理解し、克服しながら、得意な領域についてはさらに伸ばしながら確実に運用ができるようにするため、日常生活に関わるいくつかのトピックを設定し、特にリーディング、リスニングを中心に授業を展開し、英語の基礎的理解力を確実なものとする。	
US科目群	言語表現科目群	ELF 201	ELFとはEnglish as a Lingua Francaの略語である。 グローバル化された社会において、英語は国際共通語としての役割をもっている。ELFは、そうした英語を十全に使いこなすために用意された科目である。「読む」「書く」「聴く」「話す」の4技能において、それぞれの弱点を理解し、克服しながら、得意な領域についてはさらに伸ばしながら確実に運用ができるようにするため、日常生活に関わるいくつかのトピックを設定し、リーディング、リスニングはもとより、段階的にスピーキング、ライティングなど発信に重点を移行しながら授業を展開し、英語の4技能の基礎を確実なものとする。	
US科目群	言語表現科目群	ELF 202	ELFとはEnglish as a Lingua Francaの略語である。 グローバル化された社会において、英語は国際共通語としての役割をもっている。ELFは、そうした英語を十全に使いこなすために用意された科目である。ここでは、『ELF 201』で学習したことをもとに、「読む」「書く」「聴く」「話す」の4技能において、それぞれの弱点を理解し、克服しながら、得意な領域についてはさらに伸ばしながら確実に運用ができるようにするため、日常生活に関わるいくつかのトピックを設定し、スピーキング、ライティングなど発信に重点をおいた授業を展開し、英語の4技能の基礎を確実なものとする。	
US科目群	言語表現科目群	ELF 301	ELFとはEnglish as a Lingua Francaの略語である。 グローバル化された社会において、英語は国際共通語としての役割をもっている。ELFは、そうした英語を十全に使いこなすために用意された科目である。ここでは、『ELF 202』で学習したことをもとに、「読む」「書く」「聴く」「話す」の4技能のバランスをとりながら運用ができるようにするため、現代社会における様々な事象をトピックとして設定し、特にスピーキング、ライティングにおいては状況に応じて柔軟に発信ができるように授業を展開していく。	
US科目群	言語表現科目群	ELF 302	ELFとはEnglish as a Lingua Francaの略語である。 グローバル化された社会において、英語は国際共通語としての役割をもっている。ELFは、そうした英語を十全に使いこなすために用意された科目である。ここでは、『ELF 301』で学習したことをもとに、「読む」「書く」「聴く」「話す」の4技能のバランスをとりながら運用ができるようにするため、現代社会における様々な事象をトピックとして設定し、特にスピーキング、ライティングにおいては状況に応じて柔軟にかつ自信をもって発信ができるように授業を展開していく。	
US科目群	言語表現科目群	ELF 401	ELFとはEnglish as a Lingua Francaの略語である。 グローバル化された社会において、英語は国際共通語としての役割をもっている。ELFは、そうした英語を十全に使いこなすために用意された科目である。ここでは、『ELF 302』で学習したことをもとに、「読む」「書く」「聴く」「話す」の4技能のバランスをとりながら運用ができるようにするため、現代社会における様々な事象をトピックとして設定し、特に英語による情報収集とそれらを利用した問題解決を中心に授業を展開していく。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
US科目群	言語表現科目群	ELF 402	ELFとはEnglish as a Lingua Francaの略語である。 グローバル化された社会において、英語は国際共通語としての役割をもっている。ELFは、そうした英語を十全に使いこなすために用意された科目である。ここでは、『ELF 401』で学習したことをもとに、「読む」「書く」「聴く」「話す」の4技能のバランスをとりながら運用ができるようにするため、現代社会における様々な事象をトピックとして設定し、引き続き、より高度な英語による情報収集とそれらを利用した問題解決を中心に授業を展開していく。	
US科目群	言語表現科目群	日本語表現 101	日本語による表現力を身に付けることを目標とする。句読点の使い方や文章の構成法を学ぶことから始まり、最終的には読み手を想定して論理的で説得力のある文章が書けるようになることを目指す。はじめに、表現をするために必要なモノ・コトを理解する。その上で、調査方法、考察のしかた、引用上の注意、他者の批評などを学ぶ。さらに、これらをプレゼンテーションする際の方法についても学習する。	
US科目群	言語表現科目群	日本語表現 102	『日本語表現101』を発展させた授業である。日本語による表現力を身に付けることを目標とし、現代の社会で想定されるさまざまな場面、手紙、レポート、討論などの擬似体験を通して日本語の運用技術をみがく。具体的にはブレーン・ストーミング、データの整理、下書き、推敲、といった文章作法のプロセス、手紙、レポート作成上の留意点などについて学ぶ。今後さまざま場面で要求されるであろうテーマに対して自己表現を行いながら、表現の幅を広げ、質の向上を目指す。	
US科目群	言語表現科目群	フランス語 101	「話す」「聞く」「書く」「読む」の4つの運用能力の初級レベルの習得を目指す。言葉はまず音としてある。このことから、本科目では、仏語の初歩のうち発音や綴りから始める。そして、基本的な語彙や表現を用いて自分の言いたい事や必要な事を相手に伝えられるようになるための練習を行い、コミュニケーションのためのフランス語の力を身に付けることを目標とする。また、フランスと日本の文化の違いを学び、両国の異文化理解を深めることも目標とする。	
US科目群	言語表現科目群	フランス語 102	『フランス語101』の履修者を対象とした授業。どこの国の言語にも、言葉の使い方に一定の決まりがある。いくら語彙が豊富で単語を並べても、その単語を正しい順序やつながりで表現しなければ意味のある文にはならない。本科目では、言葉を使う上での基本的な枠付けを段階的に修得し、コミュニケーションのためのフランス語の力を身に付ける。また、フランスと日本の文化の違いを学び、両国の異文化理解を深めることも目標としている。	
US科目群	言語表現科目群	ドイツ語 101	ドイツ語初学習者を対象とした授業。母音、子音の発音からはじめてドイツ語の基礎を学ぶ。挨拶、自己紹介などの平易なコミュニケーションを通してドイツ語の特徴を理解し、読解・聴解などの練習を含めた総合的な表現能力を養うことを目標とする。ドイツ語を使って発信するために必要な能力の養成に重点を置く。文法・作文などの練習を通して基本文型を修得する。さらに、ドイツ語圏、ヨーロッパ圏の文化に触れることで、異文化理解を進める。	
US科目群	言語表現科目群	ドイツ語 102	『ドイツ語101』の履修者を対象とした授業。『ドイツ語101』で修得した文法（動詞の人称変化、名詞の格など）の知識を確かなものにしながら、初級文法で必要とされる事項（数詞、序数詞、分離動詞など）を学ぶ。発音、音読を中心におくが、文法についても基本文型も充実させながら、日常生活の中で最低限必要とされる事柄を表現できることを目標とする。また、辞書の活用方法にも習熟する。さらに、ドイツ語圏、ヨーロッパ圏の文化に触れることで、異文化理解を進める。	
US科目群	言語表現科目群	スペイン語 101	文字と発音および簡単なあいさつなどから始めて、スペイン語の初級文法の最も基礎的な部分と最重要の語彙を学ぶ。習った文法知識が単に知識のままで終わらないように、口頭練習を数多くおこなう。練習は、教師が学生ひとりひとりにスペイン語で質問し、それに対して学生がスペイン語で答えるという形式のものが中心になる。学期終了時には、あいさつ、自己紹介、身のまわりの簡単なことについての口頭表現がスペイン語でできるようになる。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
US科目群	言語表現科目群	スペイン語 102	『スペイン語101』の単位をすでに取得している学生を対象に、『スペイン語101』の続きとして文法と重要語彙を学習し、スペイン語運用能力を育成するための口頭練習を繰り返しおこない、スペイン語音発音に慣れる。ここで扱う事項は動詞の活用など多少複雑な項目を含むが、本科目終了時にはスペイン語の初級会話に必要な文法、語彙、表現の基本を習得したことになる（命令形、比較級・最上級、直接法現在完了、過去法点過去・線過去、未来形、現在完了など）。	
US科目群	言語表現科目群	中国語 101	実用的な日常言語の基礎を習得することを目標とする。本科目は入門クラスで、発音（声調、単母音、複合母音、子音、鼻音を伴う母音など）の練習から始め、最も基本となる語彙、文法（“是”構文、疑問文、代名詞、助詞、動詞述語文、反復疑問文、形容詞述語文、選択疑問文、比較文など）、簡単な日常会話などをビデオ教材を使って、日常生活の表現の中で学んでいく。また、言語の背景となる中国の社会的文化的背景についても紹介していく。	
US科目群	言語表現科目群	中国語 102	『中国語101』に引き続き、基礎中国語の運用能力の向上を目指す。日常的なコミュニケーションに必要な基本的表現（数をたずねる、年齢・月日・時刻の言い方、進行の表し方、電話のかけ方など）および基礎文法（結果補語、可能表現、可能補語、常用副詞、使役動詞など）を学習する。また、リスニングや繰り返しの発音練習により、中国語の正しい発音を習得する。『中国語101』と同様にビデオ教材を使用する。簡単な翻訳までを目標とする。	
US科目群	資格関連科目群	学校経営と学校図書館	学校図書館の理念と教育的意義について、生涯学習社会、情報社会における学校教育を支援する学校図書館の在り方を中心に取り上げる。また、学校図書館の経営については、組織、予算の面から論じるとともに、学校図書館メディアの選択・管理の方法、学校図書館と地域社会との連携協力の重要性について解説する。その他、図書館司書のプロフェッショナル性についても言及する。	
US科目群	資格関連科目群	学校図書館メディアの構成	学校図書館サービスの資源となる情報源について、その種類と特性を教育課程との関連から取り上げる。また、利用者の情報資料への要求に対して、的確な情報資料が検索できるための、メディア組織化の技法について解説する。さらに、多様な学習環境に応じた学校図書館メディアの構成、学習情報センターとしての学校図書館の在り方について論じる。その他図書館司書のプロフェッショナル性についても言及する。	
US科目群	資格関連科目群	学習指導と学校図書館	教育課程と学校図書館について、教育課程の基本方針・編成の側面から取り上げ、教育課程の展開に寄与する学校図書館の在り方を論じる。また、情報活用能力の育成においては、学校図書館メディアの活用能力が不可欠であることを示したうえで、メディア活用の事例を取り上げる。さらに、学習過程における学校図書館メディア活用の重要性、学習指導における学校図書館メディアの検索・活用、情報サービスの利用について解説する。	
US科目群	資格関連科目群	読書と豊かな人間性	読書の今日的な意義、心の教育に果たす読書の役割について論じる。さらに、発達段階に応じた読書の指導・計画について、読書能力や読書興味との関連から解説する。次いで、児童生徒向けの読書資料について、その種類と活用の実際を取り上げ、さらに読書の種々の指導方法の特性を論じ、指導方法の評価、改善について解説する。その他図書館司書のプロフェッショナル性についても言及する。	
US科目群	資格関連科目群	情報メディアの活用	高度情報社会での学校教育における、各種の情報メディア活用の意義、重要性を論じる。そのうえで、情報メディアの種類と特性、視聴覚メディアの活用について具体的に取り上げる。また、学校教育へのコンピュータの活用については、インターネットによる情報発信、学習支援ソフトウェア等について取り上げ、その活用事例を紹介し、その意義、コンピュータ活用がもたらす新たな学習観について論じる。最後に、学校図書館メディアと著作権の問題を解説する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
US科目群	資格関連科目群	生涯学習概論	現代社会での個人または集団、社会の向上のために、生涯を通じて人間的、社会的、職業的な発達をはかることは今日的な重要課題である。こうした生涯教育という関心は歴史的に新しいけれども、その理念は近代公教育以前から見られる。この理念に遡りその原型から今日の生涯学習の支援状況を分析していく。また、今日の成人・高齢者の発達や学習要求を明らかにする。この分析に従い、最近の新しい動向、「学習ボランティア」や「学社融合」やマルチメディアなどに言及する。	
US科目群	資格関連科目群	図書館概論	現代社会における図書館の意義について、特に、生涯学習社会における図書館の役割、情報社会における図書館の位置付けと機能を中心に解説する。さらに、公共図書館の機能、図書館法、図書館の自由について解説し、公共図書館の制度や課題を論じる。また、大学図書館、学校図書館、国立図書館について、それぞれの機能と関連する図書館法律を取り上げる。図書館司書の取得を目指す学生の履修を想定した科目である。	
US科目群	資格関連科目群	図書館情報技術論	情報技術が進展し、資料のデジタル化など印刷から電子的な情報形態への移行が増加するにつれて、図書館の機能やサービスも変化してきている。本講義では、図書館業務に必要な基礎的な情報技術を修得するために、コンピュータ等の基礎、図書館業務システム、データベース、検索エンジン、電子資料、コンピュータシステム等について解説する。	
US科目群	資格関連科目群	図書館制度・経営論	図書館に関する法律、関連する領域の法律、図書館政策について解説するとともに、図書館経営の考え方、職員や施設等の経営資源、サービス計画、予算の確保、調査と評価、管理形態等について解説する。図書館制度を支える法制度について体系的に説明できること、また、図書館経営の基礎知識を理解し説明できることを目標とする。	
US科目群	資格関連科目群	図書館サービス概論	利用者に提供される図書館サービスについて、閲覧、資料提供、情報提供、集会・文化活動に大別し、その意義、内容、機能を解説する。次いで、利用対象別のサービスとして、児童サービス、高齢者サービス、障害者サービス、さらには多文化サービスを取り上げその内容と特質を解説する。また、図書館サービスとボランティアの関係についても取り上げる。その他図書館司書のプロフェッショナル性についても言及する。	
US科目群	資格関連科目群	情報サービス論	図書館における情報サービスの意義を明らかにし、利用者の情報ニーズの把握から情報（源）の入手に至るレファレンスプロセスを概観する。次いで、レファレンスサービス、レフェラルサービス、カレントアウェアネスサービス、情報検索サービス、発信型情報サービス、図書館利用教育等のサービス方法について学ぶ。参考図書・データベース等の各種の情報源についても基礎知識を得る。	
US科目群	資格関連科目群	児童サービス論	児童サービスの意義、児童資料の特色と選択、児童コレクションの形成と管理について解説する。次いで、ストーリテリング、読み聞かせ、ブックトークなど、児童サービスの方法・技術を取り上げる。また、児童サービスの運営について解説し、学校、学校図書館との連携、幼稚園、保育園、児童館、子ども文庫との連携協力の諸問題を取り上げる。	
US科目群	資格関連科目群	情報サービス演習A	利用者の情報要求の把握から回答の提供にいたるプロセス、および各種情報源の特性について解説する。その上で、各種のレファレンス質問について、実際に図書館において情報源を探索し、回答の入手、提供に至るプロセスについて学習する。なお『情報サービス演習A』では主として冊子体の情報源を中心としつつ、必要に応じて電子媒体も使用する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
US科目群	資格関連科目群	情報サービス演習B	データベース、論理演算子、トランケーション、シソーラス、検索戦略、再現率と精度など、情報検索に必要な理論と技法を学ぶ。その上で、CD-ROM、商用オンラインデータベース、検索エンジンといった各種の情報検索システムを用いて、検索戦略の構築、検索作業の実際について演習を行い、実践的な検索能力を身に付ける。	
US科目群	資格関連科目群	図書館情報資源概論	図書館が提供する情報資源（印刷資料・非印刷資料・電子資料・ネットワーク情報資源）について、その類型と特質、歴史、生産、流通、選択、収集、保存など、図書館業務に必要な情報資源に関する知識等の基本を学ぶ。また、生産される莫大な情報資源のなかから図書館資料として選択、収集し、コレクションを形成していく過程について取り上げる。	
US科目群	資格関連科目群	情報資源組織論	現在の図書館は、印刷資料から多種多様なメディアへとサービスの対象を拡げている。したがって、それぞれのメディアの特性に合わせた組織化が求められている。本講義では、印刷資料・非印刷資料・電子資料とネットワーク情報資源からなる図書館情報資源の組織化の理論と技術について、書誌コントロール、書誌記述法、主題分析、メタデータ、書誌データの活用法等を解説する。	
US科目群	資格関連科目群	情報資源組織演習A	現在の図書館は印刷資料から多種多様なメディアへとサービスの対象を拡げている。したがって、それぞれのメディアの特性に合わせた組織化が求められている。本講義では、情報資源の組織化のうち、目録法の演習を行う。多様な情報源に関して、目録規則を適用して書誌データを作成する技法について、演習を通して習得し、情報資源組織業務について実践的な能力を養成する。	
US科目群	資格関連科目群	情報資源組織演習B	現在の図書館は印刷資料から多種多様なメディアへとサービスの対象を拡げている。したがって、それぞれのメディアの特性に合わせた組織化が求められている。本講義では、情報資源の組織化のうち分類法と件名目録法の演習を行う。多様な情報源に関する主題分析、分類作業、統制語彙の適用等の演習を通して、情報資源組織業務について実践的な能力を養成する。	
US科目群	資格関連科目群	図書館情報資源特論	図書館が提供する情報資料である印刷資料・非印刷資料、電子資料、ネットワーク情報資源について、その類型と特質、歴史、生産、流通、選択、収集、保存や図書館情報資源の組織化の理論と技術など各科目で学んだ内容を発展的に学習し、理解を深める観点から、図書館情報資源に関する領域の課題を選択し、授業を行う。	
US科目群	資格関連科目群	図書・図書館史	人間の知的活動の所産である図書館の記録メディアの変遷、発展過程について解説し、人間のコミュニケーションと記録メディアとの関係について明らかにする。また、社会制度としての図書館の歴史について取り上げ、現代の図書館を成立させている歴史的基盤を解明する。古代から近世にいたる各時代において登場したメディアと図書館の特徴について、近・現代社会のメディアと図書館の特徴と対比させながら、説明できるようになることを目標とする。	
US科目群	資格関連科目群	図書館施設論	図書館活動・サービスが展開される場としての図書館施設について、地域計画、建築計画、その構成要素等を解説する。具体的には、公共図書館に限らず、学習に特化した新しい図書館デザインモデルである「ラーニング・コモンズ」が提唱されている大学図書館や、先進的な学校図書館の事例を取り上げ、図書館における学びの空間デザインに焦点化して展開する。	
US科目群	資格関連科目群	生涯学習と生涯教育	一人ひとりの生涯にわたる学習を出発点に位置づけ、組織や社会の持続可能な発展を展望する「学習社会」を志向する意義や課題について学ぶ。具体的には、個人の学びと組織や社会の発展、おとなの学習者理解と学習支援の方法、学びあうコミュニティの意義や社会とつながる学びの在り方、学習社会の課題と展望について、考察をする。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
US科目群	資格関連科目群	生涯学習支援論A	学習者の多様な特性を尊重し生かした学習支援に関する知識及び技能の習得を目的としている。具体的には、現代社会における生涯学習支援の考え方、教育理論（ペダゴジー・アンドラゴジー・ジェロゴジーなど）を踏まえた効果的な学習支援、参加型学習プログラムや支援者の在り方について、理論と実践を往還しながら学ぶ。	
US科目群	資格関連科目群	生涯学習支援論B	学習者の多様性を尊重し、主体的な参加を促す学習支援に関する知識や技能の実践的な力量を培う。具体的には、現代社会の状況や学習プログラムに基づき、主体性を育む参加型学習のプログラムやその支援の在り方について考察するとともに、演習で学び合うプロセスを通して、ファシリテーション能力について実践的に学ぶ。	
US科目群	資格関連科目群	社会教育経営論A	「多様な主体と連携・協働を図りながら、学習成果を地域課題解決や地域学校協働活動等につなげていくための知識及び技能の習得を図る」を基にしながら社会教育経営論の概要を学修する。また、社会教育全般を網羅しつつ、「地域」、「コミュニティ」を多面的に捉えながら「課題解決」、「連携・協働」していくために必要な情報を習得し、その方法などについて考察する。	
US科目群	資格関連科目群	社会教育経営論B	農村型社会から都市型社会への変貌のもとで、また市民や企業によるボランタリーな活動が進展する中で、社会教育や社会教育行政はどのように変わるべきか、地域のガバナンスはいかにあるべきかについて多角的に考えるとともに、地域での社会教育実践や学習者支援に際して求められる基礎的な知識等を身につける。	
US科目群	資格関連科目群	社会教育実習	社会教育主事等、社会教育関係の職員を目指す者、あるいは社会教育に関心がある者を対象とし、社会教育の現場での実践的な能力（学習課題の把握、企画力、組織化、コーディネイトなど）を養成することを目的とする。講義・実習を折りまぜながら実施していく。更に本実習を通して、いかなる職業についても必要なチームワークや、自らの言動によって個人・組織・社会のイノベーションを図れるようなリーダーシップ力を培う。	
US科目群	資格関連科目群	社会教育課題研究	社会教育が果たしてきた役割をふまえたうえで、今日の社会教育や社会教育関係職員の役割や課題について考察する。生涯学習の中での社会教育の意義と課題を考察しながら、関係法規、社会教育行政の組織と運営・職員や指導者の在り方や社会教育計画と実施方法・施設について論ずる。さらに青少年教育、成人教育、高齢者教育、女性教育をとりあげ、企業内教育やマス・コミと生涯学習の関係、ボランティアの役割についてもふれながら課題研究を行う。	
US科目群	資格関連科目群	社会体育論	余暇開発が言われるようになって久しい。長寿社会の到来とともに、人生を設計し、いかに豊かに送るかといった人生観が登場した。真に、現代は、クオリティー・オブ・ライフが問われる時代である。人々は、物質的な豊かさだけでなく、各自の健康や体力の維持増進について意識し始めるようになった。本講では、生涯体育、生涯スポーツの考えを基本に、社会体育のあり方やその活動の現状などについて学習する。	
US科目群	資格関連科目群	博物館概論	博物館の始まりから現代の課題までの歴史を通観する。博物館学の入門として、博物館の起源と各国での展開について基礎知識を得る。特に、博物館の概念が輸入された近代日本における特性を海外との比較のもと理解することを目指す。日本における博物館の概念と制度の基礎的知識を踏まえ、これからの博物館の可能性について事例とディスカッションを通して学ぶ。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
US科目群	資格関連科目群	博物館経営論	博物館経営の問題を理解し、その適切な管理・運営を考え、博物館経営の基礎的な能力を身に付ける。博物館の形態面と活動面における管理・運営を理解し、博物館経営（ミュージアムマネージメント）の基本的要素やシステムの内容を適切に説明できることを目標とする。同時に、現代の博物館の問題点や課題をもとに、これからの博物館のあり方を考察できることを目標とする。	
US科目群	資格関連科目群	博物館資料論	博物館の役割や責任を理解し、博物館資料の概念と、その収集・保管・活用の知識と技術を身に付ける。博物館資料の収集、整理、保存管理や提供に関する基礎的知識ならびに博物館資料を提供する方法と注意点を説明することが出来ることを、また、資料を用いた研究の意義と実例を解説することが出来ることを目標とする。	
US科目群	資格関連科目群	博物館資料保存論	博物館資料は社会の文化財であることを理解し、その劣化を防ぐ適切な保存法を、具体的に知る。資料保存に関連する各種用語を正確に理解し、その意味を説明できること、博物館資料を保存する責任を自覚し、その意義・目的について説明できることを目標とする。また、博物館資料の各劣化要因とそれらの結果及び各要因間の相互関係、博物館資料を良好な状態で保存するための諸条件を科学的に説明でき、必要な対策をとることができることを目標とする。	
US科目群	資格関連科目群	博物館展示論	博物館・美術館における展示の意味と役割を、歴史・理論・実践例等をふまえつつ概説する。また展示に不可欠な「もの」や「こと」を解説する技術を、具体例の分析と方法の教授、そして講義内での実践を通じて学修してもらう。以上を通じて博物館・美術館での展示に必要な知識と技術を修得することを目指す。 具体的には、博物館・美術館における展示の意義を理解し、歴史・理論・実践例をふまえて説明すること、展示解説の基礎力として、物事を的確に観察・調査し、文章で端的に説明することができるようになることを目標とする。	
US科目群	資格関連科目群	博物館教育論	博物館における教育活動の基盤となる理論や実践に関する知識と方法を習得し、博物館の教育機能に関する基礎的能力を養う。博物館教育に関する法規資料を確認したり、歴史や現在のあり方について取り上げたりする。また、博物館教育やアートプログラムに携わっているプロから実施の要点や工夫を直に聞く機会を設ける。博物館における教育活動の基盤となる理論や実践に関する知識と方法を説明でき、博物館教育の現状を捉え、今後の博物館教育についての考えを述べることができることを目標とする。	
US科目群	資格関連科目群	博物館情報・メディア論	博物館における情報の意義と活用方法及び情報発信の課題等について理解し、博物館の情報の提供と活用等に関する基礎的能力を養う。 社会メディアとしての博物館の社会的役割を理解する。それ自体がメディアでありまた多くのメディアを利用する博物館が生成し、保有する情報資源をどのように社会の文化資本として生かしていくか、理論や実践例などから学習し、理解を深める。博物館にはたらく人材または博物館の利用者としてのリテラシーを身に付ける。	
US科目群	資格関連科目群	博物館実習	博物館と美術館の学芸員の業務遂行に必要な基礎知識と実践力を培うために、小人数編成のグループに別れてさまざまな博物館業務の実習を行う。学芸員業務を体得し、その基礎的活動ができるようになること、また、展覧会の企画書の作成を通して、企画力、チームワーク、プレゼンテーション力を向上することを目標とする。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目群	100番台科目	芸術概論	(概要) 芸術学部で学ぶ学生として様々な価値観とアートに触れ、自らの指針を定める芸術学部の基礎科目である。前半は学科で学ぶことのできる専門分野について具体事例から概要を学び、4年間を通じて学ぶ分野の理論や実技の基盤を作ることを目標とする。後半は芸術学部の専門分野を切り口に、日本の芸術文化を概観する。さらに、芸術の世界で第一線で活躍するゲストを招聘し、芸術の世界の最前線に触れる機会を設ける。 (オムニバス方式／全15回) (1 青山典靖／1回) 舞踊と身体について (2 アーカリ, ジェイスン／1回) ヨーロッパ・アメリカ演劇について (3 二村周作／1回) 舞台美術について (4 ヲザキ浩実／1回) アートマネジメントについて (5 多和田真太良／2回) パフォーマンスの概念について 芸術の世界で第一線で活躍するゲストを招聘し、芸術学部で学ぶ学生として必要となる素地を養う。 (6 新沼智之／2回) 演劇の理論について (7 田中圭介／3回) 舞台芸術の演出について 上演芸術(パフォーミング・アーツ)についておよび日本伝統芸能について (24 清水宏美／2回)・日本の音楽について多岐にわたる唄、楽器、芸能の紹介、日本音楽の歴史と音楽的特徴について述べ、我が国や郷土の伝統音楽の基礎的な知識を身に付ける。 (27椿敏幸／2回) 造形史から現代生活を考える。	オムニバス方式
専門科目群	100番台科目	演技・舞踊入門	(概要) 心身ともに演劇や演技、舞踊の基礎や考え方を理解するための力を養う。演技・日本舞踊(歌舞伎舞踊)・バレエ・ジャズダンス・コンテンポラリーダンスなどを中心に、柔軟で遊び心のある身体表現力、自分から出発する言葉、共創的な態度、創造力を生かした創作技術を高めるためのトレーニングをワークショップ形式で行う。柔軟で遊び心のある身体表現ができるようになる。 (オムニバス方式／全15回) (1 青山典靖／3回) 日本舞踊の基礎的な動きを基に、身体の作りを理解し、舞踊の実践研究を行う。 (7 田中圭介／3回) 自分を見つめ、心からの発話ができるようになる。創造力を生かした集団創作(ディバイジング)を行い、発表することで、表現者としての自分の可能性を探る。 (69 粟田麗／1回) ジャズダンスの基礎的な動きに触れ、身体の使い方を理解する。 (74 浦弘毅／2回) 基礎となる演技方法に触れ、身体の使い方を理解する。 (79 大嶋里衣子／1回) 日本舞踊(歌舞伎舞踊)の基礎的な動きに触れ、身体の使い方を理解する。 (102 島田啓司／2回) 基礎となる演技方法に触れ、身体の使い方を理解する。 (105 杉崎泉／2回) バレエの基礎的な動きに触れ、身体の使い方を理解する。 (110 玉川さやか／1回) コンテンポラリーダンスの基礎的な動きに触れ、身体の使い方を理解する。	オムニバス方式

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目群	100番台科目	演技・舞踊基礎演習	(概要) 『演技・舞踊入門』で触れた様々な演技・舞踊の形態から専門的に学びたいものを選び、より深く学ぶことを目的とする。 合わせて該当する上演芸術に必要な身体表現の基礎を学ぶ。身体を表現体として自由で豊かに機能させるために人体の構造とメカニズムについての理解を深め、クリエイティブな表現力と感性、創作においての積極性を養う。また、即興性や集団創作の中で身に付けた技術を自覚的に使用する能力を育成する。 〔担当教員のテーマ〕 (1 青山典靖)日本舞踊の基礎的な動きを基に、身体の作りを理解し、舞踊の実践研究を行う。 (2 アーカリ, ジェイスン)ヨーロッパの俳優トレーニングを行い、戯曲に命を吹き込むための役作りへのアプローチや演技スキルを学ぶ。 (7 田中圭介) 自分を見つめ、心からの発話ができるようになる。創造力を生かした集団創作(ディバイジング)を行い、発表することで、表現者としての自分の可能性を探る。 (69 粟田麗)ジャズダンスの基礎的な動きをもとに身体表現の可能性を理解する。 (91 絹川友梨)インプロヴィゼーションをもとに身体表現の可能性を理解する。 (92 楠原竜也)コンテンポラリーダンスの基礎的な動きをもとに身体表現の可能性を理解する。 (102 島田啓司)俳優としての基礎的な身体の使い方をもとに身体表現の可能性を理解する。 (105 杉崎泉)バレエの基礎的な動きをもとに身体表現の可能性を理解する。	
専門科目群	100番台科目	舞台技術基礎演習	(概要) 舞台美術、舞台技術、舞台監督の仕事を中心に、舞台創造に携わる者に必要な劇場技術の基礎知識、作業の基本的なルール、マナーや安全の心得などを学ぶ。 パフォーミング・アーツにおける各スタッフの役割を理解し、説明できるようになる。プロダクション・ワークにおけるチームの一員として、同チーム内でのコミュニケーションをとるための言語的かつ非言語的方策を理解し、説明できるようになる。パフォーミング・アーツの創造過程の体系を言語化できるようになることを目標とする。 (オムニバス方式／全15回) (3 二村周作)／1回)舞台創造における基礎知識 (72 石橋舞／3回)衣裳 (74 浦弘毅)／3回)舞台監督 (109 谷口綾)／3回)舞台美術 (122 二見英幸)／3回)音響 (72 石橋舞　74 浦弘毅　109 谷口綾　122 二見英幸)／2回)(共同)舞台美術、舞台技術、舞台監督	オムニバス方式 共同(一部)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目群	100番台科目	上演基礎実習	(概要) 2年次からの分野の選択を視野に入れながら、自らの上演芸術との関係性を見出すために、作品創作に携わるあらゆる仕事を体験的に学修し、自らの適性を見出すことを目的とする。出演者とスタッフの両面から作品創作に関わることで、総合的に作品創作の過程を学ぶことができる。最終的に、上演実習の形で発表する。 (オムニバス方式／全3回) (3 二村周作／1回) クリエイティブな創作環境とは (4 ヲザキ浩実／1回) 舞台制作の基本理念 (5 多和田真太良／1回) イントロダクション　授業の運営方法 〔担当教員のテーマ〕(共同／全12回) (1 青山典靖)舞踊監修(日舞) (2 アーカリ, ジェイスン)演出監修(フィジカル) (3 二村周作)舞台空間 (4 ヲザキ浩実)公演制作 (5 多和田真太良)演出監修(日本戯曲) (6 新沼智之)戯曲分析 (7 田中圭介)演出監修(海外戯曲) (72 石橋舞)衣裳監修 (92 楠原竜也)舞踊監修(ダンス) (100 篠田薫)化粧監修(メイク・ヘアメイク) (105 杉崎泉)舞踊監修(バレエ) (108 武田知也)公演制作 (109 谷口綾)舞台美術 (120 藤井さゆり)公演制作 (122 二見英幸)音響監修	共同 オムニバス方式 (一部) 講義12時間 実習144時間
専門科目群	100番台科目	日本文化芸術論	(概要) 特定の芸術ジャンルを取り上げて、日本のパフォーミング・アーツの特色を概観する。日本には世界に誇れる芸術が沢山あり、その中でも主に能・狂言、人形浄瑠璃、歌舞伎などの歴史を学びながら、身体表現を研究する。また、現代日本においても祭礼などで人々を魅了し続けている民俗芸能や神楽など、地域社会や伝統的世界に密着した芸能の歴史も学ぶ。現代につながる伝統のエネルギーの一端を理解する事が出来るようになることを目標とする。 (オムニバス方式)全15回 (1 青山典靖)／5回) 田楽・神楽の世界、能の世界、人形浄瑠璃の世界、歌舞伎の世界、民俗舞踊の世界 (79 大嶋里衣子／3回)歌舞伎舞踊(日本舞踊)の世界および実践 (82 岡村久美子／3回)歌舞伎舞踊(日本舞踊)の世界および実践 (99 茂山千之丞／4回)狂言の世界および実践	オムニバス方式
専門科目群	100番台科目	世界演劇・舞踊史I	古代ギリシャにおける演劇の発生からキリスト教下の中世、近世までの西洋(欧米)演劇・舞踊に関する基礎知識を歴史に沿って解説し、時代ごとに代表的な作品を取り上げる。またアジアやアフリカなど、世界の様々な地域の演劇についてもその概要を学ぶ。リアリズムやアヴァンギャルドの潮流が生まれる以前の演劇の特徴と理論を明確に捉え、近代以降の「芸術」との相違点を探る。	
専門科目群	100番台科目	世界演劇・舞踊史II	19世紀以降のヨーロッパを中心とした舞台芸術の新しい潮流がどのように世界を席巻し、新しい芸術としてのパフォーマンスが生まれ、現在に至っているのかを歴史に沿って解説し、時代ごとに代表的な作品を取り上げる。またアジアやアフリカなど、世界の様々な地域が演劇理論家たちにどのような影響を与えてきたのかを理解する。リアリズムやアヴァンギャルドの特徴と理論を明確に捉え、現代の舞台芸術を形成している諸要素について理解を深める。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目群	100番台科目	Performing in English	英語で実施される。前半は現在取り組んでいる専門科目について、英語でどのように説明・解説できるかを中心に、自らの専門性をプレゼンテーションする思考力・考察力そして語学力を養う。後半は英語の台詞を覚えて発する短いシーンスタディを行い、体験的に学修する。世界言語である英語で自分をアピールするための基礎能力と思考力を身に付ける。	
専門科目群	200番台科目	演技・舞踊演習I	(概要) 身体表現を専門に学修する。表現者として身体を様々な音色を奏でる楽器として鍛錬することを学ぶ。その身体と精神の調律を通じて、演技者としての基本の肉体、また表現者としての思考力を身に付ける。学生は演技の様々なトレーニングについて、現代演劇の演技、日本舞踊、コンテンポラリーダンス、バレエなど各ジャンルに分かれて専門的に学修する。『上演実習A』と併せて履修し、成果発表の場とする。 〔担当教員のテーマ〕 (1 青山典靖)舞踊における基礎的な動きの実践・研究 (2 アーカリ, ジェイスン)ヨーロッパ俳優トレーニングの研究と作品創作 (69 粟田麗)ジャズダンスの実践研究 (74 浦弘毅)現代演劇の実践研究(俳優トレーニング) (79 大嶋里衣子)日本舞踊(歌舞伎舞踊)の実践研究 (86 叶雄大)現代演劇の実践研究(デバイジング) (92 楠原竜也)コンテンポラリーダンスの実践研究 (102 島田啓司)現代演劇の実践研究(台詞と身体) (105 杉崎泉)バレエの実践研究 (110 玉川さやか)コンテンポラリーダンスの実践研究 (124 堀内充)バレエの実践研究	
専門科目群	200番台科目	演技・舞踊演習II	(概要) 『演技・舞踊演習I』で修得した専門的な身体表現の基礎知識をもとに、より具体的な表現として学修する。表現者として身に付けた基本の肉体、思考力を生かし、演技の様々なトレーニングについて、現代演劇の演技、日本舞踊、コンテンポラリーダンス、バレエなど各ジャンルに分かれ、より専門的に学修する。『上演実習B』と併せて履修し、成果発表の場とする。 〔担当教員のテーマ〕 (1 青山典靖)舞踊における世話物、より演劇的な動きの実践・研究 (2 アーカリ, ジェイスン)ヨーロッパ俳優トレーニングの研究と作品創作 (69 粟田麗)ジャズダンスの実践研究 (74 浦弘毅)現代演劇の実践研究(俳優トレーニング) (79 大嶋里衣子)日本舞踊(歌舞伎舞踊)の実践研究 (86 叶雄大)現代演劇の実践研究(デバイジング) (92 楠原竜也)コンテンポラリーダンスの実践研究 (102 島田啓司)現代演劇の実践研究(台詞と身体) (105 杉崎泉)バレエの実践研究 (110 玉川さやか)コンテンポラリーダンスの実践研究 (124 堀内充)バレエの実践研究	
専門科目群	200番台科目	日本演劇・舞踊史I	近世までの日本古来の演劇と舞踊の動向を歴史に沿って解説し、時代ごとに代表的な作品を取り上げる。明治維新以前の日本の芸能の形式と独自性を明確に捉え、近代以降の「芸術」との相違点を探る。日本の伝統芸能・舞踊に関する基礎知識を学び、現代演劇および現代舞踊を語る素養を身に付けることを目標とする。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目群	200番台科目	日本演劇・舞踊史II	明治維新以降のヨーロッパの舞台芸術との交流あるいは日本の伝統芸能が新しい潮流とどのように対峙し、変化していったのかをたどる。新劇の歴史を軸に戦後の現代日本演劇の辿った軌跡を、歴史に沿って解説し、時代ごとに代表的な作品を取り上げる。またヨーロッパ・アメリカに限らず、世界の様々な地域の演劇との関係性についても取り上げ、20世紀以降の演劇理論家たちにどのような影響を与えてきたのかを理解する。現在の日本の舞台芸術を形成している諸要素について理解を深める。	
専門科目群	200番台科目	演劇理論	演劇研究の基本である戯曲読解を中心に演劇史における基本的な理論を学ぶ。戯曲を通し、劇作家が念頭におく劇場・演技・演出など様々な要素を考察し、それらの関係を成り立たせている理論を学ぶ。同時に、それらの古典戯曲がどのようなテクニックで書かれているのかという劇作上の理論についても取り上げる。その他、演劇史の中でとりわけ重要ないくつかの演劇理論(市民劇理論、総合芸術作品としての演劇という理論、そして今日まで影響力を持つブレヒトやアルトーらの演劇理論)を紹介しつつ、それらの理論で現在の演劇をどのように捉えることが可能かを考える。	
専門科目群	200番台科目	芸術と社会	代表的な上演芸術を社会学的見地から研究する。また、近年話題になった芸術作品を取り上げて、その芸術作品の創造における社会的・経済的背景を考察する。一方で劇場法を含めた国の文化政策について、成り立ちや歴史的変遷や国と地方自治体、あるいは世界の国々との比較から特徴を理解し、芸術の社会における役割を多面的な視点で考える。	
専門科目群	200番台科目	所作・擬闘	演技において必要となるアクションを通して、人間の行動原理や心理を理解し、思考と行動を視覚化するための動きを客観的に分析した上で表現する技術を身に付ける。殺陣の型を修得しつつ、物語性のあるアクションを生み出す基礎知識と動きを修得する。一方で日本の伝統的な行動様式に則った所作を修得し、和装での演技や身体表現に文化的虚偽のない行動を取り入れ、表現するスキルを学ぶ。演習だけでなく講義も取り入れ、所作と擬闘の実践発表を到達点とする。	講義6時間 演習24時間
専門科目群	200番台科目	シアターデザイン基礎演習I	舞台芸術を創造する上で基礎となる劇場空間、図面、色、空間構成等の基本を学び、質の高い舞台表現につなげていくことを目指すものである。技術的、美術的基礎を学ぶことにより、感性を磨き、創造活動の土台となる表現力を培うことができる。基本を学べば誰でも表現の幅を広げていけるという経験を通じ、デザインとは何かを実践的に学ぶ。	
専門科目群	200番台科目	シアターデザイン基礎演習II	舞台創造の現場で用いられているソフトウェアを用いてデザインするスキルを学び、舞台スタッフとして必要なコンピューター・リテラシーを高め、より高度な創造活動につなげることを目的とするものである。単にソフトウェアの操作を学ぶだけでなく、コンピューターを用いることによるデザイン的思考方法や劇場空間について考察する。	
専門科目群	200番台科目	メイクアップ	メイクアップとは何か、イメージとは何か、という理論を学び、自分の顔を様々なイメージに作り変える事が出来るメイクアップ技術を習得する。また、特殊メイクや作品に応じて要求されるメイクにも対応できるメイクアップの基礎理論を修得する。具体的には、標準のフェースプロポーションと、整肌、メイクアップ前の下地作り、ファンデーション、アイシャドウ、眉、リップ、チークなどの基本ならびに、舞台上で効果的なメイクアップを学び、それを自分の顔にメイクアップで表現出来るようにする。さらには加齢による顔の変化を学び、それを自分の顔にメイクアップで表現する事が出来るようにする。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目群	200番台科目	上演実習A	(概要) 上演にむけた創造過程を体系的且つ実践的に把握し、それらの企画運営を行いながら、表現者としては熟練度の高い表現力を、スタッフとしては的確な技術力を身に付けることを目指す。具体的には、劇場という『場』の機能を理解し、その有効な利用法を見出すことができ、プロダクション運営においてはチーム内、チーム間でコミュニケーションをはかり、プロダクションを円滑に運営することができるようになることを目指す。 『上演実習B』『上演実習C』『上演実習D』とは異なる演目を創作する。 〔担当教員のテーマ〕 (72 石橋舞　100 篠田薫)デザイナースタッフの上演に向けた創作と研究 (74 浦弘毅)演出部・舞台監督の現場運営と研究 (108 武田知也　120 藤井さゆり)企画制作者の上演に向けた運営と研究 (122 二見英幸)テクニカルスタッフの上演に向けた創作と研究	共同
専門科目群	200番台科目	上演実習B	(概要) 上演にむけた創造過程を体系的且つ実践的に把握し、それらの企画運営を行いながら、表現者としては熟練度の高い表現力を、スタッフとしては的確な技術力を身に付けることを目指す。具体的には、劇場という『場』の機能を理解し、その有効な利用法を見出すことができ、プロダクション運営においてはチーム内、チーム間でコミュニケーションをはかり、プロダクションを円滑に運営することができるようになることを目指す。 『上演実習A』『上演実習C』『上演実習D』とは異なる演目を創作する。 〔担当教員のテーマ〕 (72 石橋舞　100 篠田薫)デザイナースタッフの上演に向けた創作と研究 (86 叶雄大)演出部・舞台監督の現場運営と研究 (108 武田知也　120 藤井さゆり)企画制作者の上演に向けた運営と研究 (122 二見英幸)テクニカルスタッフの上演に向けた創作と研究	共同
専門科目群	200番台科目	舞台創造演習I	(概要) 舞台美術、舞台技術、舞台監督分野など、舞台創造に携わるものとして理解しておくべき基礎的な要素を学ぶことで将来各自が専門的に研究するジャンルについて考察を行う。舞台創造のプロセスを追いながら、総合芸術としての舞台を創り上げるクリエイティブ及びテクニカルスタッフに必要な思考方法を習得する。『上演実習A』と併せて履修することで習得した知識・技術を応用し実践することができる。 (オムニバス方式／全15回) (3 二村周作)舞台空間創造における基本概念について／1回 (72 石橋舞)舞台衣裳における基礎研究／1回 (74 浦弘毅)演出部・舞台監督における基礎研究／3回 (100 篠田薫)メイクにおける基礎研究／1回 (109 谷口綾)舞台美術における基礎研究／3回 (122 二見英幸)舞台技術における基礎研究／6回	オムニバス方式

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目群	200番台科目	舞台創造演習II	(概要) 『舞台創造演習I』での学びを更に深める。舞台美術、舞台技術、舞台監督分野など、舞台創造に携わるものとして理解しておくべき基礎的な要素を学ぶことで将来各自が専門的に研究するジャンルについて考察を行う。舞台創造のプロセスを追いながら、総合芸術としての舞台を創り上げるクリエイティブ及びテクニカルスタッフに必要な思考方法を習得する。『上演実習B』と併せて履修することでアイデアを具現化する方法を学ぶことができる。 〔担当教員のテーマ〕 (3 二村周作)舞台空間創造における基本概念について (72 石橋舞)舞台衣裳における基礎研究 (86 叶雄大)演出部・舞台監督における基礎研究 (100 篠田薫)メイクにおける基礎研究 (109 谷口綾)舞台美術における基礎研究 (122 二見英幸)舞台技術における基礎研究	
専門科目群	200番台科目	芸術創造演習I	(概要) 上演芸術の創造過程について、演出、劇作、公演業務の企画制作及び運営などそれぞれの職能に特化した基礎的な手法と概念を学修し、研究および実践を行う。 取り上げる作品の分析は共通して行い、各時代の戯曲の特徴や上演当時の社会的な状況を踏まえ、その戯曲や演出の果たした役割について考え、深い考察力を身に付ける。公演業務の企画制作及び運営に関しては講義と演習を行い、基礎知識を座学で学びつつ、集客性と芸術性の両立を目指した企画運営を学ぶ。『上演実習A』と併せて履修することで、講義や演習で学んだ概念や理念が具体的にどのように作品創作や上演の場で運用・応用されているのかを体験的に学ぶことができる。 〔担当教員のテーマ〕 (4 ヲザキ浩実　108 武田知也　120 藤井さゆり)企画・制作の基本理念 (5 多和田真太良)戯曲の解釈者としての演出家の仕事 (7 田中圭介　86 叶雄大)劇作家・演出家の作品作りと考え方	講義20時間 演習40時間
専門科目群	200番台科目	芸術創造演習II	(概要) 『芸術創造演習I』の学びを更に深める。上演芸術の創造過程について、演出、劇作、公演業務の企画制作及び運営などそれぞれの職能に特化して研究・実践する。 取り上げる作品の分析は共通して行い、各時代の戯曲の特徴や上演当時の社会的な状況を踏まえ、その戯曲や演出の果たした役割について考え、深い考察力を身に付ける。創作を通して主体的に劇作・演出の考え方を身に付けることを目的とする。公演業務の企画制作及び運営の学修に関しては講義と演習を行い、第一線で活躍するプレイヤーの講義を交えて目指すべき業種のイメージの獲得を踏まえ、集客性と芸術性の両立を目指した企画運営を学ぶ。『上演実習B』と併せて履修することで、講義や演習で学んだ概念や理念が具体的にどのように作品創作や上演の場で運用・応用されているのかを体験的に学ぶことができる。 〔担当教員のテーマ〕 (4 ヲザキ浩実　108 武田知也　120 藤井さゆり)企画・制作の基本理念 (5 多和田真太良)戯曲の解釈者としての演出家の仕事 (7 田中圭介　86 叶雄大)劇作家・演出家の作品作りと考え方	講義20時間 演習40時間

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目群	200番台科目	応用演劇演習I	経験する演劇教育としての応用演劇(Applied Drama)の理念と概説を学び、教育法としての演劇教育の効果を理解する。講義と演習の二つの授業形態を実施し、ファシリテーションの方法を体系的に学ぶ。基礎的な知識と方法を修得し、現代社会における演劇教育の重要性を認識することが出来るようになることを目標とする。	講義10時間 演習20時間
専門科目群	200番台科目	応用演劇演習II	『応用演劇演習I』で身に付けた応用演劇のファシリテーションの仕方を実践的に繰り返し、プログラムの構築、実施方法についての経験値を高める演習に特化した内容となる。コミュニケーションの大切さと同時に難しさ、特にコミュニティの構築が困難な状況を題材に、問題解決の手法として演劇教育の生かし方を考える。	講義10時間 演習20時間
専門科目群	200番台科目	芸術プロジェクトA	芸術作品の創作またはアートプロジェクトの実施において必要となる、周辺領域の実務と、その基盤となる知識や情報を実践的に修得する。時代に即応した芸術と社会の関係性を広げる可能性を考察しながら学修する。年度、セメスターごとに最も有用と判断されるプロジェクトを企画立案、または参加することで実施されるため、集中科目として開講する。この科目では2年次の学修としてチームワークの形成に注意を払いながら基礎的な表現創作およびスタッフワークの実践として取り組めることを目的とする。 『芸術プロジェクトB』『芸術プロジェクトC』『芸術プロジェクトD』『芸術プロジェクトE』『芸術プロジェクトF』とは異なる内容のプロジェクトとなる。	
専門科目群	200番台科目	芸術プロジェクトB	芸術作品の創作またはアートプロジェクトの実施において必要となる、周辺領域の実務と、その基盤となる知識や情報を実践的に修得する。時代に即応した芸術と社会の関係性を広げる可能性を考察しながら学修する。年度、セメスターごとに最も有用と判断されるプロジェクトを企画立案、または参加することで実施されるため、集中科目として開講する。この科目では2年次の学修としてチームワークの形成に注意を払いながら基礎的な表現創作およびスタッフワークの実践として取り組めることを条件とする。 『芸術プロジェクトA』『芸術プロジェクトC』『芸術プロジェクトD』『芸術プロジェクトE』『芸術プロジェクトF』とは異なる内容のプロジェクトとなる。	
専門科目群	300番台科目	演技・舞踊演習III	(概要) ゼミナール形式で、学生は自身の専攻する身体表現の専門分野に応じた教員に付き、『演技・舞踊演習II』で修得した身体表現の知識・技能をもとに、実習において必要となる知識・技能を修得することを目標とする。『上演実習C』と併せて履修することで、更に実践的な表現方法を学ぶことができる。 〔担当教員のテーマ〕 (1 青山典靖)日本舞踊(歌舞伎舞踊)の実践研究 (2 アーカリ, ジェイスン)戯曲に命を吹き込むための役作りへのアプローチや演技スキルを学ぶ (69 粟田麗)ジャズダンスの実践研究 (74 浦弘毅)現代演劇の実践研究(俳優トレーニング) (79 大嶋里衣子)日本舞踊(歌舞伎舞踊)の実践研究 (86 叶雄大)現代演劇の実践研究(デバイジング) (92 楠原竜也)コンテンポラリーダンスの実践研究 (102 島田啓司)現代演劇の実践研究(台詞と身体) (105 杉崎泉)バレエの実践研究 (110 玉川さやか)コンテンポラリーダンスの実践研究 (124 堀内充)バレエの実践研究	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目群	300番台科目	演技・舞踊演習IV	(概要) ゼミナール形式で、学生は自身の専攻する専門分野に応じた教員に付き、『演技・舞踊演習III』で修得した身体表現の知識・技能をもとに、実習において必要となる高度な知識・技能を修得することを目標とする。『上演実習D』と併せて履修することで、実践的かつ高度な表現方法を学ぶことができる。 〔担当教員のテーマ〕 (1 青山典靖)日本舞踊(歌舞伎舞踊)の実践研究 (2 アーカリ, ジェイスン)戯曲に命を吹き込むための役作りへのアプローチや演技スキルを学ぶ (69 粟田麗)ジャズダンスの実践研究 (74 浦弘毅)現代演劇の実践研究(俳優トレーニング) (79 大嶋里衣子)日本舞踊(歌舞伎舞踊)の実践研究 (86 叶雄大)現代演劇の実践研究(デバイジング) (92 楠原竜也)コンテンポラリーダンスの実践研究 (102 島田啓司)現代演劇の実践研究(台詞と身体) (105 杉崎泉)バレエの実践研究 (110 玉川さやか)コンテンポラリーダンスの実践研究 (124 堀内充)バレエの実践研究	
専門科目群	300番台科目	オーディション演習	(概要) オーディション(選考試験)を表現者にとっての「就職活動」と位置づけ、キャリア学修の一環として、必要とされる知識、思考力および技術を修得し、自己実現に向けたステップアップに結びつけることができる。自分という人間をいかに相手のニーズに応えて最大限に伝えることができるか。その読解力と理解力、および表現力を身に付ける。講義と合わせ、実際に必要なポートフォリオやサンプルなど効果的な資料作りを通し、キャリアについて考える。 (オムニバス方式／全15回) (2 アーカリ, ジェイスン／2回) イントロダクション、様々なオーディション形式、ポートフォリオ・ヴォイスサンプル・自己アピール(動画含む)の作成方法について (74 浦弘毅／3回) 様々なオーディションの形式について(身体能力) (92 楠原竜也／4回) 様々なオーディションの形式について(ダンス創作) (102 島田啓司／4回) 様々なオーディションの形式について(シーン創作) (74 浦弘毅　92 楠原竜也　102 島田啓司／2回)(共同) 模擬オーディションの実施とフィードバック	オムニバス方式 共同(一部) 講義6時間 演習24時間

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目群	300番台科目	上演実習C	(概要) 上演に向けた創造過程を体系的且つ実践的に把握し、それらの企画運営を行いながら、表現者としては熟練度の高い表現力を、スタッフとしては的確な技術力を身に付けることを目指す。具体的には、劇場という「場」の機能を理解し、その有効な利用法を見出すことができ、プロダクション運営においてはチーム内、チーム間でコミュニケーションをはかれることはもちろん、各自がリーダーシップを発揮し、プロダクションを円滑に運営することができるようになることを目指す。 『上演実習A』『上演実習B』『上演実習D』とは異なる演目を創作する。 〔担当教員のテーマ〕 (72 石橋舞　100 篠田薫)デザイナースタッフの上演に向けた創作と研究 (86 叶雄大)演出部・舞台監督の現場運営と研究 (108 武田知也　120 藤井さゆり)企画制作者の上演に向けた運営と研究 (122 二見英幸)テクニカルスタッフの上演に向けた創作と研究	共同
専門科目群	300番台科目	上演実習D	(概要) 上演に向けた創造過程を体系的且つ実践的に把握し、それらの企画運営を行いながら、表現者としては熟練度の高い表現力を、スタッフとしては的確な技術力を身に付けることを目指す。具体的には、劇場という「場」の機能を理解し、その有効な利用法を見出すことができ、プロダクション運営においてはチーム内、チーム間でコミュニケーションをはかれることはもちろん、各自がリーダーシップを発揮し、プロダクションを円滑に運営することができるようになることを目指す。 『上演実習A』『上演実習B』『上演実習C』とは異なる演目を創作する。 〔担当教員のテーマ〕 (72 石橋舞　100 篠田薫)デザイナースタッフの上演に向けた創作と研究 (74 浦弘毅)演出部・舞台監督の現場運営と研究 (108 武田知也　120 藤井さゆり)企画制作者の上演に向けた運営と研究 (122 二見英幸)テクニカルスタッフの上演に向けた創作と研究	共同
専門科目群	300番台科目	劇場接遇演習(ゲストリレーション)	(概要) 上演芸術において欠かせない観客・聴衆を「もてなす」立場から考える。前半では、劇場における観客・聴衆の思考や行動について考察し、後半で、チケットテイク、アナウンス等、接遇における基礎を演習で学ぶことで、最終的に、個々の「観客論」をまとめることを目指す。 (オムニバス方式／全15回) (4 ヲザキ浩実／7回) 「劇場(必ずしも建築物のことではない)」における観客・聴衆の思考や行動について劇場運営、芸術祭などのプロデューサーの視点から考察する。 (5 多和田真太良／8回) チケットテイク、アナウンス、オペレーション、案内などの劇場における接遇の基礎的な概念と方法を学ぶ。『上演実習』、および『上演基礎実習』において実際の「もてなし」(ゲストリレーション)を体験したことを基に、観客のニーズや動線からパフォーマンスを支える役割を理解する。	オムニバス方式

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目群	300番台科目	舞台創造演習III	(概要) 舞台美術・舞台照明・音響効果・劇場技術分野についてさらに探究し、舞台芸術に於けるクリエイティブワークについての考察を深めることを目標とする。 ゼミナール形式で、学生は自身の専攻する専門分野に応じた教員に付き、実習において必要となる知識・技能を修得することを目標とする。『上演実習C』と併せて履修し、成果発表の場とする。 〔担当教員のテーマ〕 (3 二村周作)舞台美術・大道具制作についての研究と考察 (72 石橋舞)舞台衣裳における創作技術研究 (86 叶雄大)演出部・舞台監督に関する創作研究 (100 篠田薫)メイクにおける創作技術研究 (122 二見英幸)舞台技術における創作技術研究	
専門科目群	300番台科目	舞台創造演習IV	(概要) 『舞台創造演習III』での学びを更に深める。この授業は舞台美術・舞台照明・音響効果・劇場技術分野についてさらに探究し、舞台芸術に於けるクリエイティブワークについての考察を深めることを目標とする。 ゼミナール形式で、学生は自身の専攻する専門分野に応じた教員に付き、実習において必要となる知識・技能を修得することを目標とする。『上演実習D』と併せて履修し、成果発表の場とする。舞台業界の現場と連携を模索し、より実践的なテクニックを研究する。 〔担当教員のテーマ〕 (3 二村周作)シアターデザインの実践:空間構成、素材と色彩 (72 石橋舞)舞台衣裳における創作技術研究 (74 浦弘毅)演出部・舞台監督における技術研究 (100 篠田薫)メイクにおける創作技術研究 (122 二見英幸)舞台技術における創作技術研究	
専門科目群	300番台科目	芸術プロジェクトC	芸術作品の創作またはアートプロジェクトの実施において必要となる、周辺領域の実務と、その基盤となる知識や情報を実践的に修得する。時代に即応した芸術と社会の関係性を広げる可能性を考察しながら学修する。年度、セメスターごとに最も有用と判断されるプロジェクトを企画立案、または参加することで実施されるため、集中科目として開講する。この科目では3年次の学修として各自がメインスタッフの自覚をもって取り組むことを目的とする。 『芸術プロジェクトA』『芸術プロジェクトB』『芸術プロジェクトD』『芸術プロジェクトE』『芸術プロジェクトF』とは異なる内容のプロジェクトとなる。	
専門科目群	300番台科目	芸術プロジェクトD	芸術作品の創作またはアートプロジェクトの実施において必要となる、周辺領域の実務と、その基盤となる知識や情報を実践的に修得する。時代に即応した芸術と社会の関係性を広げる可能性を考察しながら学修する。年度、セメスターごとに最も有用と判断されるプロジェクトを企画立案、または参加することで実施されるため、集中科目として開講する。この科目では3年次の学修として、各自が、プロジェクトのリーダー、プランナー、デザイナーとして取り組むことを目的とする。 『芸術プロジェクトA』『芸術プロジェクトB』『芸術プロジェクトC』『芸術プロジェクトE』『芸術プロジェクトF』とは異なる内容のプロジェクトとなる。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目群	300番台科目	アナウンス・ナレーション研究	話す・聞く・読むといったアナウンスメントに対する様々なアプローチから、聞き手に伝わる音声表現とは何かを学ぶことを目的とする。 「話す」・・・ことばによって自分の意志や物事を伝える場合、どうすれば内容を過不足なく相手にきちんと伝えられるのか。本講座ではスピーチを通じて自分の意志を伝えることができるようになる。 「聞く」・・・豊かなコミュニケーションの第一歩は「聞く」ことである。本講座では他者のスピーチを聞き、不明な点、疑問の点を解消しながら、話の本質を引き出すインタビューができるようにする。 「読む」・・・お知らせ、説明、ニュース、教科書、物語など特徴的な文章を音声化する。「読む」ことにおいての様々なテクニックを含め、「表現すること」ができるようになる。また、ナレーションを体験し対象との距離の取り方など実践的な手法を知ることができる。	
専門科目群	300番台科目	劇空間デザイン研究	(概要) 劇的空間は劇場の舞台だけの上で起きるとは限らない。この授業では、現代の上演芸術の本質を探り、美術、衣裳、映像表現などジャンルの垣根を超えて上演芸術の可能性を広げる研究を行う。エンターテイメント空間における表現にもスポットライトを当て、様々な具体表現の活用を研究する。上演実習や卒業創作、芸術プロジェクトなどと合わせて履修することで、自らの表現の幅を広げ、トータルデザイン力を高める。 (オムニバス方式／全15回) (3 二村周作／1回)劇空間をデザインするとは(概論) (71 池宮城直美)／7回)エンターテイメント空間における表現の考察 (109 谷口綾)／7回)映像デザイン研究	オムニバス方式
専門科目群	300番台科目	舞台芸術研究I	(概要) 各種舞台芸術作品の中から、現代舞台芸術の動向を知る上において必要とされる、アーティスト達のドキュメンタリーや作品を概観する。次に、彼らの影響や時代背景・社会環境(メディア・アートの開花など)の変化によって生まれ、現代芸術をリードするパフォーミング・アーツの数々を紹介しながら、作品創作のコンセプトから手法にいたるまでを分析・考察する。 〔担当教員のテーマ〕 (1 青山典靖)舞踊作品の研究 (2 アーカリ, ジェイスン)演劇作品の研究 (3 二村周作)国際環境における舞台美術の潮流 (4 ヲザキ浩実)芸術祭・プロジェクトのマネジメント (5 多和田真太良)演出・演技研究における劇場利用の可能性 (6 新沼智之)演劇作品研究 (7 田中圭介)演出・演技研究	
専門科目群	300番台科目	舞台芸術研究II	(概要) 各種舞台芸術作品の中から、1990年代以後の現代芸術作品をピックアップしながら現代におけるパフォーミング・アーツの動向を探る。現代舞台芸術の動向を知る上において必要とされるアーティスト達のドキュメンタリーや作品を概観する。次に、彼らの影響や時代背景・社会環境(メディア・アートの開花など)の変化によって生まれ、現代芸術をリードするパフォーミング・アーツの数々を紹介しながら、作品創作のコンセプトから手法にいたるまでを分析・考察する。 〔担当教員のテーマ〕 (1 青山典靖)舞踊作品の研究 (2 アーカリ, ジェイスン)演劇作品の研究 (3 二村周作)国際環境における舞台美術の潮流 (4 ヲザキ浩実)芸術祭・プロジェクトのマネジメント (5 多和田真太良)演出・演技研究における劇場利用の可能性 (6 新沼智之)演劇作品研究 (7 田中圭介)演出・演技研究	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目群	300番台科目	芸術創造演習III	(概要) 『芸術創造演習I』『芸術創造演習II』で修得した上演芸術の創造過程についての基本的な手順および概念を用いて、演出、劇作、公演業務の企画制作及び運営など自らの創作に向けてそれぞれの職能に特化した研究・実践を行う。 演出や劇作などの創作を、自らの責任において、さまざまなデザイナーやアーティストを起用することを通して、主体的に劇作・演出の考え方を身に付けることを目的とする。一方で公演業務の企画制作及び運営に関しては、集客性と芸術性の両立を目指した企画運営、芸術の社会貢献についても実地研修を取り入れながら学ぶ。『上演実習C』と併せて履修し、成果発表の場とする。 〔担当教員のテーマ〕 (4 ヲザキ浩実)公演およびプロジェクトの企画・制作 (5 多和田真太良)作品演出の監修指導 (7 田中圭介)作品演出の監修指導 (86 叶雄大)演出部・舞台監督についての指導 (108 武田知也・120 藤井さゆり)プロダクション・マネジメント	
専門科目群	300番台科目	芸術創造演習IV	(概要) 『芸術創造演習I』『芸術創造演習II』『芸術創造演習III』で修得した上演芸術の創造過程についての手順及び概念を用いて、演出、劇作、公演業務の企画制作及び運営などそれぞれの職能に特化した研究・実践を行う。取り上げる作品の分析は共通して行い、各時代の戯曲の特徴や上演当時の社会的な状況を踏まえ、その戯曲や演出の果たした役割について考え、深い考察力を身に付ける。創作を通して主体的に劇作・演出の考え方を身に付けることを目的とする。公演業務の企画制作及び運営の学修については、企画書・予算書・申請書作成をはじめオフィスワークなど就業後に必要なスキルを実践的に学びつつ、集客性と芸術性の両立を目指した企画運営を学ぶ。『上演実習D』と併せて履修し、成果発表の場とする。 〔担当教員のテーマ〕 (4 ヲザキ浩実)公演およびプロジェクトの企画・制作 (5 多和田真太良)作品演出の監修指導 (7 田中圭介)作品演出の監修指導 (86 叶雄大)集団創作による演出家の役割について (108 武田知也・120 藤井さゆり)プロダクション・マネジメント	
専門科目群	300番台科目	応用演劇演習III	『応用演劇演習I』および『応用演劇演習II』で修得した基礎的な知識と手法を生かし、実際の社会におけるコミュニティー形成に課題の起こりうる施設や事業所(大学、病院、高齢者施設、工場、会社など)に出向き、またワークショップの役割や効果、社会的な意義を学び、演劇教育者、指導者としての理念、実際に指導するスキルを実践的に学び、ワークショップファシリテーターやコーディネーターとしての思考力を身に付ける。『卒業創作・研究A』『卒業創作・研究B』と関連付け、実践をフィールドワークとして卒業に向けた研究課題を見つける。	
専門科目群	300番台科目	応用演劇演習IV	『応用演劇演習I』および『応用演劇演習II』『応用演劇演習III』で修得した基礎的な知識と手法を生かし、実際の社会におけるコミュニティー形成に課題の起こりうる施設や事業所(大学、病院、高齢者施設、工場、会社など)に出向き、実施できるワークショップ形式の応用演劇をプランニングする。『応用演劇演習IV』では、『応用演劇演習III』で企画、あるいは実施したワークショップの効果を多角的に検証し、継続性のあるプログラムに磨き上げていくためのフィードバックと実践をより重点的に行う『卒業創作・研究A』『卒業創作・研究B』と関連付け、実践をフィールドワークとして卒業に向けた最終課題として取り組む準備を行う。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目群	400番台科目	芸術プロジェクトE	芸術作品の創作またはアートプロジェクトの実施において必要となる、周辺領域の実務と、その基盤となる知識や情報を実践的に修得する。時代に即応した芸術と社会の関係性を広げる可能性を考察しながら学修する。年度、セメスターごとに最も有用と判断されるプロジェクトを企画立案、または参加することで実施されるため、集中科目として開講する。この科目では4年次の学修としてプロジェクトのリーダー、プランナー、デザイナーとして取り組むことを条件とする。 『芸術プロジェクトA』『芸術プロジェクトB』『芸術プロジェクトC』『芸術プロジェクトD』『芸術プロジェクトF』とは異なる内容のプロジェクトとなる。	
専門科目群	400番台科目	芸術プロジェクトF	芸術作品の創作またはアートプロジェクトの実施において必要となる、周辺領域の実務と、その基盤となる知識や情報を実践的に修得する。時代に即応した芸術と社会の関係性を広げる可能性を考察しながら学修する。年度、セメスターごとに最も有用と判断されるプロジェクトを企画立案、または参加することで実施されるため、集中科目として開講する。この科目では、4年次の学修としてプロジェクトのリーダー、プランナー、デザイナーとして取り組むことを目的とする。 『芸術プロジェクトA』『芸術プロジェクトB』『芸術プロジェクトC』『芸術プロジェクトD』『芸術プロジェクトE』とは異なる内容のプロジェクトとなる。	
専門科目群	400番台科目	卒業創作・研究A	(概要) 各学生の専攻分野に合わせた卒業創作および研究(劇作・上演・出演・演出・調査研究・論文・作品制作など)を実践的に行う。これまでの専門科目で得た知識と『舞台芸術研究III』で行う調査・研究の成果を実践的にまとめ、さまざまな形態の成果発表を行う。 〔担当教員のテーマ〕 (1 青山典靖)舞踊作品の創作・上演活動 (2 アーカリ, ジェイスン)演劇作品の創作・上演活動 (3 二村周作)舞台美術:劇的空間構成と新素材の研究 (4 ヲザキ浩実)公演・プロジェクトの企画立案 (5 多和田真太良)卒業創作・上演活動 (6 新沼智之)卒業論文・研究 (7 田中圭介)教育普及・アウトリーチ活動を含めた演劇応用活動	共同
専門科目群	400番台科目	卒業創作・研究B	(概要) 各学生の専攻分野に合わせた卒業創作および研究(劇作・上演・出演・演出・調査研究・論文・作品制作など)を実践的に行う。これまでの専門科目で得た知識と『舞台芸術研究IV』で行う調査・研究の成果を実践的にまとめ、さまざまな形態の成果発表を行う。 〔担当教員のテーマ〕 (1 青山典靖)舞踊作品の創作・上演活動 (2 アーカリ, ジェイスン)演劇作品の創作・上演活動 (3 二村周作)舞台美術:劇的空間構成と新素材の研究 (4 ヲザキ浩実)公演・プロジェクトの企画立案 (5 多和田真太良)卒業創作・上演活動 (6 新沼智之)卒業論文・研究 (7 田中圭介)教育普及・アウトリーチ活動を含めた演劇応用活動	共同

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目群	400番台科目	舞台芸術研究III	(概要) 3年次までの研究テーマをさらに探究し、幅広い上演芸術のジャンルの中から学生自ら選択した専門性の高い項目についての考察を深めることができる。 『卒業創作・研究A』と併せて履修する。『舞台芸術研究IV』および『卒業創作・研究B』で最終的な創作・研究発表として結実するための準備と調査・研究を行う。 〔担当教員のテーマ〕 (1 青山典靖)舞踊作品の卒業創作・上演活動のための研究 (2 アーカリ, ジェイスン)演劇作品の創作・上演活動のための研究 (3 二村周作)舞台美術：劇的空間構成と新素材の研究 (4 ヲザキ浩実)公演・プロジェクトの企画立案 (5 多和田真太良)卒業創作・上演活動のための準備 (6 新沼智之)卒業論文・研究 (7 田中圭介)教育普及・アウトリーチ活動を含めた演劇応用活動のための研究	
専門科目群	400番台科目	舞台芸術研究IV	(概要) 7セメスターまでの研究テーマをさらに探究し、幅広い上演芸術のジャンルの中から学生自ら選択した専門性の高い項目についての考察を深めることができる。『卒業創作・研究B』と併せて履修し、最終的な成果発表の場とするための調査・研究を行う。 〔担当教員のテーマ〕 (1 青山典靖)舞踊作品の卒業創作発表のための調査・研究 (2 アーカリ, ジェイスン)演劇作品の卒業創作発表のための調査・研究 (3 二村周作)舞台美術：劇的空間構成と新素材の調査・研究 (4 ヲザキ浩実)公演・プロジェクトの運営と成果発表のための調査・研究 (5 多和田真太良)卒業創作・上演活動のための調査・研究 (6 新沼智之)卒業論文・研究発表のための調査・研究 (7 田中圭介)教育普及・アウトリーチ活動を含めた演劇応用活動のための調査	

学校法人玉川学園　設置認可等に関わる組織の移行表

令和2年度	入学定員	編入学定員	収容定員	令和3年度	入学定員	編入学定員	収容定員	変更の事由
玉川大学				玉川大学				
文学部				文学部				
国語教育学科	60	-	240	国語教育学科	60	-	240	
英語教育学科	80	-	320	英語教育学科	80	-	320	
農学部				農学部				
生産農学科	165	-	660	生産農学科	155	-	620	定員変更（△10）
環境農学科	70	-	280	環境農学科	70	-	280	
先端食農学科	70	-	280	先端食農学科	70	-	280	
工学部				工学部				
情報通信工学科	60	-	240	情報通信工学科	60	-	240	
ｿﾌﾄｳｪｱｻｲｴﾝｽ学科	60	-	240	ｿﾌﾄｳｪｱｻｲｴﾝｽ学科	60	-	240	
ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄｻｲｴﾝｽ学科	60	-	240	ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄｻｲｴﾝｽ学科	60	-	240	
ｴﾝｼﾞﾆｱﾘﾝｸﾞﾃﾞｻﾞｲﾝ学科	60	-	240	ｴﾝｼﾞﾆｱﾘﾝｸﾞﾃﾞｻﾞｲﾝ学科	60	-	240	
経営学部				経営学部				
国際経営学科	130	-	520	国際経営学科	130	-	520	
教育学部				教育学部				
教育学科	240	-	960	教育学科	220	-	880	定員変更（△20）
乳幼児発達学科	75	-	300	乳幼児発達学科	75	-	300	
芸術学部				芸術学部				
ﾊﾟﾌｫｰﾐﾝｸﾞ・ｱｰﾂ学科	130	-	520		0	-	0	令和3年4月学生募集停止
ﾒﾃﾞｨｱ・ﾃﾞｻﾞｲﾝ学科	90	-	360		0	-	0	令和3年4月学生募集停止
芸術教育学科	50	-	200		0	-	0	令和3年4月学生募集停止
				音楽学科	80	-	320	学科の設置（届出）
				ｱｰﾄ・ﾃﾞｻﾞｲﾝ学科	100	-	400	学科の設置（届出）
				演劇・舞踊学科	90	-	360	学科の設置（届出）
ﾘﾍﾞﾗﾙｱｰﾂ学部				ﾘﾍﾞﾗﾙｱｰﾂ学部				
ﾘﾍﾞﾗﾙｱｰﾂ学科	160	-	640	ﾘﾍﾞﾗﾙｱｰﾂ学科	160	-	640	
観光学部				観光学部				
観光学科	90	-	360	観光学科	120	-	480	定員変更（30）
教育学部				教育学部				
教育学科（通信教育課程）	1,500	-	6,000	教育学科（通信教育課程）	1,500	-	6,000	
芸術専攻科				芸術専攻科				
芸術専攻	10	-	10	芸術専攻	10	-	10	
計	3,160	-	12,610	計	3,160	-	12,610	

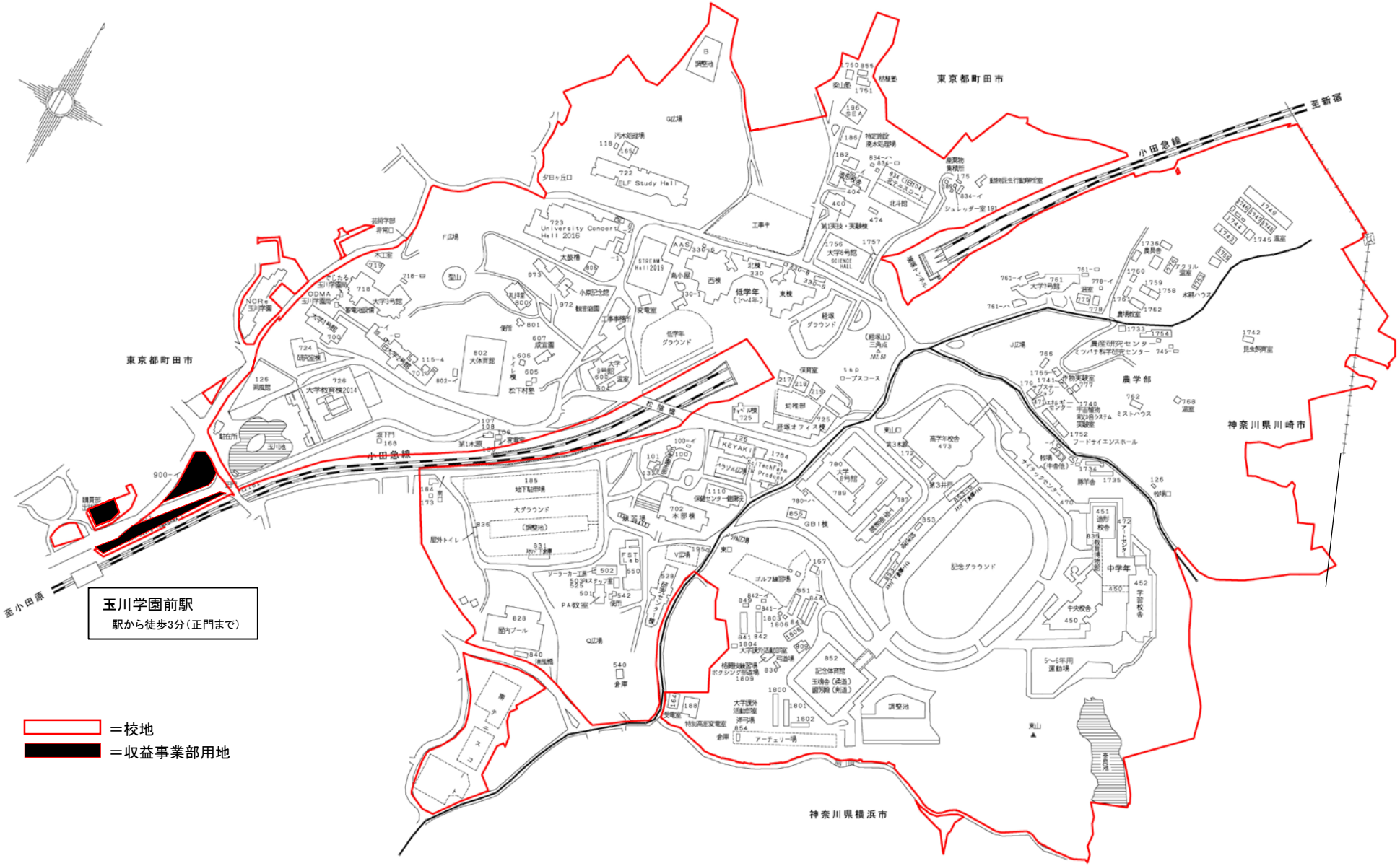
学校法人玉川学園　設置認可等に関わる組織の移行表

令和2年度	入学定員	編入学定員	収容定員
玉川大学大学院			
文学研究科			
人間学専攻（M）	5	-	10
英語教育専攻（M）	7	-	14
農学研究科			
資源生物学専攻(M)	12	-	24
資源生物学専攻(D)	4	-	12
工学研究科			
機械工学専攻(M)	16	-	32
電子情報工学専攻(M)	16	-	32
システム科学専攻(D)	3	-	9
マネジメント研究科			
マネジメント専攻(M)	7	-	14
教育学研究科			
教育学専攻(M)	10	-	20
教職専攻(P)	20	-	40
脳科学研究科			
心の科学専攻(M)	5	-	10
脳科学専攻(D)	3	-	9
計	108	-	226
玉川学園高等部	265	-	795
玉川学園中学部	235	-	705
玉川学園小学部	140	-	840
玉川学園幼稚部　教育年限2年	10	-	140
玉川学園幼稚部　教育年限3年	40	-	

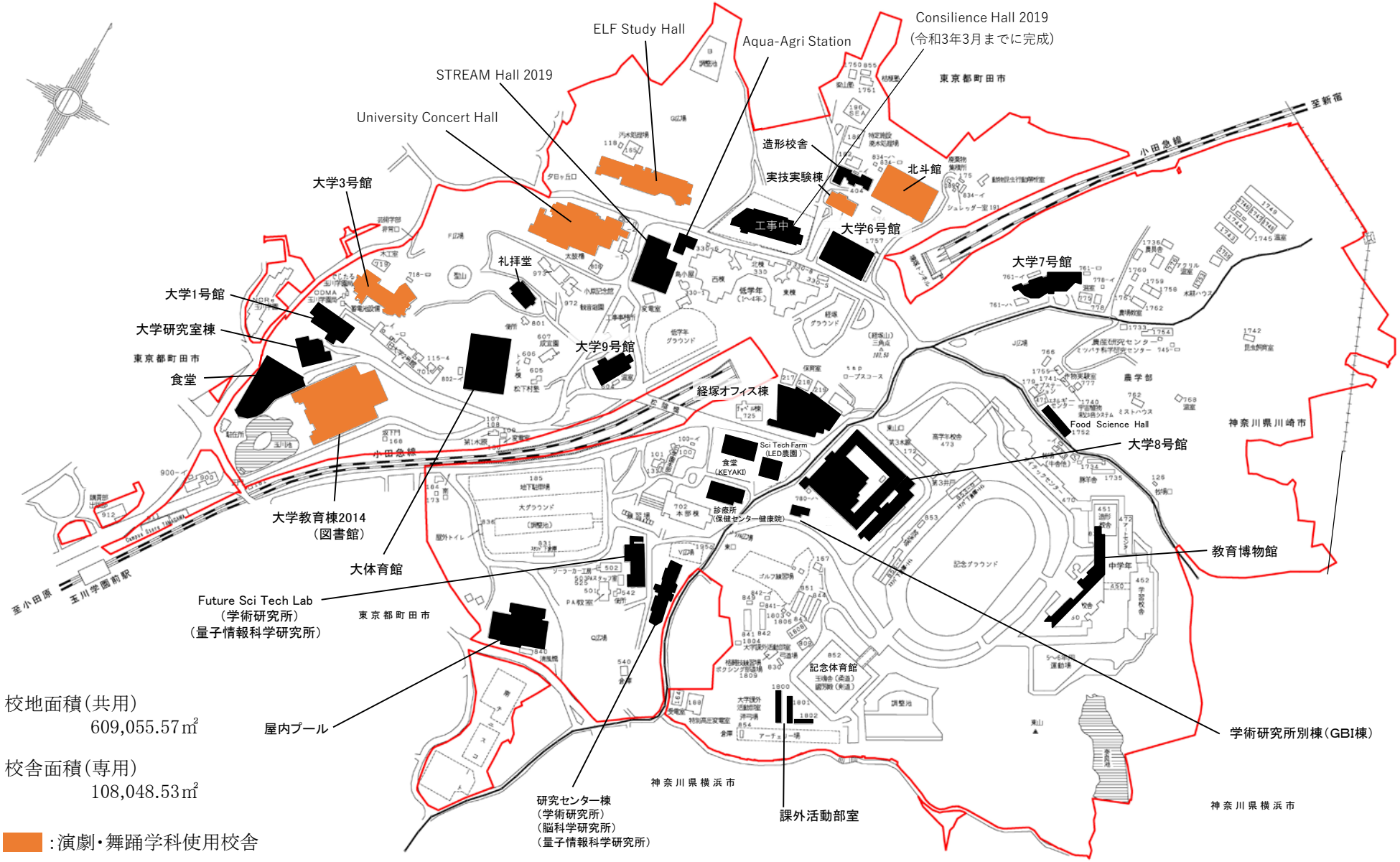
令和3年度	入学定員	編入学定員	収容定員	変更の事由
玉川大学大学院				
文学研究科				
人間学専攻（M）	5	-	10	
英語教育専攻（M）	7	-	14	
農学研究科				
資源生物学専攻(M)	12	-	24	
資源生物学専攻(D)	4	-	12	
工学研究科				
機械工学専攻(M)	16	-	32	
電子情報工学専攻(M)	16	-	32	
システム科学専攻(D)	3	-	9	
マネジメント研究科				
マネジメント専攻(M)	7	-	14	
教育学研究科				
教育学専攻(M)	10	-	20	
教職専攻(P)	20	-	40	
脳科学研究科				
心の科学専攻(M)	5	-	10	
脳科学専攻(D)	3	-	9	
計	108	-	226	
玉川学園高等部	265	-	795	
玉川学園中学部	235	-	705	
玉川学園小学部	140	-	840	
玉川学園幼稚部　教育年限2年	10	-	140	
玉川学園幼稚部　教育年限3年	40	-		

都道府県内における学校法人玉川学園の位置

学校法人玉川学園の近隣の環境



玉川大学の校舎・運動場配置図



校地面積(共用)
609,055.57㎡

校舎面積(専用)
108,048.53㎡

:演劇・舞踊学科使用校舎

第１章　目的及び使命

（目的及び使命）

第１条　本大学は、教育基本法及び学校教育法の規定に基づき、更にキリストの教えに従い、玉川学園建学の理想にかんがみ、「全人教育」をもって教育精神とし、広い教養と深い専門の学術の理論及び応用を教授する。宗教、芸術教育を重んじ魂を醇化し、浄らかな情操を養成し、厳粛な道義心を涵養することをもって人格を陶冶し、併せて人類の幸福と世界の文化の進展に寄与するものとする。

２　本大学の各学部についての人材養成等教育研究に係る目的は、別表第１に定める。

（自己点検及び評価）

第２条　本大学は、その教育研究水準の維持向上を図り、前条の目的及び使命を達成するため、本大学における教育研究活動等の状況について自ら点検及び評価を行い、その結果を公表するものとする。

２　前項の自己点検及び評価に関する細目は別にこれを定める。

３　本大学の授業及び研究指導の内容・方法の改善を図るため、組織的な研修・研究を実施する目的で、玉川大学ＦＤ委員会規程を別に定める。

第２章　学部・学科

（学部）

第３条　本大学に文学部、農学部、工学部、経営学部、教育学部、芸術学部、リベラルアーツ学部、観光学部を置く。

（学科等）

第４条　文学部に国語教育学科及び英語教育学科、農学部に生産農学科、環境農学科及び先端食農学科、工学部に情報通信工学科、ソフトウェアサイエンス学科、マネジメントサイエンス学科及びエンジニアリングデザイン学科、経営学部に国際経営学科、教育学部に教育学科及び乳幼児発達学科、芸術学部に音楽学科、アート・デザイン学科及び演劇・舞踊学科、リベラルアーツ学部にリベラルアーツ学科、観光学部に観光学科を置く。

２　教育学部教育学科に通信教育課程を置く。

３　通信教育課程に関しては、別に定める玉川大学教育学部教育学科通信教育課程規程による。

第３章　大学院

（大学院）

第５条　本大学に大学院を置く。

２　大学院に関しては、別に定める玉川大学大学院学則による。

第４章　学年、学期及び休業日

（学年及び学期）

第６条　学年は、毎年４月１日に始まり、翌年３月31日に終わる。

２　学期は学年を２期に分け、それぞれの学期を１セメスターとする。期間については、教授会及び玉川大学部長会（以下「大学部長会」という。）の議を経て学長がこれを定める。

３　教育上の必要があるときは、夏季休業、冬季休業及び春季休業の期間に特別学期を設けることができる。

（休業日）

第７条　本大学の休業日は、次のとおりとする。

（１）　国民の祝日に関する法律に規定する休日

（２）　日曜日

（３）　夏季休業日

（４）　冬季休業日

（５）　春季休業日

２　前項第３号から第５号の休業日の期間は、別に定める。

３　第１項各号に規定する以外の休業日については、教授会及び大学部長会の議を経て学長がこれを定める。

第５章　学部学科別定員

（定員）

第８条　本大学の定員は、次のとおりとする。

学部・学科	入学定員	編入学定員（３年次）	収容定員
文学部	140人		560人
国語教育学科	60人		240人
英語教育学科	80人		320人
農学部	295人		1,180人
生産農学科	155人		620人
環境農学科	70人		280人
先端食農学科	70人		280人
工学部	240人		960人
情報通信工学科	60人		240人
ソフトウェアサイエンス学科	60人		240人
マネジメントサイエンス学科	60人		240人
エンジニアリングデザイン学科	60人		240人
経営学部	130人		520人
国際経営学科	130人		520人
教育学部	295人		1,180人
教育学科	220人		880人
乳幼児発達学科	75人		300人
芸術学部	270人		1,080人
音楽学科	80人		320人
アート・デザイン学科	100人		400人
演劇・舞踊学科	90人		360人
リベラルアーツ学部	160人		640人
リベラルアーツ学科	160人		640人
観光学部	120人		480人
観光学科	120人		480人
小計	1,650人		6,600人
教育学部 教育学科通信教育課程	1,500人		6,000人
合計	3,150人		12,600人

第６章　修業年限及び教育課程

（修業年限）

第９条　本大学の修業年限は、４年とする。なお、在学年数は、８年を超えることはできない。

２　編入学生の修業年限は、３年次編入にあっては２年、２年次編入にあっては３年とし、在学年数はそれぞれ４年、６年を超えることはできない。

（授業科目）

第10条　授業科目は、ユニバーシティ・スタンダード科目（玉川教育・ＦＹＥ科目群、人文科学科目群、社会科学科目群、自然科学科目群、学際科目群、言語表現科目群、教職関連科目群、資格関連科目群）、学部学科関連科目に区分し、必修科目及び選択科目に分ける。授業科目名及び単位数は、別表第２―①のとおりとする。

（授業科目及び単位数）

第11条　各学部の修業年限の間に履修しなければならない授業科目及び単位数については、次のとおりとする。なお、細部については学生要覧による。

（１）　ユニバーシティ・スタンダード科目（玉川教育・ＦＹＥ科目群）より７単位

（２） ユニバーシティ・スタンダード科目（人文科学科目群、社会科学科目群、自然科学科目群、学際科目群、言語表現科目群、教職関連科目群、資格関連科目群）については、各学部学科の履修規定による。
（３） 学部学科関連科目については、各学部学科の履修規定による。
２ 教育上特に必要と認めたときは､本大学大学院及び専攻科の授業科目を履修させることができる。
３ 教育職員免許状の授与を受けようとする学生は、教育職員免許法に基づき、同法第４条に定める免許状の種類に応じて、教育職員免許法施行規則に規定するそれぞれの科目及び単位数を修得しなければならない。
４ 本大学で修得できる教育職員免許状の種類及び教科は、別表第３―①のとおりとする。
５ 児童福祉法による保育士の資格を得ようとする学生は児童福祉法施行規則に規定する教科目及び単位数を修得しなければならない。
６ 学校図書館法に基づく司書教諭、図書館法に基づく司書、社会教育法に基づく社会教育主事又は博物館法に基づく学芸員の資格を得ようとする者はそれぞれの法令に規定する科目及び単位数を修得しなければならない。
７ 食品衛生法に基づく食品衛生管理者、同法施行令に基づく食品衛生監視員の資格を得ようとする者はそれぞれの法令に規定する科目及び単位数を修得しなければならない。
８ 工事担任者の資格（国家試験受験科目一部免除）を得ようとする者は、工事担任者規則に規定する科目及び単位数を修得しなければならない。
（授業の方法等）
第12条 授業は講義、演習、実験、実習若しくは実技のいずれかにより又はこれらの併用により行うものとする。
２ 前項の授業は、文部科学大臣の定めるところにより、多様なメディアを高度に利用して当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる。
３ 第１項の授業は、外国において履修させることができる。前項の規定により、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させる場合についても、同様とする。
（学修時間及び単位）
第13条 各授業科目の単位数は、各学部教授会において定めるものとする。
２ 各授業科目の単位数を定めるに当たっては、１単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準により単位数を計算するものとする。
（１） 講義については、15時間の授業をもって１単位とする。
（２） 演習については、15時間又は30時間の授業をもって１単位とする。
（３） 実験、実習及び実技については、30時間又は45時間の授業をもって１単位とする。
３ 前項の規定にかかわらず、卒業研究等の授業科目については、学修の成果を評価して単位を授与することが適切と認められる場合には、これらに必要な学修等を考慮して、単位数を定めることができる。
（警告制度）
第14条 学生の学修の質の維持及び向上を図るために、警告制度を定める。
２ 前項の細部については学生要覧による。
（進級条件及び進度チェック）
第15条 教育上必要と認めた場合は、各学部学科において進級条件及び進度チェックを定めることができる。
２ 前項については学生要覧による。

第７章 単位の授与、卒業の要件及び学士

（単位の認定）
第16条 授業科目の単位の認定は、試験による。
２ 試験の種類は次のとおりとし、その種類に応じて行う。
（１） 平常試験は、必要に応じ適宜行う。
（２） 定期試験は、学期末の定期試験期間内に行う。
（３） 追試験は、やむを得ない理由により定期試験を受けることのできなかった者のためにのみ追

試験期間内に行う。
（４）　単位認定試験は成績評価保留（インコンプリート）の者のためにのみ所定の期間内に行う。
３　試験の方法は、筆記、口述、レポート又は実技によるものとする。
４　試験の成績の評点は、Ｓ（100～90点）、Ａ（89～80点）、Ｂ（79～70点）、Ｃ（69～60点）、Ｆ（59～０点）の５種とし、Ｓ、Ａ、Ｂ、Ｃを合格、Ｆを不合格とする。また、授業科目によってはＰ（60点以上）を合格、Ｆ（59点以下）を不合格とすることができる。
５　定期試験及び単位認定試験は、別に定める本大学試験規程によって実施する。
（単位の授与）
第17条　前条の試験に合格した学生には、第13条所定の授業科目の単位を与える。
（他大学における授業科目の履修及び修得単位の認定）
第18条　本大学が教育上有益と認めるときは、他の大学又は短期大学とあらかじめ協議の上、当該大学又は短期大学の授業科目を履修させることができる。
２　前項により履修した授業科目の単位は、60単位を超えない範囲で本大学において履修修得した単位として認定することができる。
（短期大学等における修得単位の認定）
第19条　本大学が教育上有益であると認めるときは、学生が行う短期大学又は高等専門学校の専攻科における学修その他文部科学大臣が別に定める学修について、本大学における授業科目の履修とみなし、単位を与えることができる。
２　前項により与えることの出来る単位数は、前条第２項により本大学において修得したものとみなす単位数と合わせて60単位を超えないものとする。
（既修得単位の認定）
第20条　学生が本大学入学前に大学又は短期大学において修得した単位（既修得単位）について本大学が教育上有益と認めるときは、本大学において履修修得した単位として認定することができる。ただし、この認定に関連して修業年限の短縮は行わない。
２　前項による単位の認定は、第18条、第29条第４項による単位認定と合わせて60単位を超えない範囲で行うものとする。
３　前２項に定める単位の認定に関し必要な事項は、別に定める。
（卒業の要件及び学士）
第21条　卒業の要件は、４年以上在学し、第11条第１項各号に定める単位を含め、124単位以上を累積ＧＰＡ2.00以上の成績で修得することとする。
２　第１項に定める以外の卒業の要件については、学生要覧による。
３　卒業の決定は、第１項及び前項の要件を満たした学生に対し、教授会の議を経て学長がこれを行う。
４　前項により卒業が決定した者には、玉川大学学位規程に基づき、卒業した学部に応じ学士の学位を授与し「学位記」を交付する。

第８章　入学、転学部・転学科、編入学、転入学、留学、休学、復学、退学、除籍及び再入学

（入学の時期）
第22条　入学の時期は、学期の初めとする。
（入学の資格）
第23条　本大学に入学の資格を有する者は、次の各号の一に該当する者とする。
（１）　高等学校又は中等教育学校を卒業した者
（２）　通常の課程による12年の学校教育を修了した者（通常の課程以外により、これに相当する学校教育を修了した者を含む。）
（３）　外国において学校教育における12年の課程を修了した者又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定した者
（４）　文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者
（５）　専修学校の高等課程（修業年限が３年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以降に修了した者

（６）　文部科学大臣の指定した者
（７）　高等学校卒業程度認定試験規則による高等学校卒業程度認定試験に合格した者（大学入学資格検定規程により文部科学大臣の行う大学入学資格検定に合格した者を含む。）

（入学の志願）

第24条　本大学に入学を志願する者は、入学志願書、出身高等学校又は中等教育学校の調査書、その他、入学試験実施要項で指定する関係書類に、別表第４―①に定める入学検定料を添えて提出しなければならない。ただし、出身高等学校又は中等教育学校の調査書については、該当する入学資格により、入学試験実施要項で指定する他の証明書等の提出をもって代えることができる。

（入学のための誓約書）

第25条　入学を許可された者は、本大学所定の様式に従って、保証人と連署の誓約書を提出しなければならない。

（保証人）

第26条　保証人は、親権者又は学生の３親等以内の成年者で、独立の生計を営む者又はこれにかわるべき者とする。

２　保証人は、学生の生活と教育に関する一切の責任を負うものとする。

（転学部・転学科）

第27条　本大学の学生が他の学部・学科へ転学部・転学科を志望するときは、転学部・転学科希望願を提出して許可を受けるものとし、欠員のある場合に限り、選考の上、これを許可することがある。

（編入学）

第28条　他の大学等に在学した者で、次の各号の一に該当する者が本大学に編入学（転入学）を希望するときは、選考の上入学を許可することがある。

（１）　大学を卒業した者（編入学）
（２）　短期大学を卒業した者（編入学）
（３）　高等専門学校を卒業した者（編入学）
（４）　他の大学に在学している者（転入学）

２　本大学に編入学を志願する者は、編入学志願書、卒業（修了）証明書又は卒業（修了）見込証明書、成績証明書、その他編入学試験実施要項で指定する関係書類、転入学を志願する者は、転入学志願書、在学証明書、成績証明書、その他転入学試験実施要項で指定する関係書類に、別表第４―①に定める入学検定料を添えて提出しなければならない。

３　編入学（転入学）前の既修得単位の認定、編入（転入）学年及び入学後の履修科目については、各学部教授会において決定する。

４　編入（転入）学生の授業料等は別表第４―①（ただし、入学金を除く）にかかわらず、編入（転入）学科の編入（転入）学年と同学年の入学時の授業料等を適用する。ただし、玉川学園女子短期大学及び本大学からの編入生は入学金を徴収しない。

５　本大学から他の大学等へ編入学又は転入学を志望する学生は、退学願を提出して許可を受けるものとする。

（留学）

第29条　本大学が教育上有益と認めたときは、学生が外国の大学へ留学することを認めることがある。

２　前項による留学期間は、原則として１年以内とする。

３　留学期間は、在学年数に算入する。

４　留学によって修得した単位は、教授会の議を経て、第18条第２項に準じ認定することができる。

５　留学期間中の授業料等については、別表第４―①に定める。

６　留学に関する事項は別に定める。

（休学）

第30条　疾病その他の理由によって２か月以上修学のできない学生は、保証人連署の上願い出て、許可を得た上で休学することができる。

２　休学期間は、当該年度限りとする。ただし、疾病等やむを得ないと認められる場合には、願い出により翌年度に延長を許可することができる。

３　休学期間は、卒業に所要の在学年数には算入しない。ただし、休学期間は、通算して４年を超えることはできない。

４　休学期間中の在籍料については、玉川大学休学に関する在籍料取扱要領による。

（復学）

第31条　休学の理由がやんだときは、その旨を復学願に記し、保証人連署の上願い出て、許可を得て復学することができる。

（退学）

第32条　疾病その他の理由によって退学しようとする者は、保証人連署の上願い出て、許可を得た上で退学することができる。

（除籍）

第33条　次の各号の一に該当する者は、除籍する。

（１）　第９条に規定する在学年数を経て、なお所定の課程を修了できない者

（２）　学費の納付を怠り、督促を受けても、なお納付しない者

（３）　第30条第３項に規定する休学期間の満了日に達しても、なお就学できない者

（４）　休学期間の延長又は復学の手続きを怠った者

（５）　死亡又は行方不明者

（再入学）

第34条　本大学を中途で退学した者（依願退学者）又は除籍者（学費未納による除籍者）が再入学を願い出たときは、欠員のある場合に限り、選考の上、入学を許可することがある。

２　再入学に関する事項は玉川大学再入学に関する規程による。

（他の学校における在学の禁止）

第35条　本大学の学生は、同時に学校教育法による他の学校に在学することはできない。

（入学等の決定）

第36条　入学、転学部・転学科、編入学、転入学、留学、休学、復学、除籍及び再入学の許可並びに承認は教授会の議を経て、学長がこれを決定する。

第９章　賞罰

（表彰）

第37条　本大学学生で、品行方正、学術優秀な者、また学生の模範となるべき行いをした者は、教授会の議を経て、これを賞することができる。

２　前項に定める学生表彰に関する事項は、玉川大学学生表彰規程による。

（懲戒）

第38条　本大学学則に違背し、又は学生の本分に反する行為のあった者は、別に定める玉川大学学生処分規程によって懲戒する。懲戒は、譴責、停学及び退学とする。

２　停学は、確定期限を付す有期の停学及び確定期限を付さない無期の停学とする。

３　停学の期間が１か月以上にわたるときは、その期間は、第９条の期間に算入し、第21条の卒業の要件として在学すべき期間に算入しない。

（退学処分）

第39条　次の各号の一に該当する学生は、教授会の議を経て、これを退学に処することができる。

（１）　性行不良で改善の見込みがないと認められる者

（２）　学力劣等で成業の見込みがないと認められる者

（３）　正当の理由がなくて出席が常でない者

（４）　本大学の秩序を乱し、その他学生の本分に反したと認められる者

第10章　授業料、入学金、奨学金その他

（授業料等）

第40条　本大学の授業料・教育研究諸料・施設設備金及び入学金（以下「授業料等」という。）、入学検定料は、別表第４―①のとおりとする。

２　既に納入した授業料等は、原則としてこれを返還しない。

３　所定の期日までに、正当な理由がなく、授業料等を納入しない学生は除籍することができる。

（奨学金）

第41条　本大学学生で成績優秀な者、成績優秀かつ経済的に修学が困難な者があるときは、選考の上、奨学金を給付することがある。

２　奨学金に関する事項は、玉川大学奨学金規程による。

第11章　教職員組織

（教職員）

第42条　本大学に次の教職員を置く。

学長、学部長、教授、准教授、助教、講師、助手、事務職員、技術職員及びその他の教職員。

第12章　大学部長会及び教授会

（大学部長会）

第43条　本大学に、大学部長会を置く。

２　大学部長会は、学長がこれを招集開会して、学長が次に掲げる事項について決定を行うにあたり意見を述べるものとする。

（１）　教育、研究及びこれに関連する人事に関する基本方針等、その運営における全学的な事項

（２）　教授会の審議に関する基本的共通的な事項

（３）　各種委員会に関する事項

（４）　本大学学則、その他関係規程等の制定・改廃及び運用に関する事項

（５）　学長の諮問に関する事項

（６）　その他本大学の運営に属する必要と認められる重要な事項

３　大学部長会の運営については、別に定める玉川大学部長会運営規程による。

（教授会）

第44条　各学部にそれぞれ教授会を置く。

２　教授会は、その学部の専任教授をもって組織する。

３　教授会は審議事項について必要があるとき、准教授、助教、講師及びその他必要な教職員を出席させることができる。

４　教授会は、定例に学部長がこれを招集する。ただし、学長が必要と認めたときは、これを招集することができる。

５　教授会は、学長が次に掲げる事項について決定を行うにあたり意見を述べるものとする。

（１）　学生の入学、卒業

（２）　学位の授与

（３）　前２号に掲げるもののほか、教育研究に関する重要な事項で、教授会の意見を聴くことが必要なものとして学長が定めるもの

６　教授会は、前項に規定するもののほか、学長及び学部長その他の教授会が置かれる組織の長（以下「学長等」という）がつかさどる教育研究に関する事項について審議し、及び学長等の求めに応じ、意見を述べることができる。

７　教授会の運営については、玉川大学教授会等運営規程による。

（全学教授会）

第45条　学長が必要と認めたときは、又は教授会から特に要求があったときは、学長は全学教授会を招集することができる。

２　全学教授会は全学の専任教授をもって組織する。

３　全学教授会は審議事項について必要があるとき、准教授、助教、講師及びその他必要な教職員を出席させることができる。

４　全学教授会は、学長が特に必要と認めた本大学の重要事項を審議する。

（各種委員会等）

第46条　学長が必要と認めたとき、各種委員会等を組織し、それぞれの専門分野について審議研究することができる。なお、細部については、玉川大学教授会等運営規程による。

第13章　専攻科

（専攻科）

第47条　本大学に次の専攻科及び専攻を置く。

芸術専攻科　芸術専攻

２　専攻科は玉川大学の建学の精神に則り、学部・学科の教育の基礎の上に、精深な専門の理論及び応用の研究指導を行い、専門的技能者を養成し、もって文化の進展に寄与することを目的とする。

（専攻科の定員）

第48条　専攻科の定員は次のとおりとする。

芸術専攻科　芸術専攻　10人

（専攻科の修業年限）

第49条　専攻科の修業年限は、１年とする。ただし、在学年数は２年を超えることはできない。

（専攻科の授業科目等）

第50条　専攻科の授業科目及び履修方法は、別表第２―②のとおりとする。

２　教育職員免許状の授与を受けようとする者は、その免許状の種類・教科に応じて、教育職員免許法に定められた単位を修得しなければならない。

３　専攻科で修得できる教育職員免許状の種類及び教科は、別表第３―②のとおりとする。

（専攻科の修了の要件）

第51条　専攻科修了の要件は、本専攻科に１年以上在学し、前項第50条の規定に基づいて授業科目を履修し、30単位以上を修得しなければならない。

２　前項の要件を満たした者には、修了証書を授与する。

（専攻科の入学資格等）

第52条　本専攻科に入学できる者は、次の各号の一に該当し、かつ、所定の入学試験に合格した者とする。

（１）　大学を卒業した者

（２）　外国において学校教育における16年の課程を修了した者で、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者

（３）　文部科学大臣の指定した者

（４）　本大学において、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者

２　入学を許可された者は、所定の期日までに入学手続を完了しなければならない。

３　入学の時期は、毎年４月とする。

（専攻科の授業料等）

第53条　本専攻科の授業料、教育研究諸料、施設設備金及び入学金、入学検定料は、別表第４―②のとおりとする。

（専攻科教授会）

第54条　専攻科の学事を運営するために、専攻科教授会を置く。

２　専攻科教授会は、次の教員をもって組織する。

（１）　専攻科主任

（２）　当該学部長

（３）　専攻科担当教授及び准教授

３　専攻科教授会は審議事項について必要があるとき、准教授、助教、講師及びその他必要な教職員を出席させることができる。

４　専攻科教授会は、第44条第５項の教授会の審議事項について、専攻科に係る事項について審議する。

（大学学則の準用）

第55条　専攻科に関して本章に定める以外のことについては、本大学学則の各条項による。

第14章　教育学術情報図書館、教育博物館、研究所等に関する事項

（教育学術情報図書館）

第56条　本大学に玉川大学教育学術情報図書館を置く。

２　本大学の教職員及び学生は、別に定める教育学術情報図書館規程に従って図書を閲覧することができる。

（教育博物館）

第57条　本大学に教育博物館を置く。

２　教育博物館に関する規程は、別にこれを定める。

（学術研究所）

第58条　本大学に学術研究所を置く。

２　学術研究所に関する規程は、別にこれを定める。

（脳科学研究所）

第59条　本大学に脳科学研究所を置く。

２　脳科学研究所に関する規程は、別にこれを定める。
（量子情報科学研究所）
第60条　本大学に量子情報科学研究所を置く。
２　量子情報科学研究所に関する規程は、別にこれを定める。
（教師教育リサーチセンター）
第61条　本大学に教師教育リサーチセンターを置く。
２　教師教育リサーチセンターに関する規程は、別にこれを定める。
（国際教育センター）
第62条　本大学に国際教育センターを置く。
２　国際教育センターに関する規程は、別にこれを定める。
（ＥＬＦセンター）
第63条　本大学にＥＬＦセンターを置く。
２　ＥＬＦセンターに関する規程は、別にこれを定める。
（ＴＡＰセンター）
第64条　本大学にＴＡＰセンターを置く。
２　ＴＡＰセンターに関する規程は、別にこれを定める。
（農場及び工場等）
第65条　本大学に試験場、農場・演習林及び工場を置く。
２　農場及び工場に関する規程は、別にこれを定める。
（全人教育研究センター及び健康教育研究センター）
第66条　本大学教育学部に全人教育研究センター及び健康教育研究センターを置く。
２　全人教育研究センター及び健康教育研究センターに関する規程は、別にこれを定める。

第15章　委託生、科目等履修生、聴講生、研究生及び外国人学生に関する事項

（委託生）
第67条　政府又は他の機関から委託された者は、定員にさしつかえがなければ、受講を許可することがある。
（科目等履修生及び聴講生）
第68条　本大学で開講する授業科目のうち、一又は複数の授業科目の履修を希望する者があるときは、教授会の議を経て、科目等履修生又は聴講生として履修を許可することができる。
２　科目等履修生として履修した授業科目の単位の授与については、第16条を準用する。ただし、第23条に掲げる資格を有する者に限る。
３　科目等履修生及び聴講生の事項については、玉川大学科目等履修生・聴講生に関する取扱要領による。
（研究生）
第69条　本大学で特定の課題について研究をすすめようと希望する者があるときは、教授会の議を経て、研究生として在籍を許可することができる。ただし、玉川大学大学院学則第22条に掲げる資格を有する者に限る。
２　研究生の事項については、玉川大学研究生に関する取扱要領による。
（委託生に関する事項の適用除外）
第70条　委託生、科目等履修生、聴講生及び研究生には、第21条を適用しない。
（委託生等の納付金）
第71条　委託生、科目等履修生、聴講生及び研究生は、科目等履修料、聴講料又は在籍料を納付しなければならない。
２　科目等履修料及び聴講料は、１単位につき講義・演習科目33,000円、実験科目35,000円とする。
３　在籍料及び選考料については、別に定める。
（外国人学生）
第72条　外国人で本大学に入学を希望する者があるときは、在日本外国公館の証明書がある者に限り、外国人学生として特別に入学を許可することがある。
（委託生等に関する事項の大学学則の準用）
第73条　委託生、科目等履修生、聴講生、研究生及び外国人学生に関しては、本大学学則を準用する。

第16章　公開講座

（公開講座）

第74条　本大学は、時期によって公開講座を開くことができる。

２　公開講座に関する規程は、別にこれを定める。

第17章　免許法認定講習、免許法認定通信教育

（免許法認定講習、免許法認定通信教育）

第75条　本大学は、免許法認定講習、免許法認定通信教育を開くことができる。

２　免許法認定講習、免許法認定通信教育に関する規程は、別にこれを定める。

第18章　保健センター　健康院

（保健センター　健康院）

第76条　本大学に保健センター　健康院を置く。

２　保健センター　健康院に関する規程は、別に定める。

附　則

この学則は、昭和24年４月１日から施行する。

附　則

この学則は、昭和27年４月１日から施行する。

附　則

この学則は、昭和29年４月１日から施行する。

附　則

この学則は、昭和30年４月１日から施行する。

附　則

この学則は、昭和31年４月１日から施行する。

附　則

この学則は、昭和33年４月１日から施行する。

附　則

この学則は、昭和35年４月１日から施行する。

附　則

この学則は、昭和37年４月１日から施行する。

附　則

この学則は、昭和39年４月１日から施行する。

附　則

この学則は、昭和42年４月１日から施行する。

附　則

この学則は、昭和43年４月１日から施行する。

附　則

この学則は、昭和45年４月１日から施行する。

附　則

この学則は、昭和46年４月１日から施行する。

附　則

この学則は、昭和47年４月１日から施行する。

附　則

この学則は、昭和48年４月１日から施行する。

附　則

この学則は、昭和49年４月１日から施行する。

附　則

この学則は、昭和50年４月１日から施行する。

附　則

この学則は、昭和51年４月１日から施行する。

ただし、第９条の規定にかかわらず、昭和51年度から昭和53年度までの間、文学部教育学科、英米文学科、外国語学科、芸術学科と農学部農学科、農芸化学科の総定員は次のとおりとする。

学部・学科	総定員		
	昭和51年度	昭和52年度	昭和53年度
文学部	1,800人	2,000人	2,200人
教育学科	450人	500人	550人
英米文学科	450人	500人	550人
外国語学科	450人	500人	550人
芸術学科	450人	500人	550人
農学部	400人	480人	560人
農学科	200人	240人	280人
農芸化学科	200人	240人	280人
計	2,200人	2,480人	2,760人

附　則

この学則は、昭和52年４月１日から施行する。

附　則

この学則は、昭和53年４月１日から施行する。

附　則

この学則は、昭和54年４月１日から施行する。

附　則

この学則は、昭和55年４月１日から施行する。

附　則

この学則は、昭和56年４月１日から施行する。

附　則

この学則は、昭和57年４月１日から施行する。

附　則

この学則は、昭和58年４月１日から施行する。

附　則

この学則は、昭和59年４月１日から施行する。

附　則

この学則は、昭和60年４月１日から施行する。

附　則

この学則は、昭和61年４月１日から施行する。

附　則

この学則は、昭和62年４月１日から施行する。

附　則

この学則は、昭和63年４月１日から施行する。

ただし、第９条の規定にかかわらず昭和63年度から昭和65年度までの間、工学部情報通信工学科の総定員は次のとおりとする。

	昭和63年度	昭和64年度	昭和65年度
総定員	230人	260人	290人

附　則

この学則は、平成元年４月１日から施行する。

附　則

この学則は、平成２年４月１日から施行する。

附　則

この学則は、平成３年４月１日から施行する。

附　則

この学則は、平成３年７月１日から施行する。

附　則

この学則は、平成４年４月１日から施行する。

ただし、第９条の規定にかかわらず平成４年度から平成11年度までの間の入学定員は次のとおりとする。

学部・学科	入学定員	学部・学科	入学定員	学部・学科	入学定員
文学部	840人	農学部	220人	工学部	400人
教育学科	210人	農学科	110人	機械工学科	100人
英米文学科	210人	農芸化学科	110人	電子工学科	100人
外国語学科	210人			情報通信工学科	100人
芸術学科	210人			経営工学科	100人

附　則

この学則は、平成５年４月１日から施行する。

附　則

この学則は、平成６年４月１日から施行する。

附　則

この学則は、平成７年４月１日から施行する。

附　則

この学則は、平成８年４月１日から施行する。

附　則

この学則は、平成９年４月１日から施行する。

附　則

この学則は、平成10年４月１日から施行する。

附　則

この学則は、平成11年４月１日から施行する。

附　則

この学則は、平成12年４月１日から施行する。

ただし、第９条の規定にかかわらず平成12年度から平成16年度までの間の入学定員は次のとおりとする。

学部・学科	入学定員				
	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度
文学部	840人	800人	770人	770人	750人
教育学科	210人	200人	190人	190人	180人
英米文学科	210人	210人	210人	210人	210人
外国語学科	210人	200人	190人	190人	180人
芸術学科	210人	190人	180人	180人	180人
農学部	220人	220人	210人	210人	200人
農学科	110人	110人	105人	105人	100人
農芸化学科	110人	110人	105人	105人	100人
工学部	360人	360人	360人	320人	320人
機械工学科	90人	90人	90人	80人	80人
電子工学科	90人	90人	90人	80人	80人
情報通信工学科	90人	90人	90人	80人	80人
経営工学科	90人	90人	90人	80人	80人
計	1,420人	1,380人	1,340人	1,300人	1,270人

附　則

１　この学則は、平成13年４月１日から施行する。

２　（農学部の農学科ならびに農芸化学科の存続に関する経過措置）

農学部の農学科ならびに農芸化学科は、改正後の学則第４条の規定にかかわらず平成13年３月31日に当該学科に在学する者が当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。

また、第９条の規定にかかわらず平成13年度から16年度までの間の定員は次のとおりとする。

学部・学科	平成13年度		平成14年度		平成15年度		平成16年度	
	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員
文学部	740人	3,260人	710人	3,130人	710人	3,000人	690人	2,850人
教育学科	200人	830人	190人	810人	190人	790人	180人	760人
英米文学科	150人	780人	150人	720人	150人	660人	150人	600人
外国語学科	200人	830人	190人	810人	190人	790人	180人	760人
芸術学科	190人	820人	180人	790人	180人	760人	180人	730人
農学部	220人	880人	210人	870人	210人	860人	200人	840人
生物資源学科	110人	440人	105人	435人	105人	430人	100人	420人
応用生物化学科	110人	440人	105人	435人	105人	430人	100人	420人
工学部	360人	1,520人	360人	1,480人	320人	1,400人	320人	1,360人
機械工学科	90人	380人	90人	370人	80人	350人	80人	340人
電子工学科	90人	380人	90人	370人	80人	350人	80人	340人
情報通信工学科	90人	380人	90人	370人	80人	350人	80人	340人
経営工学科	90人	380人	90人	370人	80人	350人	80人	340人
経営学部	180人	180人	180人	360人	180人	570人	180人	780人
国際経営学科	180人	180人	180人	360人	180人	570人	180人	780人
計	1,500人	5,840人	1,460人	5,840人	1,420人	5,830人	1,390人	5,830人

附　則

1　この学則は、平成14年４月１日から施行する。

2　（文学部の教育学科、英米文学科、外国語学科ならびに芸術学科の存続に関する経過措置）

文学部の教育学科、英米文学科、外国語学科ならびに芸術学科は、改正後の学則第４条の規定にかかわらず平成14年３月31日に当該学科に在学する者が当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。

また、第９条の規定にかかわらず平成14年度から平成16年度までの間の定員は次のとおりとする。

学部・学科	平成14年度			平成15年度			平成16年度		
	入学定員	編入学定員（３年次）	収容定員	入学定員	編入学定員（３年次）	収容定員	入学定員	編入学定員（３年次）	収容定員
文学部	280人	40人	2,700人	280人	40人	2,140人	280人	40人	1,620人
人間学科	80人	10人	80人	80人	10人	160人	80人	10人	250人
国際言語文化学科	200人	30人	200人	200人	30人	400人	200人	30人	630人
教育学科	—		620人	—		410人	—		200人
英米文学科	—		570人	—		360人	—		150人
外国語学科	—		620人	—		410人	—		200人

芸術学科	—		610人	—		400人	—		190人
農学部	220人		880人	220人		880人	220人		880人
生物資源学科	110人		440人	110人		440人	110人		440人
応用生物化学科	110人		440人	110人		440人	110人		440人
工学部	360人		1,480人	320人		1,400人	320人		1,360人
機械工学科	90人		370人	80人		350人	80人		340人
電子工学科	90人		370人	80人		350人	80人		340人
情報通信工学科	90人		370人	80人		350人	80人		340人
経営工学科	90人		370人	80人		350人	80人		340人
経営学部	180人	30人	360人	180人	30人	570人	180人	30人	780人
国際経営学科	180人	30人	360人	180人	30人	570人	180人	30人	780人
教育学部	200人		200人	200人		400人	200人		600人
教育学科	200人		200人	200人		400人	200人		600人
芸術学部	190人		190人	190人		380人	190人		570人
パフォーミング・アーツ学科	110人		110人	110人		220人	110人		330人
ビジュアル・アーツ学科	80人		80人	80人		160人	80人		240人
計	1,430人	70人	5,810人	1,390人	70人	5,770人	1,390人	70人	5,810人

附　則

この学則は、平成14年10月１日から施行する。

この学則の施行に伴い「玉川大学専攻科通則（昭和54年制定）」を廃止する。

附　則

1　この学則は、平成15年４月１日から施行する。

2　第８条の規定にかかわらず平成15年度から平成17年度までの間の定員は次のとおりとする。

学部・学科	平成15年度			平成16年度			平成17年度		
	入学定員	編入学定員（３年次）	収容定員	入学定員	編入学定員（３年次）	収容定員	入学定員	編入学定員（３年次）	収容定員
文学部	435人		2,295人	435人	40人	1,930人	435人	50人	1,675人
人間学科	80人		160人	80人	10人	250人	80人	10人	340人
国際言語文化学科	200人		400人	200人	30人	630人	200人	30人	860人
リベラルアーツ学科	155人		155人	155人		310人	155人	10人	475人
教育学科	—		410人	—		200人	—		—
英米文学科	—		360人	—		150人	—		—
外国語学科	—		410人	—		200人	—		—
芸術学科	—		400人	—		190人	—		—
農学部	220人		880人	220人		880人	220人		880人
生物資源学科	110人		440人	110人		440人	110人		440人
応用生物化学科	110人		440人	110人		440人	110人		440人
工学部	320人		1,400人	320人		1,360人	320人		1,320人
機械工学科	80人		350人	80人		340人	80人		330人

電子工学科	80人		350人	80人		340人	80人		330人
情報通信工学科	80人		350人	80人		340人	80人		330人
経営工学科	80人		350人	80人		340人	80人		330人
経営学部	180人	30人	570人	180人	30人	780人	180人	30人	780人
国際経営学科	180人	30人	570人	180人	30人	780人	180人	30人	780人
教育学部	250人		450人	250人		700人	250人		950人
教育学科	200人		400人	200人		600人	200人		800人
乳幼児発達学科	50人		50人	50人		100人	50人		150人
芸術学部	190人		380人	190人		570人	190人		760人
パフォーミング・アーツ学科	110人		220人	110人		330人	110人		440人
ビジュアル・アーツ学科	80人		160人	80人		240人	80人		320人
計	1,595人	30人	5,975人	1,595人	70人	6,220人	1,595人	80人	6,365人

附　則

1　この学則は、平成16年４月１日から施行する。

2　（工学部の機械工学科、電子工学科、情報通信工学科ならびに経営工学科の存続に関する経過措置）

工学部の機械工学科、電子工学科、情報通信工学科ならびに経営工学科は、改正後の学則第４条の規定に係わらず平成16年３月31日に当該学科に在学する者が当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。

また、第８条の規定に係わらず平成16年度から平成18年度までの間の定員は次のとおりとする。

学部・学科	平成16年度			平成17年度			平成18年度		
	入学定員	編入学定員（３年次）	収容定員	入学定員	編入学定員（３年次）	収容定員	入学定員	編入学定員（３年次）	収容定員
文学部	435人	40人	1,930人	435人	50人	1,675人	435人	50人	1,840人
人間学科	80人	10人	250人	80人	10人	340人	80人	10人	340人
国際言語文化学科	200人	30人	630人	200人	30人	860人	200人	30人	860人
リベラルアーツ学科	155人		310人	155人	10人	475人	155人	10人	640人
教育学科	—		200人	—		—	—		—
英米文学科	—		150人	—		—	—		—
外国語学科	—		200人	—		—	—		—
芸術学科	—		190人	—		—	—		—
農学部	220人		880人	220人		880人	220人		880人
生物資源学科	130人		460人	130人		480人	130人		500人
応用生物化学科	90人		420人	90人		400人	90人		380人
工学部	320人		1,360人	320人		1,320人	320人		1,280人
機械システム学科	80人		80人	80人		160人	80人		240人
知能情報システム学科	90人		90人	90人		180人	90人		270人
メディアネットワーク学科	80人		80人	80人		160人	80人		240人

マネジメントサイエンス学科	70人		70人	70人		140人	70人		210人
機械工学科	—		260人	—		170人	—		80人
電子工学科	—		260人	—		170人	—		80人
情報通信工学科	—		260人	—		170人	—		80人
経営工学科	—		260人	—		170人	—		80人
経営学部	180人	30人	780人	180人	30人	780人	180人	30人	780人
国際経営学科	180人	30人	780人	180人	30人	780人	180人	30人	780人
教育学部	250人		700人	250人		950人	250人		1,000人
教育学科	200人		600人	200人		800人	200人		800人
乳幼児発達学科	50人		100人	50人		150人	50人		200人
芸術学部	190人		570人	190人		760人	190人		760人
パフォーミング・アーツ学科	110人		330人	110人		440人	110人		440人
ビジュアル・アーツ学科	80人		240人	80人		320人	80人		320人
計	1,595人	70人	6,220人	1,595人	80人	6,365人	1,595人	80人	6,540人

附　則

1　この学則は、平成17年４月１日から施行する。

2　（農学部の応用生物化学科の存続に関する経過措置）

農学部の応用生物化学科は、改正後の学則第４条の規定に係わらず平成17年３月31日に当該学科に在学する者が当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。

また、第８条の規定に係わらず平成17年度から平成19年度までの間の定員は次のとおりとする。

学部・学科	平成17年度			平成18年度			平成19年度		
	入学定員	編入学定員（３年次）	収容定員	入学定員	編入学定員（３年次）	収容定員	入学定員	編入学定員（３年次）	収容定員
文学部	435人	50人	1,675人	435人	50人	1,840人	435人	50人	1,840人
人間学科	80人	10人	340人	80人	10人	340人	80人	10人	340人
国際言語文化学科	200人	30人	860人	200人	30人	860人	200人	30人	860人
リベラルアーツ学科	155人	10人	475人	155人	10人	640人	155人	10人	640人
農学部	250人		910人	250人		940人	250人		970人
生物資源学科	90人		440人	90人		420人	90人		400人
応用生物化学科	—		310人	—		200人	—		90人
生物環境システム学科	60人		60人	60人		120人	60人		180人
生命化学科	100人		100人	100人		200人	100人		300人
工学部	320人		1,320人	320人		1,280人	320人		1,280人
機械システム学科	80人		160人	80人		240人	80人		320人
知能情報システム学科	90人		180人	90人		270人	90人		360人
メディアネットワー	80人		160人	80人		240人	80人		320人

ク学科									
マネジメントサイエンス学科	70人		140人	70人		210人	70人		280人
機械工学科	—		170人	—		80人	—		—
電子工学科	—		170人	—		80人	—		—
情報通信工学科	—		170人	—		80人	—		—
経営工学科	—		170人	—		80人	—		—
経営学部	180人	30人	780人	180人	30人	780人	180人	30人	780人
国際経営学科	180人	30人	780人	180人	30人	780人	180人	30人	780人
教育学部	250人		950人	250人		1,000人	250人		1,000人
教育学科	200人		800人	200人		800人	200人		800人
乳幼児発達学科	50人		150人	50人		200人	50人		200人
芸術学部	190人		760人	190人		760人	190人		760人
パフォーミング・アーツ学科	110人		440人	110人		440人	110人		440人
ビジュアル・アーツ学科	80人		320人	80人		320人	80人		320人
計	1,625人	80人	6,395人	1,625人	80人	6,600人	1,625人	80人	6,630人

附　則

1　この学則は、平成18年４月１日から施行する。

2　（文学部国際言語文化学科の存続に関する経過措置）

文学部国際言語文化学科は、改正後の学則第４条の規定にかかわらず平成18年３月31日に当該学科に在学する者が当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。

また、第８条の規定にかかわらず平成18年度から平成20年度までの間の定員は次のとおりとする。

学部・学科	平成18年度			平成19年度			平成20年度		
	入学定員	編入学定員（３年次）	収容定員	入学定員	編入学定員（３年次）	収容定員	入学定員	編入学定員（３年次）	収容定員
文学部	365人	50人	1,770人	365人	50人	1,700人	365人	30人	1,610人
人間学科	80人	10人	340人	80人	10人	340人	80人	10人	340人
比較文化学科	130人		130人	130人		260人	130人	10人	400人
リベラルアーツ学科	155人	10人	640人	155人	10人	640人	155人	10人	640人
国際言語文化学科	—	30人	660人	—	30人	460人	—		230人
農学部	250人		940人	250人		970人	250人		1,000人
生物資源学科	90人		420人	90人		400人	90人		360人
生物環境システム学科	60人		120人	60人		180人	60人		240人
生命化学科	100人		200人	100人		300人	100人		400人
応用生物化学科	—		200人	—		90人	—		—
工学部	320人		1,280人	320人		1,280人	320人		1,280人
機械システム学科	80人		240人	80人		320人	80人		320人

知能情報システム学科	90人		270人	90人		360人	90人		360人
メディアネットワーク学科	80人		240人	80人		320人	80人		320人
マネジメントサイエンス学科	70人		210人	70人		280人	70人		280人
機械工学科	—		80人	—		—	—		—
電子工学科	—		80人	—		—	—		—
情報通信工学科	—		80人	—		—	—		—
経営工学科	—		80人	—		—	—		—
経営学部	180人	30人	780人	180人	30人	780人	180人	30人	780人
国際経営学科	180人	30人	780人	180人	30人	780人	180人	30人	780人
教育学部	250人		1,000人	250人		1,000人	250人		1,000人
教育学科	200人		800人	200人		800人	200人		800人
乳幼児発達学科	50人		200人	50人		200人	50人		200人
芸術学部	260人		830人	260人		900人	260人		970人
パフォーミング・アーツ学科	110人		440人	110人		440人	110人		440人
メディア・アーツ学科	70人		70人	70人		140人	70人		210人
ビジュアル・アーツ学科	80人		320人	80人		320人	80人		320人
計	1,625人	80人	6,600人	1,625人	80人	6,630人	1,625人	60人	6,640人

附　則

1　この学則は、平成19年４月１日から施行する。

2　（文学部リベラルアーツ学科の存続に関する経過措置）

文学部リベラルアーツ学科は、改正後の学則第４条の規定にかかわらず平成19年３月31日に当該学部・学科に在学する者が当該学部・学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。

また、第８条の規定にかかわらず平成19年度から平成21年度までの間の定員は次のとおりとする。

学部・学科	平成19年度			平成20年度			平成21年度		
	入学定員	編入学定員（３年次）	収容定員	入学定員	編入学定員（３年次）	収容定員	入学定員	編入学定員（３年次）	収容定員
文学部	210人	40人	1,535人	210人	20人	1,280人	210人	20人	1,035人
人間学科	80人	10人	340人	80人	10人	340人	80人	10人	340人
比較文化学科	130人		260人	130人	10人	400人	130人	10人	540人
リベラルアーツ学科	—		475人	—		310人	—		155人
国際言語文化学科	—	30人	460人	—		230人	—		—
農学部	250人		970人	250人		1,000人	250人		1,000人
生物資源学科	90人		400人	90人		360人	90人		360人
生物環境システム学科	60人		180人	60人		240人	60人		240人

生命化学科	100人		300人	100人		400人	100人		400人
応用生物化学科	—		90人	—		—	—		—
工学部	320人		1,280人	320人		1,280人	320人		1,280人
機械システム学科	80人		320人	80人		320人	80人		320人
知能情報システム学科	90人		360人	90人		360人	90人		360人
メディアネットワーク学科	80人		320人	80人		320人	80人		320人
マネジメントサイエンス学科	70人		280人	70人		280人	70人		280人
経営学部	195人		765人	195人		750人	195人		765人
国際経営学科	115人		685人	115人		590人	115人		525人
観光経営学科	80人		80人	80人		160人	80人		240人
教育学部	250人		1,000人	250人		1,000人	250人		1,000人
教育学科	200人		800人	200人		800人	200人		800人
乳幼児発達学科	50人		200人	50人		200人	50人		200人
芸術学部	260人		900人	260人		970人	260人		1,040人
パフォーミング・アーツ学科	110人		440人	110人		440人	110人		440人
メディア・アーツ学科	70人		140人	70人		210人	70人		280人
ビジュアル・アーツ学科	80人		320人	80人		320人	80人		320人
リベラルアーツ学部	160人		160人	160人		320人	160人		480人
リベラルアーツ学科	160人		160人	160人		320人	160人		480人
計	1,645人	40人	6,610人	1,645人	20人	6,600人	1,645人	20人	6,600人

附　則

1　この学則は、平成20年４月１日から施行する。

2　（工学部機械システム学科、知能情報システム学科ならびにメディアネットワーク学科の存続に関する経過措置）

工学部機械システム学科、知能情報システム学科ならびにメディアネットワーク学科は、改正後の学則第４条の規定にかかわらず平成20年３月31日に当該学科に在学する者が当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。

また、第８条の規定にかかわらず平成20年度から平成22年度までの間の定員は次のとおりとする。

学部・学科	平成20年度			平成21年度			平成22年度		
	入学定員	編入学定員（３年次）	収容定員	入学定員	編入学定員（３年次）	収容定員	入学定員	編入学定員（３年次）	収容定員
文学部	210人	20人	1,280人	210人	20人	1,035人	210人	20人	880人
人間学科	80人	10人	340人	80人	10人	340人	80人	10人	340人
比較文化学科	130人	10人	400人	130人	10人	540人	130人	10人	540人

リベラルアーツ学科	—		310人	—		155人	—		—
国際言語文化学科	—		230人	—		—	—		—
農学部	250人		1,000人	250人		1,000人	250人		1,000人
生物資源学科	90人		360人	90人		360人	90人		360人
生物環境システム学科	60人		240人	60人		240人	60人		240人
生命化学科	100人		400人	100人		400人	100人		400人
工学部	240人		1,200人	240人		1,120人	240人		1,040人
機械情報システム学科	100人		100人	100人		200人	100人		300人
ソフトウェアサイエンス学科	70人		70人	70人		140人	70人		210人
マネジメントサイエンス学科	70人		280人	70人		280人	70人		280人
機械システム学科	—		240人	—		160人	—		80人
知能情報システム学科	—		270人	—		180人	—		90人
メディアネットワーク学科	—		240人	—		160人	—		80人
経営学部	220人		775人	220人		815人	220人		855人
国際経営学科	130人		605人	130人		555人	130人		505人
観光経営学科	90人		170人	90人		260人	90人		350人
教育学部	290人		1,040人	290人		1,080人	290人		1,120人
教育学科	240人		840人	240人		880人	240人		920人
乳幼児発達学科	50人		200人	50人		200人	50人		200人
芸術学部	270人		980人	270人		1,060人	270人		1,070人
パフォーミング・アーツ学科	120人		450人	120人		460人	120人		470人
メディア・アーツ学科	70人		210人	70人		280人	70人		280人
ビジュアル・アーツ学科	80人		320人	80人		320人	80人		320人
リベラルアーツ学部	160人		320人	160人		480人	160人		640人
リベラルアーツ学科	160人		320人	160人		480人	160人		640人
計	1,640人	20人	6,595人	1,640人	20人	6,590人	1,640人	20人	6,605人

附　則

この学則は、平成21年４月１日から施行する。

附　則

この学則は、平成22年４月１日から施行する。

附　則

この学則は、平成23年４月１日から施行する。

附　則

この学則は、平成24年４月１日から施行する。

附　則

1　この学則は、平成25年４月１日から施行する。

2　（経営学部観光経営学科の存続に関する経過措置）

経営学部観光経営学科は、改正後の学則第４条の規定にかかわらず平成25年３月31日に当該学科に在学する者が当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。

また、第８条の規定にかかわらず平成25年度から平成27年度までの間の定員は次のとおりとする。

学部・学科	平成25年度			平成26年度			平成27年度		
	入学定員	編入学定員（３年次）	収容定員	入学定員	編入学定員（３年次）	収容定員	入学定員	編入学定員（３年次）	収容定員
文学部	210人	20人	880人	210人	20人	880人	210人	20人	880人
人間学科	80人	10人	340人	80人	10人	340人	80人	10人	340人
比較文化学科	130人	10人	540人	130人	10人	540人	130人	10人	540人
農学部	250人		1,000人	250人		1,000人	250人		1,000人
生物資源学科	90人		360人	90人		360人	90人		360人
生物環境システム学科	60人		240人	60人		240人	60人		240人
生命化学科	100人		400人	100人		400人	100人		400人
工学部	240人		960人	240人		960人	240人		960人
機械情報システム学科	100人		400人	100人		400人	100人		400人
ソフトウェアサイエンス学科	70人		280人	70人		280人	70人		280人
マネジメントサイエンス学科	70人		280人	70人		280人	70人		280人
経営学部	130人		790人	130人		700人	130人		610人
国際経営学科	130人		520人	130人		520人	130人		520人
観光経営学科	—		270人	—		180人	—		90人
教育学部	290人		1,160人	290人		1,160人	290人		1,160人
教育学科	240人		960人	240人		960人	240人		960人
乳幼児発達学科	50人		200人	50人		200人	50人		200人
芸術学部	270人		1,080人	270人		1,080人	270人		1,080人
パフォーミング・アーツ学科	120人		480人	120人		480人	120人		480人
メディア・アーツ学科	70人		280人	70人		280人	70人		280人
ビジュアル・アーツ学科	80人		320人	80人		320人	80人		320人
リベラルアーツ学部	160人		640人	160人		640人	160人		640人
リベラルアーツ学科	160人		640人	160人		640人	160人		640人
観光学部	90人		90人	90人		180人	90人		270人
観光学科	90人		90人	90人		180人	90人		270人
計	1,640人	20人	6,600人	1,640人	20人	6,600人	1,640人	20人	6,600人

附　則

1　この学則は、平成26年４月１日から施行する。

2　（芸術学部メディア・アーツ学科及びビジュアル・アーツ学科の存続に関する経過措置）

芸術学部メディア・アーツ学科及びビジュアル・アーツ学科は、改正後の学則第４条の規定にかかわらず平成26年３月31日に当該学科に在学する者が当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。

また、第８条の規定にかかわらず平成26年度から平成28年度までの間の定員は次のとおりとする。

学部・学科	平成26年度			平成27年度			平成28年度		
	入学定員	編入学定員（３年次）	収容定員	入学定員	編入学定員（３年次）	収容定員	入学定員	編入学定員（３年次）	収容定員
文学部	210人	20人	880人	210人	20人	880人	210人	20人	880人
人間学科	80人	10人	340人	80人	10人	340人	80人	10人	340人
比較文化学科	130人	10人	540人	130人	10人	540人	130人	10人	540人
農学部	250人		1,000人	250人		1,000人	250人		1,000人
生物資源学科	90人		360人	90人		360人	90人		360人
生物環境システム学科	60人		240人	60人		240人	60人		240人
生命化学科	100人		400人	100人		400人	100人		400人
工学部	240人		960人	240人		960人	240人		960人
機械情報システム学科	100人		400人	100人		400人	100人		400人
ソフトウェアサイエンス学科	70人		280人	70人		280人	70人		280人
マネジメントサイエンス学科	70人		280人	70人		280人	70人		280人
経営学部	130人		700人	130人		610人	130人		520人
国際経営学科	130人		520人	130人		520人	130人		520人
観光経営学科	—		180人	—		90人	—		—
教育学部	290人		1,160人	290人		1,160人	290人		1,160人
教育学科	240人		960人	240人		960人	240人		960人
乳幼児発達学科	50人		200人	50人		200人	50人		200人
芸術学部	270人		1,080人	270人		1,080人	270人		1,080人
パフォーミング・アーツ学科	130人		490人	130人		500人	130人		510人
メディア・アーツ学科	—		210人	—		140人	—		70人
ビジュアル・アーツ学科	—		240人	—		160人	—		80人
メディア・デザイン学科	90人		90人	90人		180人	90人		270人
芸術教育学科	50人		50人	50人		100人	50人		150人
音楽コース	30人		30人	30人		60人	30人		90人
美術・工芸コー	20人		20人	20人		40人	20人		60人

ス									
リベラルアーツ学部	160人		640人	160人		640人	160人		640人
リベラルアーツ学科	160人		640人	160人		640人	160人		640人
観光学部	90人		180人	90人		270人	90人		360人
観光学科	90人		180人	90人		270人	90人		360人
計	1,640人	20人	6,600人	1,640人	20人	6,600人	1,640人	20人	6,600人

附　則

1　この学則は、平成27年４月１日から施行する。

2　（文学部比較文化学科の存続に関する経過措置）

文学部比較文化学科は、改正後の学則第４条の規定にかかわらず平成27年３月31日に当該学科に在学する者が当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。

また、第８条の規定にかかわらず平成27年度から平成29年度までの間の定員は次のとおりとする。

学部・学科	平成27年度			平成28年度			平成29年度		
	入学定員	編入学定員（３年次）	収容定員	入学定員	編入学定員（３年次）	収容定員	入学定員	編入学定員（３年次）	収容定員
文学部	160人	—	810人	160人	—	740人	160人	—	690人
人間学科	80人	—	330人	80人	—	320人	80人	—	320人
比較文化学科	—	—	400人	—	—	260人	—	—	130人
英語教育学科	80人		80人	80人		160人	80人		240人
農学部	285人		1,035人	285人		1,070人	285人		1,105人
生物資源学科	105人		375人	105人		390人	105人		405人
生物環境システム学科	70人		250人	70人		260人	70人		270人
生命化学科	110人		410人	110人		420人	110人		430人
工学部	240人		960人	240人		960人	240人		960人
機械情報システム学科	60人		360人	60人		320人	60人		280人
ソフトウェアサイエンス学科	60人		270人	60人		260人	60人		250人
マネジメントサイエンス学科	60人		270人	60人		260人	60人		250人
エンジニアリングデザイン学科	60人		60人	60人		120人	60人		180人
経営学部	130人		610人	130人		520人	130人		520人
国際経営学科	130人		520人	130人		520人	130人		520人
観光経営学科	—		90人	—		—	—		—
教育学部	315人		1,185人	315人		1,210人	315人		1,235人
教育学科	240人		960人	240人		960人	240人		960人
乳幼児発達学科	75人		225人	75人		250人	75人		275人
芸術学部	270人		1,080人	270人		1,080人	270人		1,080人
パフォーミング・ア	130人		500人	130人		510人	130人		520人

ーツ学科									
メディア・アーツ学科	—		140人	—		70人	—		—
ビジュアル・アーツ学科	—		160人	—		80人	—		—
メディア・デザイン学科	90人		180人	90人		270人	90人		360人
芸術教育学科	50人		100人	50人		150人	50人		200人
音楽コース	30人		60人	30人		90人	30人		120人
美術・工芸コース	20人		40人	20人		60人	20人		80人
リベラルアーツ学部	160人		640人	160人		640人	160人		640人
リベラルアーツ学科	160人		640人	160人		640人	160人		640人
観光学部	90人		270人	90人		360人	90人		360人
観光学科	90人		270人	90人		360人	90人		360人
計	1,650人	—	6,590人	1,650人	—	6,580人	1,650人	—	6,590人

附　則

この学則は、平成28年４月１日から施行する。

附　則

1　この学則は、平成29年４月１日から施行する。

2　（文学部人間学科、農学部生物資源学科、生物環境システム学科及び生命化学科ならびに工学部機械情報システム学科の存続に関する経過措置）

文学部人間学科、農学部生物資源学科、生物環境システム学科及び生命化学科ならびに工学部機械情報システム学科は、改正後の学則第４条の規定にかかわらず平成29年３月31日に当該学科に在学する者が当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。

また、第８条の規定にかかわらず平成29年度から平成31年度までの間の定員は次のとおりとする。

学部・学科	平成29年度			平成30年度			平成31年度		
	入学定員	編入学定員（３年次）	収容定員	入学定員	編入学定員（３年次）	収容定員	入学定員	編入学定員（３年次）	収容定員
文学部	140人		670人	140人		600人	140人		580人
国語教育学科	60人		60人	60人		120人	60人		180人
人間学科	—		240人	—		160人	—		80人
比較文化学科	—		130人	—		—	—		—
英語教育学科	80人		240人	80人		320人	80人		320人
農学部	305人		1,125人	305人		1,180人	305人		1,200人
生産農学科	165人		165人	165人		330人	165人		495人
環境農学科	70人		70人	70人		140人	70人		210人
先端食農学科	70人		70人	70人		140人	70人		210人
生物資源学科	—		300人	—		210人	—		105人
生物環境システム学科	—		200人	—		140人	—		70人
生命化学科	—		320人	—		220人	—		110人
工学部	240人		960人	240人		960人	240人		960人

情報通信工学科	60人		60人	60人		120人	60人		180人
機械情報システム学科	—		220人	—		120人	—		60人
ソフトウェアサイエンス学科	60人		250人	60人		240人	60人		240人
マネジメントサイエンス学科	60人		250人	60人		240人	60人		240人
エンジニアリングデザイン学科	60人		180人	60人		240人	60人		240人
経営学部	130人		520人	130人		520人	130人		520人
国際経営学科	130人		520人	130人		520人	130人		520人
教育学部	315人		1,235人	315人		1,260人	315人		1,260人
教育学科	240人		960人	240人		960人	240人		960人
乳幼児発達学科	75人		275人	75人		300人	75人		300人
芸術学部	270人		1,080人	270人		1,080人	270人		1,080人
パフォーミング・アーツ学科	130人		520人	130人		520人	130人		520人
メディア・デザイン学科	90人		360人	90人		360人	90人		360人
芸術教育学科	50人		200人	50人		200人	50人		200人
音楽コース	30人		120人	30人		120人	30人		120人
美術・工芸コース	20人		80人	20人		80人	20人		80人
リベラルアーツ学部	160人		640人	160人		640人	160人		640人
リベラルアーツ学科	160人		640人	160人		640人	160人		640人
観光学部	90人		360人	90人		360人	90人		360人
観光学科	90人		360人	90人		360人	90人		360人
計	1,650人	—	6,590人	1,650人	—	6,600人	1,650人	—	6,600人

附　則

この学則は、平成30年４月１日から施行する。

附　則

この学則は、平成31年４月１日から施行する。

附　則

この学則は、令和２年４月１日から施行する。

附　則（令和３年４月１日）

１　この学則は、令和３年４月１日から施行する。

２　（芸術学部パフォーミング・アーツ学科、メディア・デザイン学科及び芸術教育学科の存続に関する経過措置）

芸術学部パフォーミング・アーツ学科、メディア・デザイン学科及び芸術教育学科は、改正後の学則第４条の規定にかかわらず令和３年３月31日に当該学科に在学する者が当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。

また、第８条の規定にかかわらず令和３年度から令和５年度までの間の定員は次のとおりとする。

学部・学科	令和３年度			令和４年度			令和５年度		
	入学定員	編入学定員(3年次)	収容定員	入学定員	編入学定員(3年次)	収容定員	入学定員	編入学定員(3年次	収容定員
文学部	140人		560人	140人		560人	140人		560人
国語教育学科	60人		240人	60人		240人	60人		240人

英語教育学科	80人		320人	80人		320人	80人		320人
農学部	295人		1,210人	295人		1,200人	295人		1,190人
生産農学科	155人		650人	155人		640人	155人		630人
環境農学科	70人		280人	70人		280人	70人		280人
先端食農学科	70人		280人	70人		280人	70人		280人
工学部	240人		960人	240人		960人	240人		960人
情報通信工学科	60人		240人	60人		240人	60人		240人
ソフトウェアサイエンス学科	60人		240人	60人		240人	60人		240人
マネジメントサイエンス学科	60人		240人	60人		240人	60人		240人
エンジニアリングデザイン学科	60人		240人	60人		240人	60人		240人
経営学部	130人		520人	130人		520人	130人		520人
国際経営学科	130人		520人	130人		520人	130人		520人
教育学部	295人		1,240人	295人		1,220人	295人		1,200人
教育学科	220人		940人	220人		920人	220人		900人
乳幼児発達学科	75人		300人	75人		300人	75人		300人
芸術学部	270人		1,080人	270人		1,080人	270人		1,080人
音楽学科	80人		80人	80人		160人	80人		240人
アート・デザイン学科	100人		100人	100人		200人	100人		300人
演劇・舞踊学科	90人		90人	90人		180人	90人		270人
パフォーミング・アーツ学科	—		390人	—		260人	—		130人
メディア・デザイン学科	—		270人	—		180人	—		90人
芸術教育学科	—		150人	—		100人	—		50人
音楽コース	—		90人	—		60人	—		30人
美術・工芸コース	—		60人	—		40人	—		20人
リベラルアーツ学部	160人		640人	160人		640人	160人		640人
リベラルアーツ学科	160人		640人	160人		640人	160人		640人
観光学部	120人		390人	120人		420人	120人		450人
観光学科	120人		390人	120人		420人	120人		450人
計	1,650人	—	6,600人	1,650人	—	6,600人	1,650人	—	6,600人

別表第1

人材養成等教育研究に係る目的

文学部

文学部は、全人教育の理念のもと、国際社会の一員として社会に貢献できる言語運用能力と言語技術、および論理的思考力と柔軟な対応力を備えた人材養成を目指している。そのため、言語・文化に関する専門的知識、言語運用能力（日本語・英語）、論理的思考力というグローバル社会の基礎力を育成するための学科構成およびカリキュラム編成を行っている。

国語教育学科は、国際社会の一員であるとの自覚をもち、母語としての日本語の特質について深い理解を有し、物事を論理的かつ批判的に思考する力を身につけ、的確な言語運用能力によってグローバル社会に貢献できる人材を養成することを目的として、「言語表現コース」と「国語教員養成コース」を置く。

「言語表現コース」では、豊かな言語観・文化観と確実な言語技術を有し、論理的・批判的思考を基盤にグローバルな社会に貢献することができる人材を、「国語教員養成コース」では、社会で必要とされる実践的な国語の能力と言語文化に関する専門的な知識を駆使して授業ができる能力を十分に有し、中学校・高等学校等の教育機関における国語教育に貢献することがで

きる人材を養成する。

英語教育学科は、「英語教員養成コース」と「ＥＬＦコミュニケーションコース」の２領域で構成され、グローバル化に伴う言語や文化の多様化に対応できる資質・能力を育成することを目指し、国際コミュニケーションのための英語運用能力を身につけることを共通目標としている。「英語教員養成コース」では、英語教員に求められる豊かな言語観・文化観と指導力を、「ＥＬＦコミュニケーションコース」では、国際共通語としての英語コミュニケーション能力を育成し、積極的に国際社会に貢献することのできる人材を養成する。

農学部

農学部は、これからの日本に求められる国際競争力の維持・向上、活力ある地域社会の構築という重要課題に「農学」という「食」、「環境」、「健康」に直結する学問領域を通じて、果敢に取り組み、問題を発見・解決する意欲と実行力のある人材の養成を目的とする。実物教育、総合的・学際的視点、国際性、倫理観の４つを重視する教育・研究を展開し、「生産農学」、「環境農学」、「先端食農」という広い視野で農学全般を捉えることを特色とする。これらを通じ、科学の基本である「なぜ？」という鋭い視点を持つ知的好奇心旺盛な人材育成を達成する。

生産農学科は、あらゆる生物を人間生活の貴重な「資源」としてとらえ、生物の持つ機能や特性を分子から個体の視点で追究できる人材の養成を行う。具体的には、有用微生物や有用天然物の探索、遺伝子組換え・昆虫の飼育・植物の栽培などの理論と技術を学修後、新機能の開発に結びつく研究を進める。これらの学修を通じて「生命の尊厳」・「他の生物との共存」などの倫理観を培い、食と農の安全安心に貢献できる人材育成を目指す。また、生産農学科は教員を養成するプログラムを設けており、中学・高等学校（理科）及び高等学校（農業）教員を育成する。

環境農学科は、自然環境や生産環境をよく理解し、地域性と国際的なセンスを兼ね備え、持続的循環型社会の構築に貢献できる人材の養成を行う。具体的には、農学に関する分野・諸問題に強い興味や取り組む意欲を持ち、生態系、農業生産、社会の３つの視点から「環境」を理論的・実践的に理解し、さまざまな問題解決に必要となる主体性と協調性を身につけた人材を育成する。

先端食農学科は、食料や食品の安全性や信頼性に関心が高まる中、既存の農業を越えた新たな食料生産のしくみや食品の機能性、食品製造にかかわる専門的な知識と実践的な能力を身に付けた人材を養成することを目的とする。植物工場や陸上養殖など最先端のシステム化された食料生産に関する知識や能力を修得し、また食品の機能性や安全性、食品の製造・加工に関する知識や能力を習熟できる学修環境の提供を通じて、食料生産、食品加工の現場で活躍できる人材を養成する。

工学部

工学部では全人教育の下、人間力を備えたモノつくりの実践的技術者を育成することをミッションとしている。教育研究に取り組む学部の基本的なスタンスとして、「技術者は、技術の進歩を追求する技術者である前に、人間であることを希求すること」「失敗を恐れず人生の開拓者として絶えず夢に挑戦する技術者であること」「現状の正しい認識の上に、常に将来を見据えた前向きな姿勢で迅速な改革に取り組むこと」を前提に実技教育、労作教育を展開する。また自然尊重、地球環境に留意し環境教育を実践する。その結果、社会人として十分な品格を持った人間性豊かで、コミュニケーション力、問題発見・解決能力を備え、環境にも配慮した新たな価値を創造できる技術者の育成に努める。

情報通信工学科では、人と人とをつなぐコミュニケーション能力と技術を身につけ、現代のグローバルな情報化社会で活躍できる正しい倫理観をもつ人材を育成する。特に、社会におけるさまざまな物やシステムの情報制御技術、対人サービスのための知能ロボット、クラウドコンピューティングにおけるビッグデータ解析などのデータサイエンス、情報セキュリティーおよび高速通信技術といった、時代に即した技術イノベーションの基礎を学ぶ。

ソフトウェアサイエンス学科では、現代社会のインフラストラクチャーとして、生活に不可欠なコンピュータやネットワークを支えるソフトウェア技術を習得した高度情報社会を支える技術者を育成する。教育目標は、ソフトウェア技術およびこれによって実現している身近な携

帯電話、ゲーム機、デジカメ、ビデオ、家電製品、自動車などのさまざまな技術を、総合的に修得し、健全な技術として発展させられる見識を持った全人的技術者を育成することにある。

マネジメントサイエンス学科では、教育目標として科学的なアプローチを中心に激変する企業経営に対応できる人材育成を目指している。さらに実践的な経営者・技術者として必要な倫理観を備えた人材の育成、問題発見能力、問題解決能力、評価能力を備える人材の育成を目指している。また社会が求める新たな価値創造のできる実践的な経営者・管理者・技術者の知識が獲得できるように教育プロセスの改善を教員が推進する。

エンジニアリングデザイン学科は、ものづくりに欠かせない従来技術分野の修得はもちろんのこと､グローバルに展開する産業界のニーズに適合しうる人材養成を目的とする学科で､「機械工学｣分野を中心として図面の読める経営者や経営に参画できる技術者の養成を目的とする。具体的には、ものづくりに不可欠な設計・製図・実験などの修得だけではなく、デジタル生産技術・工業デザインなどを取り込むことにより、技術者、経営者として地球的にも活躍できる人材を輩出する。

情報通信工学科、ソフトウェアサイエンス学科、マネジメントサイエンス学科は、数学教員養成プログラムを持つ。１年次から数学を専門として学び、数学の深い知識と幅広い教授法を身につけた数学教員を養成する。

経営学部

経済・社会のグローバル化により、すでに海外進出をしている企業だけでなく国内市場を相手にしてきた企業も基本的な経営資源であるヒト・モノ・カネ・情報が国境を越えて移動することを前提にした経営を考える必要がある。世界の各地域には企業経営やビジネス慣行における独自性が残っているが、グローバル化の進展でそれらの標準化が急速に進んでおり、その動きを背景にして世界の経営学教育も日々進歩し標準化が進展している。またグローバル化の波はトランスナショナル企業を出現させ、国内においては生産の海外移転を加速させている。競争に耐えられない企業が整理される一方で、新たな成長の牽引役となる企業がイノベーションを生み出していくことが喫緊の課題となっている。

経営学部では国際経営学科に３つのコースを設けて専門性を高めると同時に世界標準で主要科目の学修を進めることで、グローバル化に主体的に取り組む実践力と情報発信できる英語コミュニケーション力を修得し、ビジネスを通して社会の要請に応え世界に貢献できる人材の養成を目指す。

教育学部

教育学部は、全人教育の理念に基づき、幅広い知識と理解の深化、社会の変化やニーズに対応できる総合的かつ汎用的な技能や諸能力の体得、平和で豊かな社会の実現に積極的に寄与できる態度・志向性の涵養、そして専攻する分野における幅広く深い専門力、創造的思考力、実践的指導力の醸成を目指す人材養成等の教育研究を行うことで、人間や社会への理解や敬愛、規範意識・倫理観、教育や職務への使命感・責任感、自ら研鑽に努める意欲、実社会におけるリーダーシップ、それらを総合的に活用し自ら課題を解決する能力等を有する教員・保育士ならびに社会人を世に輩出する。

教育学科は、玉川教師訓を踏まえ、主として幼稚園、小・中・高等学校教育に関する専門的知識・技能、実践的な指導力を併せ持つ教員の養成とともに、教育関連分野をはじめとする幅広い分野に貢献できる人材の養成を目指す。

乳幼児発達学科は、玉川教師訓を踏まえ、教育・保育に関する専門的知識・技能、実践的な指導力を併せ持つ教員・保育士の養成とともに、社会のニーズに応えられる子育て支援に関わる人材の養成を目指す。

芸術学部

芸術学部は、本学創立の理念である全人教育のもと、全人的な人格陶冶と総合大学における芸術学部の特色を生かした芸術教育を目指している。芸術の各専門領域における理論と技能を体系的・実践的に学び、創造力・論理的思考力・マネジメント能力・協働力を培い、実行力と人間力を兼ね備えた「芸術による社会貢献」を推進しうる人材の養成を目的とする。

音楽学科は、音楽の体系的理解に基づき、現代社会における「上演芸術」及び音楽教育の役割を学修し、音楽における総合的実践力、コミュニケーション力及びマネジメント力を有して社会に貢献で

きる人材を養成する。

アート・デザイン学科は、予測困難な未来において、美術、デザインおよびメディアアートの役割を理解し、多文化・異分野と関連させ、共に新しい発想や芸術表現に挑戦し、問題を解決するプロセスに参画できる人材を養成する。

演劇・舞踊学科は、上演芸術の理論や歴史および創造プロセスを多角的に学修し、上演芸術の価値および社会における使命や役割について説くことができ、創造の現場および社会に貢献する人材を養成する。

リベラルアーツ学部

リベラルアーツ学部では、「幅広く深い教養および総合的な判断力を養い、豊かな人間性を涵養する」ための教育を推進し、将来のキャリア形成を意識しながら、「学際的教養教育」かつ「知の基盤」の充実を図ることを目指しています。さらに、価値観の多様化・複雑化した現代社会では、時代の変化に柔軟に対応しつつ、調和の取れたコミュニケーション能力のある人材が求められており、その実現に向けて、実験・実習・調査・フィールドワークなどの体験型学習を積極的に取り入れ、地域や企業との連携を図り、社会的経験を積みながら「コミュニティの知的リーダー」となる人材の育成に努めています。具体的には、次のような学生を育てていくことを心掛けています。

（1） 広い視野、判断力、考え抜く問題解決能力があり、積極的かつ協力して社会に関わっていけるコミュニティのリーダーになれる人。

（2） 基礎基本を土台に専門性を身につけ、様々なプロジェクトを実践・推進できる人。

（3） 英語力・日本語力・デジタルコミュニケーション力があり、わが国の文化を様々なかたちで世界に発信できる人。

（4） 生涯教育を可能にする「ラーニング・コミュニティ」を意識し、生涯にわたり学び続ける気持ちを持ち、社会にその知識を還元・推進できる人。

観光学部

観光学部ではグローバル時代における観光の振興に広く貢献できる人材の養成を目指す。具体的には、現代における観光の意義と役割とその課題を的確に把握し、適切な情報の収集と分析を通して、また、異文化に対する理解を基礎に、高度な英語力を駆使してグローバル時代の観光産業と地域活性化に貢献できる人材を養成する。

そのために、グローバル時代における観光産業のあり方について、その基礎基本となる知識を体系的に学習し、そこで修得した知見を基に、幅広い観点から観光という現象の意義や役割を理解し、さらに現状の課題を社会科学的な方法論に基づいて認識しその解決策を提示できる能力を育成する。

また、グローバル時代の観光産業にあっては、インバウンド観光・アウトバウンド観光ともに、国際共通語としての英語力は必須であるとの前提にたち、その高度な運用力の修得を図るとともに、それを用いた異文化理解の深化と異文化との交流力を培うことを目指した教育・研究を行うことを目的とする。

教育課程は、「観光全般に関する知識」を体系的に修得させることと、「英語運用力」の向上を図ることを主軸として編成されている。この教育課程を通して、「人間関係構築力」「情報収集・分析・表現力」「異文化理解・対応力」「社会的責任と倫理観」「問題発見・解決力」など「グローバル時代における観光の振興に貢献できる人材」が備えるべき基礎的な資質・能力を身につけさせる。

別表第２－①

ユニバーシティ・スタンダード科目

	授業科目名	単位	履修条件	卒業要件
玉川教育・FYE科目群	一年次セミナー 101	2	必修	
	一年次セミナー 102	2	必修	
	玉川の教育	0.3	必修	
	健康教育	1	必修	
	音楽 Ⅰ	0.7	必修	
	音楽 Ⅱ	1	必修	
	全人教育論	2	選択	
	二年次セミナー 201	2	選択	
	二年次セミナー 202	2	選択	
	三年次セミナー 301	2	選択	
	三年次セミナー 302	2	選択	
	ピアリーダー	2	選択	
人文科学科目群	文化人類学	2	選択	
	民俗学入門	2	選択	
	美術史	2	選択	
	ことばと文化	2	選択	
	比較文化論	2	選択	
	日本文学	2	選択	
	外国文学	2	選択	
	歴史 （世界）	2	選択	
	歴史 （日本）	2	選択	
	音楽史	2	選択	
	哲学	2	選択	
	倫理学	2	選択	
	ロジック	2	選択	
	科学史	2	選択	
	宗教学	2	選択	
	世界の宗教と文化	2	選択	
	演劇史	2	選択	
	キリスト教学	2	選択	
	英語学	2	選択	
	日本語学	2	選択	
	日本学入門	2	選択	
	Japanology	2	選択	
	Japanese Pop Culture	2	選択	
	Modern Japanese History	2	選択	
	East Asian History	2	選択	
	Issues in Japanese Studies A	2	選択	
	Issues in Japanese Studies B	2	選択	
	人文科学アカデミックスキルズ （リーディング）	1	選択	
	人文科学アカデミックスキルズ （ライティング）	1	選択	
	名著講読（人文科学）	1	選択	
社会科学科目群	会計学	2	選択	
	コミュニケーション論	2	選択	
	Academic Communication	2	選択	
	経済学 （国際経済を含む。）	2	選択	
	国際関係論	2	選択	
	市民社会と法	2	選択	
	経営学	2	選択	
	マーケティング	2	選択	
	政治学（国際政治を含む。）	2	選択	
	心理学	2	選択	
	社会学	2	選択	
	ボランティア概論	2	選択	
	現代社会の教育課題	2	選択	

	授業科目名	単位	履修条件	卒業要件
社会科学科目群	科学技術社会論	2	選択	
	観光学入門	2	選択	
	社会科学アカデミックスキルズ（リーディング）	1	選択	
	社会科学アカデミックスキルズ（ライティング）	1	選択	
	名著講読（社会科学）	1	選択	
自然科学科目群	情報科学入門	2	選択	
	ネットワーク入門	2	選択	
	データ処理	2	選択	
	マルチメディア表現	2	選択	
	化学入門	2	選択	
	生物学入門	2	選択	
	環境科学	2	選択	
	数学入門	2	選択	
	解析学入門	2	選択	
	代数学入門	2	選択	
	統計学入門	2	選択	
	物理学入門	2	選択	
	実践の物理学	2	選択	
	科学入門	2	選択	
	地球科学	2	選択	
	エネルギー科学	2	選択	
	宇宙科学	2	選択	
	STEM入門（科学と社会）	2	選択	
	人工知能と社会	2	選択	
	自然科学アカデミックスキルズ （リーディング）	1	選択	
	自然科学アカデミックスキルズ （ライティング）	1	選択	
	名著講読（自然科学）	1	選択	
学際科目群	ミクロ脳科学	2	選択	
	マクロ脳科学	2	選択	
	健康スポーツ理論	2	選択	
	生涯スポーツ演習	2	選択	
	環境教育	2	選択	
	スポーツ史	2	選択	
	オリンピック文化論	2	選択	
	栄養学	2	選択	
	病理学	2	選択	
	マスメディアと社会	2	選択	
	現代文化論	2	選択	
	プレゼンテーションスキル	2	選択	
	Presentation Skills in English	2	選択	
	複合領域研究 201～299	各2	選択	
	情報倫理と社会	2	選択	
	野外教育	2	選択	
	TAPファシリテーション Ⅰ	2	選択	
	TAPファシリテーション Ⅱ	2	選択	
	環境教育ワークショップ Ⅰ	2	選択	
	環境教育ワークショップ Ⅱ	2	選択	
	コーオプ・プログラム	2	選択	
	キャリア・マネジメント	2	選択	
	海外留学入門	2	選択	
	インターンシップ A	2	選択	
	インターンシップ B	2	選択	
	インターンシップ C	1	選択	
	インターンシップ D	1	選択	
	国際研究 A	2	選択	

別表第２－①

ユニバーシティ・スタンダード科目

	授業科目名	単位	履修条件	卒業要件
学際科目群	国際研究 B	2	選択	
	国際研究 C	2	選択	
	国際研究 D	3	選択	
	国際研究 E	4	選択	
	国際研究 F	5	選択	
	Japan Studies Overseas A	2	選択	
	Japan Studies Overseas B	2	選択	
	Japan Studies Overseas C	2	選択	
	フィールドワーク A	2	選択	
	フィールドワーク B	2	選択	
	フィールドワーク C	2	選択	
	地域創生プロジェクト A	1	選択	
	地域創生プロジェクト B	1	選択	
	地域創生プロジェクト C	2	選択	
	地域創生プロジェクト D	2	選択	
	地域創生プロジェクト E	3	選択	
	地域創生プロジェクト F	3	選択	
言語表現科目群	ELF 101	4	選択	
	ELF 102	4	選択	
	ELF 201	4	選択	
	ELF 202	4	選択	
	ELF 301	4	選択	
	ELF 302	4	選択	
	ELF 401	4	選択	
	ELF 402	4	選択	
	日本語表現 101	2	選択	
	日本語表現 102	2	選択	
	フランス語 101	2	選択	
	フランス語 102	2	選択	
	ドイツ語 101	2	選択	
	ドイツ語 102	2	選択	
	スペイン語 101	2	選択	
	スペイン語 102	2	選択	
	中国語 101	2	選択	
	中国語 102	2	選択	
教職関連科目群	日本国憲法	2	選択	
	体育	1	選択	
	教育原理	2	選択	
	教職概論	2	選択	
	教育の制度と経営	2	選択	
	学習・発達論	2	選択	
	特別支援教育	1	選択	
	教育課程編成論　（中・高）	2	選択	
	道徳教育の理論と方法　（中）	2	選択	
	総合的な学習の時間の理論と方法　（中･高）	1	選択	
	特別活動の理論と方法　（中・高）	1	選択	
	教育の方法と技術　（中・高）	2	選択	
	生徒・進路指導の理論と方法　（中・高）	2	選択	
	教育相談の理論と方法　（中・高）	2	選択	
	教育実習　（中学校）	5	選択	
	教育実習　（高等学校）	3	選択	
	教職実践演習　（中・高）	2	選択	
	教育インターンシップ A	2	選択	
	教育インターンシップ B	2	選択	

	授業科目名	単位	履修条件	卒業要件
教職関連科目群	教育インターンシップ C	1	選択	
	教育インターンシップ D	1	選択	
	教育哲学	2	選択	
	発達心理学	2	選択	
	教育心理学	2	選択	
	教育社会学	2	選択	
	教職演習 A	1	選択	
	教職演習 B	1	選択	
	精神保健	2	選択	
	生命と性の教育	2	選択	
	異文化理解と教育	2	選択	
資格関連科目群	学校経営と学校図書館	2	選択	
	学校図書館メディアの構成	2	選択	
	学習指導と学校図書館	2	選択	
	読書と豊かな人間性	2	選択	
	情報メディアの活用	2	選択	
	生涯学習概論	2	選択	
	図書館概論	2	選択	
	図書館情報技術論	2	選択	
	図書館制度・経営論	2	選択	
	図書館サービス概論	2	選択	
	情報サービス論	2	選択	
	児童サービス論	2	選択	
	情報サービス演習 A	1	選択	
	情報サービス演習 B	1	選択	
	図書館情報資源概論	2	選択	
	情報資源組織論	2	選択	
	情報資源組織演習 A	1	選択	
	情報資源組織演習 B	1	選択	
	図書館情報資源特論	1	選択	
	図書・図書館史	1	選択	
	図書館施設論	1	選択	
	生涯学習と生涯教育	2	選択	
	生涯学習支援論 A	2	選択	
	生涯学習支援論 B	2	選択	
	社会教育経営論 A	2	選択	
	社会教育経営論 B	2	選択	
	社会教育実習	2	選択	
	社会教育課題研究	2	選択	
	社会体育論	2	選択	
	博物館概論	2	選択	
	博物館経営論	2	選択	
	博物館資料論	2	選択	
	博物館資料保存論	2	選択	
	博物館展示論	2	選択	
	博物館教育論	2	選択	
	博物館情報・メディア論	2	選択	
	博物館実習	3	選択	

※履修方法の詳細は学生要覧による

別表第２－①

国語教育学科科目

授業科目名	単位	履修条件		卒業要件
		国語教員	言語表現	
言語表現入門 A	2	必修	必修	
日本文学概論	2	必修	必修	
言語表現入門 B	2	必修	必修	
学術情報リテラシー	2	選択	選択	
キャリアナビゲーション	1	選択	選択	
現代社会の諸問題	2	選択	必修	
日本文学史	2	必修	選択	
漢文学	2	必修	選択	
日本語文法論 Ⅰ	2	必修	選択	
日本語文法論 Ⅱ	2	選択	選択	
日本古典文学演習	2	必修	選択	
日本近代文学演習	2	選択	選択	
書写	2	必修	選択	
国語科指導法 Ⅰ	2	必修	選択	
異文化間コミュニケーション	2	選択	選択	
世界文学	2	選択	選択	
メディアと文化表現	2	選択	選択	
ロジカルシンキング	2	選択	必修	
クリティカルシンキング	2	選択	必修	
クリティカルリーディング	2	選択	必修	
議論ストラテジー	2	選択	必修	
スクールインターンシップ A	2	選択	選択	
スクールインターンシップ B	2	選択	選択	
インターンシップ A	2	選択	選択	
インターンシップ B	1	選択	選択	
インターンシップ C	2	選択	選択	
インターンシップ D	1	選択	選択	
キャリアセミナー A	2	必修	必修	
国語科指導法 Ⅱ	2	必修	選択	
日本語語彙論	2	選択	選択	
キャリアセミナー B	2	必修	必修	
日本古典文学研究	2	選択	選択	
日本近代文学研究	2	選択	選択	
日本語史	2	選択	選択	
日本語学演習	2	選択	選択	
日本語音韻論	2	選択	選択	
ランゲージアーツセミナー A	2	必修	必修	
ランゲージアーツセミナー B	2	必修	必修	
教育現場研究	2	選択	選択	
現代思想と言語	2	選択	選択	
テクノロジーと言語	2	選択	選択	
英語で読む日本文学	2	選択	選択	
広告と言語	2	選択	選択	
プレゼンテーション技法	2	選択	選択	
情報編集デザイン	2	選択	選択	

授業科目名	単位	履修条件		卒業要件
		国語教員	言語表現	
読み書きの認知と指導	2	選択	選択	
スクールインターンシップ C	2	選択	選択	
スクールインターンシップ D	2	選択	選択	
国語科指導法 Ⅲ	2	選択	選択	
国語科指導法 Ⅳ	2	選択	選択	
レトリック探究	2	選択	選択	
音声表現法研究	2	選択	選択	
日本語学研究	2	選択	選択	
言語表現教育研究	2	選択	選択	
批評理論	2	選択	選択	
ランゲージアーツセミナー C	2	選択	選択	
ランゲージアーツセミナー D	2	選択	選択	
ランゲージアーツプロジェクト	2	選択	選択	

※履修方法の詳細は学生要覧による

別表第２－①

英語教育学科科目

授業科目名	単位	履修条件		卒業要件
		英語教員	ELF	
Basic Academic English Skills A	2	必修	必修	
English Phonetics	1	必修	必修	
Overseas Study A	2	選択	選択	
Overseas Study B	2	選択	選択	
Overseas Study C	2	選択	選択	
Basic Academic English Skills B	2	必修	必修	
日本語表現演習	2	選択	必修	
English Grammar	2	必修	必修	
World Studies	2	必修	必修	
Pre-departure Seminar	1	必修	必修	
Introduction to Language Studies	2	必修	必修	
英語科指導法 Ⅰ	2	選択	選択	
British and American Literature	2	必修	必修	
Internship A	2	選択	選択	
Internship B	2	選択	選択	
Internship C	2	選択	選択	
School Internship A	2	選択	選択	
School Internship B	2	選択	選択	
School Internship C	2	選択	選択	
English for Intercultural Communication A	4	選択	選択	
Intercultural Communication A	4	選択	選択	
English for General Communication A	2	選択	選択	
English for General Communication B	2	選択	選択	
Integrated English Language Skills	2	選択	選択	
Academic English Skills A	2	選択	選択	
English for Intercultural Communication B	4	選択	選択	
Intercultural Communication B	4	選択	選択	
Studies in ELT	4	選択	選択	
Studies in ELF Communication	4	選択	選択	

授業科目名	単位	履修条件		卒業要件
		英語教員	ELF	
Academic English Skills B	2	選択	選択	
English for Writing Research Papers	2	選択	選択	
Strategies for Global Communication	2	選択	選択	
English in Global Contexts	2	必修	必修	
Multiculturalism in English-speaking Areas	2	必修	必修	
英語科指導法 Ⅱ	4	選択	選択	
Global Communication	2	選択	選択	
Current Issues in Applied Linguistics	2	選択	選択	
Regional Studies	2	選択	選択	
Research Seminar A	2	必修	必修	
Language Testing	2	選択	選択	
Special Studies in American Literature	2	選択	選択	
Language Teaching in Asia	2	選択	選択	
Language and Society	2	選択	選択	
Speaking Workshop	2	選択	選択	
Special Studies in British Literature	2	選択	選択	
Issues in Second Language Acquisition	2	選択	選択	
Issues in Applied Linguistics	2	選択	選択	
Issues in International Mobility A	2	選択	選択	
Project Management Workshop	2	選択	選択	
Research Seminar B	1	必修	必修	
英語科指導法 Ⅲ	2	選択	選択	
Issues in International Mobility B	2	選択	選択	
Issues in English Linguistics	2	選択	選択	
Research Seminar C	2	必修	必修	
Teaching English to Children	2	選択	選択	
Language through Contemporary English Literature	2	選択	選択	
Career English	2	選択	選択	
Senior Project	2	必修	必修	

※履修方法の詳細は学生要覧による

別表第２－①

生産農学科科目

授業科目名	単位	履修条件	卒業要件
基礎生物学実験	2	必修	
生産農学セミナー	1	必修	
化学	2	必修	
栽培学	2	必修	
生物学	2	必修	
基礎化学実験	2	必修	
フィールド実習 Ⅰ	2	必修	
有機化学 Ⅰ	2	必修	
分析化学	2	必修	
植物形態学	2	選択	
昆虫資源学	2	選択	
微生物学	2	選択	
有機化学	2	選択	
有機化学 Ⅱ	2	選択	
生態学	2	必修	
フィールド実習 Ⅱ	2	選択	
職業指導 （農業） Ⅰ	2	選択	
生化学	2	必修	
生物化学実験	2	必修	
分子生物学 Ⅰ	2	必修	
動物行動学	2	選択	
作物学	2	選択	
応用微生物学	2	選択	
地学	2	選択	
地学実験	1	選択	
物理学	2	選択	
物理学実験	1	選択	
細胞生物学	2	選択	
生物多様性論	2	選択	
動物生理学	2	選択	
樹木学	2	選択	
環境と農業	2	選択	
分類学	2	選択	
理科指導法 Ⅰ	2	選択	
理科指導法 Ⅱ	2	選択	
農業科指導法 Ⅰ	2	選択	
農業科指導法 Ⅱ	2	選択	
職業指導 （農業） Ⅱ	2	選択	

授業科目名	単位	履修条件	卒業要件
分子生物学 Ⅱ	2	選択	
植物病理学	2	選択	
分子構造解析論	2	選択	
天然物化学	2	選択	
専門実験・実習 Ⅰ	2	必修	
インターンシップ	2	選択	
生物統計学	2	必修	
植物育種学	2	選択	
応用動物昆虫学	2	選択	
果樹園芸学	2	選択	
畜産学	2	選択	
農薬化学	2	選択	
有機合成化学	2	選択	
専門実験・実習 Ⅱ	2	必修	
生産農学演習 Ⅰ	2	必修	
フィールド実習 Ⅲ	2	選択	
生物実験スキル	2	選択	
化学実験スキル	2	選択	
遺伝子工学	2	選択	
応用動物利用学	2	選択	
緑地保全学	2	選択	
食品製造	2	選択	
食品製造実習	1	選択	
野外活動指導法	2	選択	
植物生理学	2	選択	
農業マーケティング論	2	選択	
理科指導法 Ⅲ	2	選択	
理科指導法 Ⅳ	2	選択	
生産農学演習 Ⅱ	2	必修	
卒業研究 Ⅰ	4	必修	
生産農学演習 Ⅲ	2	必修	
卒業研究 Ⅱ	4	必修	
卒業研究論文	2	必修	
教材研究	2	選択	

※履修方法の詳細は学生要覧による

別表第２－①

生産農学科　中・高（理科教育コース）

	開設年次	授業科目名	単位	履修条件
生産農学科理科教育コース科目	1年次	基礎生物学実験	2	必修
		化学	2	必修
		生物学	2	必修
		基礎化学実験	2	必修
		分析化学	2	選択
	2年次	有機化学	2	必修
		生化学	2	必修
		分子生物学 Ⅰ	2	選択
		動物行動学	2	選択
		地学	2	必修
		地学実験	1	必修
		物理学	2	必修
		物理学実験	1	必修
		細胞生物学	2	選択
		理科指導法 Ⅰ	2	必修
		理科指導法 Ⅱ	2	必修
	3年次	生物統計学	2	必修
		生物実験スキル	2	選択
		化学実験スキル	2	選択
		理科指導法 Ⅲ	2	必修
		理科指導法 Ⅳ	2	必修
	小計（21科目）		40	—
生産農学科理科教育コース関連科目	2年次	生態学	2	選択
		生物多様性論	2	選択
	3年次	分子生物学 Ⅱ	2	選択
		分子構造解析論	2	選択
		天然物化学	2	選択
		インターンシップ	2	選択
		有機合成化学	2	選択
	4年次	教材研究	2	必修
	小計（8科目）		16	—

理科の「教科及び教科の指導法に関する科目」
理科の関連科目

	開設年次	授業科目名	単位	履修条件
生産農学科理科教育コース以外の科目	1年次	生産農学セミナー	1	必修
		栽培学	2	選択
		フィールド実習 Ⅰ	2	必修
		有機化学Ⅰ	－	—
	2年次	植物形態学	2	選択
		昆虫資源学	2	選択
		微生物学	2	選択
		有機化学Ⅱ	－	—
		フィールド実習 Ⅱ	2	選択
		職業指導（農業） Ⅰ	2	選択
		生物化学実験	－	—
		作物学	2	選択
		応用微生物学	2	選択
		動物生理学	2	選択
		樹木学	2	選択
		環境と農業	2	選択
		分類学	2	選択
		農業科指導法 Ⅰ	2	選択
		農業科指導法 Ⅱ	2	選択
		職業指導（農業） Ⅱ	2	選択
	3年次	植物病理学	2	選択
		専門実験・実習 Ⅰ	－	—
		植物育種学	2	選択
		応用動物昆虫学	2	選択
		果樹園芸学	2	選択
		畜産学	2	選択
		農薬化学	2	選択
		専門実験・実習 Ⅱ	－	—
		生産農学演習 Ⅰ	－	—
		フィールド実習 Ⅲ	2	選択
		遺伝子工学	2	選択
		応用動物利用学	2	選択
		緑地保全学	2	選択
		食品製造	2	選択
		食品製造実習	1	選択
		野外活動指導法	2	選択
		植物生理学	2	選択
		農業マーケティング論	2	選択
	4年次	生産農学演習 Ⅱ	－	—
		卒業研究 Ⅰ	－	—
		生産農学演習 Ⅲ	－	—
		卒業研究 Ⅱ	－	—
		卒業研究論文	－	—
	小計（43科目）		62	—

農業の「教科及び教科の指導法に関する科目」
農業の関連科目

別表第２－①

生産農学科　高（農業教育コース）

	開設年次	授業科目名	単位	履修条件
生産農学科農業教育コース科目	1年次	フィールド実習　Ⅰ	2	必修
	2年次	フィールド実習 Ⅱ	2	選択
		職業指導（農業）Ⅰ	2	必修
		作物学	2	選択
		動物生理学	2	選択
		樹木学	2	選択
		環境と農業	2	選択
		分類学	2	選択
		農業科指導法 Ⅰ	2	必修
		農業科指導法 Ⅱ	2	必修
		職業指導（農業）Ⅱ	2	選択
	3年次	植物病理学	2	選択
		植物育種学	2	選択
		果樹園芸学	2	選択
		農薬化学	2	選択
		フィールド実習 Ⅲ	2	選択
		遺伝子工学	2	選択
		応用動物利用学	2	選択
		緑地保全学	2	選択
		食品製造	2	選択
		食品製造実習	1	選択
		野外活動指導法	2	選択
		植物生理学	2	選択
		農業マーケティング論	2	選択
	小計（24科目）		47	—
生産農学科農業教育コース関連科目	1年次	栽培学	2	選択
	2年次	植物形態学	2	選択
		昆虫資源学	2	選択
		微生物学	2	選択
		応用微生物学	2	選択
	3年次	インターンシップ	2	選択
		応用動物昆虫学	2	選択
		畜産学	2	選択
	4年次	教材研究	2	必修
	小計（9科目）		18	—

農業の「教科及び教科の指導法に関する科目」
農業の関連科目

	開設年次	授業科目名	単位	履修条件
生産農学科農業教育コース以外の科目	1年次	基礎生物学実験	2	必修
		生産農学セミナー	1	必修
		化学	2	必修
		生物学	2	必修
		基礎化学実験	2	必修
		有機化学Ⅰ	－	—
		分析化学	2	選択
	2年次	有機化学	2	必修
		有機化学Ⅱ	－	—
		生態学	2	選択
		生化学	2	必修
		生物化学実験	－	—
		分子生物学 Ⅰ	2	選択
		動物行動学	2	選択
		地学	2	選択
		地学実験	1	選択
		物理学	2	選択
		物理学実験	1	選択
		細胞生物学	2	選択
		生物多様性論	2	選択
		理科指導法 Ⅰ	2	選択
		理科指導法 Ⅱ	2	選択
	3年次	分子生物学 Ⅱ	2	選択
		分子構造解析論	2	選択
		天然物化学	2	選択
		専門実験・実習 Ⅰ	－	—
		生物統計学	2	必修
		有機合成化学	2	選択
		専門実験・実習 Ⅱ	－	—
		生産農学演習 Ⅰ	－	—
		生物実験スキル	2	選択
		化学実験スキル	2	選択
		理科指導法 Ⅲ	2	選択
		理科指導法 Ⅳ	2	選択
	4年次	生産農学演習 Ⅱ	－	—
		卒業研究 Ⅰ	－	—
		生産農学演習 Ⅲ	－	—
		卒業研究 Ⅱ	－	—
		卒業研究論文	－	—
	小計（39科目）		53	—

理科の「教科及び教科の指導法に関する科目」
理科の関連科目

別表第２－①

生産農学科　（理科教育コース・農業教育コースを除く）

	開設年次	授業科目名	単位	履修条件
生産農学科科目（理科教育コース・農業教育コースを除く）	1年次	基礎生物学実験	2	必修
		生産農学セミナー	1	必修
		化学	2	必修
		栽培学	2	必修
		生物学	2	必修
		基礎化学実験	2	必修
		フィールド実習　Ⅰ	2	必修
		有機化学Ⅰ	2	必修
		分析化学	2	必修
	小計（9科目）		17	—
	2年次	植物形態学	2	選択
		昆虫資源学	2	選択
		微生物学	2	選択
		有機化学	-	—
		有機化学Ⅱ	2	選択
		生態学	2	必修
		フィールド実習 Ⅱ	2	選択
		職業指導（農業） Ⅰ	-	—
		生化学	2	必修
		生物化学実験	2	必修
		分子生物学 Ⅰ	2	必修
		動物行動学	2	選択
		作物学	2	選択
		応用微生物学	2	選択
		地学	-	—
		地学実験	-	—
		物理学	-	—
		物理学実験	-	—
		細胞生物学	2	選択
		生物多様性論	2	選択
		動物生理学	2	選択
		樹木学	2	選択
		環境と農業	2	選択
		分類学	2	選択
		理科指導法 Ⅰ	-	—
		理科指導法 Ⅱ	-	—
		農業科指導法 Ⅰ	-	—
		農業科指導法 Ⅱ	-	—
		職業指導（農業） Ⅱ	-	—
	小計（29科目）		36	—
	3年次	分子生物学 Ⅱ	2	選択
		植物病理学	2	選択
		分子構造解析論	2	選択
		天然物化学	2	選択
		専門実験・実習 Ⅰ	2	必修
		インターンシップ	2	選択
		生物統計学	2	必修
		植物育種学	2	選択
		応用動物昆虫学	2	選択
		果樹園芸学	2	選択
		畜産学	2	選択

	開設年次	授業科目名	単位	履修条件
生産農学科科目（理科教育コース・農業教育コースを除く）	3年次	農薬化学	2	選択
		有機合成化学	2	選択
		専門実験・実習 Ⅱ	2	必修
		生産農学演習 Ⅰ	2	必修
		フィールド実習　Ⅲ	2	選択
		生物実験スキル	-	—
		化学実験スキル	-	—
		遺伝子工学	2	選択
		応用動物利用学	2	選択
		緑地保全学	2	選択
		食品製造	-	—
		食品製造実習	-	—
		野外活動指導法	-	—
		植物生理学	2	選択
		農業マーケティング論	2	選択
		理科指導法 Ⅲ	-	—
		理科指導法 Ⅳ	-	—
	小計（28科目）		22	—
	4年次	生産農学演習 Ⅱ	2	必修
		卒業研究 Ⅰ	4	必修
		生産農学演習 Ⅲ	2	必修
		卒業研究 Ⅱ	4	必修
		卒業研究論文	2	必修
		教材研究	-	—
	小計（6科目）		14	—

別表第２－①

環境農学科科目

授業科目名	単位	履修条件	卒業要件
環境と農業	2	必修	
基礎化学実験	2	必修	
農場実習 Ⅰ	1	必修	
生物科学	2	必修	
環境農学概論	2	必修	
生態学概論	2	必修	
基礎生物学実験	2	必修	
農場実習 Ⅱ	2	必修	
English Communication	2	選択	
地域環境研究	2	選択	
植物科学	2	選択	
植物繁殖学	2	選択	
地域環境論	2	選択	
科学英語表現 Ⅰ	2	選択	
科学英語表現 Ⅱ	2	選択	
環境農学実験	2	必修	
自然環境保全学	2	選択	
土壌生態学	2	選択	
生物環境物理学	2	選択	
動物行動生態学	2	選択	
分類学	2	選択	
環境倫理学	2	選択	
環境経済学	2	選択	
化学	2	選択	
生物統計学	2	必修	
農場実習 Ⅲ	1	必修	
環境農学研究 Ⅰ	3	必修	
地理学	2	選択	
環境マネジメント論	2	選択	
環境と法令	2	選択	
農学国際協力	2	選択	
地球環境と生態系	2	必修	
持続的農業論	2	必修	
環境農学研究 Ⅱ	4	必修	
コミュニケーションスキル	2	選択	
農業マーケティング論	2	選択	
野外安全教育	2	選択	
インターンシップ Ⅰ	2	選択	
環境農学演習 Ⅰ	2	必修	
卒業研究 Ⅰ	4	必修	
農業と動物	2	選択	
緑地環境学	2	選択	
環境農学演習 Ⅱ	2	必修	
卒業研究 Ⅱ	4	必修	
卒業研究 Ⅲ	2	必修	
自然環境総合演習	2	選択	
インターンシップ Ⅱ	2	選択	

※履修方法の詳細は学生要覧による

別表第２－①

先端食農学科科目

授業科目名	単位	履修条件	卒業要件
環境生物科学	2	選択	
基礎化学実験	2	必修	
農場実習	1	必修	
化学	2	必修	
生物学	2	必修	
有機化学 Ⅰ	2	必修	
分析化学	2	選択	
基礎生物学実験	2	必修	
生物化学 Ⅰ	2	必修	
微生物学	2	必修	
園芸学	2	必修	
海洋生態学	2	必修	
有機化学 Ⅱ	2	選択	
食品製造科学	2	選択	
食品加工実習 Ⅰ	2	選択	
生物化学 Ⅱ	2	必修	
植物栄養学	2	必修	
食品機能化学	2	必修	
生物統計学	2	選択	
水産学	2	選択	
養殖学	2	選択	
先端食農実験 Ⅰ	2	必修	
生物化学 Ⅲ	2	必修	
食品衛生学	2	必修	
栄養生理化学	2	選択	
養蜂学	2	選択	
先端食農実験 Ⅱ	2	必修	
専門領域研究	2	選択	
食品加工実習 Ⅱ	2	選択	
先端食農演習 Ⅰ	2	必修	
応用栄養学	2	選択	
畜産物利用学	2	選択	
植物生理学	2	選択	
農薬化学	2	選択	
公衆衛生学	2	選択	
インターンシップ	2	選択	
フィールド実習	2	選択	
植物工場実習	2	選択	
陸上養殖実習	2	選択	
先端食農演習 ⅡA	2	必修	
卒業研究 Ⅰ	4	必修	
先端食農演習 ⅡB	2	必修	
卒業研究 Ⅱ	4	必修	
卒業研究論文	2	必修	

※履修方法の詳細は学生要覧による

別表第２－①

情報通信工学科科目

授業科目名	単位	履修条件	卒業要件
チャンピオンシップ	1	必修	
工学基礎演習	1	選択	
代数学 Ⅰ	2	必修	
解析学 Ⅰ	2	必修	
数学演習 Ⅰ	2	選択	
数学演習 Ⅱ	2	選択	
物理学 Ⅰ	2	選択	
コミュニケーション科学の世界	2	必修	
プログラミング Ⅰ	2	必修	
情報システム入門	2	選択	
電気回路入門	2	必修	
ロボットプロジェクト A	1	選択	
ロボット入門	1	選択	
プログラミング Ⅱ	2	選択	
解析学 Ⅱ	2	選択	
技術英語 Ⅰ	2	選択	
技術英語 Ⅱ	2	選択	
センサ工学	2	必修	
確率統計学 Ⅰ	2	選択	
工学倫理	1	必修	
熱と流れの力学	2	選択	
インテリジェントデバイス入門	2	必修	
情報工学実験	1	必修	
基礎物理学実験	2	選択	
通信システム	2	選択	
フーリエ解析	2	選択	
データサイエンス入門	2	選択	
認知科学	2	選択	
工業科指導法 Ⅰ	2	選択	
工業科指導法 Ⅱ	2	選択	
サイエンスイングリッシュ	4	選択	
数学科指導法 Ⅰ	2	選択	
数学科指導法 Ⅱ	2	選択	
微分方程式 Ⅰ	2	選択	
複素解析 Ⅰ	2	選択	
確率統計学 Ⅱ	2	選択	
微分方程式 Ⅱ	2	選択	
電磁気学	2	選択	
幾何学 Ⅰ	2	選択	
インターフェース工学	2	選択	
ロボットプロジェクト B	1	選択	

授業科目名	単位	履修条件	卒業要件
キャリアデザイン	2	選択	
数値解析プログラミング	2	選択	
コミュニケーションロボット工学	2	選択	
ブレインサイエンス	2	選択	
インテリジェントデバイス実験 Ⅰ	1	必修	
通信工学	2	選択	
応用電子物性	2	選択	
データサイエンス Ⅰ	2	選択	
エネルギー工学	2	選択	
工学応用演習	1	選択	
インターンシップ Ⅰ	1	選択	
インターンシップ Ⅱ	1	選択	
インターンシップ Ⅲ	1	選択	
インターンシップ Ⅳ	1	選択	
ロボットプログラミング	2	選択	
インテリジェントデバイス実験 Ⅱ	2	選択	
情報理論	2	選択	
データサイエンス Ⅱ	2	選択	
スマートエネルギー	2	選択	
レーダ工学	2	選択	
生体情報工学	2	選択	
職業指導 （工業） Ⅰ	2	選択	
職業指導 （工業） Ⅱ	2	選択	
複素解析 Ⅱ	2	選択	
代数学 Ⅱ	2	選択	
数学科指導法 Ⅲ	2	選択	
数学科指導法 Ⅳ	2	選択	
人工知能	4	選択	
インテリジェントデバイス実験 Ⅲ	2	選択	
卒業プロジェクト	4	必修	
研究室セミナー	2	選択	
量子セキュリティ	2	選択	
ブレインソフトウェア	2	選択	
ビッグデータ解析	2	選択	
幾何学 Ⅱ	2	選択	
光通信工学	4	選択	

※履修方法の詳細は学生要覧による

情報通信工学科　中・高（数学教育コース）

	開設年次	授業科目名	単位	履修条件
情報通信工学科数学教育コース科目	1年次	代数学 Ⅰ	2	必修
		解析学 Ⅰ	2	必修
		プログラミング　Ⅰ	2	必修
	2年次	プログラミング Ⅱ	2	選択
		解析学 Ⅱ	2	選択
		確率統計学 Ⅰ	2	必修
		フーリエ解析	2	選択
		数学科指導法 Ⅰ	2	必修
		数学科指導法 Ⅱ	2	必修
		微分方程式 Ⅰ	2	選択
		複素解析 Ⅰ	2	選択
		確率統計学 Ⅱ	2	選択
		微分方程式 Ⅱ	2	選択
		幾何学 Ⅰ	2	必修
	3年次	数値解析プログラミング	2	選択
		データサイエンス　Ⅰ	2	選択
		データサイエンス Ⅱ	2	選択
		複素解析 Ⅱ	2	選択
		代数学 Ⅱ	2	選択
		数学科指導法 Ⅲ	2	必修
		数学科指導法 Ⅳ	2	必修
	4年次	ビッグデータ解析	2	選択
		幾何学 Ⅱ	2	選択
	計（23科目）		46	―
情報通信工学科数学教育コース関連科目	3年次	工学応用演習	1	選択
		インターンシップ Ⅰ	1	選択
		インターンシップ Ⅱ	1	選択
		インターンシップ Ⅲ	1	選択
		インターンシップ Ⅳ	1	選択
		レーダ工学	2	選択
		生体情報工学	2	選択
	4年次	量子セキュリティ	2	選択
		光通信工学	4	選択
	計（9科目）		15	―

数学の「教科及び教科の指導法に関する科目」
数学の関連科目

	開設年次	授業科目名	単位	履修条件
情報通信工学科数学教育コース以外の科目	1年次	チャンピオンシップ	1	必修
		工学基礎演習	1	選択
		数学演習 Ⅰ	2	選択
		数学演習 Ⅱ	2	選択
		物理学 Ⅰ	2	選択
		コミュニケーション科学の世界	2	必修
		情報システム入門	2	選択
		電気回路入門	2	必修
		ロボットプロジェクト A	1	選択
		ロボット入門	1	選択
	2年次	技術英語 Ⅰ	2	選択
		技術英語 Ⅱ	2	選択
		センサ工学	2	必修
		工学倫理	1	必修
		熱と流れの力学	2	選択
		インテリジェントデバイス入門	2	必修
		情報工学実験	1	必修
		基礎物理学実験	2	選択
		通信システム	2	選択
		データサイエンス入門	2	選択
		認知科学	2	選択
		工業科指導法 Ⅰ	2	選択
		工業科指導法 Ⅱ	2	選択
		サイエンスイングリッシュ	4	選択
		電磁気学	2	選択
		インターフェース工学	2	選択
		ロボットプロジェクト　B	1	選択
	3年次	キャリアデザイン	2	選択
		コミュニケーションロボット工学	2	選択
		ブレインサイエンス	2	選択
		インテリジェントデバイス実験Ⅰ	1	必修
		通信工学	2	選択
		応用電子物性	2	選択
		エネルギー工学	2	選択
		ロボットプログラミング	2	選択
		インテリジェントデバイス実験 Ⅱ	2	選択
		情報理論	2	選択
		スマートエネルギー	2	選択
		職業指導（工業） Ⅰ	2	選択
		職業指導（工業） Ⅱ	2	選択
	4年次	人工知能	4	選択
		インテリジェントデバイス実験 Ⅲ	2	選択
		卒業プロジェクト	4	必修
		研究室セミナー	2	選択
		ブレインソフトウェア	2	選択
	計（45科目）		88	―

工業の「教科及び教科の指導法に関する科目」
工業の関連科目

別表第２－①

情報通信工学科　高（工業教育コース）

	開設年次	授業科目名	単位	履修条件
情報通信工学科工業教育コース科目	1年次	電気回路入門	2	必修
	2年次	センサ工学	2	必修
		熱と流れの力学	2	選択
		インテリジェントデバイス入門	2	必修
		情報工学実験	1	必修
		通信システム	2	選択
		データサイエンス入門	2	選択
		工業科指導法 Ⅰ	2	必修
		工業科指導法 Ⅱ	2	必修
		電磁気学	2	選択
		インターフェース工学	2	選択
	3年次	コミュニケーションロボット工学	2	選択
		インテリジェントデバイス実験　Ⅰ	1	必修
		通信工学	2	選択
		応用電子物性	2	選択
		エネルギー工学	2	選択
		ロボットプログラミング	2	選択
		インテリジェントデバイス実験 Ⅱ	2	選択
		情報理論	2	選択
		スマートエネルギー	2	必修
		職業指導（工業） Ⅰ	2	必修
		職業指導（工業） Ⅱ	2	選択
	4年次	インテリジェントデバイス実験 Ⅲ	2	選択
	計（23科目）		44	―
情報通信工学科工業教育コース関連科目	1年次	チャンピオンシップ	1	必修
		工学基礎演習	1	選択
		数学演習 Ⅰ	2	選択
		数学演習 Ⅱ	2	選択
		コミュニケーション科学の世界	2	必修
		情報システム入門	2	選択
		ロボットプロジェクト A	1	選択
		ロボット入門	1	選択
	2年次	工学倫理	1	必修
		基礎物理学実験	2	選択
		認知科学	2	選択
		ロボットプロジェクト B	1	選択
	3年次	ブレインサイエンス	2	選択
		インターンシップ Ⅰ	1	選択
		インターンシップ Ⅱ	1	選択
		インターンシップ Ⅲ	1	選択
		インターンシップ Ⅳ	1	選択
	4年次	人工知能	4	選択
		ブレインソフトウェア	2	選択
	計（19科目）		30	―

工業の「教科及び教科の指導法に関する科目」
工業の関連科目

	開設年次	授業科目名	単位	履修条件
情報通信工学科工業教育コース以外の科目	1年次	代数学 Ⅰ	2	必修
		解析学 Ⅰ	2	必修
		物理学 Ⅰ	2	選択
		プログラミング　Ⅰ	2	必修
	2年次	プログラミング Ⅱ	2	選択
		解析学 Ⅱ	2	選択
		技術英語 Ⅰ	2	選択
		技術英語 Ⅱ	2	選択
		確率統計学 Ⅰ	2	選択
		フーリエ解析	2	選択
		サイエンスイングリッシュ	4	選択
		数学科指導法 Ⅰ	2	選択
		数学科指導法 Ⅱ	2	選択
		微分方程式 Ⅰ	2	選択
		複素解析 Ⅰ	2	選択
		確率統計学 Ⅱ	2	選択
		微分方程式 Ⅱ	2	選択
		幾何学 Ⅰ	2	選択
	3年次	キャリアデザイン	2	選択
		数値解析プログラミング	2	選択
		データサイエンス Ⅰ	2	選択
		工学応用演習	1	選択
		データサイエンス Ⅱ	2	選択
		レーダ工学	2	選択
		生体情報工学	2	選択
		複素解析 Ⅱ	2	選択
		代数学 Ⅱ	2	選択
		数学科指導法 Ⅲ	2	選択
		数学科指導法 Ⅳ	2	選択
	4年次	卒業プロジェクト	4	必修
		研究室セミナー	2	選択
		量子セキュリティ	2	選択
		ビッグデータ解析	2	選択
		幾何学 Ⅱ	2	選択
		光通信工学	4	選択
	計（35科目）		75	―

数学の「教科及び教科の指導法に関する科目」
数学の関連科目

別表第２－①

情報通信工学科科目（数学教育コース・工業教育コースを除く）

	開設年次	授業科目名	単位	履修条件
情報通信工学科科目（数学教育コース・工業教育コースを除く）	1年次	チャンピオンシップ	1	必修
		工学基礎演習	1	選択
		代数学 Ⅰ	2	必修
		解析学 Ⅰ	2	必修
		数学演習 Ⅰ	2	選択
		数学演習 Ⅱ	2	選択
		物理学 Ⅰ	2	選択
		コミュニケーション科学の世界	2	必修
		プログラミング　Ⅰ	2	必修
		情報システム入門	2	選択
		電気回路入門	2	必修
		ロボットプロジェクト　A	1	選択
		ロボット入門	1	選択
	小計（13科目）		22	—
	2年次	プログラミング Ⅱ	2	選択
		解析学 Ⅱ	2	選択
		技術英語 Ⅰ	2	選択
		技術英語 Ⅱ	2	選択
		センサ工学	2	必修
		確率統計学 Ⅰ	2	選択
		工学倫理	1	必修
		熱と流れの力学	2	選択
		インテリジェントデバイス入門	2	必修
		情報工学実験	1	必修
		基礎物理学実験	2	選択
		通信システム	2	選択
		フーリエ解析	2	選択
		データサイエンス入門	2	選択
		認知科学	2	選択
		工業科指導法 Ⅰ	-	—
		工業科指導法 Ⅱ	-	—
		サイエンスイングリッシュ	4	選択
		数学科指導法 Ⅰ	-	—
		数学科指導法 Ⅱ	-	—
		微分方程式 Ⅰ	2	選択
		複素解析 Ⅰ	2	選択
		確率統計学 Ⅱ	2	選択
		微分方程式 Ⅱ	2	選択
		電磁気学	2	選択
		幾何学 Ⅰ	2	選択
		インターフェース工学	2	選択
		ロボットプロジェクト B	1	選択
	小計（28科目）		47	—

	開設年次	授業科目名	単位	履修条件
情報通信工学科科目（数学教育コース・工業教育コースを除く）	3年次	キャリアデザイン	2	選択
		数値解析プログラミング	2	選択
		コミュニケーションロボット工学	2	選択
		ブレインサイエンス	2	選択
		インテリジェントデバイス実験　Ⅰ	1	必修
		通信工学	2	選択
		応用電子物性	2	選択
		データサイエンス　Ⅰ	2	選択
		エネルギー工学	2	選択
		工学応用演習	1	選択
		インターンシップ Ⅰ	1	選択
		インターンシップ Ⅱ	1	選択
		インターンシップ Ⅲ	1	選択
		インターンシップ Ⅳ	1	選択
		ロボットプログラミング	2	選択
		インテリジェントデバイス実験 Ⅱ	2	選択
		情報理論	2	選択
		データサイエンス Ⅱ	2	選択
		スマートエネルギー	2	選択
		レーダ工学	2	選択
		生体情報工学	2	選択
		職業指導（工業） Ⅰ	-	—
		職業指導（工業） Ⅱ	-	—
		複素解析 Ⅱ	2	選択
		代数学 Ⅱ	2	選択
		数学科指導法 Ⅲ	-	—
		数学科指導法 Ⅳ	-	—
	小計（27科目）		40	—
	4年次	人工知能	4	選択
		インテリジェントデバイス実験 Ⅲ	2	選択
		卒業プロジェクト	4	必修
		研究室セミナー	2	選択
		量子セキュリティ	2	選択
		ブレインソフトウェア	2	選択
		ビッグデータ解析	2	選択
		幾何学 Ⅱ	2	選択
		光通信工学	4	選択
	小計（9科目）		24	—

別表第２－①

ソフトウェアサイエンス学科科目

授業科目名	単位	履修条件	卒業要件
工学基礎演習	1	選択	
数学演習	2	選択	
物理学 Ⅰ	2	選択	
技術英語	2	選択	
工学基礎 Ⅰ	2	選択	
プログラミング Ⅰ	2	必修	
代数学 Ⅰ	2	必修	
解析学 Ⅰ	2	必修	
デジタルシチズンシップ	2	必修	
プログラミング Ⅱ	2	必修	
離散数学	2	選択	
解析学 Ⅱ	2	選択	
経営情報分析	2	選択	
情報処理技術	2	選択	
論理回路	2	選択	
回路基礎	2	選択	
微分方程式 Ⅰ	2	選択	
確率統計学 Ⅰ	2	選択	
工学基礎 Ⅱ	2	選択	
フーリエ解析	2	選択	
シグナルプロセッシング	2	選択	
ネットワーク技術 Ⅰ	2	必修	
ゲーム企画開発論	2	選択	
アルゴリズムとデータ構造	2	選択	
コンピュータグラフィックス	2	選択	
情報システム	2	選択	
データ通信	2	選択	
ビジネスゲーム	2	選択	
微分方程式 Ⅱ	2	選択	
確率統計学 Ⅱ	2	選択	
幾何学 Ⅰ	2	選択	
数学科指導法 Ⅰ	2	選択	
情報科指導法 Ⅰ	2	選択	
数学科指導法 Ⅱ	2	選択	
情報科指導法 Ⅱ	2	選択	
複素解析 Ⅰ	2	選択	
システムプログラミング	2	選択	
コンピュータアーキテクチャ	2	選択	
オペレーティングシステム	2	選択	
ユーザインタフェースデザイン	2	選択	
ネットワークプログラミング	2	選択	
データベース	2	選択	
ネットワーク技術 Ⅱ	2	選択	
セキュアプログラミング	2	選択	
情報セキュリティマネジメント	2	選択	

授業科目名	単位	履修条件	卒業要件
代数学 Ⅱ	2	選択	
企業講義	2	選択	
モバイルシステム総合研究	2	選択	
イメージプロセッシング	2	選択	
ゲームアニメーションプログラミング	2	選択	
マルチメディア処理	2	選択	
モバイルシステムサービス	2	選択	
プロジェクト研究 A	2	選択	
プロジェクト研究 B	2	選択	
ソフトウェアサイエンス実験	2	必修	
インターンシップ Ⅰ	1	選択	
インターンシップ Ⅱ	1	選択	
インターンシップ Ⅲ	1	選択	
インターンシップ Ⅳ	1	選択	
アルゴリズム応用	2	選択	
複素解析 Ⅱ	2	選択	
数学科指導法 Ⅲ	2	選択	
数学科指導法 Ⅳ	2	選択	
情報セキュリティ	2	選択	
ソフトウェア工学	2	選択	
数値解析プログラミング	2	選択	
情報理論	2	選択	
幾何学 Ⅱ	2	選択	
輪講 A	2	選択	
輪講 B	2	選択	
卒業研究	4	必修	
ブレインソフトウェア	2	選択	

※履修方法の詳細は学生要覧による

別表第２－①

ソフトウェアサイエンス学科　中・高（数学教育コース）

	開設年次	授業科目名	単位	履修条件
ソフトウェアサイエンス学科数学教育コース科目	1年次	プログラミング Ⅰ	2	必修
		代数学 Ⅰ	2	必修
		解析学 Ⅰ	2	必修
		プログラミング Ⅱ	2	必修
	2年次	解析学 Ⅱ	2	選択
		微分方程式 Ⅰ	2	選択
		確率統計学 Ⅰ	2	必修
		フーリエ解析	2	選択
		アルゴリズムとデータ構造	2	選択
		微分方程式 Ⅱ	2	選択
		確率統計学 Ⅱ	2	選択
		幾何学 Ⅰ	2	必修
		数学科指導法 Ⅰ	2	必修
		数学科指導法 Ⅱ	2	必修
		複素解析 Ⅰ	2	選択
	3年次	代数学 Ⅱ	2	選択
		複素解析 Ⅱ	2	選択
		数学科指導法 Ⅲ	2	必修
		数学科指導法 Ⅳ	2	必修
	4年次	数値解析プログラミング	2	選択
		幾何学 Ⅱ	2	選択
	計（21科目）		42	―
ソフトウェアサイエンス学科数学教育コース関連科目	1年次	工学基礎 Ⅰ	2	選択
		離散数学	2	選択
	2年次	経営情報分析	2	選択
		回路基礎	2	選択
		工学基礎 Ⅱ	2	選択
		シグナルプロセッシング	2	選択
		ビジネスゲーム	2	選択
	3年次	インターンシップ Ⅰ	1	選択
		インターンシップ Ⅱ	1	選択
		インターンシップ Ⅲ	1	選択
		インターンシップ Ⅳ	1	選択
		アルゴリズム応用	2	選択
	4年次	情報理論	2	選択
	計（13科目）		20	―

数学の「教科及び教科の指導法に関する科目」

数学の関連科目

	開設年次	授業科目名	単位	履修条件
ソフトウェアサイエンス学科数学教育コース以外の科目	1年次	工学基礎演習	1	選択
		数学演習	2	選択
		物理学Ⅰ	2	選択
		技術英語	2	選択
		デジタルシチズンシップ	2	必修
	2年次	情報処理技術	2	選択
		論理回路	2	選択
		ネットワーク技術 Ⅰ	2	必修
		ゲーム企画開発論	2	選択
		コンピュータグラフィックス	2	選択
		情報システム	2	選択
		データ通信	2	選択
		オペレーティングシステム	2	選択
		情報科指導法 Ⅰ	2	選択
		情報科指導法 Ⅱ	2	選択
		システムプログラミング	2	選択
		コンピュータアーキテクチャ	2	選択
	3年次	ユーザインタフェースデザイン	2	選択
		ネットワークプログラミング	2	選択
		データベース	2	選択
		ネットワーク技術 Ⅱ	2	選択
		セキュアプログラミング	2	選択
		情報セキュリティマネジメント	2	選択
		企業講義	2	選択
		モバイルシステム総合研究	2	選択
		イメージプロセッシング	2	選択
		ゲームアニメーションプログラミング	2	選択
		マルチメディア処理	2	選択
		モバイルシステムサービス	2	選択
		プロジェクト研究 A	2	選択
		プロジェクト研究 B	2	選択
		ソフトウェアサイエンス実験	2	必修
		情報セキュリティ	2	選択
		ソフトウェア工学	2	選択
	4年次	輪講 A	2	選択
		輪講 B	2	選択
		卒業研究	4	必修
		ブレインソフトウェア	2	選択
	計（38科目）		77	―

情報の「教科及び教科の指導法に関する科目」

情報の関連科目

別表第２－①

ソフトウェアサイエンス学科　高（情報教育コース）

	開設年次	授業科目名	単位	履修条件
ソフトウェアサイエンス学科情報教育コース科目	1年次	デジタルシチズンシップ	2	必修
	2年次	情報処理技術	2	必修
		論理回路	2	選択
		ネットワーク技術 Ⅰ	2	必修
		コンピュータグラフィックス	2	選択
		情報システム	2	必修
		データ通信	2	選択
		情報科指導法 Ⅰ	2	必修
		情報科指導法 Ⅱ	2	必修
	3年次	オペレーティングシステム	2	選択
		データベース	2	必修
		ネットワーク技術 Ⅱ	2	選択
		イメージプロセッシング	2	選択
		マルチメディア処理	2	必修
		ソフトウェアサイエンス実験	2	必修
		情報セキュリティ	2	選択
	計（16科目）		32	—
ソフトウェアサイエンス学科情報教育コース関連科目	2年次	ゲーム企画開発論	2	選択
		システムプログラミング	2	選択
		コンピュータアーキテクチャ	2	選択
	3年次	ユーザインタフェースデザイン	2	選択
		ネットワークプログラミング	2	選択
		モバイルシステム総合研究	2	選択
		ゲームアニメーションプログラミング	2	選択
		モバイルシステムサービス	2	選択
		インターンシップ Ⅰ	1	選択
		インターンシップ Ⅱ	1	選択
		インターンシップ Ⅲ	1	選択
		インターンシップ Ⅳ	1	選択
		ソフトウェア工学	2	選択
	4年次	ブレインソフトウェア	2	選択
	計（14科目）		24	—

情報の「教科及び教科の指導法に関する科目」
情報の関連科目

	開設年次	授業科目名	単位	履修条件
ソフトウェアサイエンス学科情報教育コース以外の科目	1年次	工学基礎演習	1	選択
		数学演習	2	選択
		物理学 Ⅰ	2	選択
		技術英語	2	選択
		工学基礎 Ⅰ	2	選択
		プログラミング Ⅰ	2	必修
		代数学 Ⅰ	2	必修
		解析学 Ⅰ	2	必修
		プログラミング Ⅱ	2	必修
		離散数学	2	選択
	2年次	解析学 Ⅱ	2	選択
		経営情報分析	2	選択
		回路基礎	2	選択
		微分方程式 Ⅰ	2	選択
		確率統計学 Ⅰ	2	選択
		工学基礎 Ⅱ	2	選択
		フーリエ解析	2	選択
		シグナルプロセッシング	2	選択
		アルゴリズムとデータ構造	2	選択
		ビジネスゲーム	2	選択
		微分方程式 Ⅱ	2	選択
		確率統計学 Ⅱ	2	選択
		幾何学 Ⅰ	2	選択
		数学科指導法 Ⅰ	2	選択
		数学科指導法 Ⅱ	2	選択
		複素解析 Ⅰ	2	選択
	3年次	セキュアプログラミング	2	選択
		情報セキュリティマネジメント	2	選択
		代数学 Ⅱ	2	選択
		企業講義	2	選択
		プロジェクト研究 A	2	選択
		プロジェクト研究 B	2	選択
		アルゴリズム応用	2	選択
		複素解析 Ⅱ	2	選択
		数学科指導法 Ⅲ	2	選択
		数学科指導法 Ⅳ	2	選択
	4年次	数値解析プログラミング	2	選択
		情報理論	2	選択
		幾何学 Ⅱ	2	選択
		輪講 A	2	選択
		輪講 B	2	選択
		卒業研究	4	必修
	計（42科目）		85	—

数学の「教科及び教科の指導法に関する科目」
数学の関連科目

別表第２－①

ソフトウェアサイエンス学科科目
（数学教育コース・情報教育コースを除く）

	開設年次	授業科目名	単位	履修条件
ソフトウェアサイエンス学科科目（数学教育コース・情報教育コースを除く）	1年次	工学基礎演習	1	選択
		数学演習	2	選択
		物理学 Ⅰ	2	選択
		技術英語	2	選択
		工学基礎 Ⅰ	2	選択
		プログラミング Ⅰ	2	必修
		代数学 Ⅰ	2	必修
		解析学 Ⅰ	2	必修
		デジタルシチズンシップ	2	必修
		経営情報分析	2	選択
		プログラミング Ⅱ	2	必修
		離散数学	2	選択
	小計（12科目）		23	―
	2年次	解析学 Ⅱ	2	選択
		情報処理技術	2	選択
		論理回路	2	選択
		回路基礎	2	選択
		微分方程式 Ⅰ	2	選択
		確率統計学 Ⅰ	2	選択
		工学基礎 Ⅱ	2	選択
		フーリエ解析	2	選択
		シグナルプロセッシング	2	選択
		ネットワーク技術 Ⅰ	2	必修
		ゲーム企画開発論	2	選択
		アルゴリズムとデータ構造	2	選択
		コンピュータグラフィックス	2	選択
		情報システム	2	選択
		データ通信	2	選択
		ビジネスゲーム	2	選択
		微分方程式 Ⅱ	2	選択
		確率統計学 Ⅱ	2	選択
		幾何学 Ⅰ	2	選択
		数学科指導法 Ⅰ	-	―
		情報科指導法 Ⅰ	-	―
		数学科指導法 Ⅱ	-	―
		情報科指導法 Ⅱ	-	―
		複素解析 Ⅰ	2	選択
		システムプログラミング	2	選択
		コンピュータアーキテクチャ	2	選択
		オペレーティングシステム	2	選択
	小計（27科目）		46	―

	開設年次	授業科目名	単位	履修条件
ソフトウェアサイエンス学科科目（数学教育コース・情報教育コースを除く）	3年次	ユーザインタフェースデザイン	2	選択
		ネットワークプログラミング	2	選択
		データベース	2	選択
		ネットワーク技術 Ⅱ	2	選択
		代数学 Ⅱ	2	選択
		企業講義	2	選択
		モバイルシステム総合研究	2	選択
		イメージプロセッシング	2	選択
		ゲームアニメーションプログラミング	2	選択
		マルチメディア処理	2	選択
		モバイルシステムサービス	2	選択
		プロジェクト研究 A	2	選択
		プロジェクト研究 B	2	選択
		ソフトウェアサイエンス実験	2	必修
		インターンシップ Ⅰ	1	選択
		インターンシップ Ⅱ	1	選択
		インターンシップ Ⅲ	1	選択
		インターンシップ Ⅳ	1	選択
		アルゴリズム応用	2	選択
		複素解析 Ⅱ	2	選択
		数学科指導法 Ⅲ	-	―
		数学科指導法 Ⅳ	-	―
		情報セキュリティ	2	選択
	小計（23科目）		38	―
	4年次	数値解析プログラミング	2	選択
		情報理論	2	選択
		幾何学 Ⅱ	2	選択
		輪講 A	2	選択
		輪講 B	2	選択
		卒業研究	4	必修
		ブレインソフトウェア	2	選択
	小計（7科目）		16	―

別表第２－①

マネジメントサイエンス学科科目

授業科目名	単位	履修条件	卒業要件
技術英語	2	選択	
プログラミング Ⅰ	2	選択	
キャリアデザイン	2	必修	
代数学 Ⅰ	2	必修	
解析学 Ⅰ	2	必修	
数学演習 Ⅰ	2	選択	
数学演習 Ⅱ	2	選択	
物理学 Ⅰ	2	選択	
デジタルシチズンシップ	2	必修	
プログラミング Ⅱ	2	選択	
解析学 Ⅱ	2	選択	
プロジェクトマネジメント	2	選択	
消費生活科学	2	選択	
微分方程式 Ⅰ	2	選択	
確率統計学 Ⅰ	2	選択	
マーケティング論	2	選択	
経営情報処理	2	必修	
データサイエンス基礎演習	2	選択	
原価計算	2	選択	
人間工学	2	選択	
確率統計学 Ⅱ	2	選択	
幾何学 Ⅰ	2	選択	
微分方程式 Ⅱ	2	選択	
複素解析 Ⅰ	2	選択	
数学科指導法 Ⅰ	2	選択	
数学科指導法 Ⅱ	2	選択	
数値解析プログラミング	2	選択	
チームマネジメント	2	選択	
生産管理	2	選択	
統計的方法	2	選択	
サービスマネジメント	2	選択	
サービスイノベーション	2	選択	
ビジネスコンテンツ	2	必修	
キャリアとコミュニケーション	2	選択	
代数学 Ⅱ	2	選択	
コストマネジメント	2	選択	
ベクトル解析	2	選択	
マネジメントサイエンスセミナー A	2	必修	
外書探究	2	選択	
マネジメント事例研究 Ⅰ	2	必修	
マネジメントサイエンスセミナー B	2	選択	
複素解析 Ⅱ	2	選択	
代数学 Ⅲ	2	選択	
管理会計	2	選択	
品質管理	2	選択	

授業科目名	単位	履修条件	卒業要件
インターンシップ Ⅰ	1	選択	
インターンシップ Ⅱ	1	選択	
インターンシップ Ⅲ	1	選択	
経済性分析	2	選択	
オペレーションズリサーチ	2	選択	
経営戦略マネジメント	2	選択	
数学科指導法 Ⅲ	2	選択	
数学科指導法 Ⅳ	2	選択	
ファイナンス	2	選択	
計量経済学	2	選択	
情報分析論	2	選択	
社会モデル	2	選択	
幾何学 Ⅱ	2	選択	
ユニバーサルデザイン	2	選択	
マネジメント事例研究 Ⅱ	2	必修	
幾何学 Ⅲ	2	選択	
製品開発実践論	2	選択	
意思決定論	2	選択	
最適化システム	2	選択	
卒業プロジェクト	4	選択	

※履修方法の詳細は学生要覧による

別表第２－①

エンジニアリングデザイン学科科目

授業科目名	単位	履修条件	卒業要件
導入ゼミ	2	必修	
工学基礎演習	1	選択	
工学基礎	2	選択	
数学演習	2	選択	
物理学 Ⅰ	2	選択	
解析学 Ⅰ	2	必修	
代数学 Ⅰ	2	必修	
プログラミング Ⅰ	2	選択	
プログラミング Ⅱ	2	選択	
デジタルシチズンシップ	2	必修	
解析学 Ⅱ	2	選択	
物理学 ⅡA	2	選択	
物理学 ⅡB	2	選択	
微分方程式 Ⅰ	2	選択	
確率統計学 Ⅰ	2	選択	
伝統文化と異文化理解	2	選択	
ファブラボ実験	1	必修	
スケッチと製図	1	必修	
機構学	2	選択	
材料力学	2	必修	
微分方程式 Ⅱ	2	選択	
原価計算	2	選択	
確率統計学 Ⅱ	2	選択	
数値解析プログラミング	2	選択	
化学と工学	2	選択	
電気回路基礎	2	選択	
人間工学	2	選択	
デジタルファブリケーション入門	2	選択	
デジタルファブリケーション	2	選択	
製品製造失敗学	2	選択	
設計製図	1	必修	
自然科学実験	1	選択	
工作実習	1	選択	
機械力学	2	選択	
流体力学	2	選択	
デザイン思考	2	選択	
管理技法	2	選択	
キャリアデザイン	2	必修	
材料と加工	2	選択	
リスクマネジメント	2	選択	
デジタルファブリケーション実習	1	必修	
メカトロニクス	2	選択	
機械要素設計	2	選択	
インターンシップ Ⅰ	1	選択	
インターンシップ Ⅱ	1	選択	

授業科目名	単位	履修条件	卒業要件
インターンシップ Ⅲ	1	選択	
インターンシップ Ⅳ	1	選択	
海外研修	2	選択	
エンジニアリングデザインセミナー Ⅰ	2	必修	
エンジニアリングデザイン演習	1	選択	
ユニバーサルデザイン	2	選択	
知的財産権の基礎	2	選択	
バイオミメティクス	2	選択	
工業デザイン	2	選択	
モデリングとシミュレーション	2	選択	
価値分析	2	選択	
エンジニアリングデザインセミナー Ⅱ	2	必修	
卒業研究	4	必修	
デジタル生産加工	2	選択	
経営戦略	2	選択	

※履修方法の詳細は学生要覧による

国際経営学科科目

授業科目名	単位	履修条件	卒業要件
マクロ経済学	2	必修	
ミクロ経済学	2	必修	
ESS A	1	必修	
ESS B	2	必修	
基礎数学	2	必修	
経営統計学	2	必修	
Intercultural Studies	2	必修	
企業論	2	必修	
基礎ファイナンス	2	必修	
Business English A	4	必修	
Business English B	4	必修	
専門基礎ゼミナール A	2	必修	
専門基礎ゼミナール B	2	必修	
企業倫理	2	必修	
国際会計基礎	4	選択	
マーケティング戦略	4	選択	
EPS A	2	必修	
EPS B	2	必修	
環境経営	2	選択	
人的資源管理	2	選択	
中小企業経営論	2	選択	
Strategic Management	4	選択	
経営塾	4	選択	
Global Business Studies	4	選択	
グローバルビジネスゼミナール A	2	選択	
グローバルビジネスゼミナール B	2	選択	
財務会計論	4	選択	
国際会計理論	4	選択	
国際会計ゼミナール A	2	選択	
国際会計ゼミナール B	2	選択	
パーソナル・ファイナンス	4	選択	
消費者行動論	4	選択	
販売管理・流通	4	選択	
マーケティング・リサーチ	4	選択	
マーケティングゼミナール A	2	選択	
マーケティングゼミナール B	2	選択	
経営法務	4	必修	
コーポレート・ファイナンス	4	選択	
Global Case Studies	4	選択	
グローバルビジネスゼミナール C	2	選択	
グローバルビジネスゼミナール D	2	選択	
管理会計論	4	選択	
国際会計ゼミナール C	2	選択	
国際会計ゼミナール D	2	選択	
Marketing Communication	4	選択	

授業科目名	単位	履修条件	卒業要件
New Product Management	4	選択	
マーケティングゼミナール C	2	選択	
マーケティングゼミナール D	2	選択	

※履修方法の詳細は学生要覧による

別表第２－①

教育学科科目

授業科目名	単位	履修条件	卒業要件
教育学概論	2	必修	
教職概論	2	必修	
教育の制度と経営	2	選択	
教育原理	2	選択	
学習・発達論	2	選択	
教育哲学	2	選択	
教育心理学	2	選択	
教育方法学	2	選択	
教育社会学	2	選択	
発達心理学	2	選択	
生涯学習概論	2	選択	
教育の方法と技術	2	選択	
国語	2	選択	
算数	2	選択	
理科	2	選択	
社会	2	選択	
家庭	2	選択	
生活	2	選択	
音楽	2	選択	
図工	2	選択	
体育　（幼・小）	2	選択	
外国語（英語）	2	選択	
保育内容総論	2	選択	
教育インターンシップ（幼）　A	2	選択	
教育インターンシップ（幼）　B	2	選択	
教育インターンシップ（幼）　C	1	選択	
教育インターンシップ（幼）　D	1	選択	
文化人類学	2	選択	
民俗学入門	2	選択	
社会学	2	選択	
経済学　（国際経済を含む。）	2	選択	
ボランティア概論	2	選択	
比較文化論	2	選択	
世界の宗教と文化	2	選択	
市民社会と法	2	選択	
日本史概論	2	選択	
体育実技　（体操）	1	選択	
体育実技　（陸上）	1	選択	
体育実技　（スキー）	1	選択	
図書館情報資源概論	2	選択	
図書館情報資源特論	1	選択	
全人教育実践演習 A	2	必修	
全人教育実践演習 B	2	必修	
教育課程編成論	2	選択	
道徳教育の理論と方法	2	選択	
総合的な学習の時間の理論と方法	1	選択	
特別活動の理論と方法	1	選択	
生徒・進路指導の理論と方法	2	選択	
教育相談の理論と方法	2	選択	

授業科目名	単位	履修条件	卒業要件
幼児理解と教育相談	2	選択	
幼児教育課程論	2	選択	
幼児指導論	2	選択	
保育内容指導法　（健康）	2	選択	
保育内容指導法　（人間関係）	2	選択	
保育内容指導法　（環境）	2	選択	
保育内容指導法　（言葉）	2	選択	
保育内容指導法　（表現）	2	選択	
国語科指導法	2	選択	
社会科指導法	2	選択	
算数科指導法	2	選択	
理科指導法	2	選択	
生活科指導法	2	選択	
音楽科指導法	2	選択	
家庭科指導法	2	選択	
図工科指導法	2	選択	
体育科指導法	2	選択	
外国語（英語）指導法	2	選択	
日本史各論 A	2	選択	
日本史各論 B	2	選択	
外国史概論	2	選択	
外国史各論 A	2	選択	
外国史各論 B	2	選択	
西洋文化史	2	選択	
東洋文化史	2	選択	
地理学概論	2	選択	
観光地誌論	2	選択	
政治学　（国際政治を含む。）	2	選択	
西洋哲学思想史	2	選択	
東洋思想史	2	選択	
地球科学	2	選択	
宇宙科学	2	選択	
体育実技　（水泳）	1	選択	
体育実技　（ダンス）	1	選択	
体育実技　（球技 A）	1	選択	
体育原理	2	選択	
体育社会学	2	選択	
体育測定評価	2	選択	
生理学　（運動生理学を含む。）	2	選択	
衛生学	2	選択	
公衆衛生学	2	選択	
学校保健	2	選択	
保健体育科指導法　Ⅰ	2	選択	
保健体育科指導法　Ⅱ	2	選択	
博物館概論	2	選択	
博物館資料論	2	選択	
博物館教育論	2	選択	
現代教育研究　Ⅰ	2	必修	
現代教育研究　Ⅱ	2	必修	

別表第２－①

教育学科科目

授業科目名	単位	履修条件	卒業要件
特別支援教育	1	必修	
臨床心理学	2	選択	
日本の伝統文化と歴史	2	選択	
日本と外国の歴史	2	選択	
歴史資料情報論	2	選択	
人文地理学	2	選択	
自然地理学	2	選択	
地理情報論	2	選択	
地誌学概論	2	選択	
世界の教育と文化環境	2	選択	
現代社会の教育課題	2	選択	
ＩＣＴ利活用の授業実践	2	選択	
法律学　（国際法を含む。）	2	選択	
社会科・公民科指導法　Ⅰ	2	選択	
社会科・公民科指導法　Ⅱ	2	選択	
社会科・地理歴史科指導法　Ⅰ	2	選択	
社会科・地理歴史科指導法　Ⅱ	2	選択	
保健体育科指導法 Ⅲ	2	選択	
保健体育科指導法 Ⅳ	2	選択	
運動部活動の指導法	2	選択	
体育実技　（球技 B）	1	選択	
体育実技　（武道）	1	選択	
体育心理学	2	選択	
体育経営管理学	2	選択	
運動学　（運動方法学を含む。）	2	選択	
栄養学	2	選択	
病理学	2	選択	
教育実習　（幼稚園）	5	選択	
教育実習　（小学校）	5	選択	
教育実習　（中学校）	5	選択	
教育実習　（高等学校）	3	選択	
教育実習　（副・幼稚園）	3	選択	
教育実習　（副・小学校）	3	選択	
教育実習　（副・中学校）	3	選択	
学習指導と学校図書館	2	選択	
卒業課題研究　Ⅰ	2	必修	
卒業課題研究 Ⅱ	2	必修	
教職実践演習　（幼）	2	選択	
教職実践演習　（小）	2	選択	
教職実践演習　（中・高）	2	選択	

※履修方法の詳細は学生要覧による

教育学科（幼稚園教育コース）

	開設年次	授業科目名	単位	履修条件
幼稚園教育コース科目	1年次	教育学概論	2	必修
		教職概論	2	必修
		教育の制度と経営	2	必修
		教育の方法と技術	2	必修
		保育内容総論	2	必修
		教育哲学	2	選択
		教育心理学	2	選択
		教育方法学	2	選択
		教育社会学	2	選択
		発達心理学	2	選択
		生涯学習概論	2	選択
		国語	2	選択
		算数	2	選択
		音楽	2	選択
		図工	2	選択
		体育（幼･小）	2	選択
		教育インターンシップ（幼） A	2	選択
		教育インターンシップ（幼） B	2	選択
		教育インターンシップ（幼） C	1	選択
		教育インターンシップ（幼） D	1	選択
	2年次	教育原理	2	必修
		学習･発達論	2	必修
		幼児理解と教育相談	2	必修
		幼児教育課程論	2	必修
		幼児指導論	2	必修
		保育内容指導法（健康）	2	必修
		保育内容指導法（人間関係）	2	必修
		保育内容指導法（環境）	2	必修
		保育内容指導法（言葉）	2	必修
		保育内容指導法（表現）	2	必修
	3年次	特別支援教育	1	必修
		教育実習（幼稚園）	5	必修
		教育実習（副･幼稚園）	3	必修
		道徳教育の理論と方法	2	選択
	4年次	教職実践演習（幼）	2	必修
	小計(35科目)		71	

	開設年次	授業科目名		単位	履修条件
幼稚園教育コース以外の科目	1年次	理科	●	2	選択
		社会	●	2	選択
		家庭	●	2	選択
		生活	●	2	選択
		外国語（英語）	●	2	選択
		文化人類学	□	2	選択
		民俗学入門	◆□	2	選択
		社会学	◆▲	2	選択
		経済学（国際経済を含む。）	◆▲	2	選択
		ボランティア概論	◆▲	2	選択
		比較文化論	□	2	選択
		世界の宗教と文化	□	2	選択
		市民社会と法	□	2	選択
		日本史概論	◆□	2	選択
		体育実技（体操）	▼	1	選択
		体育実技（陸上）	▼	1	選択
		体育実技（スキー）	▼	1	選択
		図書館情報資源概論	□	2	選択
		図書館情報資源特論	□	1	選択
	2年次	全人教育実践演習 A		2	必修
		全人教育実践演習 B		2	必修
		総合的な学習の時間の理論と方法	●◆▼▲□	1	選択
		特別活動の理論と方法	●◆▼▲□	1	選択
		国語科指導法	●	2	選択
		社会科指導法	●	2	選択
		算数科指導法	●	2	選択
		理科指導法	●	2	選択
		生活科指導法	●	2	選択
		音楽科指導法	●	2	選択
		家庭科指導法	●	2	選択
		図工科指導法	●	2	選択
		体育科指導法	●	2	選択
		外国語（英語）指導法	●	2	選択
		日本史各論 A	□	2	選択
		日本史各論 B	□	2	選択
		外国史概論	◆□	2	選択
		外国史各論A	□	2	選択
		外国史各論B	□	2	選択
		西洋文化史	□	2	選択
		東洋文化史	□	2	選択
		地理学概論	◆□	2	選択

幼稚園の「領域及び保育の指導法に関する科目」
幼稚園の「教育の基礎的理解に関する科目」

● 小学校　□地理歴史　▼保健体育
◆ 社会　▲公民

教育学科（幼稚園教育コース）

	開設年次	授業科目名		単位	履修条件
幼稚園教育コース以外の科目	2年次	観光地誌論	□	2	選択
		政治学（国際政治を含む。）	◆▲	2	選択
		西洋哲学思想史	◆▲	2	選択
		東洋思想史	◆▲	2	選択
		地球科学	□	2	選択
		宇宙科学	□	2	選択
		体育実技（水泳）	▼	1	選択
		体育実技（ダンス）	▼	1	選択
		体育実技（球技 A）	▼	1	選択
		体育原理	▼	2	選択
		体育社会学	▼	2	選択
		体育測定評価		2	選択
		生理学（運動生理学を含む。）	▼	2	選択
		衛生学	▼	2	選択
		公衆衛生学	▼	2	選択
		学校保健	▼	2	選択
		保健体育科指導法 Ⅰ	▼	2	選択
		保健体育科指導法 Ⅱ	▼	2	選択
		博物館概論	□	2	選択
		博物館資料論	□	2	選択
		博物館教育論	□	2	選択
	3年次	現代教育研究 Ⅰ		2	必修
		現代教育研究 Ⅱ		2	必修
		教育課程編成論	●◆▼▲□	2	選択
		生徒･進路指導の理論と方法	●◆▼▲□	2	選択
		教育相談の理論と方法	●◆▼▲□	2	選択
		臨床心理学		2	選択
		日本の伝統文化と歴史	□	2	選択
		日本と外国の歴史	◆□	2	選択
		歴史資料情報論	□	2	選択
		人文地理学	□	2	選択
		自然地理学	□	2	選択
		地理情報論	□	2	選択
		地誌学概論	◆□	2	選択
		世界の教育と文化環境	□	2	選択
		現代社会の教育課題		2	選択
		ＩＣＴ利活用の授業実践		2	選択
		法律学（国際法を含む。）	◆▲	2	選択
		社会科・公民科指導法 Ⅰ	◆▲	2	選択
		社会科・公民科指導法 Ⅱ	◆▲	2	選択
		社会科・地理歴史科指導法 Ⅰ	◆□	2	選択
		社会科・地理歴史科指導法 Ⅱ	◆□	2	選択
		保健体育科指導法 Ⅲ	▼	2	選択
		保健体育科指導法 Ⅳ	▼	2	選択

	開設年次	授業科目名		単位	履修条件
幼稚園教育コース以外の科目	3年次	運動部活動の指導法	▼	2	選択
		体育実技（球技 B）	▼	1	選択
		体育実技（武道）	▼	1	選択
		体育心理学	▼	2	選択
		体育経営管理学	▼	2	選択
		運動学（運動方法学を含む。）	▼	2	選択
		栄養学	▼	2	選択
		病理学	▼	2	選択
		教育実習（小学校）	●	5	—
		教育実習（中学校）	◆▼	5	—
		教育実習（高等学校）	▼▲□	3	—
		教育実習（副･小学校）	●	3	—
		教育実習（副･中学校）	◆▼	3	—
		学習指導と学校図書館	□	2	選択
	4年次	卒業課題研究 Ⅰ		2	必修
		卒業課題研究 Ⅱ		2	必修
		教職実践演習（小）	●	2	—
		教職実践演習（中･高）	◆▼▲□	2	—
	小計(103科目)			204	

● 小学校
◆ 社会
▲ 公民
▼ 保健体育
□ 地理歴史

教育学科（小学校教育コース）

	開設年次	授業科目名	単位	履修条件
小学校教育コース科目	1年次	教育学概論	2	必修
		教職概論	2	必修
		教育の制度と経営	2	必修
		教育の方法と技術	2	必修
		教育哲学	2	選択
		教育心理学	2	選択
		教育方法学	2	選択
		教育社会学	2	選択
		発達心理学	2	選択
		生涯学習概論	2	選択
		国語	2	選択
		算数	2	選択
		理科	2	選択
		社会	2	選択
		家庭	2	選択
		生活	2	選択
		音楽	2	選択
		図工	2	選択
		体育（幼･小）	2	選択
		外国語（英語）	2	選択
	2年次	教育原理	2	必修
		学習･発達論	2	必修
		総合的な学習の時間の理論と方法	1	必修
		特別活動の理論と方法	1	必修
		国語科指導法	2	必修
		社会科指導法	2	必修
		算数科指導法	2	必修
		理科指導法	2	必修
		生活科指導法	2	必修
		音楽科指導法	2	必修
		家庭科指導法	2	必修
		図工科指導法	2	必修
		体育科指導法	2	必修
		外国語（英語）指導法	2	必修
	3年次	教育課程編成論	2	必修
		道徳教育の理論と方法	2	必修
		生徒･進路指導の理論と方法	2	必修

	開設年次	授業科目名	単位	履修条件
小学校教育コースの科目	3年次	教育相談の理論と方法	2	必修
		特別支援教育	1	必修
		教育実習（小学校）	5	必修
		教育実習（副･小学校）	3	必修
		現代社会の教育課題	2	選択
	4年次	教職実践演習（小）	2	必修
	小計(43科目)		87	

	開設年次	授業科目名		単位	履修条件
小学校教育コース以外の科目	1年次	保育内容総論	★	2	選択
		教育インターンシップ（幼） A	★	2	選択
		教育インターンシップ（幼） B	★	2	選択
		教育インターンシップ（幼） C	★	1	選択
		教育インターンシップ（幼） D	★	1	選択
		文化人類学	□	2	選択
		民俗学入門	◆□	2	選択
		社会学	◆▲	2	選択
		経済学（国際経済を含む。）	◆▲	2	選択
		ボランティア概論	◆▲	2	選択
		比較文化論	□	2	選択
		世界の宗教と文化	□	2	選択
		市民社会と法	□	2	選択
		日本史概論	◆□	2	選択
		体育実技（体操）	▼	1	選択
		体育実技（陸上）	▼	1	選択
		体育実技（スキー）	▼	1	選択
		図書館情報資源概論	□	2	選択
		図書館情報資源特論	□	1	選択
	2年次	全人教育実践演習 A		2	必修
		全人教育実践演習 B		2	必修
		幼児理解と教育相談	★	2	選択
		幼児教育課程論	★	2	選択
		幼児指導論	★	2	選択
		保育内容指導法（健康）	★	2	選択

小学校の「教科及び教科の指導法に関する科目」
小学校の「教育の基礎的理解に関する科目」

★ 幼稚園　◆社会　▲公民
▼ 保健体育　□地理歴史

教育学科（小学校教育コース）

	開設年次	授業科目名		単位	履修条件
小学校教育コース以外の科目	2年次	保育内容指導法（人間関係）	★	2	選択
		保育内容指導法（環境）	★	2	選択
		保育内容指導法（言葉）	★	2	選択
		保育内容指導法（表現）	★	2	選択
		日本史各論 A	□	2	選択
		日本史各論 B	□	2	選択
		外国史概論	◆□	2	選択
		外国史各論 A	□	2	選択
		外国史各論 B	□	2	選択
		西洋文化史	□	2	選択
		東洋文化史	□	2	選択
		地理学概論	◆□	2	選択
		観光地誌論	□	2	選択
		政治学（国際政治を含む。）	◆▲	2	選択
		西洋哲学思想史	◆▲	2	選択
		東洋思想史	◆▲	2	選択
		地球科学	□	2	選択
		宇宙科学	□	2	選択
		体育実技（水泳）	▼	1	選択
		体育実技（ダンス）	▼	1	選択
		体育実技（球技 A）	▼	1	選択
		体育原理	▼	2	選択
		体育社会学	▼	2	選択
		体育測定評価		2	選択
		生理学（運動生理学を含む。）	▼	2	選択
		衛生学	▼	2	選択
		公衆衛生学	▼	2	選択
		学校保健	▼	2	選択
		保健体育科指導法 Ⅰ	▼	2	選択
		保健体育科指導法 Ⅱ	▼	2	選択
		博物館概論	□	2	選択
		博物館資料論	□	2	選択
		博物館教育論	□	2	選択
	3年次	現代教育研究 Ⅰ		2	必修
		現代教育研究 Ⅱ		2	必修
		臨床心理学		2	選択
		日本の伝統文化と歴史	□	2	選択
		日本と外国の歴史	◆□	2	選択
		歴史資料情報論	□	2	選択
		人文地理学	□	2	選択

	開設年次	授業科目名		単位	履修条件
小学校教育コース以外の科目	3年次	自然地理学	□	2	選択
		地理情報論	□	2	選択
		地誌学概論	◆□	2	選択
		世界の教育と文化環境	□	2	選択
		ＩＣＴ利活用の授業実践		2	選択
		法律学（国際法を含む。）	◆▲	2	選択
		社会科・公民科指導法 Ⅰ	◆▲	2	選択
		社会科・公民科指導法 Ⅱ	◆▲	2	選択
		社会科・地理歴史科指導法 Ⅰ	◆□	2	選択
		社会科・地理歴史科指導法 Ⅱ	◆□	2	選択
		保健体育科指導法 Ⅲ	▼	2	選択
		保健体育科指導法 Ⅳ	▼	2	選択
		運動部活動の指導法	▼	2	選択
		体育実技（球技 B）	▼	1	選択
		体育実技（武道）	▼	1	選択
		体育心理学	▼	2	選択
		体育経営管理学	▼	2	選択
		運動学（運動方法学を含む。）	▼	2	選択
		栄養学	▼	2	選択
		病理学	▼	2	選択
		教育実習（幼稚園）	★	5	—
		教育実習（中学校）	◆▼	5	—
		教育実習（高等学校）	▼▲□	3	—
		教育実習（副･幼稚園）	★	3	—
		教育実習（副･中学校）	◆▼	3	—
		学習指導と学校図書館	□	2	選択
	4年次	卒業課題研究 Ⅰ		2	必修
		卒業課題研究 Ⅱ		2	必修
		教職実践演習（幼）	★	2	—
		教職実践演習（中･高）	◆▼▲□	2	—
	小計(95科目)			188	

★ 幼稚園
◆ 社会
▲ 公民
▼ 保健体育
□ 地理歴史

教育学科 中（社会科教育コース）

	開設年次	授業科目名	単位	履修条件
社会科教育コース科目	1年次	教育学概論	2	必修
		教職概論	2	必修
		教育の制度と経営	2	必修
		教育の方法と技術	2	必修
		日本史概論	2	必修
		教育哲学	2	選択
		教育心理学	2	選択
		教育方法学	2	選択
		教育社会学	2	選択
		発達心理学	2	選択
		生涯学習概論	2	選択
		民俗学入門	2	選択
		社会学	2	選択
		経済学（国際経済を含む。）	2	選択
		ボランティア概論	2	選択
	2年次	教育原理	2	必修
		学習･発達論	2	必修
		総合的な学習の時間の理論と方法	1	必修
		特別活動の理論と方法	1	必修
		外国史概論	2	必修
		地理学概論	2	必修
		政治学（国際政治を含む。）	2	選択
		西洋哲学思想史	2	選択
		東洋思想史	2	選択
	3年次	教育課程編成論	2	必修
		道徳教育の理論と方法	2	必修
		生徒･進路指導の理論と方法	2	必修
		教育相談の理論と方法	2	必修
		特別支援教育	1	必修
		地誌学概論	2	必修
		日本と外国の歴史	2	必修
		社会科・公民科指導法 Ⅰ	2	必修
		社会科・公民科指導法 Ⅱ	2	必修
		社会科・地理歴史科指導法 Ⅰ	2	必修
		社会科・地理歴史科指導法 Ⅱ	2	必修
		教育実習（中学校）	5	必修
		教育実習（副･中学校）	3	必修

	開設年次	授業科目名	単位	履修条件
社会科教育コースの科目	3年次	現代社会の教育課題	2	選択
		法律学（国際法を含む。）	2	選択
	4年次	教職実践演習（中･高）	2	必修
	小計(40科目)		81	

	開設年次	授業科目名		単位	履修条件
社会科教育コース以外の科目	1年次	国語	★●	2	選択
		算数	★●	2	選択
		理科	●	2	選択
		社会	●	2	選択
		家庭	●	2	選択
		生活	★●	2	選択
		音楽	★●	2	選択
		図工	★●	2	選択
		体育（幼･小）	★●	2	選択
		外国語（英語）	●	2	選択
		保育内容総論	★	2	選択
		教育インターンシップ（幼） A	★	2	選択
		教育インターンシップ（幼） B	★	2	選択
		教育インターンシップ（幼） C	★	1	選択
		教育インターンシップ（幼） D	★	1	選択
		文化人類学	□	2	選択
		比較文化論	□	2	選択
		世界の宗教と文化	□	2	選択
		市民社会と法	□	2	選択
		体育実技（体操）	▼	1	選択
		体育実技（陸上）	▼	1	選択
		体育実技（スキー）	▼	1	選択
		図書館情報資源概論	□	2	選択
		図書館情報資源特論	□	1	選択
	2年次	全人教育実践演習 A		2	必修
		全人教育実践演習 B		2	必修
		幼児理解と教育相談	★	2	選択
		幼児教育課程論	★	2	選択
		幼児指導論	★	2	選択
		保育内容指導法（健康）	★	2	選択

社会の「教科及び教科の指導法に関する科目」
社会の「教育の基礎的理解に関する科目等」

★ 幼稚園 ▼保健体育 ▲公民
● 小学校 □地理歴史

教育学科 中（社会科教育コース）

	開設年次	授業科目名		単位	履修条件
社会科教育コース以外の科目	2年次	保育内容指導法（人間関係）	★	2	選択
		保育内容指導法（環境）	★	2	選択
		保育内容指導法（言葉）	★	2	選択
		保育内容指導法（表現）	★	2	選択
		国語科指導法	●	2	選択
		社会科指導法	●	2	選択
		算数科指導法	●	2	選択
		理科指導法	●	2	選択
		生活科指導法	●	2	選択
		音楽科指導法	●	2	選択
		家庭科指導法	●	2	選択
		図工科指導法	●	2	選択
		体育科指導法	●	2	選択
		外国語（英語）指導法	●	2	選択
		日本史各論 A	□	2	選択
		日本史各論 B	□	2	選択
		外国史各論 A	□	2	選択
		外国史各論 B	□	2	選択
		西洋文化史	□	2	選択
		東洋文化史	□	2	選択
		観光地誌論	□	2	選択
		地球科学	□	2	選択
		宇宙科学	□	2	選択
		体育実技（水泳）	▼	1	選択
		体育実技（ダンス）	▼	1	選択
		体育実技（球技 A）	▼	1	選択
		体育原理	▼	2	選択
		体育社会学	▼	2	選択
		体育測定評価		2	選択
		生理学（運動生理学を含む。）	▼	2	選択
		衛生学	▼	2	選択
		公衆衛生学	▼	2	選択
		学校保健	▼	2	選択
		保健体育科指導法 Ⅰ	▼	2	選択
		保健体育科指導法 Ⅱ	▼	2	選択
		博物館概論	□	2	選択
		博物館資料論	□	2	選択
		博物館教育論	□	2	選択

	開設年次	授業科目名		単位	履修条件
社会科教育コース以外の科目	3年次	現代教育研究 Ⅰ		2	必修
		現代教育研究 Ⅱ		2	必修
		地理情報論	□	2	選択
		臨床心理学		2	選択
		日本の伝統文化と歴史	□	2	選択
		歴史資料情報論	□	2	選択
		人文地理学	□	2	選択
		自然地理学	□	2	選択
		世界の教育と文化環境	□	2	選択
		ＩＣＴ利活用の授業実践		2	選択
		保健体育科指導法 Ⅲ	▼	2	選択
		保健体育科指導法 Ⅳ	▼	2	選択
		運動部活動の指導法	▼	2	選択
		体育実技（球技 B）	▼	1	選択
		体育実技（武道）	▼	1	選択
		体育心理学	▼	2	選択
		体育経営管理学	▼	2	選択
		運動学（運動方法学を含む。）	▼	2	選択
		栄養学	▼	2	選択
		病理学	▼	2	選択
		教育実習（幼稚園）	★	5	—
		教育実習（小学校）	●	5	—
		教育実習（高等学校）	▼▲□	3	—
		教育実習（副･幼稚園）	★	3	—
		教育実習（副･小学校）	●	3	—
		学習指導と学校図書館	□	2	選択
	4年次	卒業課題研究 Ⅰ		2	必修
		卒業課題研究 Ⅱ		2	必修
		教職実践演習（幼）	★	2	—
		教職実践演習（小）	●	2	—
	小計(98科目)			194	

★ 幼稚園 ▼保健体育 ▲公民

● 小学校 □地理歴史

教育学科　中高（保健体育教育コース）

	開設年次	授業科目名	単位	履修条件
保健体育教育コース科目	1年次	教育学概論	2	必修
		教職概論	2	必修
		教育の制度と経営	2	必修
		教育の方法と技術	2	必修
		体育実技（体操）	1	必修
		体育実技（陸上）	1	必修
		体育実技（スキー）	1	必修
		教育哲学	2	選択
		教育心理学	2	選択
		教育方法学	2	選択
		教育社会学	2	選択
		発達心理学	2	選択
		生涯学習概論	2	選択
	2年次	教育原理	2	必修
		学習･発達論	2	必修
		総合的な学習の時間の理論と方法	1	必修
		特別活動の理論と方法	1	必修
		体育実技（水泳）	1	必修
		体育実技（ダンス）	1	必修
		体育実技（球技 A）	1	必修
		生理学（運動生理学を含む。）	2	必修
		衛生学	2	必修
		公衆衛生学	2	必修
		学校保健	2	必修
		保健体育科指導法 Ⅰ	2	必修
		保健体育科指導法 Ⅱ	2	必修
		体育原理	2	選択
		体育社会学	2	選択
	3年次	教育課程編成論	2	必修
		道徳教育の理論と方法	2	必修
		生徒･進路指導の理論と方法	2	必修
		教育相談の理論と方法	2	必修
		特別支援教育	1	必修
		保健体育科指導法 Ⅲ	2	必修
		保健体育科指導法 Ⅳ	2	必修
		体育実技（球技 B）	1	必修
		体育実技（武道）	1	必修
		運動学（運動方法学を含む。）	2	必修
		教育実習（中学校）	5	必修
		教育実習（高等学校）	3	必修

	開設年次	授業科目名	単位	履修条件
保健体育教育コースの科目	3年次	教育実習（副･中学校）	3	必修
		現代社会の教育課題	2	選択
		運動部活動の指導法	2	選択
		体育心理学	2	選択
		体育経営管理学	2	選択
		栄養学	2	選択
		病理学	2	選択
	4年次	教職実践演習（中･高）	2	必修
	小計(48科目)		90	選択

	開設年次	授業科目名		単位	履修条件
保健体育教育コース以外の科目	1年次	国語	★●	2	選択
		算数	★●	2	選択
		理科	●	2	選択
		社会	●	2	選択
		家庭	●	2	選択
		生活	★●	2	選択
		音楽	★●	2	選択
		図工	★●	2	選択
		体育（幼･小）	★●	2	選択
		外国語（英語）	●	2	選択
		保育内容総論	★	2	選択
		教育インターンシップ（幼） A	★	2	選択
		教育インターンシップ（幼） B	★	2	選択
		教育インターンシップ（幼） C	★	1	選択
		教育インターンシップ（幼） D	★	1	選択
		文化人類学	□	2	選択
		民俗学入門	◆□	2	選択
		社会学	◆▲	2	選択
		経済学（国際経済を含む。）	◆▲	2	選択
		ボランティア概論	◆▲	2	選択
		比較文化論	□	2	選択
		世界の宗教と文化	□	2	選択
		市民社会と法	□	2	選択
		日本史概論	◆□	2	選択
		図書館情報資源概論	□	2	選択
		図書館情報資源特論	□	1	選択

保健体育の「教科及び教科の指導法に関する科目」
保健体育の「教育の基礎的理解に関する科目等」

★　幼稚園　◆社会　▲公民
●　小学校　□地理歴史

教育学科　中高（保健体育教育コース）

	開設年次	授業科目名		単位	履修条件
保健体育教育コース以外の科目	2年次	全人教育実践演習 A		2	必修
		全人教育実践演習 B		2	必修
		幼児理解と教育相談	★	2	選択
		幼児教育課程論	★	2	選択
		幼児指導論	★	2	選択
		保育内容指導法（健康）	★	2	選択
		保育内容指導法（人間関係）	★	2	選択
		保育内容指導法（環境）	★	2	選択
		保育内容指導法（言葉）	★	2	選択
		保育内容指導法（表現）	★	2	選択
		国語科指導法	●	2	選択
		社会科指導法	●	2	選択
		算数科指導法	●	2	選択
		理科指導法	●	2	選択
		生活科指導法	●	2	選択
		音楽科指導法	●	2	選択
		家庭科指導法	●	2	選択
		図工科指導法	●	2	選択
		体育科指導法	●	2	選択
		外国語（英語）指導法	●	2	選択
		日本史各論 A	□	2	選択
		日本史各論 B	□	2	選択
		外国史概論	◆□	2	選択
		外国史各論 A	□	2	選択
		外国史各論 B	□	2	選択
		西洋文化史	□	2	選択
		東洋文化史	□	2	選択
		地理学概論	◆□	2	選択
		観光地誌論	□	2	選択
		政治学（国際政治を含む。）	◆▲	2	選択
		西洋哲学思想史	◆▲	2	選択
		東洋思想史	◆▲	2	選択
		地球科学	□	2	選択
		宇宙科学	□	2	選択
		体育測定評価		2	選択
		博物館概論	□	2	選択
		博物館資料論	□	2	選択
		博物館教育論	□	2	選択
	3年次	現代教育研究 Ⅰ		2	必修
		現代教育研究 Ⅱ		2	必修
		臨床心理学		2	選択
		日本の伝統文化と歴史	□	2	選択

	開設年次	授業科目名		単位	履修条件
保健体育教育コース以外の科目	3年次	日本と外国の歴史	◆□	2	選択
		歴史資料情報論	□	2	選択
		人文地理学	□	2	選択
		自然地理学	□	2	選択
		地理情報論	□	2	選択
		地誌学概論	◆□	2	選択
		世界の教育と文化環境	□	2	選択
		ＩＣＴ利活用の授業実践		2	選択
		法律学（国際法を含む。）	◆▲	2	選択
		社会科・公民科指導法 Ⅰ	◆▲	2	選択
		社会科・公民科指導法 Ⅱ	◆▲	2	選択
		社会科・地理歴史科指導法 Ⅰ	◆□	2	選択
		社会科・地理歴史科指導法 Ⅱ	◆□	2	選択
		教育実習（幼稚園）	★	5	—
		教育実習（小学校）	●	5	—
		教育実習（副･幼稚園）	★	3	—
		教育実習（副･小学校）	●	3	—
		学習指導と学校図書館	□	2	選択
	4年次	卒業課題研究 Ⅰ		2	必修
		卒業課題研究 Ⅱ		2	必修
		教職実践演習（幼）	★	2	—
		教職実践演習（小）	●	2	—
	小計(90科目)			185	

★　幼稚園　◆社会　▲公民

●　小学校　□地理歴史

教育学科 高（地理歴史教育コース）

	開設年次	授業科目名	単位	履修条件
地理歴史教育コースの科目	1年次	教育学概論	2	必修
		教職概論	2	必修
		教育の制度と経営	2	必修
		教育の方法と技術	2	必修
		日本史概論	2	必修
		教育哲学	2	選択
		教育心理学	2	選択
		教育方法学	2	選択
		教育社会学	2	選択
		発達心理学	2	選択
		生涯学習概論	2	選択
		民俗学入門	2	選択
	2年次	教育原理	2	必修
		学習･発達論	2	必修
		総合的な学習の時間の理論と方法	1	必修
		特別活動の理論と方法	1	必修
		外国史概論	2	必修
		地理学概論	2	必修
		日本史各論 A	2	選択
		日本史各論 B	2	選択
		外国史各論 A	2	選択
		外国史各論 B	2	選択
		西洋文化史	2	選択
		東洋文化史	2	選択
		観光地誌論	2	選択
	3年次	教育課程編成論	2	必修
		生徒･進路指導の理論と方法	2	必修
		教育相談の理論と方法	2	必修
		特別支援教育	1	必修
		日本の伝統文化と歴史	2	必修
		日本と外国の歴史	2	必修
		歴史資料情報論	2	必修
		地理情報論	2	必修
		地誌学概論	2	必修
		社会科・地理歴史科指導法 Ⅰ	2	必修
		社会科・地理歴史科指導法 Ⅱ	2	必修
		教育実習（高等学校）	3	必修
		道徳教育の理論と方法	2	選択
		人文地理学	2	選択
		自然地理学	2	選択
		現代社会の教育課題	2	選択
	4年次	教職実践演習（中･高）	2	必修
	小計（42科目）		82	

	開設年次	授業科目名	単位	履修条件
地理歴史教育コース関連科目	1年次	文化人類学	2	選択
		比較文化論	2	選択
		世界の宗教と文化	2	選択
		市民社会と法	2	選択
		図書館情報資源概論	2	選択
		図書館情報資源特論	1	選択
	2年次	地球科学	2	選択
		宇宙科学	2	選択
		博物館概論	2	選択
		博物館資料論	2	選択
		博物館教育論	2	選択
	3年次	世界の教育と文化環境	2	選択
		学習指導と学校図書館	2	選択
	小計(13科目)		25	

	開設年次	授業科目名		単位	履修条件
地理歴史教育コース以外の科目	1年次	国語	★●	2	選択
		算数	★●	2	選択
		理科	●	2	選択
		社会	●	2	選択
		家庭	●	2	選択
		生活	★●	2	選択
		音楽	★●	2	選択
		図工	★●	2	選択
		体育（幼･小）	★●	2	選択
		外国語（英語）	●	2	選択
		保育内容総論	★	2	選択
		教育インターンシップ（幼） A	★	2	選択
		教育インターンシップ（幼） B	★	2	選択
		教育インターンシップ（幼） C	★	1	選択
		教育インターンシップ（幼） D	★	1	選択
		社会学	◆▲	2	選択
		経済学（国際経済を含む。）	◆▲	2	選択
		ボランティア概論	◆▲	2	選択
		体育実技（体操）	▼	1	選択
		体育実技（陸上）	▼	1	選択
		体育実技（スキー）	▼	1	選択
	2年次	全人教育実践演習 A		2	必修
		全人教育実践演習 B		2	必修
		幼児理解と教育相談	★	2	選択
		幼児教育課程論	★	2	選択
		幼児指導論	★	2	選択
		保育内容指導法（健康）	★	2	選択
		保育内容指導法（人間関係）	★	2	選択

地理歴史の「教科及び教科の指導法に関する科目」
地理歴史の「教育の基礎的理解に関する科目等」

★ 幼稚園　● 小学校　◆ 社会
▲ 公民　▼ 保健体育

教育学科 高（地理歴史教育コース）

	開設年次	授業科目名		単位	履修条件
地理歴史教育コース以外の科目	2年次	保育内容指導法（環境）	★	2	選択
		保育内容指導法（言葉）	★	2	選択
		保育内容指導法（表現）	★	2	選択
		国語科指導法	●	2	選択
		社会科指導法	●	2	選択
		算数科指導法	●	2	選択
		理科指導法	●	2	選択
		生活科指導法	●	2	選択
		音楽科指導法	●	2	選択
		家庭科指導法	●	2	選択
		図工科指導法	●	2	選択
		体育科指導法	●	2	選択
		外国語（英語）指導法	●	2	選択
		政治学（国際政治を含む。）	◆▲	2	選択
		西洋哲学思想史	◆▲	2	選択
		東洋思想史	◆▲	2	選択
		体育実技（水泳）	▼	1	選択
		体育実技（ダンス）	▼	1	選択
		体育実技（球技 A）	▼	1	選択
		体育原理	▼	2	選択
		体育社会学	▼	2	選択
		体育測定評価		2	選択
		生理学（運動生理学を含む。）	▼	2	選択
		衛生学	▼	2	選択
		公衆衛生学	▼	2	選択
		学校保健	▼	2	選択
		保健体育科指導法 Ⅰ	▼	2	選択
		保健体育科指導法 Ⅱ	▼	2	選択
	3年次	現代教育研究 Ⅰ		2	必修
		現代教育研究 Ⅱ		2	必修
		臨床心理学		2	選択
		ＩＣＴ利活用の授業実践		2	選択
		法律学（国際法を含む。）	◆▲	2	選択
		社会科・公民科指導法 Ⅰ	◆▲	2	選択
		社会科・公民科指導法 Ⅱ	◆▲	2	選択
		保健体育科指導法 Ⅲ	▼	2	選択
		保健体育科指導法 Ⅳ	▼	2	選択
		運動部活動の指導法	▼	2	選択
		体育実技（球技 B）	▼	1	選択
		体育実技（武道）	▼	1	選択
		体育心理学	▼	2	選択
		体育経営管理学	▼	2	選択

	開設年次	授業科目名		単位	履修条件
地理歴史教育コース以外の科目	3年次	運動学（運動方法学を含む。）	▼	2	選択
		栄養学	▼	2	選択
		病理学	▼	2	選択
		教育実習（幼稚園）	★	5	—
		教育実習（小学校）	●	5	—
		教育実習（中学校）	◆▼	5	—
		教育実習（副･幼稚園）	★	3	—
		教育実習（副･小学校）	●	3	—
		教育実習（副･中学校）	◆▼	3	—
	4年次	卒業課題研究 Ⅰ		2	必修
		卒業課題研究 Ⅱ		2	必修
		教職実践演習（幼）	★	2	—
		教職実践演習（小）	●	2	—
	小計(83科目)			168	

★ 幼稚園　● 小学校　◆ 社会

▲ 公民　▼ 保健体育

教育学科 高（公民教育コース）

	開設年次	授業科目名	単位	履修条件
公民教育コース科目	1年次	教育学概論	2	必修
		教職概論	2	必修
		教育の制度と経営	2	必修
		教育の方法と技術	2	必修
		教育哲学	2	選択
		教育心理学	2	選択
		教育方法学	2	選択
		教育社会学	2	選択
		発達心理学	2	選択
		生涯学習概論	2	選択
		社会学	2	選択
		経済学（国際経済を含む。）	2	選択
		ボランティア概論	2	選択
	2年次	教育原理	2	必修
		学習･発達論	2	必修
		総合的な学習の時間の理論と方法	1	必修
		特別活動の理論と方法	1	必修
		政治学（国際政治を含む。）	2	選択
		西洋哲学思想史	2	選択
		東洋思想史	2	選択
	3年次	教育課程編成論	2	必修
		生徒･進路指導の理論と方法	2	必修
		教育相談の理論と方法	2	必修
		特別支援教育	1	必修
		社会科・公民科指導法 Ⅰ	2	必修
		社会科・公民科指導法 Ⅱ	2	必修
		教育実習（高等学校）	3	必修
		道徳教育の理論と方法	2	選択
		現代社会の教育課題	2	選択
		法律学（国際法を含む。）	2	選択
	4年次	教職実践演習（中･高）	2	必修
	小計(31科目)		60	

社会の「教科及び教科の指導法に関する科目」
社会の「教育の基礎的理解に関する科目等」

	開設年次	授業科目名		単位	履修条件
公民教育コース以外の科目	1年次	国語	★●	2	選択
		算数	★●	2	選択
		理科	●	2	選択
		社会	●	2	選択
		家庭	●	2	選択
		生活	★●	2	選択
		音楽	★●	2	選択
		図工	★●	2	選択
		体育（幼･小）	★●	2	選択
		外国語（英語）	●	2	選択
		保育内容総論	★	2	選択
		教育インターンシップ（幼） A	★	2	選択
		教育インターンシップ（幼） B	★	2	選択
		教育インターンシップ（幼） C	★	1	選択
		教育インターンシップ（幼） D	★	1	選択
		文化人類学	□	2	選択
		民俗学入門	□	2	選択
		比較文化論	□	2	選択
		世界の宗教と文化	□	2	選択
		市民社会と法	□	2	選択
		日本史概論	◆□	2	選択
		体育実技（体操）	▼	1	選択
		体育実技（陸上）	▼	1	選択
		体育実技（スキー）	▼	1	選択
		図書館情報資源概論	□	2	選択
		図書館情報資源特論	□	1	選択
	2年次	全人教育実践演習 A		2	必修
		全人教育実践演習 B		2	必修
		幼児理解と教育相談	★	2	選択
		幼児教育課程論	★	2	選択
		幼児指導論	★	2	選択
		保育内容指導法（健康）	★	2	選択
		保育内容指導法（人間関係）	★	2	選択
		保育内容指導法（環境）	★	2	選択
		保育内容指導法（言葉）	★	2	選択
		保育内容指導法（表現）	★	2	選択
		国語科指導法	●	2	選択
		社会科指導法	●	2	選択
		算数科指導法	●	2	選択
		理科指導法	●	2	選択
		生活科指導法	●	2	選択
		音楽科指導法	●	2	選択
		家庭科指導法	●	2	選択
		図工科指導法	●	2	選択
		体育科指導法	●	2	選択

★ 幼稚園　● 小学校　◆ 社会
▼ 保健体育　□地理歴史

教育学科 高（公民教育コース）

	開設年次	授業科目名		単位	履修条件
公民教育コース以外の科目	2年次	外国語（英語）指導法	●	2	選択
		日本史各論 A	□	2	選択
		日本史各論 B	□	2	選択
		外国史概論	◆□	2	選択
		外国史各論 A	□	2	選択
		外国史各論 B	□	2	選択
		西洋文化史	□	2	選択
		東洋文化史	□	2	選択
		地理学概論	◆□	2	選択
		観光地誌論	□	2	選択
		地球科学	□	2	選択
		宇宙科学	□	2	選択
		体育実技（水泳）	▼	1	選択
		体育実技（ダンス）	▼	1	選択
		体育実技（球技 A）	▼	1	選択
		体育原理	▼	2	選択
		体育社会学	▼	2	選択
		体育測定評価		2	選択
		生理学（運動生理学を含む。）	▼	2	選択
		衛生学	▼	2	選択
		公衆衛生学	▼	2	選択
		学校保健	▼	2	選択
		保健体育科指導法 Ⅰ	▼	2	選択
		保健体育科指導法 Ⅱ	▼	2	選択
		博物館概論	□	2	選択
		博物館資料論	□	2	選択
		博物館教育論	□	2	選択
	3年次	現代教育研究 Ⅰ		2	必修
		現代教育研究 Ⅱ		2	必修
		臨床心理学		2	選択
		日本の伝統文化と歴史	□	2	選択
		日本と外国の歴史	◆□	2	選択
		歴史資料情報論	□	2	選択
		人文地理学	□	2	選択
		自然地理学	□	2	選択
		地理情報論	□	2	選択
		地誌学概論	◆□	2	選択
		世界の教育と文化環境	□	2	選択
		ＩＣＴ利活用の授業実践		2	選択
		社会科・地理歴史科指導法 Ⅰ	◆□	2	選択
		社会科・地理歴史科指導法 Ⅱ	◆□	2	選択
		保健体育科指導法 Ⅲ	▼	2	選択
		保健体育科指導法 Ⅳ	▼	2	選択
		運動部活動の指導法	▼	2	選択
		体育実技（球技 B）	▼	1	選択

	開設年次	授業科目名		単位	履修条件
公民教育コース以外の科目	3年次	体育実技（武道）	▼	1	選択
		体育心理学	▼	2	選択
		体育経営管理学	▼	2	選択
		運動学（運動方法学を含む。）	▼	2	選択
		栄養学	▼	2	選択
		病理学	▼	2	選択
		教育実習（幼稚園）	★	5	—
		教育実習（小学校）	●	5	—
		教育実習（中学校）	◆▼	5	—
		教育実習（副･幼稚園）	★	3	—
		教育実習（副･小学校）	●	3	—
		教育実習（副･中学校）	◆▼	3	—
		学習指導と学校図書館	□	2	選択
	4年次	卒業課題研究 Ⅰ		2	必修
		卒業課題研究 Ⅱ		2	必修
		教職実践演習（幼）	★	2	—
		教職実践演習（小）	●	2	—
	小計(107科目)			215	

★ 幼稚園　● 小学校　◆ 社会

▼ 保健体育　□地理歴史

教育学科科目（教員免許取得コースを除く）

	開設年次	授業科目名	単位	履修条件
教育学科科目（免許取得コースを除く）	1年次	教育学概論	2	必修
		教職概論	2	必修
		教育の制度と経営	2	選択
		教育哲学	2	選択
		教育心理学	2	選択
		教育方法学	2	選択
		教育社会学	2	選択
		発達心理学	2	選択
		生涯学習概論	2	選択
		教育の方法と技術	2	選択
		国語	2	選択
		算数	2	選択
		理科	2	選択
		社会	2	選択
		家庭	2	選択
		生活	2	選択
		音楽	2	選択
		図工	2	選択
		体育（幼･小）	2	選択
		外国語（英語）	2	選択
		保育内容総論	2	選択
		教育インターンシップ（幼） A	2	選択
		教育インターンシップ（幼） B	2	選択
		教育インターンシップ（幼） C	1	選択
		教育インターンシップ（幼） D	1	選択
		文化人類学	2	選択
		民俗学入門	2	選択
		社会学	2	選択
		経済学（国際経済を含む。）	2	選択
		ボランティア概論	2	選択
		比較文化論	2	選択
		世界の宗教と文化	2	選択
		市民社会と法	2	選択
		日本史概論	2	選択
		体育実技（体操）	1	選択
		体育実技（陸上）	1	選択
		体育実技（スキー）	1	選択
		図書館情報資源概論	2	選択
		図書館情報資源特論	1	選択
	2年次	全人教育実践演習 A	2	必修
		全人教育実践演習 B	2	必修
		教育原理	2	選択
		学習･発達論	2	選択
		総合的な学習の時間の理論と方法	1	選択
		特別活動の理論と方法	1	選択

	開設年次	授業科目名	単位	履修条件
教育学科科目（免許取得コースを除く）	2年次	幼児理解と教育相談	2	選択
		幼児教育課程論	2	選択
		幼児指導論	2	選択
		保育内容指導法（健康）	2	選択
		保育内容指導法（人間関係）	2	選択
		保育内容指導法（環境）	2	選択
		保育内容指導法（言葉）	2	選択
		保育内容指導法（表現）	2	選択
		国語科指導法	2	選択
		社会科指導法	2	選択
		算数科指導法	2	選択
		理科指導法	2	選択
		生活科指導法	2	選択
		音楽科指導法	2	選択
		家庭科指導法	2	選択
		図工科指導法	2	選択
		体育科指導法	2	選択
		外国語（英語）指導法	2	選択
		日本史各論 A	2	選択
		日本史各論 B	2	選択
		外国史概論	2	選択
		外国史各論 A	2	選択
		外国史各論 B	2	選択
		西洋文化史	2	選択
		東洋文化史	2	選択
		地理学概論	2	選択
		観光地誌論	2	選択
		政治学（国際政治を含む。）	2	選択
		西洋哲学思想史	2	選択
		東洋思想史	2	選択
		地球科学	2	選択
		宇宙科学	2	選択
		体育実技（水泳）	1	選択
		体育実技（ダンス）	1	選択
		体育実技（球技 A）	1	選択
		体育原理	2	選択
		体育社会学	2	選択
		体育測定評価	2	選択
		生理学（運動生理学を含む。）	2	選択
		衛生学	2	選択
		公衆衛生学	2	選択
		学校保健	2	選択
		保健体育科指導法 Ⅰ	2	選択
		保健体育科指導法 Ⅱ	2	選択
		博物館概論	2	選択

教育学科科目（教員免許取得コースを除く）

	開設年次	授業科目名	単位	履修条件
教育学科科目（免許取得コースを除く）	２年次	博物館資料論	2	選択
		博物館教育論	2	選択
	３年次	現代教育研究 Ⅰ	2	必修
		現代教育研究 Ⅱ	2	必修
		特別支援教育	1	必修
		教育課程編成論	2	選択
		道徳教育の理論と方法	2	選択
		生徒･進路指導の理論と方法	2	選択
		教育相談の理論と方法	2	選択
		臨床心理学	2	選択
		日本の伝統文化と歴史	2	選択
		日本と外国の歴史	2	選択
		歴史資料情報論	2	選択
		人文地理学	2	選択
		自然地理学	2	選択
		地理情報論	2	選択
		地誌学概論	2	選択
		世界の教育と文化環境	2	選択
		現代社会の教育課題	2	選択
		ＩＣＴ利活用の授業実践	2	選択
		法律学（国際法を含む。）	2	選択
		社会科・公民科指導法 Ⅰ	2	選択
		社会科・公民科指導法 Ⅱ	2	選択
		社会科・地理歴史科指導法 Ⅰ	2	選択
		社会科・地理歴史科指導法 Ⅱ	2	選択
		保健体育科指導法 Ⅲ	2	選択
		保健体育科指導法 Ⅳ	2	選択
		運動部活動の指導法	2	選択
		体育実技（球技 B）	1	選択
		体育実技（武道）	1	選択
		体育心理学	2	選択
		体育経営管理学	2	選択
		運動学（運動方法学を含む。）	2	選択
		栄養学	2	選択
		病理学	2	選択
		教育実習（幼稚園）	5	—
		教育実習（小学校）	5	—
		教育実習（中学校）	5	—
		教育実習（高等学校）	3	—
		教育実習（副･幼稚園）	3	—
		教育実習（副･小学校）	3	—
		教育実習（副･中学校）	3	—
		学習指導と学校図書館	2	選択

	開設年次	授業科目名	単位	履修条件
	４年次	卒業課題研究 Ⅰ	2	必修
		卒業課題研究 Ⅱ	2	必修
		教職実践演習（幼）	2	—
		教職実践演習（小）	2	—
		教職実践演習（中･高）	2	—
	小計(138科目)		275	

別表第２－①

乳幼児発達学科科目

授業科目名	単位	履修条件	卒業要件
教育学概論	2	必修	
保育者論	2	必修	
教育哲学	2	選択	
教育社会学	2	選択	
子どもと家庭の発達心理学	2	選択	
教育原理	2	選択	
学習・発達論	2	選択	
教育の制度と経営	2	選択	
保育内容総論	2	選択	
保育原理	2	選択	
児童学	2	選択	
社会福祉	2	選択	
子どもの保健	2	選択	
教育方法学	2	選択	
教育の方法と技術	2	選択	
国語	2	選択	
算数	2	選択	
生活	2	選択	
図工　(幼)	2	選択	
教育インターンシップ（幼）　A	2	選択	
教育インターンシップ（幼）　B	2	選択	
教育インターンシップ（幼）　C	1	選択	
教育インターンシップ（幼）　D	1	選択	
保育インターンシップ A	2	選択	
保育インターンシップ B	2	選択	
保育インターンシップ C	1	選択	
保育インターンシップ D	1	選択	
全人教育実践演習 A	2	必修	
全人教育実践演習 B	2	必修	
保育の心理学	2	選択	
幼児理解と教育相談	2	選択	
幼児指導論	2	選択	
保育内容指導法　(健康)	2	選択	
保育内容指導法　(人間関係)	2	選択	
保育内容指導法　(環境)	2	選択	
保育内容指導法　(言葉)	2	選択	
保育内容指導法　(表現)	2	選択	
音楽　(幼)	2	選択	
体育　(幼)	2	選択	
子どもの遊びと育ち	2	選択	
子ども家庭福祉	2	選択	
子どもの健康と安全	1	選択	
乳児保育 Ⅰ	2	選択	
人間関係論	2	選択	
現代教育研究 Ⅰ	2	必修	
現代教育研究 Ⅱ	2	必修	
保育カリキュラム論	2	選択	
救急処置法	2	選択	
社会的養護	2	選択	
子どもの食と栄養	2	選択	
乳児保育 Ⅱ	1	選択	
社会的養護演習	1	選択	

授業科目名	単位	履修条件	卒業要件
特別な支援を必要とする子どもの理解と援助 Ⅰ	1	選択	
特別な支援を必要とする子どもの理解と援助 Ⅱ	1	選択	
児童文化	2	選択	
保育実践論 A	2	選択	
教育実習　(幼稚園1種)	5	選択	
保育実習指導 Ⅰ	2	選択	
保育実習 Ⅰ	4	選択	
卒業課題研究 Ⅰ	2	必修	
卒業課題研究 Ⅱ	2	必修	
保育・教職実践演習	2	選択	
子ども家庭支援論	2	選択	
子育て支援演習	1	選択	
子どもと家族の福祉	2	選択	
保育実践論 B	2	選択	
保育実践論 C	2	選択	
保育実習指導 Ⅱ	1	選択	
保育実習指導 Ⅲ	1	選択	
保育実習 Ⅱ	2	選択	
保育実習 Ⅲ	2	選択	

※履修方法の詳細は学生要覧による

別表第２－①

音楽学科科目

授業科目の名称	単位	履修条件			卒業要件
		演奏・創作	ミュージカル	音楽教育	
芸術概論	2	必修	必修	必修	
音楽理論	2	必修	必修	必修	
ソルフェージュ Ⅰ	2	必修	必修	必修	
ソルフェージュ Ⅱ	2	必修	必修	選択	
アンサンブル Ⅰ	2	選択	必修	選択	
アンサンブル Ⅱ	2	選択	必修	選択	
音楽専門実技 Ⅰ	2	必修	選択	選択	
音楽専門実技 Ⅱ	2	必修	選択	選択	
器楽基礎 A	2	選択	選択	選択	
器楽基礎 B	2	選択	選択	選択	
声楽基礎 A	2	選択	選択	選択	
声楽基礎 B	2	選択	選択	必修	
演技・舞踊入門	2	選択	選択	選択	
演技・舞踊基礎演習	2	選択	選択	選択	
舞台技術基礎演習	2	選択	選択	選択	
上演基礎実習	4	選択	選択	選択	
鍵盤楽器基礎	2	選択	選択	必修	
和楽器指導法（管・絃・打）	2	選択	選択	必修	
音楽文化論	2	必修	選択	選択	
和声学 Ⅰ	2	必修	選択	選択	
和声学 Ⅱ	2	必修	選択	選択	
アンサンブル Ⅲ	2	選択	選択	選択	
アンサンブル Ⅳ	2	選択	選択	選択	
第九演奏表現 A	2	選択	選択	選択	
音楽専門実技 Ⅲ	2	選択	選択	選択	
音楽専門実技 Ⅳ	2	選択	選択	選択	
器楽基礎 C	2	選択	選択	選択	
器楽基礎 D	2	選択	選択	選択	
声楽基礎 C	2	選択	選択	選択	
声楽基礎 D	2	選択	選択	選択	
ミュージカル表現 Ⅰ	4	選択	必修	選択	
ミュージカル表現 Ⅱ	4	選択	必修	選択	
演劇理論	2	選択	選択	選択	
芸術と社会	2	選択	選択	選択	
音楽科指導法 Ⅰ	2	選択	選択	必修	
音楽科指導法 Ⅱ	2	選択	選択	必修	
創作教育法	1	選択	選択	選択	
器楽教育法 Ⅰ（管・打・合奏）	2	選択	選択	必修	
日本音楽史	2	選択	選択	選択	

授業科目の名称	単位	履修条件			卒業要件
		演奏・創作	ミュージカル	音楽教育	
民族音楽概説	2	選択	選択	選択	
作家理解と作品講読	2	選択	選択	選択	
歌唱教育法（合唱）	2	選択	選択	必修	
指揮法	2	選択	選択	必修	
対位法	2	選択	選択	選択	
楽式論	2	選択	選択	選択	
西洋音楽史	2	選択	選択	選択	
現代音楽史	2	選択	選択	選択	
第九演奏表現 B	2	選択	選択	選択	
アンサンブル Ⅴ	2	選択	選択	選択	
アンサンブル Ⅵ	2	選択	選択	選択	
演奏・創作 Ⅰ	2	必修	選択	選択	
演奏・創作 Ⅱ	2	必修	選択	選択	
文献資料講読	2	選択	選択	選択	
器楽 Ⅰ	2	選択	選択	選択	
器楽 Ⅱ	2	選択	選択	選択	
声楽 Ⅰ	2	選択	選択	選択	
声楽 Ⅱ	2	選択	選択	選択	
世界演劇・舞踊史 Ⅰ	2	選択	選択	選択	
世界演劇・舞踊史 Ⅱ	2	選択	選択	選択	
オーディション演習	2	選択	選択	選択	
上演実習 A	4	選択	必修	選択	
上演実習 B	4	選択	選択	選択	
劇場接遇演習（ゲストリレーション）	2	選択	選択	選択	
音楽科指導法 Ⅲ	2	選択	選択	必修	
音楽科指導法 Ⅳ	2	選択	選択	必修	
器楽教育法 Ⅱ（リコーダー・弦楽器）	2	選択	選択	選択	
鑑賞教育理論（音楽）	2	選択	選択	選択	
伴奏法	2	選択	選択	選択	
歌曲伴奏法	2	選択	選択	選択	
作曲法 Ⅰ	2	必修	選択	必修	
作曲法 Ⅱ	2	必修	選択	選択	
器楽 Ⅲ	2	選択	選択	選択	
器楽 Ⅳ	2	選択	選択	選択	
声楽 Ⅲ	2	選択	選択	選択	
声楽 Ⅳ	2	選択	選択	選択	
アンサンブル Ⅶ	2	選択	選択	選択	
アンサンブル Ⅷ	2	選択	選択	選択	
第九演奏表現 C	2	選択	選択	選択	
音楽教育実践法	2	選択	選択	選択	
演奏・創作 Ⅲ	2	選択	選択	選択	
卒業演奏・卒業創作	2	選択	選択	選択	
卒業創作・研究 A	4	選択	必修	選択	
卒業創作・研究 B	4	選択	選択	選択	
卒業論文執筆法	2	選択	選択	選択	
卒業論文	2	選択	選択	選択	

各コース必修単位

※履修方法の詳細は学生要覧による

別表第２－①

アート・デザイン学科科目

授業科目名称	単位	履修条件		卒業要件
		メディア表現	美術教育	
芸術概論	2	必修	必修	
アート・デザイン理論基礎 Ⅰ	2	必修	選択	
アート・デザイン理論基礎 Ⅱ	2	必修	選択	
アート・デザイン演習基礎 A	2	選択	選択	
アート・デザイン演習基礎 B	2	選択	選択	
アート・デザイン演習基礎 C	2	必修	選択	
美術理論	2	選択	必修	
絵画基礎	2	選択	必修	
彫刻基礎	2	選択	必修	
デザイン基礎	2	選択	必修	
工芸基礎	2	選択	必修	
映像メディア表現基礎	2	選択	必修	
ドローイング	1	選択	必修	
コンピュータ音楽基礎 A	2	選択	選択	
コンピュータ音楽基礎 B	2	選択	選択	
文化立国論	2	必修	選択	
芸術コミュニケーション論	2	必修	選択	
工芸理論	2	選択	選択	
工芸史	2	選択	選択	
西洋美術史	2	選択	必修	
日本美術史	2	選択	必修	
美術科・工芸科指導法 Ⅰ	2	選択	選択	
美術科・工芸科指導法 Ⅱ	2	選択	選択	
デザイン史	2	選択	選択	
音楽分析技法	2	選択	選択	
メディア・デザイン理論 A	2	選択	選択	
メディア・デザイン理論 B	2	選択	選択	
絵画 Ⅰ	2	選択	選択	
絵画 Ⅱ	2	選択	選択	
図法・製図	2	選択	選択	
彫刻 Ⅰ	2	選択	選択	
彫刻 Ⅱ	2	選択	選択	
デザイン Ⅰ	2	選択	選択	
デザイン Ⅱ	2	選択	選択	
工芸 Ⅰ	2	選択	選択	
工芸 Ⅱ	2	選択	選択	
コンピュータ・グラフィックス Ⅰ	2	選択	選択	
コンピュータ・グラフィックス Ⅱ	2	選択	選択	
映像メディア表現 Ⅰ	2	選択	選択	
映像メディア表現 Ⅱ	2	選択	選択	
空間表現 Ⅰ	2	選択	選択	
空間表現 Ⅱ	2	選択	選択	
総合造形 Ⅰ	2	選択	選択	
総合造形 Ⅱ	2	選択	選択	
コンピュータ音楽 Ⅰ	2	選択	選択	
コンピュータ音楽 Ⅱ	2	選択	選択	

授業科目名称	単位	履修条件		卒業要件
		メディア表現	美術教育	
共創芸術プロジェクト A	2	選択	選択	
共創芸術プロジェクト B	2	選択	選択	
Art and Sound Techniques	2	選択	選択	
Art and Sound Design A	2	選択	選択	
Art and Sound Design B	2	選択	選択	
タイポグラフィー基礎演習	2	選択	選択	
デジタルタイポグラフィー	2	選択	選択	
アート・デザイン研究 Ⅰ	2	必修	必修	
アート・デザイン研究 Ⅱ	2	必修	必修	
芸術表現学	2	選択	選択	
アート・デザイン理論研究 Ⅰ	2	必修	選択	
アート・デザイン理論研究 Ⅱ	2	必修	選択	
鑑賞教育理論（美術）	2	選択	必修	
デザイン理論	2	選択	選択	
美術科指導法 Ⅰ	2	選択	選択	
美術科指導法 Ⅱ	2	選択	選択	
アート・デザイン演習 A	2	選択	選択	
アート・デザイン演習 B	2	選択	選択	
メディア・デザイン理論 C	2	選択	選択	
メディア・デザイン理論 D	2	選択	選択	
情報デザイン Ⅰ	2	選択	選択	
情報デザイン Ⅱ	2	選択	選択	
アート・デザイン卒業研究 Ⅰ	2	必修	必修	
アート・デザイン卒業研究 Ⅱ	2	必修	必修	
東洋美術史	2	選択	選択	
アートによる社会貢献	2	必修	選択	
アート・デザイン演習 C	2	選択	選択	
アート・デザイン演習 D	2	選択	選択	
エキシビション	2	選択	選択	

※履修方法の詳細は学生要覧による

別表第２－①

演劇・舞踊学科科目

授業科目名	単位	履修条件	卒業要件
芸術概論	2	必修	
演技・舞踊入門	2	必修	
演技・舞踊基礎演習	2	必修	
舞台技術基礎演習	2	必修	
上演基礎実習	4	必修	
日本文化芸術論	2	選択	
世界演劇・舞踊史 Ⅰ	2	必修	
世界演劇・舞踊史 Ⅱ	2	必修	
Performing in English	1	選択	
演技・舞踊演習 Ⅰ	4	選択	
演技・舞踊演習 Ⅱ	4	選択	
日本演劇・舞踊史 Ⅰ	2	必修	
日本演劇・舞踊史 Ⅱ	2	必修	
演劇理論	2	選択	
芸術と社会	2	選択	
所作・擬闘	2	選択	
シアターデザイン基礎演習 Ⅰ	2	選択	
シアターデザイン基礎演習 Ⅱ	2	選択	
メイクアップ	2	選択	
上演実習 A	4	選択	
上演実習 B	4	選択	
舞台創造演習 Ⅰ	4	選択	
舞台創造演習 Ⅱ	4	選択	
芸術創造演習 Ⅰ	4	選択	
芸術創造演習 Ⅱ	4	選択	
応用演劇演習 Ⅰ	2	選択	
応用演劇演習 Ⅱ	2	選択	
芸術プロジェクト A	2	選択	
芸術プロジェクト B	2	選択	
演技・舞踊演習 Ⅲ	4	選択	
演技・舞踊演習 Ⅳ	4	選択	
オーディション演習	2	選択	
上演実習 C	4	選択	
上演実習 D	4	選択	
劇場接遇演習（ゲストリレーション）	2	選択	
舞台創造演習 Ⅲ	4	選択	
舞台創造演習 Ⅳ	4	選択	
芸術プロジェクト C	2	選択	
芸術プロジェクト D	2	選択	
アナウンス・ナレーション研究	2	選択	
劇空間デザイン研究	2	選択	
舞台芸術研究 Ⅰ	2	必修	
舞台芸術研究 Ⅱ	2	必修	
芸術創造演習 Ⅲ	4	選択	
芸術創造演習 Ⅳ	4	選択	
応用演劇演習 Ⅲ	2	選択	
応用演劇演習 Ⅳ	2	選択	

授業科目名	単位	履修条件	卒業要件
芸術プロジェクト E	2	選択	
芸術プロジェクト F	2	選択	
卒業創作・研究 A	4	必修	
卒業創作・研究 B	4	必修	
舞台芸術研究 Ⅲ	2	必修	
舞台芸術研究 Ⅳ	2	必修	

※履修方法の詳細は学生要覧による

別表第２－①

リベラルアーツ学科科目

授業科目名	単位	履修条件	卒業要件
リベラルアーツ基礎	1	必修	
こどもと心の科学	2	選択	
パーソナリティ心理学	2	選択	
ブリッジ講座 A	2	必修	
ブリッジ講座 B	2	選択	
哲学の諸問題	2	選択	
倫理学の諸問題	2	選択	
宗教学の諸問題	2	選択	
社会分析基礎論	2	選択	
文学と社会	2	選択	
キリスト教思想史	2	選択	
社会心理学	2	選択	
社会調査実習 Ⅰ	2	選択	
社会調査法	4	選択	
心理学研究法 Ⅰ	2	選択	
心理学研究法 Ⅱ	2	選択	
日本語教育概論	2	選択	
日本語教育演習	2	選択	
考現学演習	2	選択	
儀礼文化論	2	選択	
国際関係研究	2	選択	
国際貿易論	2	選択	
リベラルアーツセミナー ⅠA	2	必修	
リベラルアーツセミナー ⅠB	2	選択	
リベラルアーツセミナー ⅡA	2	必修	
リベラルアーツセミナー ⅡB	2	選択	
文献講読 A	2	選択	
文献講読 B	2	選択	
フィールドリサーチ	2	選択	
死生論	2	選択	
現代と倫理	2	選択	
心の哲学	2	選択	
哲学特殊研究	2	選択	
法哲学	2	選択	
宗教的人間研究	2	選択	
宗教的文化研究	2	選択	
青年・成人・老年期の心の科学	2	選択	
認知行動科学	2	選択	
言語心理学	2	選択	
児童文学	2	選択	
現代文学研究	2	選択	
比較文学	2	選択	
民俗芸能論	2	選択	
民俗文化研究	2	選択	
日本語指導法 Ⅰ	2	選択	
日本語指導法 Ⅱ	2	選択	
日本語教育実習 A	1	選択	

授業科目名	単位	履修条件	卒業要件
日本語教育実習 B	2	選択	
日本語教育実習 C	2	選択	
表象文化論	2	選択	
現代サブカルチャー論	2	選択	
社会学理論	2	選択	
社会調査実習 Ⅱ	2	選択	
産業・組織心理学	2	選択	
国際関係事例研究 A	2	選択	
国際関係事例研究 B	2	選択	
STEMと現代社会 Ⅰ	2	選択	
STEMと現代社会 Ⅱ	2	選択	
リベラルアーツセミナー Ⅲ	2	選択	
リベラルアーツセミナー Ⅳ	2	選択	
リベラルアーツプロジェクト	2	必修	
専門研究 A	2	選択	
専門研究 B	2	選択	
日本思想史	2	選択	
実証的社会学研究	2	選択	
健康心理学	2	選択	
犯罪心理学	2	選択	
日本語教育現場研究	2	選択	
鑑賞批評論	2	選択	
グローバル人材論	2	選択	
環境平和論	2	選択	
日本学調査実習	2	選択	
STEM文献研究	2	選択	

※履修方法の詳細は学生要覧による

別表第２－①

観光学科科目

授業科目名	単位	履修条件	卒業要件
観光概論	3	必修	
College English Ⅰ	2	必修	
Intensive English Training A	1	選択	
観光立国論	1	必修	
観光地理学	2	選択	
観光史	2	選択	
College English Ⅱ	2	必修	
Intensive English Training B	1	選択	
リサーチ・メソッド	2	必修	
College English Ⅲ	2	必修	
Intensive English Training C	1	選択	
留学準備セミナー	1	必修	
観光経営学 A	2	選択	
デスティネーション・マーケティング A	2	選択	
観光社会学 A	2	選択	
観光政策論	2	選択	
国際観光論 A	2	選択	
観光経営学 B	2	選択	
デスティネーション・マーケティング B	2	選択	
観光社会学 B	2	選択	
国際観光論 B	2	選択	
English for Business Purposes Ⅰ	3	選択	
English for Business Purposes Ⅱ	3	選択	
English for Academic Purposes	2	選択	
English for Specific Purposes Ⅰ	2	選択	
English for Specific Purposes Ⅱ	2	選択	
Business Communication Ⅰ	2	選択	
Business Communication Ⅱ	2	選択	
Intercultural Communication	2	選択	
Intercultural Case Studies	2	選択	
Communicative Skills in English	2	選択	
Methods for Analysis	2	選択	
Tourism & Hospitality Systems	2	選択	
Management & Marketing Studies	2	選択	
観光時事講義	2	選択	
College Reading & Writing Ⅰ	2	必修	
観光学ゼミナール Ⅰ	2	必修	
観光開発論 A	2	選択	
観光行動論 A	2	選択	
観光文化論 A	2	選択	

授業科目名	単位	履修条件	卒業要件
航空事業論 A	2	選択	
宿泊事業論 A	2	選択	
旅行事業論 A	2	選択	
地域文化論	2	選択	
観光キャリア論	2	選択	
観光文献講読	2	選択	
観光関連法規	2	選択	
交通事業論	2	選択	
ホスピタリティ・マネジメント	2	選択	
観光開発論 B	2	選択	
観光行動論 B	2	選択	
観光文化論 B	2	選択	
航空事業論 B	2	選択	
宿泊事業論 B	2	選択	
旅行事業論 B	2	選択	
College Reading & Writing Ⅱ	2	必修	
観光財務情報分析	2	選択	
異文化交流論	2	選択	
観光経済学	2	選択	
観光メディア論	2	選択	
国際協力	2	選択	
観光まちづくり関連法規	2	選択	
サービス・マーケティング	2	選択	
アート・ツーリズム	2	選択	
イベント・ツーリズム	2	選択	
エコ・ツーリズム	2	選択	
観光学ゼミナール Ⅱ	2	選択	
English Communication Strategies	2	必修	
College Reading & Writing Ⅲ	2	選択	
観光情報システム	2	選択	
ホスピタリティ論	2	選択	
観光学ゼミナール Ⅲ	2	選択	
卒業論文	2	選択	

※履修方法の詳細は学生要覧による

別表第２－①

通信教育ユニバーシティ・スタンダード科目

	授業科目名	単位	履修条件	卒業要件
玉川教育・FYE科目群	一年次セミナー 101	2	必修	9単位
	一年次セミナー 102	2	必修	
	健康教育	1	必修	
	音楽 Ⅰ	1	必修	
	音楽 Ⅱ	1	必修	
	全人教育論	2	必修	
人文科学科目群	歴史 （世界）	2	選択	16単位以上
	歴史 （日本）	2	選択	
	哲学	2	選択	
	倫理学	2	選択	
	宗教学	2	選択	
社会科学科目群	コミュニケーション論	2	選択	
	国際関係論	2	選択	
	心理学	2	選択	
自然科学科目群	生物学入門	2	選択	
	数学入門	2	選択	
	物理学入門	2	選択	
学際科目群	健康スポーツ理論	2	選択	
	環境教育	2	選択	
言語表現科目群	ELF （通信101）	2	選択	
	ELF （通信102）	2	選択	
	日本語表現	2	選択	

	授業科目名	単位	履修条件	卒業要件
教職関連科目群	情報科学入門	2	選択	学科科目と合わせて99単位以上
	日本国憲法	2	選択	
	教職 （体育実技）	1	選択	
	教職 （健康教育）	1	選択	
	精神保健	2	選択	
	生命と性の教育	2	選択	
	異文化理解と教育	2	選択	
資格関連科目群	学校経営と学校図書館	2	選択	
	学習指導と学校図書館	2	選択	
	学校図書館メディアの構成	2	選択	
	読書と豊かな人間性	2	選択	
	情報メディアの活用	2	選択	
	図書館概論	2	選択	
	図書館施設論	1	選択	
	図書館情報技術論	2	選択	
	図書館制度・経営論	2	選択	
	図書館サービス概論	2	選択	
	情報サービス論	2	選択	
	児童サービス論	2	選択	
	情報サービス演習 A	1	選択	
	情報サービス演習 B	1	選択	
	情報資源組織論	2	選択	
	情報資源組織演習 A	1	選択	
	情報資源組織演習 B	1	選択	
	図書・図書館史	1	選択	
	生涯学習と生涯教育	2	選択	
	社会教育経営論 A	2	選択	
	社会教育経営論 B	2	選択	
	社会教育実習	2	選択	
	社会教育課題研究	2	選択	
	生涯学習支援論 A	2	選択	
	生涯学習支援論 B	2	選択	
	視聴覚教育メディア論	2	選択	
	博物館経営論	2	選択	
	博物館資料保存論	2	選択	
	博物館展示論	2	選択	
	博物館情報・メディア論	2	選択	
	博物館実習	3	選択	
	文化史	2	選択	
	日本美術史	2	選択	
	西洋美術史	2	選択	
	考古学	2	選択	
	自然科学史	2	選択	

※履修方法の詳細については、学生要覧による。

別表第２－①

教育学科通信教育課程科目

授業科目名	単位	履修条件	卒業要件
教育学概論	2	必修	
教職概論	2	選択	
教育の制度と経営	2	選択	
教育原理	2	選択	
学習・発達論	2	選択	
教育哲学	2	選択	
教育心理学	2	選択	
教育方法学	2	選択	
教育社会学	2	選択	
発達心理学	2	選択	
生涯学習概論	2	選択	
教育の方法と技術	2	選択	
国語	2	選択	
算数	2	選択	
理科	2	選択	
社会	2	選択	
家庭	2	選択	
生活	2	選択	
音楽	2	選択	
図工	2	選択	
体育　（幼・小）	2	選択	
外国語　（英語）	2	選択	
保育内容総論	2	選択	
文化人類学	2	選択	
民俗学入門	2	選択	
社会学	2	選択	
経済学　（国際経済を含む。）	2	選択	
ボランティア概論	2	選択	
比較文化論	2	選択	
世界の宗教と文化	2	選択	
市民社会と法	2	選択	
日本史概論	2	選択	
図書館情報資源概論	2	選択	
図書館情報資源特論	1	選択	
教育実践演習 A	2	必修	
教育実践演習 B	2	必修	
教育課程編成論	2	選択	
道徳教育の理論と方法	2	選択	
総合的な学習の時間の理論と方法	1	選択	
特別活動の理論と方法	1	選択	
生徒・進路指導の理論と方法	2	選択	
教育相談の理論と方法	2	選択	
幼児理解と教育相談	2	選択	

授業科目名	単位	履修条件	卒業要件
幼児教育課程論	2	選択	
幼児指導論	2	選択	
保育内容指導法　（健康）	2	選択	
保育内容指導法　（人間関係）	2	選択	
保育内容指導法　（環境）	2	選択	
保育内容指導法　（言葉）	2	選択	
保育内容指導法　（表現）	2	選択	
国語科指導法	2	選択	
社会科指導法	2	選択	
算数科指導法	2	選択	
理科指導法	2	選択	
生活科指導法	2	選択	
音楽科指導法	2	選択	
家庭科指導法	2	選択	
図工科指導法	2	選択	
体育科指導法	2	選択	
外国語（英語）指導法	2	選択	
日本史各論 A	2	選択	
日本史各論 B	2	選択	
外国史概論	2	選択	
外国史各論 A	2	選択	
外国史各論 B	2	選択	
西洋文化史	2	選択	
東洋文化史	2	選択	
地理学概論	2	選択	
観光地誌論	2	選択	
政治学　（国際政治を含む。）	2	選択	
西洋哲学思想史	2	選択	
東洋思想史	2	選択	
地球科学	2	選択	
宇宙科学	2	選択	
博物館概論	2	選択	
博物館資料論	2	選択	
博物館教育論	2	選択	
現代教育研究　Ⅰ	2	必修	
現代教育研究　Ⅱ	2	必修	
特別支援教育	1	選択	
臨床心理学	2	選択	
日本の伝統文化と歴史	2	選択	
日本と外国の歴史	2	選択	
歴史資料情報論	2	選択	
人文地理学	2	選択	
自然地理学	2	選択	

別表第２－①

教育学科通信教育課程科目

授業科目名	単位	履修条件	卒業要件
地理情報論	2	選択	
地誌学概論	2	選択	
世界の教育と文化環境	2	選択	
現代社会の教育課題	2	選択	
ICT利活用の授業実践	2	選択	
法律学　（国際法を含む。）	2	選択	
社会科・公民科指導法　Ⅰ	2	選択	
社会科・公民科指導法　Ⅱ	2	選択	
社会科・地理歴史科指導法　Ⅰ	2	選択	
社会科・地理歴史科指導法　Ⅱ	2	選択	
教育実習　（幼稚園）	5	選択	
教育実習　（小学校）	5	選択	
教育実習　（中学校）	5	選択	
教育実習　（高等学校）	3	選択	
教育実習　（副・幼稚園）	3	選択	
教育実習　（副・小学校）	3	選択	
教育実習　（副・中学校）	3	選択	
卒業課題研究	4	選択	
教職実践演習　（幼）	2	選択	
教職実践演習　（小）	2	選択	
教職実践演習　（中・高）	2	選択	
代数学　Ⅰ	2	選択	
代数学　Ⅱ	2	選択	
幾何学　Ⅰ	2	選択	
幾何学　Ⅱ	2	選択	
解析学　Ⅰ	2	選択	
解析学　Ⅱ	2	選択	
解析学　Ⅲ	2	選択	
確率統計学　Ⅰ	2	選択	
確率統計学　Ⅱ	2	選択	
コンピュータ	2	選択	
数学科指導法　Ⅰ	2	選択	
数学科指導法　Ⅱ	2	選択	
数学科指導法　Ⅲ	2	選択	
数学科指導法　Ⅳ	2	選択	

※履修方法の詳細については、学生要覧による。

教育学科通信教育課程（幼稚園教育コース）

	開設年次	授業科目名	単位	履修条件
幼稚園教育コース科目	1年次	教育学概論	2	必修
		教育原理	2	必修
		教職概論	2	必修
		教育の制度と経営	2	必修
		学習・発達論	2	必修
		教育の方法と技術	2	必修
		保育内容総論	2	必修
		生涯学習概論	2	選択
		教育哲学	2	選択
		教育心理学	2	選択
		教育方法学	2	選択
		教育社会学	2	選択
		発達心理学	2	選択
		国語	2	選択
		算数	2	選択
		生活	2	選択
		音楽	2	選択
		図工	2	選択
		体育（幼・小）	2	選択
	2年次	幼児理解と教育相談	2	必修
		幼児教育課程論	2	必修
		道徳教育の理論と方法	2	選択
		幼児指導論	2	必修
		保育内容指導法　（健康）	2	必修
		保育内容指導法　（人間関係）	2	必修
		保育内容指導法　（環境）	2	必修
		保育内容指導法　（言葉）	2	必修
		保育内容指導法　（表現）	2	必修
	3年次	特別支援教育	1	必修
	4年次	教育実習　（幼稚園）	5	必修
		教育実習　（副・幼稚園）	3	必修
		教職実践演習　（幼）	2	必修
	小計(32科目)		67	

幼稚園の「領域及び保育の指導法に関する科目」

幼稚園の「教育の基礎的理解に関する科目」

● 小学校　□地理歴史

◆ 社会　▲公民

	開設年次	授業科目名		単位	履修条件
幼稚園教育コース以外の科目	1年次	理科	●	2	選択
		社会	●	2	選択
		家庭	●	2	選択
		外国語（英語）	●	2	選択
		日本史概論	◆□	2	選択
		社会学	◆▲	2	選択
		経済学　（国際経済を含む。）	◆▲	2	選択
		民俗学入門	◆□	2	選択
		ボランティア概論	◆▲	2	選択
		文化人類学	□	2	選択
		世界の宗教と文化	□	2	選択
		市民社会と法	□	2	選択
		図書館情報資源特論	□	1	選択
		図書館情報資源概論	□	2	選択
		比較文化論	□	2	選択
		代数学Ⅰ		2	選択
		解析学Ⅰ		2	選択
		解析学Ⅱ		2	選択
	2年次	総合的な学習の時間の理論と方法	●◆▲□	1	選択
		特別活動の理論と方法	●◆▲□	1	選択
		教育課程編成論	●◆▲□	2	選択
		生徒・進路指導の理論と方法	●◆▲□	2	選択
		教育相談の理論と方法	●◆▲□	2	選択
		国語科指導法	●	2	選択
		社会科指導法	●	2	選択
		算数科指導法	●	2	選択
		理科指導法	●	2	選択
		生活科指導法	●	2	選択
		音楽科指導法	●	2	選択
		家庭科指導法	●	2	選択
		図工科指導法	●	2	選択
		体育科指導法	●	2	選択
		外国語（英語）指導法	●	2	選択
		外国史概論	◆□	2	選択
		地理学概論	◆□	2	選択
		政治学　（国際政治を含む。）	◆▲	2	選択
		西洋哲学思想史	◆▲	2	選択
		東洋思想史	◆▲	2	選択
		日本史各論 A	□	2	選択
		日本史各論 B	□	2	選択
		外国史各論 A	□	2	選択
		外国史各論 B	□	2	選択
		東洋文化史	□	2	選択
		西洋文化史	□	2	選択
		観光地誌論	□	2	選択
		博物館概論	□	2	選択

別表第２－①

教育学科通信教育課程（幼稚園教育コース）

	開設年次	授業科目名		単位	履修条件
幼稚園教育コース以外の科目	2年次	博物館資料論	□	2	選択
		博物館教育論	□	2	選択
		地球科学	□	2	選択
		宇宙科学	□	2	選択
		確率統計学Ⅰ		2	選択
		確率統計学Ⅱ		2	選択
		幾何学Ⅰ		2	選択
		解析学Ⅲ		2	選択
		数学科指導法Ⅰ		2	選択
		数学科指導法Ⅱ		2	選択
	3年次	現代教育研究　Ⅰ		2	必修
		教育実践演習 A		2	必修
		社会科・公民科指導法　Ⅰ	◆▲	2	選択
		社会科・公民科指導法　Ⅱ	◆▲	2	選択
		社会科・地理歴史科指導法　Ⅰ	□◆	2	選択
		社会科・地理歴史科指導法　Ⅱ	□◆	2	選択
		歴史資料情報論	□	2	選択
		地理情報論	□	2	選択
		法律学(国際法を含む。)	◆▲	2	選択
		地誌学概論	◆□	2	選択
		人文地理学	□	2	選択
		自然地理学	□	2	選択
		日本の伝統文化と歴史	□	2	選択
		日本と外国の歴史	◆□	2	選択
		世界の教育と文化環境	□	2	選択
		臨床心理学		2	選択
		現代社会の教育課題		2	選択
		ＩＣＴ利活用の授業実践		2	選択
		代数学Ⅱ		2	選択
		数学科指導法Ⅲ		2	選択
		数学科指導法Ⅳ		2	選択
	4年次	現代教育研究　Ⅱ		2	必修
		教育実践演習 B		2	必修
		教育実習　(小学校)	●	5	―
		教育実習　(中学校)	◆	5	―
		教育実習　(高等学校)	▲□	3	―
		教育実習　(副・小学校)	●	3	―
		教育実習　(副・中学校)	◆	3	―
		卒業課題研究		4	選択
		教職実践演習　(小)	●	2	―
		教職実践演習　(中・高)	◆▲□	2	―
		幾何学Ⅱ		2	選択
		コンピュータ		2	選択
	小計(89科目)			186	

別表第２－①

教育学科　通信教育課程（小学校教育コース）

	開設年次	授業科目名	単位	履修条件
小学校教育コース科目	1年次	教育学概論	2	必修
		教育原理	2	必修
		教職概論	2	必修
		教育の制度と経営	2	必修
		学習・発達論	2	必修
		教育の方法と技術	2	必修
		生涯学習概論	2	選択
		教育哲学	2	選択
		教育心理学	2	選択
		教育方法学	2	選択
		教育社会学	2	選択
		発達心理学	2	選択
		国語	2	選択
		算数	2	選択
		生活	2	選択
		音楽	2	選択
		図工	2	選択
		体育(幼・小)	2	選択
		理科	2	選択
		社会	2	選択
		家庭	2	選択
		外国語（英語）	2	選択
	2年次	教育課程編成論	2	必修
		道徳教育の理論と方法	2	必修
		総合的な学習の時間の理論と方法	1	必修
		特別活動の理論と方法	1	必修
		生徒・進路指導の理論と方法	2	必修
		教育相談の理論と方法	2	必修
		国語科指導法	2	必修
		社会科指導法	2	必修
		算数科指導法	2	必修
		理科指導法	2	必修
		生活科指導法	2	必修
		音楽科指導法	2	必修
		家庭科指導法	2	必修
		図工科指導法	2	必修
		体育科指導法	2	必修
		外国語（英語）指導法	2	必修
	3年次	特別支援教育	1	必修
		現代社会の教育課題	2	選択
	4年次	教育実習　（小学校）	5	必修
		教育実習　（副・小学校）	3	必修
		教職実践演習　（小）	2	必修
	小計（43科目）		87	

	開設年次	授業科目名		単位	履修条件
小学校教育コース以外の科目	1年次	日本史概論	◆□	2	選択
		経済学(国際経済を含む。)	◆▲	2	選択
		社会学	◆▲	2	選択
		ボランティア概論	◆▲	2	選択
		民俗学入門	◆□	2	選択
		保育内容総論	★	2	選択
		比較文化論	□	2	選択
		世界の宗教と文化	□	2	選択
		市民社会と法	□	2	選択
		図書館情報資源特論	□	1	選択
		図書館情報資源概論	□	2	選択
		文化人類学	□	2	選択
		代数学Ⅰ		2	選択
		解析学Ⅰ		2	選択
		解析学Ⅱ		2	選択
	2年次	幼児理解と教育相談	★	2	選択
		幼児教育課程論	★	2	選択
		幼児指導論	★	2	選択
		保育内容指導法　（健康）	★	2	選択
		保育内容指導法　（人間関係）	★	2	選択
		保育内容指導法　（環境）	★	2	選択
		保育内容指導法　（言葉）	★	2	選択
		保育内容指導法　（表現）	★	2	選択
		政治学　（国際政治を含む。）	◆▲	2	選択
		外国史概論	◆□	2	選択
		地理学概論	◆□	2	選択
		西洋哲学思想史	◆▲	2	選択
		東洋思想史	◆▲	2	選択
		日本史各論 A	□	2	選択
		日本史各論 B	□	2	選択
		外国史各論 A	□	2	選択
		外国史各論 B	□	2	選択
		東洋文化史	□	2	選択
		西洋文化史	□	2	選択
		観光地誌論	□	2	選択
		博物館概論	□	2	選択
		博物館資料論	□	2	選択
		博物館教育論	□	2	選択
		地球科学	□	2	選択
		宇宙科学	□	2	選択
		確率統計学Ⅰ		2	選択
		確率統計学Ⅱ		2	選択
		幾何学Ⅰ		2	選択
		解析学Ⅲ		2	選択
		数学科指導法Ⅰ		2	選択
		数学科指導法Ⅱ		2	選択

★　幼稚園　□地理歴史

◆　社会　▲公民

小学校の「教科及び教科の指導法に関する科目」

小学校の「教育の基礎的理解に関する科目」

別表第２－①

教育学科　通信教育課程（小学校教育コース）

	開設年次	授業科目名		単位	履修条件
小学校教育コース以外の科目	3年次	現代教育研究　Ⅰ		2	必修
		教育実践演習 A		2	必修
		日本と外国の歴史	◆□	2	選択
		地誌学概論	◆□	2	選択
		人文地理学	□	2	選択
		自然地理学	□	2	選択
		法律学(国際法を含む。)	◆▲	2	選択
		地理情報論	□	2	選択
		歴史資料情報論	□	2	選択
		日本の伝統文化と歴史	□	2	選択
		世界の教育と文化環境	□	2	選択
		社会科・公民科指導法　Ⅰ	◆▲	2	選択
		社会科・公民科指導法Ⅱ	◆▲	2	選択
		社会科・地理歴史科指導法Ⅰ	◆□	2	選択
		社会科・地理歴史科指導法Ⅱ	◆□	2	選択
		臨床心理学		2	選択
		ＩＣＴ利活用の授業実践		2	選択
		代数学Ⅱ		2	選択
		数学科指導法Ⅲ		2	選択
		数学科指導法Ⅳ		2	選択
	4年次	現代教育研究　Ⅱ		2	必修
		教育実践演習 B		2	必修
		教育実習　（幼稚園）	★	5	―
		教育実習　（中学校）	◆	5	―
		教育実習　（高等学校）	▲□	3	―
		教育実習　（副・幼稚園）	★	3	―
		教育実習　（副・中学校）	◆	3	―
		卒業課題研究		4	選択
		教職実践演習　（幼）	★	2	―
		教職実践演習　（中・高）	◆▲□	2	―
		幾何学Ⅱ		2	選択
		コンピュータ		2	選択
	小計(78科目)			166	

別表第２－①

教育学科　通信教育課程（社会科教育コース）

	開設年次	授業科目名	単位	履修条件
社会科教育コース科目	1年次	教育学概論	2	必修
		教育原理	2	必修
		教職概論	2	必修
		教育の制度と経営	2	必修
		学習・発達論	2	必修
		教育の方法と技術	2	必修
		生涯学習概論	2	選択
		教育哲学	2	選択
		教育心理学	2	選択
		教育方法学	2	選択
		教育社会学	2	選択
		発達心理学	2	選択
		日本史概論	2	必修
		経済学(国際経済を含む。)	2	選択
		民俗学入門	2	選択
		ボランティア概論	2	選択
		社会学	2	選択
	2年次	教育課程編成論	2	必修
		道徳教育の理論と方法	2	必修
		総合的な学習の時間の理論と方法	1	必修
		特別活動の理論と方法	1	必修
		生徒・進路指導の理論と方法	2	必修
		教育相談の理論と方法	2	必修
		外国史概論	2	必修
		地理学概論	2	必修
		政治学　(国際政治を含む。)	2	選択
		東洋思想史	2	選択
		西洋哲学思想史	2	選択
	3年次	特別支援教育	1	必修
		現代社会の教育課題	2	選択
		地誌学概論	2	必修
		日本と外国の歴史	2	選択
		法律学(国際法を含む。)	2	選択
		社会科・公民科指導法　Ⅰ	2	必修
		社会科・公民科指導法　Ⅱ	2	必修
		社会科・地理歴史科指導法　Ⅰ	2	必修
		社会科・地理歴史科指導法　Ⅱ	2	必修
	4年次	教育実習　(中学校)	5	必修
		教育実習　(副・中学校)	3	必修
		教職実践演習　(中・高)	2	必修
	小計（40科目）		81	

	開設年次	授業科目名		単位	履修条件
社会科教育コース以外の科目	1年次	保育内容総論	★	2	選択
		国語	★●	2	選択
		算数	★●	2	選択
		理科	●	2	選択
		社会	●	2	選択
		家庭	●	2	選択
		生活	★●	2	選択
		音楽	★●	2	選択
		図工	★●	2	選択
		体育(幼・小)	★●	2	選択
		外国語（英語）	●	2	選択
		文化人類学	□	2	選択
		比較文化論	□	2	選択
		世界の宗教と文化	□	2	選択
		市民社会と法	□	2	選択
		図書館情報資源特論	□	1	選択
		図書館情報資源概論	□	2	選択
		代数学Ⅰ		2	選択
		解析学Ⅰ		2	選択
		解析学Ⅱ		2	選択
	2年次	幼児理解と教育相談	★	2	選択
		幼児教育課程論	★	2	選択
		幼児指導論	★	2	選択
		保育内容指導法　(健康)	★	2	選択
		保育内容指導法　(人間関係)	★	2	選択
		保育内容指導法　(環境)	★	2	選択
		保育内容指導法　(言葉)	★	2	選択
		保育内容指導法　(表現)	★	2	選択
		国語科指導法	●	2	選択
		社会科指導法	●	2	選択
		算数科指導法	●	2	選択
		理科指導法	●	2	選択
		生活科指導法	●	2	選択
		音楽科指導法	●	2	選択
		家庭科指導法	●	2	選択
		図工科指導法	●	2	選択
		体育科指導法	●	2	選択
		外国語（英語）指導法	●	2	選択
		日本史各論 A	□	2	選択
		日本史各論 B	□	2	選択
		外国史各論 A	□	2	選択
		外国史各論 B	□	2	選択
		東洋文化史	□	2	選択
		西洋文化史	□	2	選択
		観光地誌論	□	2	選択
		博物館概論	□	2	選択
		博物館資料論	□	2	選択
		博物館教育論	□	2	選択

社会の「教科及び教科の指導法に関する科目」

社会の「教育の基礎的理解に関する科目等」

★　幼稚園

●　小学校

▲　公民

□　地理歴史

別表第２－①

教育学科　通信教育課程（社会科教育コース）

	開設年次	授業科目名		単位	履修条件
社会科教育コース以外の科目	2年次	地球科学	□	2	選択
		宇宙科学	□	2	選択
		確率統計学Ⅰ		2	選択
		確率統計学Ⅱ		2	選択
		幾何学Ⅰ		2	選択
		解析学Ⅲ		2	選択
		数学科指導法Ⅰ		2	選択
		数学科指導法Ⅱ		2	選択
	3年次	現代教育研究　Ⅰ		2	必修
		教育実践演習 A		2	必修
		人文地理学	□	2	選択
		自然地理学	□	2	選択
		歴史資料情報論	□	2	選択
		地理情報論	□	2	選択
		日本の伝統文化と歴史	□	2	選択
		世界の教育と文化環境	□	2	選択
		臨床心理学		2	選択
		ＩＣＴ利活用の授業実践		2	選択
		代数学Ⅱ		2	選択
		数学科指導法Ⅲ		2	選択
		数学科指導法Ⅳ		2	選択
	4年次	現代教育研究　Ⅱ		2	必修
		教育実践演習 B		2	必修
		教育実習　（幼稚園）	★	5	―
		教育実習　（小学校）	●	5	―
		教育実習　（高等学校）	▲□	3	―
		教育実習　（副・幼稚園）	★	3	―
		教育実習　（副・小学校）	●	3	―
		卒業課題研究		4	選択
		教職実践演習　（幼）	★	2	―
		教職実践演習　（小）	●	2	―
		幾何学Ⅱ		2	選択
		コンピュータ		2	選択
	小計（81科目）			172	

別表第２－①

教育学科　通信教育課程（地理歴史教育コース）

	開設年次	授業科目名	単位	履修条件
地理歴史教育コースの科目	1年次	教育学概論	2	必修
		教育原理	2	必修
		教職概論	2	必修
		教育の制度と経営	2	必修
		学習・発達論	2	必修
		教育の方法と技術	2	必修
		生涯学習概論	2	選択
		教育哲学	2	選択
		教育心理学	2	選択
		教育方法学	2	選択
		教育社会学	2	選択
		発達心理学	2	選択
		日本史概論	2	必修
		民俗学入門	2	選択
	2年次	教育課程編成論	2	必修
		総合的な学習の時間の理論と方法	1	必修
		特別活動の理論と方法	1	必修
		生徒･進路指導の理論と方法	2	必修
		教育相談の理論と方法	2	必修
		道徳教育の理論と方法	2	選択
		外国史概論	2	必修
		地理学概論	2	必修
		日本史各論 A	2	選択
		日本史各論 B	2	選択
		外国史各論 A	2	選択
		外国史各論 B	2	選択
		東洋文化史	2	選択
		西洋文化史	2	選択
		観光地誌論	2	選択
	3年次	特別支援教育	1	必修
		現代社会の教育課題	2	選択
		日本と外国の歴史	2	必修
		歴史資料情報論	2	必修
		地理情報論	2	必修
		地誌学概論	2	必修
		日本の伝統文化と歴史	2	必修
		人文地理学	2	選択
		自然地理学	2	選択
		社会科・地理歴史科指導法Ⅰ	2	必修
		社会科・地理歴史科指導法Ⅱ	2	必修
	4年次	教育実習　（高等学校）	3	必修
		教職実践演習　（中・高）	2	必修
	小計（42科目）		82	

★幼稚園　◆社会

●小学校　▲公民

地理歴史の「教科及び教科の指導法に関する科目」

地理歴史の「教育の基礎的理解に関する科目等」

	開設年次	授業科目名	単位	履修条件
地理歴史教育コース関連科目	1年次	比較文化論	2	選択
		世界の宗教と文化	2	選択
		市民社会と法	2	選択
		文化人類学	2	選択
		図書館情報資源特論	1	選択
		図書館情報資源概論	2	選択
	2年次	地球科学	2	選択
		宇宙科学	2	選択
		博物館概論	2	選択
		博物館資料論	2	選択
		博物館教育論	2	選択
	3年次	世界の教育と文化環境	2	選択
	小計（12科目）		23	

	開設年次	授業科目名		単位	履修条件
地理歴史教育コース以外の科目	1年次	保育内容総論	★	2	選択
		国語	★●	2	選択
		算数	★●	2	選択
		理科	●	2	選択
		社会	●	2	選択
		家庭	●	2	選択
		生活	★●	2	選択
		音楽	★●	2	選択
		図工	★●	2	選択
		体育(幼・小)	★●	2	選択
		外国語（英語）	●	2	選択
		経済学(国際経済を含む。)	◆▲	2	選択
		社会学	◆▲	2	選択
		ボランティア概論	◆▲	2	選択
		代数学Ⅰ		2	選択
		解析学Ⅰ		2	選択
		解析学Ⅱ		2	選択
	2年次	幼児理解と教育相談	★	2	選択
		幼児教育課程論	★	2	選択
		幼児指導論	★	2	選択
		保育内容指導法　（健康）	★	2	選択
		保育内容指導法　（人間関係）	★	2	選択
		保育内容指導法　（環境）	★	2	選択
		保育内容指導法　（言葉）	★	2	選択
		保育内容指導法　（表現）	★	2	選択
		国語科指導法	●	2	選択
		社会科指導法	●	2	選択
		算数科指導法	●	2	選択
		理科指導法	●	2	選択
		生活科指導法	●	2	選択
		音楽科指導法	●	2	選択
		家庭科指導法	●	2	選択

別表第２－①

教育学科　通信教育課程（地理歴史教育コース）

	開設年次	授業科目名		単位	履修条件
地理歴史教育コース以外の科目	2年次	図工科指導法	●	2	選択
		体育科指導法	●	2	選択
		外国語（英語）指導法	●	2	選択
		政治学　（国際政治を含む。）	◆▲	2	選択
		西洋哲学思想史	◆▲	2	選択
		東洋思想史	◆▲	2	選択
		確率統計学Ⅰ		2	選択
		確率統計学Ⅱ		2	選択
		幾何学Ⅰ		2	選択
		解析学Ⅲ		2	選択
		数学科指導法Ⅰ		2	選択
		数学科指導法Ⅱ		2	選択
	3年次	現代教育研究　Ⅰ		2	必修
		教育実践演習 A		2	必修
		法律学(国際法を含む。)	◆▲	2	選択
		社会科・公民科指導法　Ⅰ	◆▲	2	選択
		社会科・公民科指導法Ⅱ	◆▲	2	選択
		臨床心理学		2	選択
		ＩＣＴ利活用の授業実践		2	選択
		代数学Ⅱ		2	選択
		数学科指導法Ⅲ		2	選択
		数学科指導法Ⅳ		2	選択
	4年次	現代教育研究　Ⅱ		2	必修
		教育実践演習 B		2	必修
		教育実習　（幼稚園）	★	5	―
		教育実習　（小学校）	●	5	―
		教育実習　（中学校）	◆	5	―
		教育実習　（副・幼稚園）	★	3	―
		教育実習　（副・小学校）	●	3	―
		教育実習　（副・中学校）	◆	3	―
		卒業課題研究		4	選択
		教職実践演習　（幼）	★	2	―
		教職実践演習　（小）	●	2	―
		幾何学Ⅱ		2	選択
		コンピュータ		2	選択
	小計（67科目）			148	

別表第２－①

教育学科　通信教育課程（公民教育コース）

	開設年次	授業科目名	単位	履修条件
公民教育コースの科目	1年次	教育学概論	2	必修
		教育原理	2	必修
		教職概論	2	必修
		教育の制度と経営	2	必修
		学習・発達論	2	必修
		教育の方法と技術	2	必修
		生涯学習概論	2	選択
		教育哲学	2	選択
		教育心理学	2	選択
		教育方法学	2	選択
		教育社会学	2	選択
		発達心理学	2	選択
		ボランティア概論	2	選択
		社会学	2	選択
		経済学(国際経済を含む。)	2	選択
	2年次	教育課程編成論	2	必修
		総合的な学習の時間の理論と方法	1	必修
		特別活動の理論と方法	1	必修
		生徒･進路指導の理論と方法	2	必修
		教育相談の理論と方法	2	必修
		道徳教育の理論と方法	2	選択
		政治学（国際政治を含む。）	2	選択
		西洋哲学思想史	2	選択
		東洋思想史	2	選択
	3年次	特別支援教育	1	必修
		現代社会の教育課題	2	選択
		法律学(国際法を含む。)	2	選択
		社会科・公民科指導法　Ⅰ	2	必修
		社会科・公民科指導法　Ⅱ	2	必修
	4年次	教育実習　（高等学校）	3	必修
		教職実践演習　（中・高）	2	必修
	小計（31科目）		60	

	開設年次	授業科目名		単位	履修条件
公民教育コース以外の科目	1年次	保育内容総論	★	2	選択
		国語	★●	2	選択
		算数	★●	2	選択
		理科	●	2	選択
		社会	●	2	選択
		家庭	●	2	選択
		生活	★●	2	選択
		音楽	★●	2	選択
		図工	★●	2	選択
		体育(幼・小)	★●	2	選択
		外国語（英語）	●	2	選択
		日本史概論	◆□	2	選択
		民俗学入門	◆□	2	選択
		文化人類学	□	2	選択
		比較文化論	□	2	選択
		世界の宗教と文化	□	2	選択
		市民社会と法	□	2	選択
		図書館情報資源特論	□	1	選択
		図書館情報資源概論	□	2	選択
		代数学Ⅰ		2	選択
		解析学Ⅰ		2	選択
		解析学Ⅱ		2	選択
	2年次	幼児理解と教育相談	★	2	選択
		幼児教育課程論	★	2	選択
		幼児指導論	★	2	選択
		保育内容指導法　（健康）	★	2	選択
		保育内容指導法　（人間関係）	★	2	選択
		保育内容指導法　（環境）	★	2	選択
		保育内容指導法　（言葉）	★	2	選択
		保育内容指導法　（表現）	★	2	選択
		国語科指導法	●	2	選択
		社会科指導法	●	2	選択
		算数科指導法	●	2	選択
		理科指導法	●	2	選択
		生活科指導法	●	2	選択
		音楽科指導法	●	2	選択
		家庭科指導法	●	2	選択
		図工科指導法	●	2	選択
		体育科指導法	●	2	選択
		外国語（英語）指導法	●	2	選択
		外国史概論	◆□	2	選択
		地理学概論	◆□	2	選択
		日本史各論 A	□	2	選択
		日本史各論 B	□	2	選択
		外国史各論 A	□	2	選択
		外国史各論 B	□	2	選択

社会の「教科及び教科の指導法に関する科目」

社会の「教育の基礎的理解に関する科目等」

★幼稚園　◆社会

●小学校　□地理歴史

別表第２－①

教育学科　通信教育課程（公民教育コース）

	開設年次	授業科目名		単位	履修条件
公民教育コース以外の科目	2年次	東洋文化史	□	2	選択
		西洋文化史	□	2	選択
		観光地誌論	□	2	選択
		博物館概論	□	2	選択
		博物館資料論	□	2	選択
		博物館教育論	□	2	選択
		地球科学	□	2	選択
		宇宙科学	□	2	選択
		確率統計学Ⅰ		2	選択
		確率統計学Ⅱ		2	選択
		幾何学Ⅰ		2	選択
		解析学Ⅲ		2	選択
		数学科指導法Ⅰ		2	選択
		数学科指導法Ⅱ		2	選択
	3年次	現代教育研究　Ⅰ		2	必修
		教育実践演習 A		2	必修
		日本と外国の歴史	◆□	2	選択
		地誌学概論	◆□	2	選択
		社会科・地理歴史科指導法　Ⅰ	◆□	2	選択
		社会科・地理歴史科指導法　Ⅱ	◆□	2	選択
		歴史資料情報論	□	2	選択
		地理情報論	□	2	選択
		人文地理学	□	2	選択
		自然地理学	□	2	選択
		日本の伝統文化と歴史	□	2	選択
		世界の教育と文化環境	□	2	選択
		臨床心理学		2	選択
		ＩＣＴ利活用の授業実践		2	選択
		代数学Ⅱ		2	選択
		数学科指導法Ⅲ		2	選択
		数学科指導法Ⅳ		2	選択
	4年次	現代教育研究　Ⅱ		2	必修
		教育実践演習 B		2	必修
		教育実習　（幼稚園）	★	5	―
		教育実習　（小学校）	●	5	―
		教育実習　（中学校）	◆	5	―
		教育実習　（副・幼稚園）	★	3	―
		教育実習　（副・小学校）	●	3	―
		教育実習　（副・中学校）	◆	3	―
		卒業課題研究		4	選択
		教職実践演習　（幼）	★	2	―
		教職実践演習　（小）	●	2	―
		幾何学Ⅱ		2	選択
		コンピュータ		2	選択
	小計（90科目）			193	

別表第２－①

教育学科通信教育課程（教員免許取得コースを除く）

	開設年次	授業科目名	単位	履修条件
教育学科科目（教員免許取得コースを除く）	1年次	教育学概論	2	必修
		教育原理	2	選択
		教職概論	2	選択
		教育の方法と技術	2	選択
		生涯学習概論	2	選択
		教育の制度と経営	2	選択
		学習・発達論	2	選択
		教育哲学	2	選択
		教育心理学	2	選択
		教育方法学	2	選択
		教育社会学	2	選択
		発達心理学	2	選択
		保育内容総論	2	選択
		国語	2	選択
		算数	2	選択
		生活	2	選択
		音楽	2	選択
		図工	2	選択
		体育	2	選択
		理科	2	選択
		社会	2	選択
		家庭	2	選択
		外国語（英語）	2	選択
		日本史概論	2	選択
		経済学(国際経済を含む。)	2	選択
		社会学	2	選択
		民俗学入門	2	選択
		文化人類学	2	選択
		ボランティア概論	2	選択
		比較文化論	2	選択
		世界の宗教と文化	2	選択
		市民社会と法	2	選択
		図書館情報資源特論	1	選択
		図書館情報資源概論	2	選択
		代数学Ⅰ	2	選択
		解析学Ⅰ	2	選択
		解析学Ⅱ	2	選択
	2年次	総合的な学習の時間の理論と方法	1	選択
		特別活動の理論と方法	1	選択
		道徳教育の理論と方法	2	選択
		教育課程編成論	2	選択
		生徒･進路指導の理論と方法	2	選択
		教育相談の理論と方法	2	選択

	開設年次	授業科目名	単位	履修条件
教育学科科目（教員免許取得コースを除く）	2年次	幼児理解と教育相談	2	選択
		幼児教育課程論	2	選択
		幼児指導論	2	選択
		保育内容指導法　（健康）	2	選択
		保育内容指導法　（人間関係）	2	選択
		保育内容指導法　（環境）	2	選択
		保育内容指導法　（言葉）	2	選択
		保育内容指導法　（表現）	2	選択
		国語科指導法	2	選択
		社会科指導法	2	選択
		算数科指導法	2	選択
		理科指導法	2	選択
		生活科指導法	2	選択
		音楽科指導法	2	選択
		家庭科指導法	2	選択
		図工科指導法	2	選択
		体育科指導法	2	選択
		外国語（英語）指導法	2	選択
		外国史概論	2	選択
		政治学　（国際政治を含む。）	2	選択
		西洋哲学思想史	2	選択
		東洋思想史	2	選択
		日本史各論 A	2	選択
		日本史各論 B	2	選択
		外国史各論 A	2	選択
		外国史各論 B	2	選択
		地理学概論	2	選択
		東洋文化史	2	選択
		西洋文化史	2	選択
		観光地誌論	2	選択
		博物館概論	2	選択
		博物館資料論	2	選択
		博物館教育論	2	選択
		地球科学	2	選択
		宇宙科学	2	選択
		確率統計学Ⅰ	2	選択
		確率統計学Ⅱ	2	選択
		幾何学Ⅰ	2	選択
		解析学Ⅲ	2	選択
		数学科指導法Ⅰ	2	選択
		数学科指導法Ⅱ	2	選択

別表第２－①

教育学科通信教育課程（教員免許取得コースを除く）

	開設年次	授業科目名	単位	履修条件
教育学科科目（教員免許取得コースを除く）	3年次	現代教育研究　Ⅰ	2	必修
		教育実践演習 A	2	必修
		特別支援教育	1	選択
		日本の伝統文化と歴史	2	選択
		法律学(国際法を含む。)	2	選択
		地誌学概論	2	選択
		歴史資料情報論	2	選択
		地理情報論	2	選択
		人文地理学	2	選択
		自然地理学	2	選択
		臨床心理学	2	選択
		世界の教育と文化環境	2	選択
		日本と外国の歴史	2	選択
		現代社会の教育課題	2	選択
		ＩＣＴ利活用の授業実践	2	選択
		社会科・公民科指導法　Ⅰ	2	選択
		社会科・公民科指導法Ⅱ	2	選択
		社会科・地理歴史指導法Ⅰ	2	選択
		社会科・地理歴史指導法Ⅱ	2	選択
		代数学Ⅱ	2	選択
		数学科指導法Ⅲ	2	選択
		数学科指導法Ⅳ	2	選択
	4年次	現代教育研究　Ⅱ	2	必修
		教育実践演習 B	2	必修
		教育実習　（幼稚園）	5	―
		教育実習　（小学校）	5	―
		教育実習　（中学校）	5	―
		教育実習　（高等学校）	3	―
		教育実習　（幼稚園）	3	―
		教育実習　（小学校）	3	―
		教育実習　（中学校）	3	―
		卒業課題研究	4	―
		教職実践演習　（幼）	2	―
		教職実践演習　（小）	2	―
		教職実践演習　（中・高）	2	―
		幾何学Ⅱ	2	選択
		コンピュータ	2	選択
	合計（121科目）		253	

別表第２－②

芸術専攻科芸術専攻

授業科目	単位数	備考
A群≪共通必修科目≫		
芸術専攻演習 Ⅰ	2	
芸術専攻演習 Ⅱ	2	
修了プロジェクト	8	
B群≪共通選択科目≫		
芸術特別研究 A （音楽系）	2	
芸術特別研究 B （舞台美術系）	2	
芸術特別研究 C （美術系）	2	
芸術教育研究	2	
C群≪選択必修≫		
芸術専門研究 Ⅰ	4	
芸術専門研究 Ⅱ	4	
専門特殊研究 Ⅰ	4	
専門特殊研究 Ⅱ	4	
実技専門研究 Ⅰ （音楽）	8	
実技専門研究 Ⅱ （音楽）	8	
実技専門研究 Ⅰ （美術）	8	
実技専門研究 Ⅱ （美術）	8	
実技専門研究 Ⅰ （舞台芸術）	8	
実技専門研究 Ⅱ （舞台芸術）	8	

履修方法

（１）A群《共通必修科目》を履修し、12単位を修得しなければならない。

（２）B群《共通選択科目》より科目を選択し、2単位以上を修得しなければならない。

（３）C群《選択必修科目》より各々の専門分野に従い16単位を修得しなければならない。

（４）本専攻科を修了するには、上記第1項，第2項及び第3項の要件を満たし、合計30単位以上を修得しなければならない。

別表第３－①

学部	学科	免許状の種類	教科
文学部	国語教育学科	中学校教諭１種免許状	国語
		高等学校教諭１種免許状	国語
	英語教育学科	中学校教諭１種免許状	英語
		高等学校教諭１種免許状	英語
農学部	生産農学科	中学校教諭１種免許状	理科
		高等学校教諭１種免許状	理科・農業
工学部	情報通信工学科	中学校教諭１種免許状	数学
		高等学校教諭１種免許状	数学・工業
	ソフトウェアサイエンス学科	中学校教諭１種免許状	数学
		高等学校教諭１種免許状	数学・情報
	マネジメントサイエンス学科	中学校教諭１種免許状	数学
		高等学校教諭１種免許状	数学
教育学部	教育学科	幼稚園教諭１種免許状	
		小学校教諭１種免許状	
		中学校教諭１種免許状	社会・保健体育
		高等学校教諭１種免許状	地理歴史・公民・保健体育
	乳幼児発達学科	幼稚園教諭１種免許状	
芸術学部	音楽学科	中学校教諭１種免許状	音楽
		高等学校教諭１種免許状	音楽
	アート・デザイン学科	中学校教諭１種免許状	美術
		高等学校教諭１種免許状	美術・工芸
教育学部	教育学科 通信教育課程	幼稚園教諭１種免許状	
		小学校教諭１種免許状	
		中学校教諭１種免許状	社会
		高等学校教諭１種免許状	地理歴史・公民

別表第３－②

専攻科名	免許状の種類	教科
芸術専攻科芸術専攻	中学校教諭専修免許状	音楽
		美術
	高等学校教諭専修免許状	音楽
		美術

履修方法

免許状の種類	基礎資格	専攻科における修得単位数
中学校教諭専修免許状（音楽） 中学校教諭専修免許状（美術）	中学校教諭１種免許状（音楽） 中学校教諭１種免許状（美術）	24単位以上
高等学校教諭専修免許状（音楽） 高等学校教諭専修免許状（美術）	高等学校教諭１種免許状（音楽） 高等学校教諭１種免許状（美術）	24単位以上

別表第４－①　　（単位は円）

学部・学科 / 項目		文学部		農学部			工学部	経営学部	教育学部	芸術学部	リベラルアーツ学部	観光学部
		国語教育学科	*英語教育学科	生産農学科	*環境農学科	先端食農学科	情報通信工学科 ソフトウェアサイエンス学科 マネジメントサイエンス学科 エンジニアリングデザイン学科	国際経営学科	教育学科 乳幼児発達学科	音楽学科 アート・デザイン学科 演劇・舞踊学科	リベラルアーツ学科	＊ 観光学科
授業料	１年次	1,023,000	1,023,000	1,047,000	1,047,000	1,047,000	1,103,000	1,023,000	1,023,000	1,193,000	1,023,000	1,023,000
	２年次	1,033,000	516,500	1,057,000	705,000	1,057,000	1,113,000	1,033,000	1,033,000	1,203,000	1,033,000	516,500
	３年次	1,043,000	521,500	1,067,000	1,067,000	1,067,000	1,123,000	1,043,000	1,043,000	1,213,000	1,043,000	521,500
	４年次	1,053,000	1,053,000	1,077,000	1,077,000	1,077,000	1,133,000	1,053,000	1,053,000	1,223,000	1,053,000	1,053,000
教育研究諸料	１年次	216,700	216,700	293,000	293,000	295,100	293,000	216,700	226,700	263,000	216,700	216,700
	２年次	216,700	216,700	293,000	293,000	295,100	293,000	216,700	226,700	263,000	216,700	216,700
	３年次	216,700	216,700	293,000	293,000	295,100	293,000	216,700	226,700	263,000	216,700	216,700
	４年次	216,700	216,700	293,000	293,000	295,100	293,000	216,700	226,700	263,000	216,700	216,700
施設設備金	１年次	200,000	200,000	250,000	250,000	256,800	270,000	200,000	200,000	280,000	200,000	200,000
	２年次	200,000	100,000	250,000	167,000	256,800	270,000	200,000	200,000	280,000	200,000	100,000
	３年次	200,000	100,000	250,000	250,000	256,800	270,000	200,000	200,000	280,000	200,000	100,000
	４年次	200,000	200,000	250,000	250,000	256,800	270,000	200,000	200,000	280,000	200,000	200,000
留学費用	１年次											
	２年次		留学授業料 US$12,955 （備考７）		留学授業料 CAN$6,747 （備考７）							留学授業料 AU$19,960 （備考７）
	３年次											
	４年次											
入学金		250,000		250,000			250,000	250,000	250,000	250,000	250,000	250,000
入学検定料		35,000		35,000			35,000	35,000	35,000	35,000	35,000	35,000

備　考

１．休学期間中の在籍料は、玉川大学休学に関する在籍料取扱要領による。

２．留学期間中は、在籍料として当該年次の教育研究諸料、施設設備金を納入するものとする。

３．玉川学園女子短期大学卒業生及び本大学からの編入生は入学金を徴収しない。

４．卒業延期者の納付金は、授業料を単位制、教育研究諸料及び施設設備金をセメスター単位で徴収する。

５．大学入試センター試験利用入学試験、英語外部試験スコア利用入学試験及び本学が指定する資格・検定取得者並びに併願受験の際の入学検定料については、別途に定める。

６．教職課程の受講料及び学芸員資格取得に関する費用は、別途に定める。

７．＊学科の留学費用は留学当該年次セメスターで徴収する。
　　留学授業料の最終決定は該当年の留学授業料と２月の為替レートで円換算し決定される。

別表第４－①
教育学部教育学科通信教育課程

（単位は円）

課程 費目	正科生	科目等履修生	備考
入学選考料	20,000	20,000	
入学金	30,000	—	
編入料	10,000	—	
登録料	—	15,000	
授業料	125,300	8,000	
学修料	8,000	8,000	

１．科目等履修生授業料は科目等履修料と読み替えるものとする。
２．科目等履修生の科目等履修料は１単位分である。
３．休学期間中は、在籍料として当該年次の授業料、学修料の２分の１相当額を徴収する。
４．所定の年限を経てなお在学する場合の授業料は別途定める。
５．玉川大学・玉川学園女子短期大学卒業者及び玉川大学大学院修了者の正科生入学金・編入料、科目等履修生登録料は徴収しない。
６．インターネットによる出願にあたっては、入学選考料・編入料は２分の１相当額、学修料は2,000円を差し引いた金額を徴収する。

別表第４－②

（単位は円）

項目 専攻	授業料	教育研究諸料	施設設備金	入学金	入学検定料
芸術専攻科芸術専攻	1,160,000	193,000	160,000	150,000	35,000

備　考　１．休学期間中は、在籍料として別途定める額を納入するものとする。
　　２．玉川大学からの進学者は、入学金を徴収しない。

玉 川 大 学 学 則

「教授会に関する記述の抜粋」

第12章　大学部長会及び教授会

（省　略）

第44条　各学部にそれぞれ教授会を置く。
2　教授会は、その学部の専任教授をもって組織する。
3　教授会は審議事項について必要があるとき、准教授、助教、講師及びその他必要な教職員を出席させることができる。
4　教授会は、定例に学部長がこれを招集する。ただし、学長が必要と認めたときは、これを招集することができる。
5　教授会は、学長が次に掲げる事項について決定を行うにあたり意見を述べるものとする。
（1）学生の入学、卒業
（2）学位の授与
（3）前2号に掲げるもののほか、教育研究に関する重要な事項で、教授会の意見を聴くことが必要なものとして学長が定めるもの
6　教授会は、前項に規定するもののほか、学長及び学部長その他の教授会が置かれる組織の長（以下「学長等」という）がつかさどる教育研究に関する事項について審議し、及び学長等の求めに応じ、意見を述べることができる。
7　教授会の運営については、玉川大学教授会等運営規程による。

第45条　学長が必要と認めたときは、又は教授会から特に要求があったときは、学長は全学教授会を招集することができる。
2　全学教授会は全学の専任教授をもって組織する。
3　全学教授会は審議事項について必要があるとき、准教授、助教、講師及びその他必要な教職員を出席させることができる。
4　全学教授会は、学長が特に必要と認めた本大学の重要事項を審議する。

第46条　学長が必要と認めたとき、各種委員会等を組織し、それぞれの専門分野について審議研究することができる。なお、細部については、玉川大学教授会等運営規程による。

（省　略）

玉川大学教授会等運営規程

平成14年4月1日制定

改正

平成16年4月1日	平成17年4月1日
平成18年4月1日	平成19年4月1日
平成20年4月1日	平成21年4月1日
平成22年4月1日	平成23年4月1日
平成24年4月1日	平成25年4月1日
平成26年4月1日	平成27年4月1日
平成28年4月1日	平成28年7月29日
平成29年4月1日	平成30年4月1日
平成31年4月1日	令和2年4月1日

玉川大学教授会等運営規程

（目的）

第1条　玉川大学学則（以下「本大学学則」という。）第44条第7項並びに第46条に規定する玉川大学教授会（以下「教授会」という。）の運営について、学校法人玉川学園会議等運営規程のほか、本規程に定める。

（会議）

第2条　教授会は毎月これを開会する。

2　教授会の議長は、学部長がこれに当たる。

3　教授会は、特に定めのある場合を除き、構成員の過半数の出席をもって成立する。

4　教授会に係る事務主管は教学部とする。

（審議事項）

第3条　本大学学則第44条第5項及び第6項の審議並びに第7項の運営については、次の各号による。

（1）学部長が必要と認めた場合には、学科ごとに審議し、学部教授会の意見とすることができる。

（2）本大学学則第44条第5項第1号の「入学者の決定」については、学長が委嘱した各学部入学試験判定会議において審議し、学長がこれを決定する。

（3）学長又は学部長は、前号の決定を学部教授会に報告するものとする。

（4）教員の任用、昇格にあたっての教員資格審査については、予め学長が委嘱した教員資格審査委員会で審議し、学長が決定する。

（審議事項の報告）

第4条　教授会の審議の結果は、学科主任等により、必要に応じ速やかに各学科に報告するものとする。

（各委員会）

第5条　本大学学則第46条に基づき、教務委員会、教職課程委員会、学生委員会、入学試験運営委員会、課外活動支援委員会、キャリア・就職指導委員会、FD委員会、大学学事運営委員会、国際教育推進委員会、インターンシップ委員会、ELF運営委員会、環境エデュケーター委員会、アクティブ・ラーニング推進委員会、教育再生加速委員会、及びIR委員会を置く。また、文学部には、中学校英語2種免許認定通信教育プログラム運営委員会、教育学部には、幼保取得特例プログラム運営委員会及び通信教育課程入学選考委員会を置く。

2　各委員会の委員は、毎年度当初、学部長等が各学科主任等の意見を徴し、学長に推薦し、学長が任命する。

3　委員会は、学長の諮問に答え、審議の結果を答申する。また、委員会は、必要な事項を審議し、大学部長会に建議又は学長に上申することができる。

（教務委員会）

第6条　教務委員会は、教学部長を委員長とし、各学部の教務主任及び事務担当をもって構成する。

2　教務委員会は、次の事項を審議する。

（1）教育課程の基本的・共通的事項（教育課程改正に関する事項を含む。）

(2) 時間割編成に係る共通的事項
(3) その他本委員会に属する事項
3 教務委員会は、委員長が招集し開催する。
4 教務委員会は、原則として毎月開催する。
5 事務主管は教学部とする。
(教職課程委員会)
第7条 教職課程委員会は、教師教育リサーチセンター長を委員長とし、各学部の教職担当及び事務担当をもって構成する。
2 教職課程委員会は、次の事項を審議する。
(1) 教職に関する事項
(2) 教職課程に関する事項
(3) 教職課程のカリキュラムに関する事項
(4) 教育職員免許状・保育士資格、その他の資格に関する事項
(5) その他本委員会に属する事項
3 教職課程委員会は、委員長が招集し開催する。
4 教職課程委員会は、原則として毎月開催する。
5 事務主管は教師教育リサーチセンターとする。
(学生委員会)
第8条 学生委員会は、学生支援センター長を委員長とし、各学部の学生主任及び事務担当をもって構成する。
2 学生委員会は、次の事項を審議する。
(1) 学生の生活指導に関する基本的事項
(2) 学生の福利厚生に関する事項
(3) その他本委員会に属する事項
3 学生委員会は、必要に応じて委員長が招集し開催する。
4 事務主管は学生支援センターとする。
(入学試験運営委員会)
第9条 入学試験運営委員会は、学長を委員長とし、各学部長、副学部長、教学部長、教学部事務部長、入試広報部長及び事務担当をもって構成する。
2 入学試験運営委員会は、次の事項を審議する。
(1) 入学試験科目及び日程に関する事項
(2) 推薦入学試験の推薦基準に関する事項
(3) 入学試験の出題・点検・採点者及び監督者の編成に関する事項
(4) 入学者選抜の在り方とその実施方法に関する事項
(5) その他本委員会に属する事項
3 入学試験運営委員会は、必要に応じて委員長が招集し開催する。
4 事務主管は入試広報部とする。
(課外活動支援委員会)
第10条 課外活動支援委員会は、学生支援センター長を委員長とし、各学部から選任された委員及び事務担当をもって構成する。
2 課外活動支援委員会は、次の事項を審議する。
(1) 課外活動全般の指導に関する事項
(2) 課外活動の行事に関する事項
(3) 各会(体育会、文化会)の指導運営に関する事項
(4) 課外活動における緊急事故処置に関する事項
(5) その他本委員会に属する事項
3 課外活動支援委員会は、必要に応じて委員長が招集し開催する。
4 事務主管は学生支援センターとする。

（キャリア・就職指導委員会）
第11条　キャリア・就職指導委員会は、キャリアセンター長を委員長とし、各学部の就職担当及び事務担当をもって構成する。
2　キャリア・就職指導委員会は、次の事項を審議する。
（1）就職及びキャリア支援に対する基本的・共通的な事項
（2）その他本委員会に属する事項
3　キャリア・就職指導委員会は、必要に応じて委員長が招集し開催する。
4　事務主管はキャリアセンターとする。
（FD委員会）
第12条　FD委員会の運営については、別に定める玉川大学FD委員会規程による。
2　事務主管は教学部とする。
（大学学事運営委員会）
第13条　大学学事運営委員会は、教学部長を委員長とし、各学部から選任された委員及び事務担当をもって構成する。
2　大学学事運営委員会は、次の事項を審議する。
（1）学事日程の調整に関する事項
（2）行事の内容及び形態に関する事項
（3）行事の運営に関する事項
（4）行事の運営体制に関する事項
（5）オリエンテーション・入学式・大学卒業式・大学院修了式・体育祭・音楽祭・クリスマス礼拝・卒業祝賀パーティに関する事項
（6）その他本委員会が本大学の行事の共通運営に必要と認める事項
3　大学学事運営委員会は、必要に応じて委員長が招集し開催する。
4　事務主管は教学部とする。
（国際教育推進委員会）
第14条　国際教育推進委員会は、国際教育センター長を委員長とし、各学部の国際教育担当及び事務担当をもって構成する。
2　国際教育推進委員会は、次の事項を審議する。
（1）海外留学プログラムに関する事項
（2）海外研修プログラムに関する事項
（3）国際教育・交流プログラムに関する事項
（4）その他委員長が必要と認めた事項
3　国際教育推進委員会は、委員長が招集し開催する。
4　国際教育推進委員会は、原則として毎月開催する。
5　事務主管は国際教育センターとする。
（インターンシップ委員会）
第15条　インターンシップ委員会は、教学部長を委員長とし、各学部のインターンシップ担当及び事務担当をもって構成する。
2　委員長が必要と認めたときには、副委員長を置くことができる。
3　インターンシップ委員会は、次の事項を審議する。
（1）インターンシップ推進に関する事項
（2）インターンシップ受入企業等の選定に関する事項
（3）派遣学生に関する事項
（4）その他本委員会に属する事項
4　インターンシップ委員会は、委員長が招集し開催する。
5　インターンシップ委員会は、原則として毎月開催する。
6　事務主管は教学部とする。
（ELF運営委員会）

第16条　ELF運営委員会は、ELFセンター長を委員長とし、各学部から選任された委員及び事務担当をもって構成する。
2　ELF運営委員会は、次の事項を審議する。
（1）ELFプログラムの開発・運営・実施に関する事項
（2）教科書選定・教材開発・整備に関する事項
（3）学生の英語学修サポート（e－Learning）に関する事項
（4）プレースメントテストの実施・クラス編成・成績管理に関する事項
（5）その他本委員会に属する事項
3　ELF運営委員会は、必要に応じて委員長が招集し開催する。
4　事務主管はELFセンターとする。
（環境エデュケーター委員会）
第17条　環境エデュケーター委員会は、教学部長を委員長とし、各学部から選任された委員及び事務担当をもって構成する。
2　環境エデュケーター委員会は、次の事項を審議する。
（1）環境エデュケーター養成講座に関する事項
（2）環境エデュケータートレーニング講座に関する事項
（3）学生環境保全委員会の活動に関する事項
（4）その他本委員会が必要と認める事項
3　環境エデュケーター委員会は、必要に応じて委員長が招集し開催する。
4　事務主管は教学部とする。
（アクティブ・ラーニング推進委員会）
第18条　アクティブ・ラーニング推進委員会は、教学部長を委員長とし、各学部から選任された委員及び事務担当をもって構成する。
2　アクティブ・ラーニング推進委員会は、次の事項を審議する。
（1）アクティブ・ラーニングの推進に関する事項
（2）その他本委員会が必要と認める事項
3　事務主管は教学部とする。
（教育再生加速委員会）
第19条　教育再生加速委員会は、教学部長を委員長とし、各学部から選任された委員及び事務担当をもって構成する。
2　教育再生加速委員会は、次の事項を審議する。
（1）教育再生加速事業に関する事項
（2）その他本委員会が必要と認める事項
3　事務主管は教学部とする。
（IR委員会）
第20条　IR委員会の審議事項は、別に定める玉川大学IR委員会規程による。
2　IR委員会は、必要に応じて委員長が招集し開催する。
3　事務主管は教学部とする。
（文学部中学校英語2種免許認定通信教育プログラム運営委員会）
第21条　文学部中学校英語2種免許認定通信教育プログラム運営委員会の運営については、別に定める玉川大学文学部中学校英語2種免許認定通信教育プログラム運営委員会規程による。
2　事務主管は教学部とする。
（幼保取得特例プログラム運営委員会）
第22条　幼保取得特例プログラム運営委員会の運営については、別に定める玉川大学幼保取得特例プログラム運営委員会規程による。
2　事務主管は教学部とする。
（通信教育課程入学選考委員会）
第23条　通信教育課程入学選考委員会の運営については、別に定める玉川大学教育学部教育学科通

信教育課程規程による。
2　事務主管は入試広報部とする。
附　則
1　この規程は、平成14年4月1日から施行する。
2　玉川大学教授会等運営に関する細則（昭和44年4月1日制定）は廃止する。
附　則（平成15年4月1日）
この規程は、平成15年4月1日から施行する。
附　則（平成16年4月1日）
この規程は、平成16年4月1日から施行する。
附　則（平成17年4月1日）
この規程は、平成17年4月1日から施行する。
附　則（平成18年4月1日）
この規程は、平成18年4月1日から施行する。
附　則（平成19年4月1日）
この規程は、平成19年4月1日から施行する。
附　則（平成20年4月1日）
この規程は、平成20年4月1日から施行する。
附　則（平成21年4月1日）
1　この規程は、平成21年4月1日から施行する。
2　玉川大学学事運営委員会規程（平成15年4月1日制定）は廃止する。
附　則（平成22年4月1日）
この規程は、平成22年4月1日から施行する。
附　則（平成23年4月1日）
この規程は、平成23年4月1日から施行する。
附　則（平成24年4月1日）
この規程は、平成24年4月1日から施行する。
附　則（平成25年4月1日）
この規程は、平成25年4月1日から施行する。
附　則（平成26年4月1日）
この規程は、平成26年4月1日から施行する。
附　則（平成27年4月1日）
この規程は、平成27年4月1日から施行する。
附　則（平成28年4月1日）
この規程は、平成28年4月1日から施行する。
附　則（平成28年7月29日）
この規程は、平成28年7月29日から施行する。
附　則（平成29年4月1日）
この規程は、平成29年4月1日から施行する。
附　則（平成30年4月1日）
この規程は、平成30年4月1日から施行する。
附　則（平成31年4月1日）
この規程は、平成31年4月1日から施行する。
附 則（令和2年4月1日）
この規程は、令和2年4月1日から施行する。

設置の趣旨等を記載した書類　目次

1.設置の趣旨及び必要性 1

2.学部、学科等の特色 3

3.学部・学科等の名称及び学位の名称 4

4.教育課程の編成の考え方及び特色 4

5.教員組織の編成の考え方及び特色 7

6.教育方法、履修指導方法及び卒業要件 7

7.施設、設備等の整備計画 8

8.入学者選抜の概要 10

9.管理運営 10

10.自己点検・評価 11

11.情報の公表 13

12.教育内容等の改善を図るための組織的な取組 14

13.社会的・職業的自立に関する指導等及び体制 14

設 置 の 趣 旨 等 を 記 載 し た 書 類

1.設置の趣旨及び必要性

（1）設置の必要性

①大学の目的と使命

創立者小原國芳は、人間を「生まれながらにして、唯一無二の個性を持ちつつも、万人共通の世界をも有する存在である」と定義した。この人間観を基礎に、その人をより魅力的な存在にする個性を伸ばそうとする「個性尊重」の教育と、全ての人間に共通する才能を育む「全人教育」が成立した。

ここでいう「全人教育」とは、真・善・美・聖・健・富の6つの価値の創造にあるとし、それは即ち学問・道徳・芸術・宗教・健康・生活の6方面の人間文化を調和的に豊かに形成することをいうのである。

この教育理想の実現に向けて、当初、中学部、小学部、幼稚部の学校を設置してスタート。さらに数々の設置を経て昭和24年新学制の公布によって新制の玉川大学設置を見た。

玉川大学は、玉川学園の建学の理想にかんがみ、「全人教育」をもって教育精神とし、広い教養と深い専門の学術の理論及び応用を教授する。宗教教育、芸術教育を重んじ魂を醇化し、浄らかな情操を養成し、厳粛な道義心を涵養することをもって人格を陶冶し、併せて人類の幸福と世界の文化の進展に寄与することを目的としてきている。

これからの玉川大学の使命は、一つにこの人間像を実現させることであり、そして二つに、日本社会、さらには世界に貢献できる人材を養成することにある。

②学科の設置の必要性

文化芸術基本法に基づき平成30年3月に閣議決定された「文化芸術推進基本計画―文化芸術の『多様な価値』を活かして、未来をつくる―」（以下「基本計画」）においては、「文化芸術は、国民全体及び人類普遍の社会的財産として、創造的な経済活動の源泉や、持続的な経済発展や国際協力の円滑化の基盤となるもの」とされ、更に「我が国の文化財や伝統等は、世界に誇るべきものであり、日本人自身がその価値を十分に認識し、これを維持、継承、発展させることが重要である」とされている。一方で、「急激な社会変化によって、人材や活動の場の確保等文化芸術を支えてきた基盤がぜい弱化する中で、分野によっては、後継者育成や適切な専門的人材の確保が困難になっている」などの課題が指摘されている。

基本計画では、今後5年間（平成30年度～令和4年度）の文化芸術政策の基本的な方向性として、「文化芸術の創造・発展・継承と豊かな文化芸術教育の充実」「多様で高い能力を有する専門的人材の確保・育成」等6つの戦略を掲げ、「文化芸術を創造し、支える人材の育成・充実」や「高いスキルを有する専門的人材」の確保が重要であるとされている。

上記の実現にあたっては、「我が国の伝統芸能を保持」するため、「歌舞伎、大衆芸能等各分野の伝承者」や、「国際的な活躍が期待できる水準のバレエの実演家、確かな演技力を備えた次代の演劇を担う実演家」の育成を図ること、「企画制作者、舞台技術者・技能者」の確保などが挙げられている。

また、「芸術系大学等の有する教員や教育研究機能など、様々な資源を活用して、実演芸術のアートマネジメント等に関する専門的人材（文化施設・文化芸術団体の経営者、企画・広報やマーケティング等に従事するアートマネジメント人材、企画制作者、舞台技術者・技能者、美術館、博物館における学芸員・各種専門職員等）を養成する取組を推進する」ことや「大学等の教育機関や国立の文化施設等における文化芸術に係る教育及び研究の充実を図る」ことが期待されている。

他方で、社会的背景として、2030 年代には人工知能や IoT などの技術革新が進展し、サイバー空間と現実空間を融合させたシステムにより社会的課題の解決と経済発展を目指した、狩猟・農耕・工業・情報に続く新たな社会、Society 5.0 が到来すると言われている。それにより、技術的に人工知能やロボットに取って代わられる労働人口が急増することが見込まれている。

文部科学省中央教育審議会の答申「2040 年に向けた高等教育のグランドデザイン」においても「人工知能（AI）などの技術革新が進んでいく中においては、新しい技術を使っていく側として、読解力や数学的思考力を含む基礎的で普遍的な知識・理解と汎用的な技能を持ち、その知識や技能を活用でき、技術革新と価値創造の源となる飛躍知の発見・創造など新たな社会を牽引する能力が求められる。一言で言えば、AI には果たせない真に人が果たすべき役割を十分に考え、実行できる人材が必要となるのである。」としており、他者への理解、それに基づく協調や交渉能力のみならず、抽象的な概念を整理・創出するための知識が要求される職業が、代替可能性の低い職業としてあげられている。これらの要件は、芸術、特に創作過程がチームワークによって行われる演劇・舞踊分野においても最も求められるものでもある。

演劇は人間の生き方に最も深くふれる芸術であり、それが教育の中に正しく生かされた場合には、人間陶冶の優れた方法となる。演劇創造による教育は、本学では全人教育の一環として、早くからその実践と理論的探求がなされてきた。

その伝統のもと、これまで芸術学部パフォーミング・アーツ学科において演劇及び舞踊分野の教育を展開し、芸術活動の企画・運営はもとより、理論・舞台技術・制作面など芸術表現と芸術活動のもつ多様な可能性を追求することができた。また、舞踊は人間の「動き」によって感情を表現する芸術であり、本学の舞踊教育はリトミックをベースとして、同じく表現教育としての演劇教育と深く連携しながら発展してきた。

今日、演劇・舞踊をとりまく環境は、福祉や産業など他分野との連携の進展のほか、メディアやプラットフォームの細分化、またアーティストの社会的地位や芸術関係業務従事者の雇用環境などの社会的変化に伴い、カテゴライズや表現の手法のみならず価値観にも変化が起きている。一見専門性の追究が困難に見える中で、アウトリーチやインターンシップなども活用し、専門領域の構造を理解し、演習や実習を通して自由な発想を実現する力を身に付けることが必要不可欠である。

これまでパフォーミング・アーツ学科において実践してきた、広範的・多角的な学びを生かしつつ、基盤となる普遍的基礎知識の習得と実演家や技術者らによる実践的に専門性を高める演習や実習との両輪により、演劇・舞踊における芸術的価値への本質的な理解を深めることで、学生自身が潜在的に持っている個性や能力に気づき、自ら考え活路を拓き、芸術の力をもって社会における自らの役割を果たす実行力を持った人材を養成することを目的として本学科を設置する。

③専攻科との関係

本学に設置する芸術専攻科（芸術専攻）は、玉川大学の建学の精神に則り、芸術学部の教育の基礎の上に、精深な専門の理論及び応用の研究指導を行い、専門的技能者を養成し、もって文化の進展に寄与することを目的としている。

具体的には、芸術専攻科（芸術専攻）では、少人数の授業や個別の指導によって、学部教育において醸成された豊かな知識や技能、実践感覚を基礎として、学問的により広くかつ深く、高度な教育・研究を行っている。

(2) 教育研究上の目的及び養成する人材像（資料 1 参照）

①研究対象とする中心的な学問分野、養成する人材像及び学位授与の方針

演劇・舞踊学科の研究対象とする中心的な学問分野は美術分野と音楽分野である。

演劇や舞踊、または身体表現を伴う芸術や、それらに関連し応用し得る芸術・舞台芸術領域を

研究対象とする。

上演芸術の理論や歴史及び創造プロセスを多角的に学修し、上演芸術の価値及び社会における使命や役割について説くことができ、創造の現場及び社会に貢献する人材を養成する。

個の芸術を極めるだけでなく、芸術の価値・手法を社会や生活で活用するなど、おのおのがその能力を持って 、変化が著しい社会にも柔軟に対応し貢献する人物を育成する。

上記人材像を実現するため、次のような能力を身に付けさせることを学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）とする。

ディプロマ・ポリシー策定にあたっては、中央教育審議会答申「学士課程教育の構築にむけて」を踏まえて「知識・理解」「汎用的技能」「態度・志向性」の 3 種類に分類し、身に付けるべき知識等を、「～できる」「～を身に付けている」という学生を主語とした行為動詞とすることで、卒業時の到達目標を具体化している。

a ）上演芸術に関する専門的な知識・技能を身に付けることで、上演芸術を自然や社会と、さらには異文化・異分野などの多様な価値観と関連させながら理解することができる。

b ）上演芸術の専門的な知識・技能をもとに、多様化する社会の諸問題を認識、分析、解決するための意志を持ち、またそのための言語力・論理的思考力・マネジメント力・コミュニケーション力・表現力を身に付けている。

c ）上演芸術を理解し、創作を通じて他者と協働することで、相互の立場や特性を尊重しながら集団における統率力や責任感や倫理観を身に付けている。また、社会に貢献する意識を持つことができる。

d ）上演芸術の専門的な知識・技能を生かし、生涯にわたり積極的に学び続ける生涯学習力を身に付けている。

②想定される卒業後の具体的な進路

個の芸術を極めるだけでなく、上演芸術の理論や歴史及び創造プロセスを学修したうえで、創造の現場や社会に貢献することが期待される。主な進路としては、俳優、ダンサー、パフォーマー、劇作家、演出家、振付家、デザイナー（舞台美術・照明・音響）、舞台監督、制作者、ドラマターグ（ドラマトゥルク）、テクニカルスタッフ（装置・照明・音響・衣裳・小道具・映像）、劇場管理者、アクティングコーチ、ワークショップファシリテーター、演劇教育指導者、批評家、ジャーナリスト、大学院進学、海外留学、国内外企業、公務員などが想定される。

2.学部、学科等の特色

演劇・舞踊学科では、中央教育審議会答申「我が国の高等教育の将来像」の提言する「高等教育の多様な機能と個性・特色の明確化」を踏まえ、7 つの機能のうち「特定の専門的分野（芸術）の教育・研究」及び「幅広い職業人養成」を重点的に担うといえる。

上演芸術の理論や歴史及び創造プロセスを多角的に学修し、上演芸術の価値及び社会における使命や役割について説くことができ、創造の現場及び社会に貢献する人材を養成するため、次のような特色をもって教育・研究を展開する。

a ）1 年次は共通カリキュラムで広く舞台芸術全般を学び、2 年次より専門的な学修を進められるよう履修上の 3 つのコース「身体表現コース」、「舞台創造コース」、「芸術応用コース」を設ける。

「身体表現コース」はダンサーなど上演芸術の主体として身体表現に関する学びを通して、「舞台創造コース」は上演芸術を支えるスタッフとして最先端の劇場機構や舞台技術の学びを通して、「芸術応用コース」は上演芸術を創造する場のコーディネートやマネジメントあるいは演劇教育の実践のための知識や技術の学びを通して学位授与方針や人材養成の目標の達成を目指す。

b ）1 年次は必修科目『芸術概論』を通して、様々な芸術分野の基礎的知識を習得するとと

もに、他学科との交流を図り、多様な伝統文化についての知見を得る。1 年次に上演芸術を学ぶ上での基礎的な知識を体系的に会得した上で、2 年次にコースを選択し、3 つの専門性に分かれて学修できるように基礎科目から各コースの専門科目へと発展し、選択科目が応用力を補完する形をとる。2 年次、3 年次は知識・技能を高度化させると同時に演習形式やプロジェクト型授業に取り組むことで、協働力、コミュニケーション力を身に付け、集団における統率力や責任感や倫理観を培う。4 年次は修得した上演芸術の専門的知識・技能を活用し、『卒業創作・研究』、『舞台芸術研究』を通し更にその技術・技能や知識を深め、他者と協働しながら社会に貢献していく態度を養う。

c ）中央教育審議会答申の「我が国の高等教育の将来像」では「学習機会全体の中での高等教育の位置付けと各高等教育機関の個性・特色」で「教育の実施や卒業認定・学位授与に関する方針（カリキュラム・ポリシーやディプロマ・ポリシー）を明確にし、教育課程の改善や出口管理の強化を図ることが求められる。」と述べている。演劇・舞踊学科では、3 つのポリシーを一体的で整合性あるものとして策定することはもちろんのこと、高等教育の質保証として GPA（Grade Point Average）制度を導入し、単位の実質化に向けて履修登録上限単位数を半期 16 単位とし、GPA による学修警告制度を実施し、卒業要件に累積 GPA2.00 以上を付加している。

3.学部・学科等の名称及び学位の名称

設置する学科の名称及び学位の名称は以下のとおりである。

【学科の名称】　演劇・舞踊学科　（Department of Theatre and Performance）

【学位の名称】　学士（芸術学）　（Bachelor of Arts）

演劇や舞踊の実演のみならず、舞台デザイン、舞台技術、企画・制作、劇場・ホール運営などの学修をとおして、上演芸術の理論や歴史及び創造プロセスを多角的に学修し、上演芸術の価値及び社会における使命や役割について説くことができ、上演芸術の価値及び創造の現場及び社会に貢献する人材を養成することを学科の目的としていることから、学科名称を「演劇・舞踊学科」（Department of Theatre and Performance）とする。また、「特定の専門分野（芸術）の教育・研究」及び「幅広い職業人養成」を重点的に担う教育を行うことから、学位に付記する専攻分野の名称を「学士（芸術学）」（Bachelor of Arts）とする。

4.教育課程の編成の考え方及び特色

（1）教育課程の編成方針・考え方

本学科の人材養成の目的を達成するために、上演芸術に関する幅広い知識を体系的に学び、社会における芸術の役割を理解した上で、課題を解決できる力を修得することを目指す。そのために、我が国の文化芸術に興味と関心を持ち、多様な価値観と共生できる力を身に付けさせるとともに、身体による自己表現、舞台創造によるデザイン力、芸術応用による創造力を身に付けさせることを目指した教育課程を編成する。

特に教育課程を編成するにあたっては、学位授与の方針や人材養成の目標をもとに、知識・理解、汎用的技能、態度・志向性といった学士力を培うことを踏まえて科目の設定を行っている。

具体的には、以下に示す方針に基づいて教育課程を構築している。

a ）上演芸術に関する分野の体系化と構造化及び順次性を明確にする。

b ）知識体系に関する基礎教育を重視し、上演芸術を取り巻くあらゆる分野を横断できる教育課程を編成する。

c ）生涯を通じた持続的な自己教育力とリーダーシップを育成する。

d ）豊かな人間性と公共性や倫理性を育成する。

e ）諸団体や地域との連携・協同を強化し、社会の改善に積極的に関与できる力を育成する。

f ）外国語が「ELF」のみの履修となるため「読む、書く、聞く、話す」の 4 技能の発展を重視する。

この編成方針をもとに、具体的に以下の通り教育課程を構築する。

a ）学修の中核をなす学科科目は、1 年次に上演芸術を学ぶ上での基礎的な知識を会得した上で、2 年次にコースを選択し、3 つの専門に分かれて学修できるように、基礎科目から専門科目へと体系的に配置する。応用力を補完するために、選択科目を置く。

b ）2 年次（200 番台科目）には、1 年次で修得した上演芸術に関する基礎的な知識を実践を通して深めるために演習科目を多く配置する。また、「身体表現」「舞台創造」「芸術応用」の各コースに分かれた選択必修科目を開設し、コース別専門科目での学修の基礎となる科目を配置する。

c ）3 年次（300 番台科目）の核となる科目は、コース別の科目群として配置する。これらの科目は、より専門性の高い学修を行うことで卒業後の進路を見据えて一貫した履修ができるよう開設する。

d ）4 年次（400 番台科目）においては、上演芸術に関する教育・研究のまとめとして、実践形式の必修科目、プロジェクト型の選択科目を配置し、ディプロマ・ポリシーの達成を図る。

(2) 教育課程の特色（資料 2、3、4 参照）

諸答申において学士課程教育は教養教育と専門基礎教育を中心に行うとされており、また、教育基本法には「大学は学術の中心として、高い教養と専門的能力を培うとともに…」と定められている。その趣旨を踏まえ、教養豊かな幅広い知識を持ち、基礎学力の堅固な基盤と高度な専門能力を持った人材を育成するために、全学共通の教養科目「ユニバーシティ・スタンダート科目群」と本学科の「専門科目群」により教育課程を編成している。

①ユニバーシティ・スタンダード科目群

ユニバーシティ・スタンダード科目群については、「玉川教育・FYE（First Year Experience・初年次教育）科目群」、「人文科学科目群」、「社会科学科目群」、「自然科学科目群」、「学際科目群」、「言語表現科目群」、「資格関連科目群」の 7 群で構成されている。

＜玉川教育・ＦＹＥ科目群＞

この科目群は、『玉川の教育』、『一年次セミナー』、『二年次セミナー』、『健康教育』、『音楽』、『全人教育論』など全人教育の基底となるばかりでなく、基本的な学修スキルの獲得やキャリア教育の要素も含む。

初年次教育科目である『一年次セミナー101』、『一年次セミナー102』は必修科目として 1 年次の前期と後期に開設されている。大学での授業をいかに効果的に受講するか、4 年間の大学生活の中でどのように人生の目標を設定しキャリアデザインを行っていくかを考え学ぶ科目である。主な授業内容は、「社会人としての自由と責任」「批判的思考方法と論理的解決能力の養成」「大学生としての基本的な読解力、文章力、コミュニケーション能力の養成」「大学 4 年間の学修戦略」「大学の支援資源の活用方法」である。

＜人文科学科目群＞

多文化・異文化についての造詣を深めると同時に、これまで人類が積み重ねてきた文化について学修する科目群である。『文化人類学』、『比較文化論』、『ことばと文化』、『歴史（世界）』、『歴史（日本）』、『哲学』、『倫理学』、『宗教学』、『ロジック』などの科目で構成されている。

＜社会科学科目群＞

社会現象を考察、分析、総合し、そこに一定の法則を見い出すとともに、学修を通して市民の社会的役割と責任を理解する科目群である。『経済学（国際経済を含む）』、『経営学』、『国際関係論』、『政治学（国際政治を含む。）』、『心理学』、『社会学』、『会計学』、『コミュニケーション論』、『マーケティング』などの科目で構成されている。

＜自然科学科目群＞

自然現象の法則を学ぶと同時に、人間社会を発展させる自然科学の社会的機能を理解する科目群である。『環境科学』、『生物学入門』、『地球科学』、『統計学入門』、『データ処理』、『情報科学入門』、『マルチメディア表現』、『数学入門』、『エネルギー科学』、『宇宙科学』などの科目で構成されている。

＜学際科目群＞

既存の学問領域の枠組みだけではとらえきれない事象について、様々な学問の知見を援用しながら学修する科目群である。『ミクロ脳科学』、『マクロ脳科学』、『健康スポーツ理論』、『マスメディアと社会』、『環境教育ワークショップ』、『コーオプ・プログラム』、『キャリア・マネジメント』などの科目で構成されている。

＜言語表現科目群＞

言語の運用能力、言語によるコミュニケーション能力の養成を目的とする科目群である。『ELF』、『日本語表現』、『フランス語』、『ドイツ語』、『スペイン語』、『中国語』で構成されている。

＜資格関連科目群＞

学生の興味、関心に応じて幅広く学修できる科目を配置している。『生涯学習概論』、『読書と豊かな人間性』、『情報サービス論』、『生涯学習支援論』、『図書館概論』、『学習指導と学校図書館』、『社会教育課題研究』、『博物館教育論』などの科目で構成されている。

②専門科目群

専門科目群については、演劇や舞踊など上演芸術の実践に関する技能ならびに、理論や歴史及び創造プロセスについての幅広い知識を体系的に学び、上演芸術の社会における価値や役割を理解した上で、自ら課題を発見し、それを解決できる力や我が国の文化芸術に興味と関心を持ち、多様な価値観と共生できる力を習得させるとともに、創造の現場や、社会の中で芸術の手法を用いた活動における応用力や表現力、創造力を身に付けさせることを目指した科目を開講する。

学修進度に合わせて履修できるよう、100 番台科目から 400 番台科目までナンバリングを施している。教育課程を編成するにあたっては、学部・学科の特色を生かし、学位授与方針や人材養成の目標を実現するために、カリキュラム・マップやカリキュラム・ツリーを作成し、体系的な履修を可能にする科目編成としている。

＜100 番台科目＞

芸術分野を学ぶ導入科目として『芸術概論』を学部共通の必修科目として前期に開講する。また、上演芸術の基礎･骨格となる『演技・舞踊入門』、『演技・舞踊基礎演習』、『舞台技術基礎演習』、『上演基礎実習』、『世界演劇・舞踊史I』『世界演劇・舞踊史II』を必修科目とする。

＜200 番台科目＞

上演芸術の基礎･骨格となる『日本演劇・舞踊史I』『日本演劇・舞踊史II』を必修科目とする。『演劇理論』、『演技・舞踊演習I』、『演技・舞踊演習II』、『シアターデザイン基礎演習I』、『シアターデザイン基礎演習II』、『舞台創造演習I』、『舞台創造演習II』、『上演実習 A』、『上演実習 B』などにおいて、卒業後の進路を見据えてコースごとの専門的知識・技能の基礎を幅広く学ぶ。実習と演習を連動させることで、講義や演習で修得した知識・技能が、具体的にどのように上演芸術の場で応用されているのかを体験的に学ぶ。また、『芸術プロジェクト A』、『芸術プロジェクト B』では、プロジェクトの企画立案及び周辺領域の知識・技能を学び、他者との協働によりコミュニケーション力を身に付ける。

＜300 番台科目＞

『演技・舞踊演習III』、『演技・舞踊演習IV』、『舞台創造演習III』、『舞台創造演習IV』、『劇場接遇演習（ゲストリレーション）』、『上演実習 C』、『上演実習 D』など、2 年次での学修を発展させる科目を多く開設し、より専門性の高い学修をさせるとともに演習形式、プロジェクト型授

業を通じて協働力、コミュニケーション力を身に付ける。また、必修科目『舞台芸術研究I』、『舞台芸術研究II』において、舞台芸術作品のコンセプトから手法にいたるまでを分析・考察し、学部研究における研究の基礎及び上演芸術の価値及び社会における使命や役割について論説できる素地を養う。

＜400 番台科目＞

必修科目『卒業創作・研究 A』、『卒業創作・研究 B』、『舞台芸術研究III』、『舞台芸術研究IV』やプロジェクト型の選択科目『芸術プロジェクト E』、『芸術プロジェクト F』を開講し、様々な形態での成果発表を行う。これまで修得した上演芸術に関する知識・技能を活用しながらさらにその知識・技能を深め、学士課程教育における研究実践を完結させる。また、他者と協働しながら、集団における統率力や責任感や倫理観、社会に貢献していく態度を養う。

5.教員組織の編成の考え方及び特色

演劇・舞踊学科は、教授 4 人、准教授 2 人、助教 1 人の合計 7 人の専任教員で教員組織を編成する。教育研究の目的や養成する人材像、学科の特色、教育課程の編成を踏まえ、教員組織を編成している。また舞台技術について専任の実技指導員を有し、学科の学修の特性上、徹底した安全管理に努めている。

具体的な専任教員の科目担当配置は次のとおりである。専門科目の導入科目群の必修科目である『芸術概論』、『演技・舞踊入門』、『舞台技術基礎演習』、高い専門性が要求される『演技・舞踊演習（I～IV）』、『舞台創造演習（I～IV）』、『芸術創造演習（I～IV）』といった各コースの中核となる科目には、専任教員を科目担当として配置している。

さらに必修科目『舞台芸術研究I』、『舞台芸術研究II』、学修の総まとめとなる『卒業創作・研究 A』、『卒業創作・研究 B』、『舞台芸術研究III』、『舞台芸術研究IV』は、さまざまな分野を専攻する学生を横断的に指導すべく、全専任教員を配置している。

このように教育課程の中核的科目については専任教員が授業を担当することから、適切な教員配置となっているといえる。

開設年度の年齢構成は、54～50 歳が 4 人、44 歳～40 歳が 2 人、39 歳～25 歳が 1 人で、平均年齢は 47.4 歳である。また、本学の教員定年年齢は 65 歳であるが、専任教員 7 人については、いずれも完成年度である令和 6 年度以前に定年になる者はいない。

6.教育方法、履修指導方法及び卒業要件

（1）教育方法

①授業方法と受講生数、配当年次

本学科においては、専門の知識、技能の往還を図りながら体系的に学修できるようカリキュラムを編成している。幅広い知識を身に付ける科目については講義形式中心、技能を修得する科目については演習を中心とする。修得した知識や能力をもとに実践力を身に付ける科目については実習形式で授業を行う。

受講生数については、授業の内容や授業形態に応じて、より効果的な人数を設定する。目安としては、講義科目は 30 人～90 人、演習科目は 20 人～40 人を基本とする。実習・実技科目は授業内容により大きく異なるが、少人数できめ細やかな指導ができる体制で授業を行うことを基本とする。

配当年次については、基礎から専門へと体系的な学修ができるよう設定している。また、カリキュラム・ツリーやカリキュラム・マップ、履修モデルなどをもとに、科目間の関係や履修順序にも配慮して配当年次を決定している。

②授業におけるメディアの利用

本学で導入している、学修教材の配信や成績などを統合して管理するシステムである Learning

Management System「Blackboard@Tamagawa」を本学科でも活用する。通常授業は対面で行われるが、通常の授業にこのシステムを活用することにより、授業教材の管理、授業の進捗管理、授業内容の補完、学生の予習･復習課題の進捗管理などが可能であり、学生の自主的な学修をより効果的に促進することができる。グループワーク、ディスカッション、教材や資料の提供、課題提出、小テストなどがインターネットを通じていつでもどこからでもできるようになっている。

③単位制度の実質化を図るために履修科目登録の上限を半期 16 単位に設定

単位制度の実質化を図るため、各学期における履修登録できる単位数の上限を 16 単位（前セメスターの GPA が 3.20 以上の成績優秀者は 18 単位まで履修可能）と定めている。それにより、学生は少数の授業を集中的に学ぶことができる。授業及び授業外学修時間を合わせて 1 日 8 時間の学修を基本とし、1 単位を 45 時間の学修を標準とする内容を以って構成することで、単位制度の趣旨との合致及び、単位の実質化を目指す。

なお、学生の主体的な学びを促すため、時間割を工夫して、授業と授業の間に予習・復習を行える時間を設ける。さらに、自主的学修のためのスペースとして、教育学術情報図書館内に従来の個人学修に適した環境に加え、グループワークやプレゼンテーションを行える空間としてラーニング・コモンズを設置している。

④学修の質を評価する制度の導入

学修の質を評価するためにＧＰＡ制度を導入する。各学期における学修の成果（S、A、B、C、F の 5 段階)を履修 1 単位あたりのポイント（GPA）として数値化して算出し、学修の質を可視化する。なお、卒業要件として累積 GPA2.00 以上を課す。また、各学年の学修継続条件にも GPA を活用している。

(2) 履修指導方法（資料 5 参照）

教務主任を中心に教務担当教員及び各クラス担任教員による教務ガイダンスを開催し、学生への履修アドバイスの機会を設ける。また、個々の学生に対しては、教務担当教員及び各クラス担任教員がシラバスや履修モデルを提示し､体系的に学修が進められるよう履修指導を行う。なお、成績に関しては GPA をもとに指導を行う。

(3) 卒業要件

卒業要件は卒業時における卒業生の質の確保を目標に設定している。学生に質の高い知識や技術を身に付けさせたうえで、卒業生として送り出すことが大学の責任である。そのため、卒業時に学修量ばかりでなく GPA で学修の質を評価する。なお､卒業に必要な単位数は 124 単位であり、卒業にあたっての条件を次のように定める。

a ）修業年限を満たすこと。
b ）全科目の修得単位の合計が 124 単位以上であること。
c ）累積 GPA が 2.00 以上であること。
d ）ユニバーシティ・スタンダード科目のうち、玉川教育・FYE 科目群から必修科目をすべて含み 7 単位以上を修得していること。
e ）ユニバーシティ・スタンダード科目のうち、社会科学科目群・人文科学科目群・自然科学科目群・学際科目群からそれぞれ 2 単位以上、言語表現科目群から「ELF」科目を含み 4 単位以上、合計 12 単位以上を修得していること。
f ）演劇・舞踊学科専門科目群の必修科目 36 単位を修得していること。

7.施設、設備等の整備計画

(1) 校地、運動場の整備計画

本学では教育理念の具現化を遂行するにあたり『12 の教育信条』を定め、その一つに『自然の尊重』を掲げ、雄大な自然の教育的価値を重視し、かつ環境への配慮を積極的に行ってきた。現在、町田市にあるキャンパスは約 61 万㎡に及ぶ。

大学の校地は玉川学園幼稚部、小学部、中学部、高等部との共用となるが、各部ごとにその主な活動区域は分散しており、教育活動が特定の区域に集中して行われないよう配慮している。校舎間の移動においては余裕のある通路や空地が確保されており、スムーズな移動が可能となっている。また、学生が利用する食堂及び周辺にはベンチやテーブル・椅子等を配置しており、学生が休息できるスペースを十分有している。体育施設については屋外運動場として大グラウンドをはじめテニスコート、ゴルフ練習場、洋弓場、弓道場を備えている。また、屋内運動場としては大体育館、温水プールなどを設置している。

(2) 校舎等施設の整備計画

本学科では単位制度の実質化を図るため、各学期において履修登録できる単位数の上限を 16 単位と定め、学生が集中して科目を受講することができ、予習・復習が十分行えるよう配慮している。これまで芸術学部パフォーミング・アーツ学科が使っていた教室等を継続して使用することから、施設・設備は十分に確保できており、学生の利用上における支障はないものと考えている。

教育課程、授業形態などから考慮される必要な施設・設備として、講義室、演習室、実習室、スタジオ、ホール、舞踊教室などを設置している。

多くの講義室ではマルチメディア対応の機器（プロジェクター、BD・DVD プレーヤー、書画カメラ等）が導入されている。また、学内 LAN 光ケーブルを敷設しそれぞれの校舎及び建物間のネットワークを構築している 。また、一般教室、研究室及び図書館、ラウンジ等においては「いつでも、どこでも」の教育環境を構築すべく無線 LAN を設置し、キャンパスのあらゆるところでネットワークにアクセスして学修ができる環境にある。

教員の研究室については、本学科の専任教員が合計 7 人であることから 7 室を用意する。また、別に教職員ラウンジ、学生と面談するスペース、非常勤講師控室、会議室を整備している。

その他、図書館、体育館、教育博物館、学長室、事務室、保健センター健康院、学生食堂などを備えている。

(3) 図書等の資料及び図書館の整備計画

大学教育の質保証を支える学修の場として「教育学術情報図書館（以降、「本学図書館」）」を設置している。

本学図書館はもはや本を置くだけの場所ではなく、ラーニング・コモンズやデジタル基盤の推進プログラム（電子ジャーナル、電子書籍、データベース、コンテンツ作成、ICT 支援）を組み合わせて提供している。さらに、そのような技術基盤の資源はリテラシー教育を通して学修生活を変革し研究等にも貢献している。

そのため、情報を迅速に収集するとともに、主体的な学修サイクルの各段階に向けて発信・支援できる体制を整える。例えば、研究成果を公開する学術リポジトリ・システムを、平成 24 年度より運用開始した。また、本学図書館員の学部担当制を継続しながら、学生支援センターと連携して人的支援を推進している。彼らは、学生対象の各種ガイダンスを適時行いつつ、教育･研究活動に直接関係する資料を体系的に収集するために、カリキュラムや研究動向を把握しながら図書等の資料を選定している。

本学図書館は「大学教育棟 2014」の 1 階から 3 階及び 4 階の一部（合計 : 9,022 ㎡）を専有し、内部には最大約 130 万冊（自動書庫含む、令和元年度末蔵書冊数約 97 万冊）の図書等資料が収容可能である。また 1,040 席の座席を保有しており、これは学生収容定員数の約 15%にあたる。

グループワークやアクティブ・ラーニングといった、課題解決学修に適したラーニング・コモ

ンズを内部（3・4F）に設置する一方で、個室 96 室、個人キャレル席 84 席など、個人学修に適した環境（1・2F）にも配慮している。

図書等資料の閲覧要求に迅速に対応するため、約 85 万冊規模の IC タグ対応自動書庫を設置している。そして学生証等の IC カード化に伴い、入退館ゲートを導入し、安心・安全な学修環境を確保している。

データベースは『CiNii』をはじめとした横断的なデータベースのみならず、分野別、主題別にも対応し利用環境を整えている。平成 24 年度より大規模なデータベース『Web of Science（全分野）』を導入し、引用文献情報の検索も可能となっている。

電子ジャーナルも年々増加し、『EBSCO Academic Search Premier』をはじめ『日経 BP』などを導入し約 9,300 誌の電子ジャーナルが利用可能となっている。いずれも学内 IP サイト契約を行い、利用の便を図っている。

また、本学に所蔵されていない図書等の資料は、大学図書館間の相互貸借や文献複写システムである『NACSIC-ILL』を経由して取寄せ、他大学との相互協力の体制を整えている。

8.入学者選抜の概要

(1) 受入方針

演劇・舞踊学科では未来の社会を創る芸術力を育成し、芸術を通じて社会貢献出来る人材を養成することを目指している。そのために、以下のような入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）を受験生に示し、学生の受け入れを行う。

a ）高等学校で履修する国語、地理歴史、公民、数学、理科、外国語及び芸術などの内容を理解し、高等学校卒業相当の知識と技能を有している。

b ）物事を多面的かつ論理的に考察しようとする態度や、「読む、書く、聞く、話す」の基礎的な 4 技能を身に付けている。

c ）人間、自然、文化、産業、国際などの諸問題に関心を持ち、積極的に社会に貢献しようとする意欲がある。

d ）多文化、異文化の存在を認め、自分の考えを他者に伝えようとする意欲と態度があると共に、自己の良心と社会の規範やルールに従って行動できる。

e ）他者と積極的にかかわり、対話や自らの表現を通して相互理解に努めようとする態度と、入学後に必要となる芸術表現に関する基礎的な技能を有している。

f ）高等学校教育の内容・水準に配慮し、関連する日本語に関する検定、外国語に関する検定（実用英語技能検定準 2 級以上、*TOEIC*®L&R400 点以上等）、コンピュータ操作に関する資格、数量的なスキルに関する資格やスコアなどを有していることが望ましい。

(2) 実施方法

本学科では、公正かつ適切に学生募集及び入学者選抜を行い、養成する人材像や教育課程との関連性を踏まえて、アドミッション・ポリシーのもと、志願者が高等教育を受けるに相応しい資質や能力を有しているかを多面的に判定する。

入学者選抜は、指定校制推薦入学試験、公募制推薦入学試験、総合型入学審査、学内総合型入学審査、一般入学試験、大学入学共通テスト利用入学試験により実施する。本学では、学長を委員長とする入学試験運営委員会を設置し、上述の入学者選抜の基本方針に基づき、入学試験全般について統括する体制を採っている。入学試験運営委員会は本学の入学試験の在り方について、その方針を策定し、入学試験の実施方法について具体的な審議、検討を行う。

9.管理運営

(1) 教授会

教授会は、学部の専任教授をもって組織する。ただし、審議事項に応じて、准教授、助教、及

びその他必要な教職員を出席させることができる。教授会は、原則として毎月 1 回定例で開催する。召集は学部長が行う。

教授会は、学長が次に掲げる事項について決定を行うにあたり意見を述べるものとする。

a ）学生の入学、卒業

b ）学位の授与

c ）教育研究に関する重要な事項で、教授会の意見を聴くことが必要なものとして学長が定めるもの

(2) 大学部長会

大学部長会は、全学に共通する教育及び研究の施策を審議するために設置されている。構成員は、学長、高等教育担当理事、学部長、研究所長、教師教育リサーチセンター長、国際教育センター長、ELF センター長、学生支援センター長、入試広報部長、キャリアセンター長、教学部長、教学事務部長である。大学部長会は、原則として毎月 1 回定例で開催する。召集は学長が行う。

大学部長会は、学長が次に掲げる事項について決定を行うにあたり意見を述べるものとする。

a ）教育、研究及びこれに関連する人事に関する基本方針等、その運営における全学的な事項

b ）教授会の審議に関する基本的共通的な事項

c ）各種委員会に関する事項

d ）本大学学則、その他関係規程等の制定・改廃及び運用に関する事項

e ）学長の諮問に関する事項

f ）その他本大学の運営に属する必要と認められる重要な事項

(3) 各種委員会

それぞれの専門分野について審議研究し、その運営を図るために次の 15 の委員会を設置している。教務委員会、教職課程委員会、学生委員会、入学試験運営委員会、課外活動支援委員会、キャリア・就職指導委員会、ＦＤ委員会、大学学事運営委員会、国際教育推進委員会、インターンシップ委員会、ＥＬＦ運営委員会、環境エデュケーター委員会、アクティブ・ラーニング推進委員会、教育再生加速委員会、IR 委員会で、各学部の専任教員と事務系職員で構成され、定期的に開催している。各委員会の具体的な構成員、審議事項、開催頻度等については、玉川大学教授会等運営規程に定めている。

10.自己点検･評価

(1) 実施体制・実施方法（資料 6、7 参照）

本学においては、教育研究等の活動及びその運営に関し、総合的な点検・調査・分析・評価を行い、その結果に基づく改善に努め、教育研究水準の質を保証し、その向上を図ることを目的として、平成 4 年に「教育研究活動等点検調査委員会（以下「点検調査委員会」）を発足した。委員会の委員は理事長・学長（委員長）、常勤の理事、各学部長、各研究科長、高等教育附置機関の長、高等教育支援機関の長、管理部門の各部長などで構成している。

学部等の各組織が自らその諸活動において点検調査を行い、その結果に基づく改善に努めるため、点検調査委員会の下に「学部・研究科部会」（各学部・研究科の部会で構成）、「大学共通部会」（教務部会、教員養成部会、国際教育部会 他全 10 部会で構成）、「管理運営分科会」を設け、それぞれ点検・評価を行っている。「学部・研究科部会」は各学部・研究科における点検・評価を、「大学共通部会」は大学共通事項の点検・評価（学部を横断した点検・評価）を行う。

更に、「学部・研究科部会」「大学共通部会」「管理運営分科会」の点検・評価結果をもとに、全学的観点から改善施策案の適切性や実際の改善状況をチェックする「大学分科会」を置いている。

年度初めに点検調査委員会において各分科会、部会における年間の重点・点検評価項目及びスケジュールを共有し、年度末に当該年度の活動内容を分科会、部会ごとに点検調査委員会にて報

告している。点検・分析の実施にあたっては指定統計調査などのデータを利用し、根拠に基づく点検・評価を実施している。

また、本学では、より客観的な意見を取り入れ、教育研究水準の向上を図るため、平成14年4月に教育研究活動等有識者会議を発足した。年2回定例会議を開催し、高等教育・初等中等教育に高い識見を持つ委員、民間関係者を含む学識経験者など多方面で高い見識を持つ学外の委員により構成し、本学の教育研究活動ならびに管理運営に関する意見交換を行っている。また、点検調査委員会がまとめた「自己点検・評価報告書」に対する評価、意見、助言をもらい、調査報告としてまとめてウェブページで公表している。

(2) 評価項目

以下の項目に関する点検、調査、分析、評価を行い、それをもとに改善を図っている。

①理念・目的

大学及び学部・研究科の理念・目的の適切性

②内部質保証

a ）内部質保証の推進に責任を負う体制及び内部質保証システムの適切性

b ）教育研究活動、自己点検・評価結果、財務その他情報公開の適切性

③教育研究組織

教育研究組織（学部・研究科、附置研究所、センターその他の組織）の適切性

④教育課程・学習成果

a ）ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーの適切性

b ）教育課程の適切性

c ）学習の活性化、効果的な教育を行うための措置

d ）成績評価、単位認定、学位授与の適切性

e ）学習成果を適切に把握及び評価するための措置

⑤学生の受け入れ

a ）アドミッション・ポリシーの適切性

b ）学生募集及び入学者選抜、運営体制の適切性

c ）定員設定及び定員管理の適切性

⑥教員・教員組織

a ）教員組織編制の適切性

b ）教員の募集、採用、昇任等の適切性

c ）教員の資質向上のための措置

⑦学生支援

学生支援体制及び学生支援の適切性

⑧教育研究等環境

a ）教育研究活動に必要な施設・設備の適切性

b ）研究倫理を遵守するための措置

⑨社会連携・社会貢献

社会連携・社会貢献活動の適切性

⑩大学運営・財務

a ）学長、教授会等の権限の適切性

b ）法人及び大学運営に関する業務、教育研究活動の支援等に必要な事務組織の適切性

c ）事務職員及び教員の大学運営に対する意欲・資質向上を図るための措置

(3) 結果の活用・公表

自己点検・評価の結果明らかになった課題・改善施策については、点検調査委員会で共有の上、

教育研究等の運営を司る各種委員会や学部・研究科において具体的な改善案を検討、実施している。公表については、平成 13 年度に「自己点検・評価報告書 2000」、平成 17 年度に「自己点検・評価報告書 2005」、平成 23 年度に「自己点検・評価報告書 2010」、そして平成 30 年度に「自己点検・評価報告書 2017」をそれぞれホームページに掲載した。

なお、平成 30 年度に認証評価機関（財団法人大学基準協会）による 3 回目の認証評価（機関評価）を受け、平成 31 年 3 月に適合と認定されている。

また、大学院教育学研究科教職専攻（専門職学位課程）は平成 27 年度に認証評価機関（教員養成評価機構）の教職大学院認証評価を受け、適合と認定されている。

11.情報の公表

学校法人玉川学園情報公開規程の第 1 条に「この規程は、学校法人玉川学園（ 以下「本法人」といい、設置する学校を含む。）が保有する情報の公開と本法人寄附行為第 36 条第 2 項に基づく書類の閲覧に関し必要な事項を定める。但し、個人情報に関する事項については別に定める学校法人玉川学園個人情報保護規程によるものとする。」と規定し、公開する情報を第 2 条に示している。

具体的には、学校教育法施行規則第 172 条の 2 及び教育職員免許法施行規則 22 条の 6 に定められた情報に加え、学内外への情報の提供としては「玉川学園総合パンフレット（日本語版・英語版）」「全人（毎月発行）」、「全人特別号」、「父母会報」（本学学生の保護者向け）、「大学案内」、「研究者情報総覧」、「FD 活動報告書」などがあり、すべて「玉川大学・玉川学園ホームページ（http://www.tamagawa.jp/）」で公開している。

また、大学関係者の情報公開請求に対応できるよう財産目録、財務諸表、事業報告書、役員等名簿、監査報告書、役員に対する報酬等の支給の基準及び寄附行為を備え付けており、同時に前述のホームページで公開している。

なお、「大学教育情報（http://www.tamagawa.jp/university/introduction/information/）」に以下に記載する項目を一覧で公開している（玉川大学玉川学園総合サイト＞玉川大学＞大学教育情報）。

a ）大学の教育研究上の目的及び 3 つの方針に関すること
b ）教育研究上の基本組織に関すること
c ）教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること
d ）統計データ（入学者数、在籍者数、卒業者数、進学者数、就職者数）
e ）授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業計画に関すること
f ）学修の成果に係る評価及び卒業または修了の認定にあたっての基準に関すること
g ）大学の教員の養成の状況に関すること
h ）校地・校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること
i ）授業料、入学料その他の大学が徴収する費用に関すること
j ）大学が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること
k ）財務に関する情報（事業計画書・予算、事業報告書・決算）

その他、以下の項目についてもホームページ等で公開している。

a ）本学の教育理念
（http://www.tamagawa.jp/education/idea/）
b ）大学の概要（学則、ディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、FD 活動、自己点検・評価、研究者情報など）
（http://www.tamagawa.jp/university/introduction/outline/）
c ）シラバス
（https://unitama.tamagawa.ac.jp/up/faces/login/Com00505A.jsp）
d ）アクレディテーション（認証評価結果）

（http://www.tamagawa.jp/introduction/accreditation.html）
e ）設置届出書及び設置計画履行状況報告書
（http://www.tamagawa.jp/introduction/assessment/workshop/past.html）
f ）コンプライアンス方針
（http://www.tamagawa.jp/introduction/compliance.html）
g ）社会・地域連携
（http://www.tamagawa.jp/social/）
h ）玉川ライブラリ（総合パンフレット、情報誌「Puente 玉川」、「全人特別号」、大学案内など）
（http://www.tamagawa.jp/introduction/study/library.html）
i ）月刊誌「全人」
（http://www.tamagawa.jp/serial/zenjin/）

12.教育内容等の改善を図るための組織的な取組（資料 8 参照）

本学では、教育研究活動の向上・能力開発に関して恒常的に検討を行い、その質的充実を図ることを目的として、各学部に FD 担当教員並びにファカルティ・ディベロッパー（以下 FDer）を配置し、当該学部の特色に合わせた様々な FD 活動を展開している。さらにそれを横断する形で、教学部長を委員長とした全学的な「大学 FD 委員会」を設置し、全学的な課題や情報の収集と伝達、及び他大学における FD 活動の情報収集を行うと共に、ワークショップや事例報告会等を開催し、全学的に教員の教育力向上を図っている。

具体的には、授業方法改善のためのワークショップ（アクティブ・ラーニングを促す授業設計、ルーブリック評価）の実施、FDer の養成、ティーチング・ポートフォリオの導入と利用拡大に向けたメンター（TP を作成する教員を支援する教員）養成、著名な有識者を講演者として招いた講演会の開催などである。さらに、ピアレビューとして教職員による授業参観を毎年行っている。

芸術学部においては、芸術学部長を中心とした主任会の構成員及び FD 委員が中核メンバーとなって行っている。上記の大学全体の定期開催の主任会と主任研修会で情報の共有や分析を行い、目標や課題の設定、及び手段などの基本方針を検討する。中核メンバーや FD 委員はもとより、課題ごとの担当教員が報告や成果および方策等を教授会で報告し、組織的な取り組みとする仕組みを構築している。また、各学科の主任は学部 FD の中核メンバーであるので、学科内の取り組みをまとめることや推進する役割を担い、教授会と学科会が連動して FD 活動を推進させている。

芸術学部では具体的に次のような FD 活動を実施している。

a ）講演会・ワークショップの開催
b ）授業評価アンケートの実施（年 2 回）
c ）授業成果報告書の作成
d ）高大連携の観点から学外研究会等への教員派遣
e ）国内外の大学の教育実態視察の実施（教育方法や管理についての調査）
f ）専任教員と非常勤教員合同の教育目標の確認を目的とした研修会

13.社会的･職業的自立に関する指導等及び体制

（1）社会的・職業的自立に関する指導等の実施に向けた体制の整備

本学では、キャリアデザイン及び就職の支援を、各学部･学科の学級担任、就職担当教員、教職担当教員とキャリアセンター、教師教育リサーチセンター等関係部署が連携して行っている。

キャリアセンターでは企業及び公務員への就職希望者を対象に、教師教育リサーチセンターでは教員及び保育士志望の学生を対象に支援を行っている。

キャリアセンターにはキャリア・コンサルティング資格保有者（専任・兼任）を配置し、個別指導に加え、就職ガイダンス、業界研究会等を開催している。

教師教育リサーチセンターには教員採用に係る支援を行う職員に加え、校長経験者を置き、教

育現場に即した指導を行っている。

就職担当教員で構成するキャリア・就職指導委員会、教職担当で構成する教職課程委員会を設置し、全学を横断して就職・教職及びキャリア支援に関する事項を共有、審議することで支援部署と教員が連携を取りながら支援を行っている。

(2) 教育課程内の取組

経済産業省が平成 18 年から提唱している「社会人基礎力」を含め、社会的・職業的自立を図るために必要な能力を培うために、教育課程内では次のような取組を行っている。

まず一年次に、前述の『一年次セミナー101』及び『一年次セミナー102』において、4 年間の大学生活の中でどのように人生の目標を設定しキャリアデザインを行っていくかを考え学ぶ。働くことの意義や将来の人生設計など、一人ひとりが将来の目標を立てるための知識と方法を学修する。また、社会人として必要な物事の考え方や倫理観、コミュニケーションの在り方、社会との関わり方についても学ぶこととなる。具体的な内容としては、「社会人としての自由と責任」、「個人と社会とのかかわり」、「卒業後のキャリアアップ戦略を見据えた大学 4 年間の学修戦略」などである。『一年次セミナー101』、『一年次セミナー102』は全学共通科目であるが、演劇・舞踊学科ではいずれの科目も一クラス 30 名程度とし、クラス担任が授業を担当する。

専門科目については、様々な演習科目（具体的には『演技・舞踊基礎演習』、『演技・舞踊演習I～IV』、『舞台創造演習I～IV』、『応用演劇演習I～IV』等）、及び実習科目（具体的には『上演基礎実習』、『上演実習 A～D』、『芸術プロジェクト A～F』等）を配置し、周囲と協働しながら専門知識や技能（表現力やスタッフとしての創造力・技術力）を身に付ける機会を設ける。これにより、コミュニケーション力や課題を認識・分析・解決するための論理的思考力、マネジメント力を身に付けるとともに、周囲と協働して相互の立場や特性を尊重しながら、一方ではリーダーシップを発揮することで、集団における統率力や責任感や倫理観、社会に貢献していく態度を養う。

(3) 教育課程外の取組（資料 9 参照）

上述したキャリアセンター及び教師教育リサーチセンターが各種講座、セミナー、研究会、ガイダンス、面談等の計画を立て、毎年内容を見直しながら実施している。

具体的には、各種ガイダンスや「学内企業説明会」「業界研究会」「OB・OG 交流会」「卒業生による面接対策」などを通して就職観・職業観の醸成を図り、また、就職活動や就職試験対策として、「就職ガイダンス」「自己 PR 作成講座」「履歴書・エントリーシート作成講座」「教員採用模擬試験」「公務員対策講座」「面接対策セミナー」「グループディスカッション対策」「マナー講座」「適職診断テスト」「労働法セミナー」などを実施している。

その他、通年で、「キャリアカウンセリング（個別面談）」や「模擬面接」、「教職講座」を実施している。

また、キャリア・就職への意識を高めるために、3 年次生に「就職ハンドブック」を配付して啓蒙を図っている。

キャリアセンターと教師教育リサーチセンターでは、就職情報 Web サイト「たまナビ」を共有利用し、学生の志望変更にもリアルタイムに対応できるシステムを構築している。このサイトでは、年間 11,000 社の求人及び企業からの最新情報、本学独自の企業情報、OB・OG の在職状況などを提供している。

継続学習センターにおいては、秘書検定対策講座、*TOEIC*®テスト対策、英会話講座、フランス語、スペイン語、中国語をはじめ自然、芸術、日本文化、語学、健康・スポーツ、教育、資格、教養に関する約 200 の講座を開設している。学生は教育課程で学ぶ以外に、自身の興味・関心に応じて受講することが可能である。有料ではあるが、同じキャンパス内で受講することができるメリットがある。

全学の学生対象に行っている上述の取組を、本学科学生にも同様に行う。

資 料 目 次

資料 1　　芸術学部演劇・舞踊学科 人材養成および教育課程の概要

資料 2　　芸術学部演劇・舞踊学科 教育課程の構成

資料 3　　芸術学部演劇・舞踊学科 教育課程表

資料 4　　芸術学部演劇・舞踊学科 カリキュラム・ツリー

資料 5　　芸術学部演劇・舞踊学科 履修モデル

資料 6　　教育研究活動等点検調査委員会組織図

資料 7　　学校法人玉川学園教育研究活動等点検調査委員会規程

資料 8　　玉川大学 FD 委員会規程

資料 9　　就職支援プログラムについて

資料 1

芸術学部演劇・舞踊学科

人材育成及び教育課程の概要

上演芸術の「良き理解者」を育てる

上演芸術の価値と創造プロセスを多角的に学修し、上演芸術の価値及び社会における芸術の使命や役割について説くことができ、
創造の現場および社会に貢献する人材を養成する。

演劇・舞踊学科ディプロマポリシー

①上演芸術に関する専門的な知識・技能を身に付けることで、上演芸術を自然や社会と、さらには異文化・異分野などの多様な価値観と関連させながら理解することができる。
②上演芸術の専門的な知識・技能をもとに、多様化する社会の諸問を認識、分析、解決するための意志を持ち、またそのための言語力・論理的思考力・マネジメント力・コミュニケーション力・表現力を身に付けている。
③上演芸術を理解し、創作を通じて他者と協働することで、相互の立場や特性を尊重しながら集団における統率力や責任感や倫理観を身に付けている。また、社会に貢献する意識を持つことができる。
④上演芸術の専門的な知識・技能を生かし、生涯にわたり積極的に学び続ける生涯学習力を身に付けている。

身体表現コース

期待される進路
俳優/ダンサー/パフォーマー/演出家/アクティングコーチ/ワークショップファシリテーター/コーディネーター/大学院進学/海外留学/国内外企業/公務員

取得を目指す資格：演劇教育指導者（ドラマティーチャー）（民間認定：日本演劇教育連盟）社会教育主事/日本語教員/TAP リーダー

俳優やダンサーなど表現者として身体表現を中心とした学修を行い、上演芸術の主体としての身体について学ぶ。学生であってもアートの創造者として、表現する者の職能と役割を理解し、創造的な社会を生み出す原動力となるリーダーシップを持った人材を養成する。

【身体表現コース専門科目】
演技・舞踊演習Ⅰ～Ⅳ/所作・擬闘
メイクアップ/オーディション演習
アナウンス・ナレーション研究

舞台創造コース

期待される進路
演出家/デザイナー（照明・音響・衣裳・舞台美術・映像）/テクニカルスタッフ（照明・音響・衣裳・舞台美術・映像・装置製作）/舞台監督/劇場管理者/エンターテインメント産業のデザイン・技術部門大学院進学/海外留学/国内外企業/公務員

取得を目指す資格：学芸員/照明技術者技能認定音響技術者技能検定/劇場技術者検定

劇場機構や舞台技術だけでなく、空間やプロダクションワークをデザインする力を身につけることで、アートを生み出す自身の創造性を伸ばす。イメージを論理的に説明する能力を身につけ、上演芸術を多くの仲間と共同しながら構築することの出来るリーダーシップを持った人材を養成する。

【舞台創造コース専門科目】
舞台創造演習Ⅰ～Ⅳ/
シアターデザイン基礎演習Ⅰ～Ⅱ
劇空間デザイン研究

芸術応用コース

期待される進路
演出家/劇作家/ドラマターグ（ドラマトゥルク）・演劇教育指導者（ドラマティーチャー）・ワークショップファシリテーター/コーディネーター/制作者/批評家/ジャーナリスト/
大学院進学/海外留学/国内外企業/公務員

取得を目指す資格：演劇教育指導者/図書館司書宗教文化士/社会教育主事/環境エデュケーター

演劇教育を実践的に学び、日増しに高まるコミュニケーション教育に対する社会の要望に応え、あらゆる現場で活躍する資質を習得する。上演芸術を創造する場のコーディネイト、あるいはマネジメントするリーダーシップを持った人材や、実践的な視野と学術的な感覚を持った専門家を養成する。

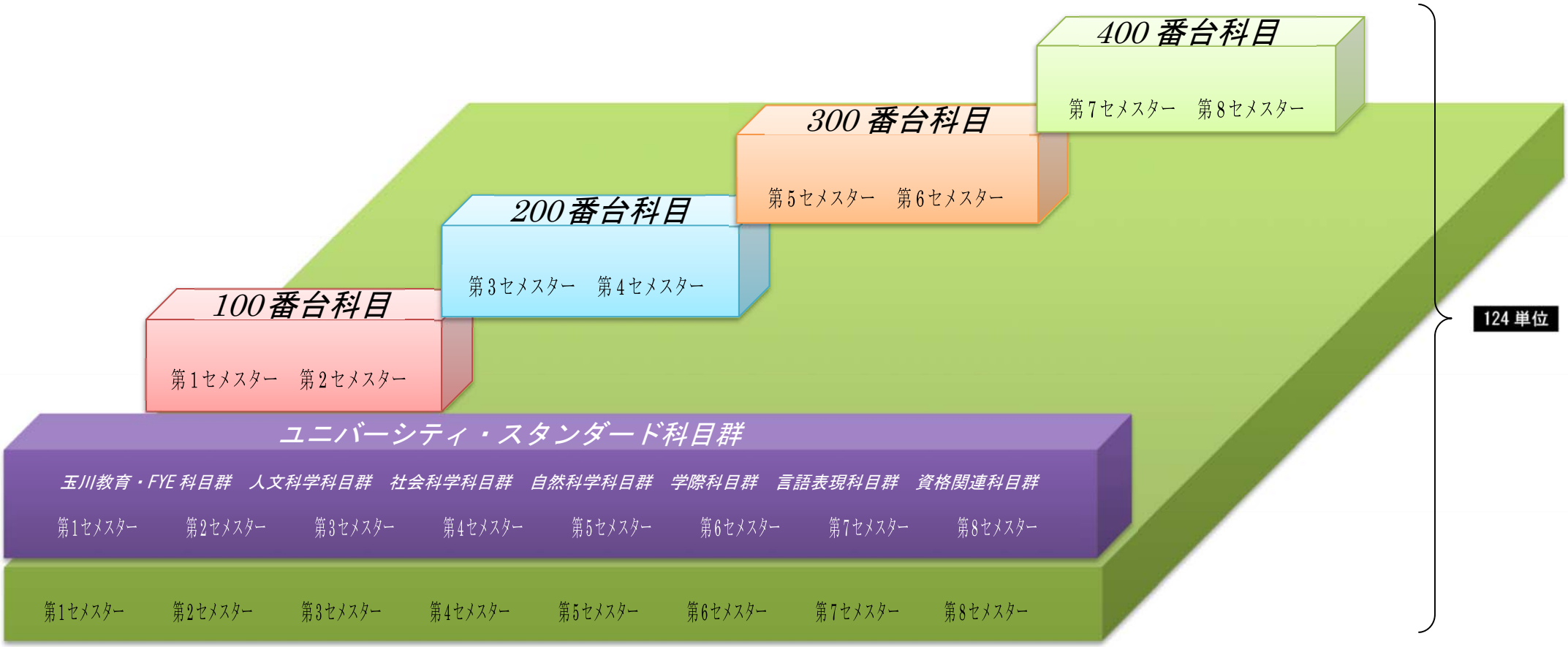
【芸術応用コース専門科目】
芸術創造演習Ⅰ～Ⅳ
応用演劇演習Ⅰ～Ⅳ
プロジェクト型授業の企画・運営

2 年次（第３セメスター）よりコース選択を実施

【共通基礎科目】芸術概論/演技・舞踊入門/演技・舞踊基礎演習/舞台技術基礎演習/上演基礎実習/世界演劇・舞踊史Ⅰ,Ⅱ/日本文化芸術論/日本演劇・舞踊史Ⅰ,Ⅱ/Performing in English/演劇理論/芸術と社会/劇場接遇演習（ゲストリレーション）
【コース横断型専門科目】舞台芸術研究Ⅰ～Ⅳ/卒業創作・研究 A/B
【プロジェクト型授業】芸術プロジェクト A/B/C/D/上演実習 A/B/C/D
【ユニバーシティ・スタンダード科目】玉川の教育/１年次セミナー101/102/健康教育/音楽Ⅰ・Ⅱ
人文科学科目群、社会科学科目群、自然科学科目群、学際科目群、言語表現科目群、資格関連科目群

資料２

芸術学部 演劇・舞踊学科　教育課程の構成



資料 3

芸術学部　演劇・舞踊学科　教育課程表

			1年次				2年次				3年次				4年次			
			1セメスター		2セメスター		3セメスター		4セメスター		5セメスター		6セメスター		7セメスター		8セメスター	
ユニバーシティ・スタンダード科目群	玉川教育・FYE科目群	必修	一年次セミナー—101	2	一年次セミナー—102	2												
			健康教育	1	玉川の教育	0.3												
			音楽Ⅰ	0.7	音楽Ⅱ	1												
		選択					二年次セミナー—201	2	二年次セミナー—202	2	三年次セミナー—301	2	三年次セミナー—302	2				
							全人教育論	2										
							ピアリーダー	2										
	人文科学科目群		文化人類学	2	比較文化論	2	歴史(世界)	2	哲学	2	演劇史	2	日本学入門	2				
			美術史	2	日本文学	2	歴史(日本)	2	ロジック	2	英語学	2	人文科学ｱｶﾃﾞﾐｯｸｽｷﾙｽﾞ(ﾘｰﾃﾞｨﾝｸﾞ)	1				
			ことばと文化	2	外国文学	2	音楽史	2	宗教学	2	日本語学	2	人文科学ｱｶﾃﾞﾐｯｸｽｷﾙｽﾞ(ﾗｲﾃｨﾝｸﾞ)	1				
					民族学入門	2	倫理学	2	世界の宗教と文化	2								
							キリスト教学	2	名著講読(人文科学)	1								
									科学史	2								
											Japanology	2	Modern Japanese History	2				
													Japanese Pop Culture	2				
															East Asian History	2	Issues in Japanese Studies A	2
																	Issues in Japanese Studies B	2
	社会科学科目群		会計学	2	経済学(国際経済を含む。)	2	マーケティング	2	心理学	2	観光学入門	2	社会科学ｱｶﾃﾞﾐｯｸｽｷﾙｽﾞ(ﾗｲﾃｨﾝｸﾞ)	1				
			コミュニケーション論	2	経営学	2	政治学(国際政治を含む。)	2	社会学	2	社会科学ｱｶﾃﾞﾐｯｸｽｷﾙｽﾞ(ﾘｰﾃﾞｨﾝｸﾞ)	1						
					市民社会と法	2	ボランティア概論	2										
							Academic Communication	2	国際関係論	2	名著講読(社会科学)	1						
									科学技術社会論	2								
											現代社会の教育課題	2						
	自然科学科目群		情報科学入門	2	データ処理	2	化学入門	2	環境科学	2	解析学入門	2	統計学入門	2	科学入門	2	自然科学ｱｶﾃﾞﾐｯｸｽｷﾙｽﾞ(ﾗｲﾃｨﾝｸﾞ)	1
			ネットワーク入門	2	マルチメディア表現	2	生物学入門	2	数学入門	2	代数学入門	2	物理学入門	2	自然科学ｱｶﾃﾞﾐｯｸｽｷﾙｽﾞ(ﾘｰﾃﾞｨﾝｸﾞ)	1		
					STEM入門(科学と社会)	2												
							実践の物理学	2	地球科学	2	エネルギー科学	2	宇宙科学	2	名著講読(自然科学)	1		
									人工知能と社会	2								
	学際科目群		マクロ脳科学	2	環境教育	2	情報倫理と社会	2	インターンシップA	2	インターンシップD	1	フィールドワークC	2	地域創生プロジェクトC	2	地域創生プロジェクトF	3
			健康スポーツ理論	2	オリンピック文化論	2	TAPファシリテーションⅠ	2	インターンシップB	2	フィールドワークA	2	地域創生プロジェクトA	1	地域創生プロジェクトD	2		
			生涯スポーツ演習	2	マスメディアと社会	2	海外留学入門	2	インターンシップC	1	フィールドワークB	2	地域創生プロジェクトB	1	地域創生プロジェクトE	3		
					ミクロ脳科学	2	TAPファシリテーションⅡ	2	国際研究A	2	国際研究C	2	国際研究E	4				
					プレゼンテーションスキル	2	環境教育ワークショップⅠ	2	国際研究B	2	国際研究D	3	国際研究F	5				
							現代文化論	2	複合領域研究 201～299	2	環境教育ワークショップⅡ	2	コーオプ・プログラム	2				
									スポーツ史	2	Presentation Skills in English	2	野外教育	2				
											栄養学	2	キャリア・マネジメント	2				
													病理学	2	Japan Studies Overseas B	2		
													Japan Studies Overseas A	2	Japan Studies Overseas C	2		
	言語表現科目群		ELF 101	4	ELF 201	4	ELF 401	4	日本語表現101	2	ドイツ語 101	2	中国語 101	2				
			ELF 102	4	ELF 301	4	ELF 402	4	フランス語 101	2	スペイン語 101	2						
					ELF 202	4	ELF 302	4	日本語表現102	2	フランス語 102	2	ドイツ語 102	2	スペイン語 102	2	中国語 102	2
	資格関連科目群		学校経営と学校図書館	2	学校図書館メディアの構成	2	情報メディアの活用	2	生涯学習概論	2	図書館概論	2	図書館制度・経営論	2	図書館情報資源特論	1	図書・図書館史	1
					図書館情報技術論	2	図書館サービス概論	2	情報サービス論	2	児童サービス論	2	図書館情報資源概論	2	図書館施設論	1	生涯学習と生涯教育	2
							情報資源組織論	2	社会教育課題研究	2	社会体育論	2	博物館概論	2	博物館資料保存論	2	博物館展示論	2
							生涯学習支援論B	2	社会教育経営論 B	2								
									読書と豊かな人間性	2	情報資源組織演習B	1	社会教育実習	2	博物館経営論	2	博物館教育論	2
									情報資源組織演習A	1	生涯学習支援論A	2	社会教育経営論 A	2	博物館資料論	2	博物館情報・メディア論	2
											学習指導と学校図書館	2	情報サービス演習A	1	情報サービス演習B	1	博物館実習	3
専門科目群	100番台科目	必修	芸術概論	2	演技・舞踊入門	2	舞台技術基礎演習	2	世界演劇・舞踊史Ⅰ	2								
					演技・舞踊基礎演習	2	上演基礎実習	4	世界演劇・舞踊史Ⅱ	2								
		選択	日本文化芸術論	2	Performing in English	1												
	200番台科目	必修					日本演劇・舞踊史Ⅰ	2										
									日本演劇・舞踊史Ⅱ	2								
		選択					演技・舞踊演習Ⅰ	4	芸術と社会	2	シアターデザイン基礎演習Ⅰ	2	上演実習A	4	芸術創造演習Ⅰ	4	芸術プロジェクトA	2
							演劇理論	2	所作・擬闘	2	メイクアップ	2	舞台創造演習Ⅰ	4	応用演劇演習 Ⅰ	2	芸術プロジェクトB	2
									演技・舞踊演習Ⅱ	4	上演実習B	4	芸術創造演習Ⅱ	4				
									シアターデザイン基礎演習Ⅱ	2	舞台創造演習Ⅱ	4	応用演劇演習Ⅱ	2				
	300番台科目	必修									舞台芸術研究Ⅰ	2						
													舞台芸術研究Ⅱ	2				
		選択									演技・舞踊演習Ⅲ	4	劇場接遇演習(ｹﾞｽﾄﾘﾚｰｼｮﾝ)	2	芸術プロジェクトD	2	芸術創造演習Ⅲ	4
											オーディション演習	2	舞台創造演習Ⅲ	4	アナウンス・ナレーション研究	2	応用演劇演習Ⅲ	2
											上演実習C	4	芸術プロジェクトC	2	劇空間デザイン研究	2		
													演技・舞踊演習Ⅳ	4	舞台創造演習Ⅳ	4	応用演劇演習Ⅳ	2
													上演実習D	4	芸術創造演習Ⅳ	4		
	400番台科目	必修													卒業創作・研究A	4	舞台芸術研究Ⅲ	2
																	卒業創作・研究B	4
																	舞台芸術研究Ⅳ	2
		選択													芸術プロジェクトE	2	芸術プロジェクトF	2

資料 4

芸術学部　演劇・舞踊学科　カリキュラムツリー

資料５

芸術学部　演劇・舞踊学科

履修モデルA （身体表現を通して社会貢献する人材を養成するモデル）　　【身体表現コース 】

		1年次		2年次		3年次		4年次		卒業必要単位数
		1セメスター	2セメスター	3セメスター	4セメスター	5セメスター	6セメスター	7セメスター	8セメスター	
ユニバーシティ・スタンダード科目群	玉川教育・FYE科目群（必修）	一年次セミナー101 2 健康教育 1 音楽Ⅰ 0.7	一年次セミナー102 2 玉川の教育 0.3 音楽Ⅱ 1							7単位
	人文科学科目群							文化人類学 2	民俗学入門 2 人文科学アカデミックスキルズ（リーディング） 1	21単位
	社会科学科目群		コミュニケーション論 2					マーケティング 2		
	自然科学科目群						マルチメディア表現 2	環境科学 2		
	学際科目群							現代文化論 2	プレゼンテーションスキル 2	
	言語表現科目群	ELF 101 4								
専門科目群	100番台科目群	演技・舞踊入門 2 芸術概論 2 世界演劇・舞踊史Ⅰ 2 舞台技術基礎演習 2	演技・舞踊基礎演習 2 上演基礎実習 4 世界演劇・舞踊史Ⅱ 2 日本文化芸術論 2							96単位
	200番台科目群			演技・舞踊演習Ⅰ 4 上演実習A 4 日本演劇・舞踊史Ⅰ 2 演劇理論 2 芸術プロジェクトA 2 所作・擬闘 2	演技・舞踊演習Ⅱ 4 上演実習B 4 日本演劇・舞踊史Ⅱ 2 メイクアップ 2 芸術プロジェクトB 2 芸術と社会 2					
	300番台科目群					演技・舞踊演習Ⅲ 4 上演実習C 4 オーディション演習 2 劇場接遇演習（ゲストリレーション） 2 舞台芸術研究Ⅰ 2 芸術プロジェクトC 2	演技・舞踊演習Ⅳ 4 上演実習D 4 アナウンス・ナレーション研究 2 舞台芸術研究Ⅱ 2 芸術プロジェクトD 2			
	400番台科目群							卒業創作・研究A 4 舞台芸術研究Ⅲ 2 芸術プロジェクトE 2	卒業創作・研究B 4 舞台芸術研究Ⅳ 2 芸術プロジェクトF 2	
履修単位数合計		15.7単位	15.3単位	16単位	16単位	16単位	16単位	16単位	13単位	124単位

芸術学部　演劇・舞踊学科

履修モデルB　（舞台創造（劇場機構・舞台技術）スタッフを志向する人材を養成するモデル）　【舞台創造コース】

		1年次				2年次				3年次				4年次				卒業必要
		1セメスター		2セメスター		3セメスター		4セメスター		5セメスター		6セメスター		7セメスター		8セメスター		
ユニバーシティ・スタンダード科目群	玉川教育・FYE科目群（必修）	一年次セミナー101 健康教育 音楽Ⅰ	2 1 0.7	一年次セミナー102 玉川の教育 音楽Ⅱ	2 0.3 1													7単位
	人文科学科目群													文化人類学	2	人文科学アカデミックスキルズ（リーディング）	1	23単位
	社会科学科目群			コミュニケーション論	2							心理学	2	マーケティング	2	ボランティア概論	2	
	自然科学科目群											STEM入門（科学と社会）	2	マルチメディア表現	2			
	学際科目群													現代文化論	2	プレゼンテーションスキル	2	
	言語表現科目群	ELF 101	4															
専門科目群	100番台科目群	演技・舞踊入門 世界演劇・舞踊史Ⅰ 芸術概論 舞台技術基礎演習	2 2 2 2	上演基礎実習 世界演劇・舞踊史Ⅱ 演技・舞踊基礎演習 日本文化芸術論	4 2 2 2													94単位
	200番台科目群					舞台創造演習Ⅰ 上演実習A 演劇理論 日本演劇・舞踊史Ⅰ シアターデザイン基礎演習Ⅰ 芸術プロジェクトA	4 4 2 2 2 2	舞台創造演習Ⅱ 上演実習B 芸術と社会 日本演劇・舞踊史Ⅱ シアターデザイン基礎演習Ⅱ 芸術プロジェクトB	4 4 2 2 2 2									
	300番台科目群									舞台創造演習Ⅲ 上演実習C 舞台芸術研究Ⅰ 芸術プロジェクトC 劇空間デザイン研究 劇場接遇演習（ゲストリレーション）	4 4 2 2 2 2	舞台創造演習Ⅳ 上演実習D 舞台芸術研究Ⅱ 芸術プロジェクトD	4 4 2 2					
	400番台科目群													卒業創作・研究A 芸術プロジェクトE 舞台芸術研究Ⅲ	4 2 2	卒業創作・研究B 芸術プロジェクトF 舞台芸術研究Ⅳ	4 2 2	
履修単位数合計		15.7単位		15.3単位		16単位		16単位		16単位		16単位		16単位		13単位		124単位

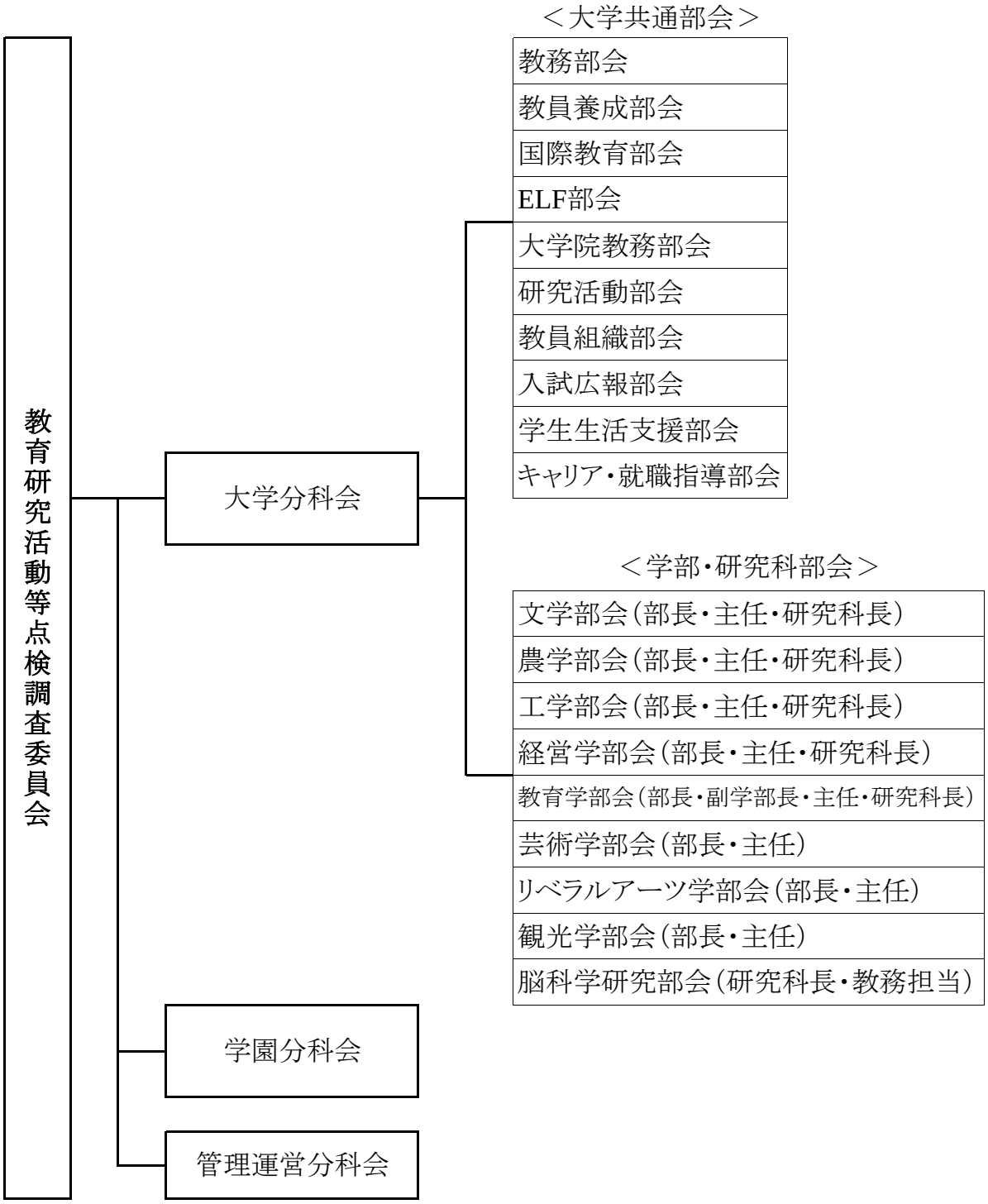
芸術学部　演劇・舞踊学科

履修モデルC　（コーディネート・マネジメント系の人材を養成するモデル）　【芸術応用コース】

		1年次				2年次				3年次				4年次				卒業必要
		1セメスター		2セメスター		3セメスター		4セメスター		5セメスター		6セメスター		7セメスター		8セメスター		
ユニバーシティ・スタンダード科目群	玉川教育・FYE科目群（必修）	一年次セミナー101 健康教育 音楽Ⅰ	2 1 0.7	一年次セミナー102 玉川の教育 音楽Ⅱ	2 0.3 1													7単位
	人文科学科目群													ことばと文化	2	人文科学アカデミックスキルズ（リーディング）	1	21単位
	社会科学科目群			コミュニケーション論	2									経営学	2	マーケティング	2	
	自然科学科目群											マルチメディア表現	2					
	学際科目群													キャリア・マネジメント TAPファシリテーションⅠ	2 2	プレゼンテーションスキル	2	
	言語表現科目群	ELF 101	4															
専門科目群	100番台科目群	演技・舞踊入門 世界演劇・舞踊史Ⅰ 舞台技術基礎演習 芸術概論	2 2 2 2	演技・舞踊基礎演習 世界演劇・舞踊史Ⅱ 上演基礎実習 日本文化芸術論	2 2 4 2													96単位
	200番台科目群					芸術創造演習Ⅰ 上演実習A 日本演劇・舞踊史Ⅰ 演劇理論 応用演劇演習Ⅰ 芸術プロジェクトA	4 4 2 2 2 2	芸術創造演習Ⅱ 上演実習B 日本演劇・舞踊史Ⅱ 芸術と社会 応用演劇演習Ⅱ 芸術プロジェクトB	4 4 2 2 2 2									
	300番台科目群									舞台芸術研究Ⅰ 上演実習C 芸術創造演習Ⅲ 応用演劇演習Ⅲ 芸術プロジェクトC 劇場接遇演習（ゲストリレーション）	2 4 4 2 2 2	舞台芸術研究Ⅱ 上演実習D 芸術創造演習Ⅳ 応用演劇演習Ⅳ 芸術プロジェクトD	2 4 4 2 2					
	400番台科目群													卒業創作・研究A 舞台芸術研究Ⅲ 芸術プロジェクトE	4 2 2	卒業創作・研究B 舞台芸術研究Ⅳ 芸術プロジェクトF	4 2 2	
履修単位数合計		15.7単位		15.3単位		16単位		16単位		16単位		16単位		16単位		13単位		124単位

資料 6

2020年度　教育研究活動等点検調査委員会　組織図



資料７

学校法人玉川学園教育研究活動等点検調査委員会規程

平成４年４月１日制定

改正

平成６年４月１日　　平成14年４月１日
平成23年４月１日　　平成17年４月１日
平成27年４月１日　　平成29年４月１日
平成31年４月１日　　令和２年４月１日

（目的）

第１条　学校法人玉川学園（以下「本法人」という。）に教育研究活動等点検調査委員会（以下「本委員会」という。）を置く。

２　本委員会は本法人の教育研究等の活動及びその運営に関し、総合的な点検・調査・分析・評価（以下「点検・評価等」という。）を行い、その結果に基づく改善に努め、もって本法人の教育研究水準の質を保証し、その向上を図ることを目的とする。

３　前条の点検・評価等の項目は別に定める。

（構成）

第２条　本委員会は全学園連絡会の構成員を中心に、次の区分によって毎年度当初理事長が委嘱する。

委員長
副委員長
委員
事務担当

２　委員長は必要あると認めたとき他の教職員を含めることができる。

３　学部等の各組織が自らその諸活動において点検・評価等を行い、その結果に基づく改善に努めるため、本委員会に分科会、部会を設ける。分科会、部会については別に定める。

（審議事項）

第３条　本委員会は次の各号に掲げる事項を審議する。

（１）　各部会の点検・評価等の結果及び改善施策に関する事項
（２）　前号に基づく改善の指摘に関する事項
（３）　第１号及び第２号に基づく改善施策の進捗に関する事項
（４）　本委員会の組織、手続きの点検・評価に関する事項

（活動報告）

第４条　本委員会における点検・評価等に関する審議の結果及び改善施策は、学内に公表するものとする。（自己点検・評価および学校評価）

第５条　「教育研究調査報告書」等に基づく大学の自己点検・評価及びＫ－12の学校評価については、分科会、部会にてこれを行い、本委員会の審議を経て「自己点検・評価報告書」及び「学校評価結果」としてとりまとめ公表するものとする。

２　大学の「自己点検・評価報告書」の公表は７年を周期とする。

３　大学の自己点検・評価の客観性、妥当性を確保するため、「自己点検・評価報告書」は「Ｋ－16教育研究活動等有識者会議」に諮ることとする。得られた意見、助言等は本委員会において共有し、同報告書と併せてホームページで公表するものとする。

４　専門職学位課程の「自己評価書」の公表は５年を周期とする。

５　Ｋ－12の「学校評価結果」の公表は毎年行う。

６　Ｋ－12の「学校評価結果」の公表にあたっては、学校関係者評価の結果を付すものとする。

（その他）

第６条　本委員会はその運営に関し必要な事項を細則に定める。

第７条　この規程の改廃は、全学園連絡会の議を経なければならない。

第８条　本委員会に係る事務主管は、教育情報・企画部ＥＱＡ課が行う。

附　則
この規程は、平成４年４月１日から施行する。
附　則（平成６年４月１日）
この規程は、平成６年４月１日から施行する。
附　則（平成14年４月１日）
この規程は、平成14年４月１日から施行する。
附　則（平成17年４月１日）
この規程は、平成17年４月１日から施行する。
附　則（平成23年４月１日）
この規程は、平成23年４月１日から施行する。
附　則（平成27年４月１日）
この規程は、平成27年４月１日から施行する。
附　則（平成29年４月１日）
この規程は、平成29年４月１日から施行する。
附　則（平成31年４月１日）
この規程は、平成31年４月１日から施行する。
附　則（令和２年４月１日）
この規程は、令和２年４月１日から施行する。

学校法人玉川学園教育研究活動等点検調査委員会運営細則

平成４年４月１日制定

改正

平成５年４月１日
平成６年４月１日
平成７年４月１日
平成８年４月１日
平成９年４月１日
平成17年４月１日
平成28年４月１日
平成28年７月29日
平成29年４月１日
平成29年６月１日
平成30年４月１日
平成31年４月１日

第１条　学校法人玉川学園教育研究活動等点検調査委員会規程（以下「本委員会規程」という。）第６条に基づき、本運営細則を定める。

第２条　本委員会規程第１条第３項の点検・調査・分析・評価（以下「点検・評価等」という。）の項目は次の各号による。

（１）　教育目標等学校運営の根幹に関すること
（２）　教育活動に関すること
（３）　学生、生徒等の支援に関すること
（４）　研究活動に関すること
（５）　教員組織に関すること
（６）　教育研究等環境に関すること
（７）　国際教育・交流に関すること
（８）　社会貢献・社会連携に関すること
（９）　管理運営に関すること
(10)　本委員会の組織・手続きに関すること

２　前項の細目は別に定める。

第３条　本委員会規程第１条第２項の目的を達成するために、前条の項目及び細目に応じた統計調査を行う。

２　前項の統計調査の実施方法及び結果の公表方法については別に定める学校法人玉川学園指定統計調査に関する取扱要領による。

第４条　本委員会規程第２条第３項の分科会は次の各号による。

	〈分科会名称〉	〈基本構成〉	〈まとめ役〉	〈事務主管部署〉
（１）	学園分科会	Ｋ－12協議会（学園長、理事を除く）	学園教学部長	学園教学部学園教学課
（２）	大学分科会	大学共通部会の座長、教育学術情報図書館長、教学部事務部長、法人部門の部署長、教育情報・企画部長	教学部長	教学部教務課
（３）	管理運営分科会	法人部長会（理事長、理事を除く）	総務部長	総務部総務課

２　前項各号の分科会のうち第２号には学部等ごとの点検･評価を行うため、次の部会を置く（総称して「学部・研究科部会」という）。学部・研究科部会における点検・評価等の結果の適切

性及び、その結果に基づく全学的観点からの点検・評価等は大学分科会が担当する。

〈学部・研究科部会〉

	〈部会名称〉	〈基本構成〉	〈まとめ役〉	〈事務主管部署〉
（１）	文学部会	文学部の部長・主任、文学研究科長	文学部長	教学部
（２）	農学部会	農学部の部長・主任、農学研究科長	農学部長	
（３）	工学部会	工学部の部長・主任、工学研究科長	工学部長	
（４）	経営学部会	経営学部の部長・主任、マネジメント研究科長	経営学部長	
（５）	教育学部会	教育学部の部長・副学部長・主任、教育学研究科長、教職大学院科長	教育学部長	
（６）	芸術学部会	芸術学部の部長・主任、芸術専攻科主任	芸術学部長	
（７）	リベラルアーツ学部会	リベラルアーツ学部の部長・主任	リベラルアーツ学部長	
（８）	観光学部会	観光学部の部長・主任	観光学部長	
（９）	脳科学研究部会	脳科学研究科の科長・教務担当	脳科学研究科長	

３　専門職学位課程の点検・評価等の体制は別に定める。

４　第１項各号の分科会のうち第２号には大学共通事項の点検・評価を行うため、次の部会を置く（総称して「大学共通部会」という）。大学共通部会における点検・評価等の結果の適切性及び、その結果に基づく全学的観点からの点検・評価等は大学分科会が担当する。

〈大学共通部会〉

	〈部会名称〉	〈基本構成〉	〈まとめ役〉	〈事務主管部署〉
（１）	教務部会	教務委員会	教学部長	教学部
（２）	教員養成部会	教職課程委員会、教学部	教師教育リサーチセンター長	教師教育リサーチセンター
（３）	国際教育部会	国際教育推進委員会、教学部	国際教育センター長	国際教育センター
（４）	ＥＬＦ部会	ＥＬＦ運営委員会、教学部	ＥＬＦセンター長	ＥＬＦセンター
（５）	大学院教務部会	大学院教務委員会	教学部長	教学部
（６）	研究活動部会	学術研究所長、脳科学研究所長、量子情報科学研究所長、教学部長、学部長、副学部長、教育博物館長、TAPセンター長、教学部事務部長	学術研究所長	学術研究所研究促進室
（７）	教員組織部会	教学部長、教学部事務部長、学部長、副学部長、学術研究所長、脳科学研究所長、量子情報科学研究所長	教学部長	教学部
（８）	入試広報部会	入試運営委員会（学長、理事を除く）	入試広報部長	入試広報部
（９）	学生生活支援部会	学生委員会、学生担当	学生支援センター長	学生支援センター
(10)	キャリア・就職指導部会	キャリア・就職指導委員会	キャリアセンター長	キャリアセンター

５　第１項各号の分科会、第２項各号及び第４項各号の部会の点検・評価等の項目は別に定める。

６　第１項各号の分科会、第２項各号及び第４項各号の委員及び事務担当は毎年度当初理事長が委嘱する。

７　委員長は必要あると認めたとき第２項及び第４項以外の部会を置くことができる。

第５条　各部会の分担以外の項目及び細目等については大学分科会が直接担当する。

第６条　各分科会・部会等における点検・評価等の結果と、その結果に基づく改善施策については委員長に上申しなければならない。

第７条　本委員会及び各部会等が行う点検・評価等の進行手順は別に定める。

附　則

この細則は、平成４年４月１日から施行する。

附　則（平成５年４月１日）

この細則は、平成５年４月１日から施行する。

附　則（平成６年４月１日）

この細則は、平成６年４月１日から施行する。

附　則（平成７年４月１日）

この細則は、平成７年４月１日から施行する。

附　則（平成８年４月１日）

この細則は、平成８年４月１日から施行する。

附　則（平成９年４月１日）

この細則は、平成９年４月１日から施行する。

附　則（平成17年４月１日）

この細則は、平成17年４月１日から施行する。

附　則（平成28年４月１日）

この細則は、平成28年４月１日から施行する。

附　則（平成28年７月29日）

この細則は、平成28年７月29日から施行する。

附　則（平成29年４月１日）

この細則は、平成29年４月１日から施行する。

附　則（平成29年６月１日）

この細則は、平成29年６月１日から施行する。

附　則（平成30年４月１日）

この細則は、平成30年４月１日から施行する。

附　則（平成31年４月１日）

この細則は、平成31年４月１日から施行する。

学校法人玉川学園指定統計調査に関する取扱要領

平成４年４月１日制定

1. この指定統計調査は次の各号による。
   （１）　各部署が業務上作成する統計調査のうち学校法人玉川学園（以下「本法人」という。）が指定するもの
   （２）　本法人が必要と認め、特定部署に委託して作成する統計調査
   （３）　学校法人玉川学園教育研究活動等点検調査委員会運営細則第３条の規定による統計調査
2. 前項の指定統計調査を実施する場合、その実施者はその調査事項についてあらかじめ理事長の承認を得なければならない。ただし、定期的報告を義務づけられている統計調査は除く。
3. 第１項第１号の「各部署が業務上作成する調査のうち本法人が指定するものの統計調査」については、当該年度の３月31日までに提出するものとする。
4. 第１項第２号の「本法人が必要と認め、特定部署に委託して作成する統計調査」については、その都度指定する期日までに提出するものとする。
5. 第１項第３号の「学校法人玉川学園教育研究活動等点検調査委員会運営細則第３条の規定による統計調査」については特定の事項を除き原則として、当該年度の３月31日までに提出するものとする。
6. 第３項から第５項の指定統計調査報告書の様式及び提出部数は別に定める。

附　則

この要領は、平成４年４月１日から実施する。

学校法人玉川学園Ｋ－16教育研究活動等有識者会議規程

平成14年４月１日制定

改正

平成17年４月１日

（趣旨）

第１条　本規程は、学校法人玉川学園教育研究活動等点検調査委員会規程第１条第２項の目的に照らし、学校法人玉川学園（以下「本法人」という。）が、より客観的な意見を取り入れた教育研究水準向上を図るために、Ｋ－16教育研究活動等有識者会議（以下「本有識者会議」という。）を置き、広くかつ高い見識を有する者の意見、提言を徴し、教育・研究の充実及び質の維持向上に資することを目的として定める。

（審議事項）

第２条　本有識者会議は、次の各号に定める事項を審議、助言する。

（１）　本法人の教育の目標達成、及びその質の維持向上を図るための基本的計画に関する事項

（２）　本法人の教育研究活動等総合的な点検、調査、分析、評価に関する事項

（３）　その他本法人の基本的事項に関し、理事長が必要と認めた事項

（組織構成）

第３条　本有識者会議は、委員長、委員をもって構成する。

２　本有識者会議の委員長は、理事長がこれにあたる。

３　本有識者会議の委員については、理事長が委嘱する。

４　委員のうち学外者は次の区分による。

（１）　高等教育に高い識見を有する者　２～４名

（２）　初等中等教育に高い識見を有する者　２～４名

（３）　民間関係者を含む学識経験者　２～４名

５　委員には本法人の教職員を委嘱することができる。

（任期）

第４条　委員の任期は、２年とする。ただし、再任することができる。

２　委員に欠員が生じた場合の補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

（運営）

第５条　本有識者会議は、委員長が召集する。

２　本有識者会議は、年２回、６月と１月に開催する。

３　委員長が必要と認めたときは、臨時にこれを召集することができる。

（審議結果の報告）

第６条　本有識者会議の審議結果は、教育研究活動等点検調査委員会に報告するものとする。

（事務主管）

第７条　本有識者会議に係る事務主管は、教育情報・企画部ＥＱＡ課が行う。

附　則

この規程は、平成14年４月１日から施行する。

附　則（平成17年４月１日）

この規程は、平成17年４月１日から施行する。

資料８

〇玉川大学ＦＤ委員会規程

平成15年４月１日制定

改正

平成21年４月１日

平成31年４月１日

（目的）

第１条　玉川大学（以下「本大学」という。）教員の、教育研究活動の向上・能力開発に関して恒常的に検討を行い、その質的充実を図ることを目的として、大学ＦＤ（ファカルティ・ディベロップメント）（以下「ＦＤ」という。）委員会（以下「本委員会」という。）を置く。

（組織）

第２条　本委員会は、委員長、委員、事務担当をもって構成する。

２　前項の委員長は教学部長とする。

３　委員は、各学部のＦＤ担当があたる。

４　委員等は、毎年度当初、学長がこれを委嘱する。

５　委員長が必要と認めたときは副委員長を置くことができる。

６　本委員会には学部ごとの分科会を設けることができる。

７　前項による分科会のまとめ役及び委員は学部長が選任する。

（任期）

第３条　委員の任期は１か年とする。ただし、再任を妨げない。

（運営）

第４条　本委員会は、委員長が招集・開会し、議長となる。

２　委員長が必要と認めた場合は、委員以外の教職員の出席を求め、意見を聴取することができる。

（審議事項）

第５条　本委員会は、次の事項を審議する。

（１）　教育研究活動改善の方策に関する事項

（２）　初任者及び現任者の研修計画の立案・実施に関する事項

（３）　学生による授業評価の実施、結果分析及びフィードバックに関する事項

（４）　ＦＤに関する教員への各種コンサルティングに関する事項

（５）　教員のＦＤ活動の指針に関する冊子及びＦＤ活動報告書の刊行

（６）　分科会からの報告・審議に関する事項

（７）　その他ＦＤに関連する事項

（分科会）

第６条　各分科会は、ＦＤ担当が取りまとめ、本委員会に検討・実施事項を報告しなければならない。

２　各分科会にはＦＤ活動を円滑に進めるため、ＦＤｅｒ（ファカルティ・ディベロッパー）（以下、「ＦＤｅｒ」）を置く。ＦＤｅｒはＦＤ担当が兼ねることができる。

（答申）

第７条　委員長は、本委員会の審議結果を学長に答申しなければならない。

（実施事項の決定）

第８条　前条の答申内容の実施については、大学部長会の議を経て学長が決定する。

（実施事項の運用）

第９条　前条により決定した実施事項に関する実際的運用に関しては、教務委員会及び教育研究活動等点検調査委員会との調整を図りながら検討、実施するものとする。

（事務主管）

第10条　本委員会に係る事務主管は、教学部が行う。

附　則

この規程は、平成15年４月１日から施行する。

附　則（平成21年４月１日）

この規程は、平成21年４月１日から施行する。

附　則（平成31年４月１日）

この規程は、平成31年４月１日から施行する。

資料 9

就職支援プログラムについて

実施月	講 座 名	実施学年			
		1年	2年	3年	4年
4月	教職課程受講希望者ガイダンス	●			
	公立学校教員採用選考･学内説明会（全国教育委員会）	●	●	●	●
	教員・保育士就職ガイダンス（卒業生体験談含む）			●	
	教員採用模擬試験（幼･小･中･高）《5月公開模試》			●	●
	保育士就職模擬試験（幼を含む）			●	●
	私立教員就職ガイダンス（小･中･高）				●
	教員採用模擬試験（首都圏近郊･自治体別）				●
	私立幼稚園教諭･保育士･福祉職就職ガイダンス1/2				●
5月	インターンシップ個別相談	●	●	●	
	就職ガイダンス①			●	
	就職ガイダンス②			●	
	教職課程基礎講座	●			
	教員採用模擬試験（幼･小･中･高）《5月公開模試》	●	●		
	就職ガイダンス	●	●	●	
	教員養成プログラム･学内説明会（近隣教育委員会）	●	●	●	●
6月	就職ガイダンス基礎編	●	●		
	インターンシップ個別相談	●	●	●	
	適職診断テスト	●	●	●	
	公務員基礎ガイダンス	●	●	●	
	公務員対策講座	●	●	●	
	公務員専門職ガイダンス	●	●	●	
	就活用写真撮影			●	
	模試結果解説・学習スタートガイダンス	●	●	●	
	過去問分析ワークショップ			●	
	教員採用模擬試験（幼･小･中･高）《6月公開模試》試験直前			●	●
	教員採用試験[直前]対策講座				●
	私立幼稚園教諭･保育士･福祉職就職直前ガイダンス(実習後2/2)				●
7月	インターンシップ個別相談	●	●	●	
	マナー講座	●	●	●	
	U・Iターン企業就職ガイダンス	●	●	●	●
	公務員相談会	●	●	●	●
	教員・保育士採用試験対策講座（一次・二次試験）				●
8月	教員・保育士採用試験対策講座（二次試験）				●
	筆記試験対策講座	●	●	●	
	夏期実技集中講座（幼･保）	●	●	●	●
9月	企業見学バスツアー	●	●	●	
	公務員対策講座	●	●	●	
	県別学習相談会（小･中･高）			●	
	教員・保育士採用試験対策講座（二次試験）				●
10月	公務員対策講座	●	●	●	
	公務員相談会	●	●	●	
	筆記試験対策講座ガイダンス			●	
	公立学校教員採用選考･秋季学内説明会（全国教育委員会）	●	●	●	
	教員・保育士採用試験 最新動向ガイダンス	●	●	●	
	教員・保育士採用試験対策講座（名簿登載者向け）				●
11月	公務員対策講座	●	●	●	
	OBOG交流会	●	●	●	
	企業見学会	●	●	●	
	青年海外協力隊	●	●	●	
	実践講座（自己分析）			●	
	実践講座（自己PR）			●	
	実践講座（履歴書作成）			●	
	実践講座（面接マナー）			●	

実施月	講 座 名	実施学年			
		1年	2年	3年	4年
11月	筆記試験対策講座（SPI編）			●	
	就活用写真撮影			●	
	教員採用模擬試験[ﾌﾟﾚ模試/ﾄﾗｲｱﾙ模試]（幼･小･中･高）	●	●	●	
	教職特別講座（対象：教員就職者）				●
12月	公務員対策講座	●	●	●	
	業界研究会	●	●	●	
	就職ガイダンス		●		
	実践講座（自己分析）			●	
	実践講座（自己PR）			●	
	実践講座（履歴書作成）			●	
	実践講座（面接マナー）			●	
	筆記試験対策講座（SPI編）			●	
	就活用写真撮影			●	
1月	公務員対策講座	●	●	●	
	適職診断テスト	●	●	●	
	実践講座（自己分析）			●	
	実践講座（自己PR）			●	
	実践講座（履歴書作成）			●	
	実践講座（面接マナー）			●	
	筆記試験対策講座（WEBテスト編）			●	
	就活用写真撮影			●	
2月	就活直前ガイダンス			●	
	労働法ガイダンス			●	
	学内業界・企業説明会			●	
	実践講座（自己分析）			●	
	実践講座（自己PR）			●	
	実践講座（履歴書作成）			●	
	実践講座（面接マナー）			●	
	OBOGによる面接対策講座			●	
	就活用写真撮影			●	
	筆記試験対策講座[教職教養]等		●	●	
	公立幼稚園･保育士採用対策講座（専門・実技）		●	●	
	教員採用模擬試験（幼･小･中･高）《3月公開模試》		●	●	
	保育士就職模擬試験		●	●	
3月	公務員集団討論対策講座	●	●	●	
	公務員個人面接対策講座	●	●	●	
	学内業界・企業説明会			●	
	教員・保育士就職直前ガイダンス（希望地調査）			●	
	大学推薦ガイダンス（小･中･高）			●	
通年	キャリアカウンセリング（個別面談）	●	●	●	●
	模擬面接			●	●
	教職サポートルーム学習支援（個別相談）	●	●	●	●
	１年次教職講座	●			
	２年次教職講座（筆記試験、論作文<基礎>）		●		
	３年次教職講座（筆記試験、論作文・面接<実践>）			●	
	４年次教職講座（直前対策／名簿登載者指導）				●

様式第３号（その１）

教　員　名　簿

学長の氏名等						
調書番号	役職名	ﾌﾘｶﾞﾅ 氏　　名 〈就任（予定）年月〉	年齢	保有学位等	月額 基本給 （千円）	現　　職 （就任年月）
―	学長	ｵﾊﾞﾗ ﾖｼｱｷ 小原　芳明 <平成6.4>		Master of Arts in Analysis of Educational Policy （米国）		玉川大学 学長 （平成6.4～令和7.3）

別記様式第３号（その２の１）

教員の氏名等

（芸術学部 演劇・舞踊学科）

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有学位等	月額基本給(千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
1	専	教授	アオヤマ　ノリヤス 青山　典靖 ＜令和3年4月＞		学士（文学）		玉川の教育 芸術概論※ 演技・舞踊入門※ 演技・舞踊基礎演習 上演基礎実習※ 日本文化芸術論※ 演技・舞踊演習Ⅰ 演技・舞踊演習Ⅱ 所作・擬闘 演技・舞踊演習Ⅲ 演技・舞踊演習Ⅳ 舞台芸術研究Ⅰ 舞台芸術研究Ⅱ 卒業創作・研究A 卒業創作・研究B 舞台芸術研究Ⅲ 舞台芸術研究Ⅳ	1後 1前 1前 1後 1後 1前・後 2前 2後 2前・後 3前 3後 3前 3後 4前 4後 4前 4後	0.3 0.1 0.4 2 3.2 1.3 4 4 4 4 4 2 2 4 4 2 2	1 1 1 1 1 2 1 1 2 1 1 1 1 1 1 1 1	玉川大学 芸術学部 パフォーミング・アーツ学科 教授 （平31.4）	6日
2	専	教授 （学科主任）	アーカリ, ジェイスン ARCARI Jason ＜令和3年4月＞		Ph.D. in Drama （英国）		芸術概論※ 演技・舞踊基礎演習 上演基礎実習※ Performing in English 演技・舞踊演習Ⅰ 演技・舞踊演習Ⅱ 演技・舞踊演習Ⅲ 演技・舞踊演習Ⅳ オーディション演習※ 舞台芸術研究Ⅰ 舞台芸術研究Ⅱ 卒業創作・研究A 卒業創作・研究B 舞台芸術研究Ⅲ 舞台芸術研究Ⅳ	1前 1後 1後 1前 2前 2後 3前 3後 3前・後・4前 3前 3後 4前 4後 4前 4後	0.1 2 3.2 1 4 4 4 4 0.5 2 2 4 4 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 2 1 1 1 1 1 1	玉川大学 芸術学部 パフォーミング・アーツ学科 教授 （平30.4）	6日
3	専	教授	フタムラ　シュウサク 二村　周作 ＜令和3年4月＞		MA Scenography （英国）		芸術概論※ 舞台技術基礎演習※ 上演基礎実習※ 舞台創造演習Ⅰ※ 舞台創造演習Ⅱ 舞台創造演習Ⅲ 舞台創造演習Ⅳ 劇空間デザイン研究※ 舞台芸術研究Ⅰ 舞台芸術研究Ⅱ 卒業創作・研究A 卒業創作・研究B 舞台芸術研究Ⅲ 舞台芸術研究Ⅳ	1前 1前・後 1後 2前 2後 3前 3後 3前・後 3前 3後 4前 4後 4前 4後	0.1 0.3 3.5 0.3 4 4 4 0.3 2 2 4 4 2 2	1 2 1 1 1 1 1 2 1 1 1 1 1 1	株式会社 二村周作アトリエ （平28.5）	6日
4	専	教授	ヲサ゛キ（ゴ゛トウ）　ヒロミ ヲザキ（後藤）浩実 ＜令和3年4月＞		修士（芸術学）		一年次セミナー101 一年次セミナー102 芸術概論※ 上演基礎実習※ 芸術と社会 芸術創造演習Ⅰ 芸術創造演習Ⅱ 劇場接遇演習（ゲストリレーション）※ 舞台芸術研究Ⅰ 舞台芸術研究Ⅱ 芸術創造演習Ⅲ 芸術創造演習Ⅳ 卒業創作・研究A 卒業創作・研究B 舞台芸術研究Ⅲ 舞台芸術研究Ⅳ	1前 1後 1前 1後 2前・後 2前 2後 3前・後 3前 3後 3前 3後 4前 4後 4前 4後	2 2 0.1 3.5 4 4 4 1.9 2 2 4 4 4 4 2 2	1 1 1 1 2 1 1 2 1 1 1 1 1 1 1 1	公益財団法人 東京都歴史 文化財団 アーツカウンシル東京 企画室企画助成課 企画担当係長 （平30.5）	6日

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏　名 <就任(予定)年月>	年齢	保有学位等	月額基本給(千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職 (就任年月)	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
5	専	准教授	ﾀﾜﾀ　ｼﾝﾀﾘｮｳ 多和田　真太良 ＜令和3年4月＞		博士（表象文化学）		芸術概論※ 上演基礎実習※ 芸術創造演習Ⅰ 芸術創造演習Ⅱ 劇場接遇演習（ゲストリレーション）※ 舞台芸術研究Ⅰ 舞台芸術研究Ⅱ 芸術創造演習Ⅲ 芸術創造演習Ⅳ 卒業創作・研究A 卒業創作・研究B 舞台芸術研究Ⅲ 舞台芸術研究Ⅳ	1前 1後 2前 2後 3前・後 3前 3後 3前 3後 4前 4後 4前 4後	0.3 3.5 4 4 2.1 2 2 4 4 4 4 2 2	1 1 1 1 2 1 1 1 1 1 1 1 1	玉川大学 芸術学部 パフォーミング・アーツ学科 准教授 （平28.4）	6日
6	専	准教授	ﾆｲﾇﾏ(ｲｹﾀﾞ) ﾄﾓﾕｷ 新沼（池田）智之 ＜令和3年4月＞		修士（文学）※		一年次セミナー101 一年次セミナー102 芸術概論※ 上演基礎実習※ 世界演劇・舞踊史Ⅰ 演劇理論 舞台芸術研究Ⅰ 舞台芸術研究Ⅱ 卒業創作・研究A 卒業創作・研究B 舞台芸術研究Ⅲ 舞台芸術研究Ⅳ	1前 1後 1前 1後 1前 2前・後 3前 3後 4前 4後 4前 4後	2 2 0.3 3.2 2 4 2 2 4 4 2 2	1 1 1 1 1 2 1 1 1 1 1 1	玉川大学 芸術学部 パフォーミング・アーツ学科 准教授 （平31.4）	6日
7	専	助教	ﾀﾅｶ　ｹｲｽｹ 田中　圭介 ＜令和3年4月＞		修士（音楽）		一年次セミナー101 一年次セミナー102 芸術概論※ 演技・舞踊入門※ 演技・舞踊基礎演習 上演基礎実習※ 芸術創造演習Ⅰ 芸術創造演習Ⅱ 舞台芸術研究Ⅰ 舞台芸術研究Ⅱ 芸術創造演習Ⅲ 芸術創造演習Ⅳ 応用演劇演習Ⅲ 応用演劇演習Ⅳ 卒業創作・研究A 卒業創作・研究B 舞台芸術研究Ⅲ 舞台芸術研究Ⅳ	1前 1後 1前 1前 1後 1後 2前 2後 3前 3後 3前 3後 3・4前 3・4後 4前 4後 4前 4後	2 2 0.4 0.4 2 3.2 4 4 2 2 4 4 2 2 4 4 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	玉川大学 芸術学部 パフォーミング・アーツ学科 助教 （平31.4）	6日
8	兼担	教授	ｱｵﾉ ｶｽﾞﾋｺ 青野 和彦 ＜令和4年4月＞		神学修士		キリスト教学	2・3・4前	2	1	玉川大学 リベラルアーツ学部 リベラルアーツ学科 教授 (平31.4)	
9	兼担	教授	ｱﾐﾉ ｺｳｲﾁ 網野 公一 ＜令和3年4月＞		文学修士※		日本学入門	1・2・3・4前	2	1	玉川大学 リベラルアーツ学部 リベラルアーツ学科 教授 (平1.4)	
10	兼担	教授	ｵｵｷ ｴｲｲﾁ 大木 栄一 ＜令和5年4月＞		経営学修士		キャリア・マネジメント	3・4前・後	4	2	玉川大学 経営学部 国際経営学科 教授 (平25.4)	
11	兼担	教授	ｵｵｸﾎﾞ ﾋﾃﾞﾄｼ 大久保 英敏 ＜令和4年4月＞		博士（工学）		エネルギー科学	2・3・4前	2	1	玉川大学 工学部 情報通信工学科 教授 (平7.4)	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏　名 <就任(予定)年月>	年齢	保有学位等	月額基本給(千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職 (就任年月)	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
12	兼担	教授	ｵｵﾀﾆ ﾁｴ 大谷 千恵 ＜令和3年4月＞		Master of Arts in Education (米国)		国際研究A 国際研究B 国際研究C 国際研究D 国際研究E 国際研究F	1後･2･3･4前･後 1後･2･3･4前･後 1後･2･3･4前･後 1後･2･3･4前･後 1後･2･3･4前･後 1後･2･3･4前･後	4 4 4 6 8 10	2 2 2 2 2 2	玉川大学 教育学部 教育学科 教授 (平10.4)	
13	兼担	教授	ｵｶﾀﾞ ﾋﾛﾕｷ 岡田 浩之 ＜令和4年4月＞		博士(工学)		人工知能と社会	2･3･4後	2	1	玉川大学 工学部 情報通信工学科 教授 (平18.4)	
14	兼担	教授	ｵｸﾞﾗ ﾔｽﾕｷ 小倉 康之 ＜令和4年4月＞		博士(美術)		複合領域研究 201～299	2･3･4前･後	4	2	玉川大学 芸術学部 メディア・デザイン学科 教授 (平20.4)	
15	兼担	教授	ｶｷｻﾞｷ ﾋﾛﾀｶ 柿崎 博孝 ＜令和4年4月＞		文学士		博物館経営論	2･3後	2	1	玉川大学 教育博物館 教授 (昭60.4)	
16	兼担	教授	ｶﾜｻｷ ﾄｼｷ 川崎 登志喜 ＜令和4年4月＞		体育学修士		社会体育論	2･3前	2	1	玉川大学 教育学部 教育学科 教授 (平2.4)	
17	兼担	教授	ｶﾝﾉ ｶｽﾞｵ 菅野 和郎 ＜令和4年4月＞		修士(歴史学)※		博物館資料保存論	2･3前	2	1	玉川大学 教育博物館 教授 (平8.4)	
18	兼担	教授	ｷﾀﾊﾗ ﾋﾛｵ 北原 博雄 ＜令和3年4月＞		博士(文学)		日本語学	1･2･3･4前･後	4	2	玉川大学 文学部 国語教育学科 教授 (平29.4)	
19	兼担	教授	ｸﾄﾞｳ ﾜﾀﾙ 工藤 亘 ＜令和3年4月＞		修士(教育学)※		生涯スポーツ演習	1･2･3･4前･後	4	2	玉川大学 教育学部 教育学科 教授 (平11.4)	
20	兼担	教授	ｺｻﾞｶｲ ﾏｻｶｽﾞ 小酒井 正和 ＜令和4年4月＞		博士(経営学)		複合領域研究 201～299	2･3･4前･後	4	2	玉川大学 工学部 マネジメントサイエンス学科 教授 (平19.4)	
21	兼担	教授	ｻｶｶﾞﾐ ﾏｻﾐﾁ 坂上 雅道 ＜令和3年4月＞		博士(医学)		ミクロ脳科学	1後･2･3･4前･後	4	2	玉川大学 脳科学研究所 教授 (平13.4)	
22	兼担	教授	ｻｸﾏ ﾋﾛﾕｷ 佐久間 裕之 ＜令和4年4月＞		文学修士※		全人教育論	2前･後	4	2	玉川大学 教育学部 教育学科 教授 (平16.4)	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏　名 <就任(予定)年月>	年齢	保有学位等	月額基本給(千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職 (就任年月)	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
23	兼担	教授	ｻｻｲ ﾋﾛﾐ 笹井 宏益 ＜令和4年4月＞		法学士		社会教育経営論B	2･3前	2	1	玉川大学 学術研究所 教授 (平29.4)	
24	兼担	教授	ｼﾐｽﾞ(ﾜﾀﾞ) ﾋﾛﾐ 清水(和田)宏美 ＜令和3年4月＞		修士(教育学)		芸術概論※	1前	0.3	1	玉川大学 芸術学部 芸術教育学科 教授 (平29.4)	
25	兼担	教授	ｼｭ ｺｳﾄｳ 朱 浩東 ＜令和3年4月＞		博士(社会学)		ことばと文化 中国語 101 中国語 102	1･2･3･4前･後 1･2･3･4前･後 1･2･3･4後	4 4 2	2 2 1	玉川大学 教育学部 教育学科 教授 (平10.4)	
26	兼担	教授	ﾀﾆ ｶｽﾞｷ 谷 和樹 ＜令和5年4月＞		修士(学校教育学)		現代社会の教育課題	3･4前･後	4	2	玉川大学 教育学研究科 教職専攻(教職大学院) 教授 (平20.4)	
27	兼担	教授	ﾂﾊﾞｷﾄｼﾕｷ 椿 敏幸 ＜令和3年4月＞		修士(美術)		芸術概論※	1前	0.3	1	玉川大学 芸術学部 芸術教育学科 教授 (平5.4)	
28	兼担	教授	ﾅｶﾞｲ ｴﾂｺ 永井 悦子 ＜令和3年4月＞		博士(学術)		Japan Studies Overseas A Japan Studies Overseas B Japan Studies Overseas C フィールドワークA フィールドワークB フィールドワークC 地域創生プロジェクトA 地域創生プロジェクトB 地域創生プロジェクトC 地域創生プロジェクトD 地域創生プロジェクトE 地域創生プロジェクトF	3･4後 3･4後 3･4後 1･2･3･4前･後 1･2･3･4前･後 1･2･3･4前･後 1･2･3･4前･後 1･2･3･4前･後 1･2･3･4前･後 1･2･3･4前･後 1･2･3･4前･後 1･2･3･4前･後	2 2 2 4 4 4 2 2 4 4 6 6	1 1 1 2 2 2 2 2 2 2 2 2	玉川大学 リベラルアーツ学部 リベラルアーツ学科 教授 (平20.4)	
29	兼担	教授	ﾅｶﾑﾗ ｶｵﾘ 中村 香 ＜令和3年4月＞		博士(学術)		生涯学習概論 社会教育実習 社会教育課題研究	1･2前 2･3後 2･3前	2 2 2	1 1 1	玉川大学 教育学部 教育学科 教授 (平22.4)	
30	兼担	教授	ﾆﾜﾉ ﾋﾛｴ 庭野 裕恵 ＜令和5年4月＞		博士(医学)		病理学	3･4後	2	1	玉川大学 教育学部 教育学科 教授 (平24.4)	
31	兼担	教授	ﾈｶﾞﾐ ｱｷﾗ 根上 明 ＜令和4年4月＞		修士(知識科学)		ピアリーダー	2前･後	4	2	玉川大学 工学部 マネジメントサイエンス学科 教授 (平26.4)	
32	兼担	教授	ﾉﾓﾄ ﾕｷｵ 野本 由紀夫 ＜令和3年4月＞		芸術学修士		音楽史	1･2･3･4前･後	4	2	玉川大学 芸術学部 芸術教育学科 教授 (平18.4)	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏　名 <就任(予定)年月>	年齢	保有学位等	月額基本給(千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職 (就任年月)	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
33	兼担	教授	ﾊﾞﾊﾞ ｼﾝｼﾞ 馬場 眞二 ＜令和3年4月＞		修士(音楽)		音楽I 音楽II	1前 1後	0.7 1	1 1	玉川大学 芸術学部 パフォーミング・アーツ学科 教授 (平20.4)	
34	兼担	教授	ﾊﾗﾉ ｹﾝｲﾁ 原野 健一 ＜令和3年4月＞		博士(農学)		生物学入門	1･2･3･4前･後	4	2	玉川大学 学術研究所 教授 (平24.4)	
35	兼担	教授	ﾏﾂﾀﾞ ﾃﾂﾔ 松田 哲也 ＜令和3年4月＞		博士(医学)		マクロ脳科学	1･2･3･4前･後	4	2	玉川大学 脳科学研究所 教授 (平16.4)	
36	兼担	教授	ﾐﾔﾀ ｾｲｷ 宮田 成紀 ＜令和3年4月＞		博士(工学)		物理学入門 実践の物理学	1･2･3･4前･後 2･3･4前	4 2	2 1	玉川大学 工学部 情報通信工学科 教授 (平27.4)	
37	兼担	教授	ﾑﾗﾔﾏ ﾆﾅ 村山 にな ＜令和3年4月＞		Ph.D. in Art History (米国)		美術史 博物館概論	1･2･3･4前･後 2･3前	4 2	2 1	玉川大学 芸術学部 芸術教育学科 教授 (平24.4)	
38	兼担	教授	ﾔﾏﾀﾞ ﾉﾌﾞﾕｷ 山田 信幸 ＜令和3年4月＞		教育学修士		健康教育	1前	1	1	玉川大学 教育学部 教育学科 教授 (昭62.4)	
39	兼担	教授	ﾘｱ ｽﾃｨｰﾌﾞ LIA Steve ＜令和4年4月＞		Master of Applied Linguistics (TESOL) (オーストラリア)		Academic Communication Presentation Skills in English	2･3･4前 2･3･4後	2 2	1 1	玉川大学 リベラルアーツ学部 リベラルアーツ学科 教授 (平13.4)	
40	兼担	教授	ﾜﾀﾅﾍﾞ (ﾐﾀ) ｷｮｳｺ 渡辺(三田)京子 ＜令和3年4月＞		農学博士		STEM入門(科学と社会)	1･2･3･4後	2	1	玉川大学 農学部 生産農学科 教授 (平1.4)	
41	兼担	教授	ﾜﾀﾅﾍﾞ ﾏｻﾋｺ 渡邉 正彦 ＜令和3年4月＞		文学修士※		日本文学	1･2･3･4前･後	4	2	玉川大学 リベラルアーツ学部 リベラルアーツ学科 教授 (平5.4)	
42	兼担	准教授	ｱｻﾋ ｺｳﾔ 朝日 公哉 ＜令和3年4月＞		修士(教育学)		音楽I 音楽II	1前 1後	0.7 1	1 1	玉川大学 教育学部 乳幼児発達学科 准教授 (平10.4)	
43	兼担	准教授	ｱﾘｹﾞﾝﾀﾝ ｼﾞｪﾗｰﾄﾞ 有源探 ｼﾞｪﾗｰﾄﾞ ＜令和3年4月＞		修士(教育学)※		哲学	1･2･3･4前･後	4	2	玉川大学 リベラルアーツ学部 リベラルアーツ学科 准教授 (平20.4)	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏　名 <就任(予定)年月>	年齢	保有学位等	月額基本給(千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職 (就任年月)	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
44	兼担	准教授	ｲｼﾀﾞ ﾏﾕﾘ 石田 万由里 ＜令和3年4月＞		博士(経営学)		会計学	1･2･3･4前･後	4	2	玉川大学 経営学部 国際経営学科 准教授 (平28.4)	
45	兼担	准教授	ｲﾁｶﾜ ﾅｵｺ 市川 直子 ＜令和3年4月＞		博士(農学)		科学入門 名著講読(自然科学)	1･2･3･4前･後 2･3･4前･後	4 2	2 2	玉川大学 教育学部 教育学科 准教授 (平14.4)	
46	兼担	准教授	ｳﾉ ｹｲ 宇野 慶 ＜令和4年4月＞		修士(史学)		博物館資料論 博物館実習	2･3後 3･4前･後	2 6	1 2	玉川大学 教育博物館 准教授 (平14.4)	
47	兼担	准教授	ｶﾐﾔ ﾜﾀﾙ 神谷 渉 ＜令和3年4月＞		修士(国際経営)		インターンシップA インターンシップB インターンシップC インターンシップD	1･2･3･4前･後 1･2･3･4前･後 1･2･3･4前･後 1･2･3･4前･後	4 4 2 2	2 2 2 2	玉川大学 経営学部 国際経営学科 准教授 (平28.4)	
48	兼担	准教授	ｶﾜﾓﾄ ｶｽﾞﾀｶ 川本 和孝 ＜令和4年4月＞		修士(教育学)		生涯学習支援論B	2･3前	2	1	玉川大学 TAPセンター 准教授 (平14.6)	
49	兼担	准教授	ｷｳﾁ ﾏｻﾐﾂ 木内 正光 ＜令和3年4月＞		博士(工学)		経営学	1･2･3･4前･後	4	2	玉川大学 経営学部 国際経営学科 准教授 (平31.4)	
50	兼担	准教授	ｺｼﾞﾏ(ﾐﾔｻﾞｷ) ｻｴｺ 小島(宮﨑)佐恵子 ＜令和3年4月＞		修士(文学)※		三年次セミナー301 三年次セミナー302 社会科学ｱｶﾃﾞﾐｯｸｽｷﾙｽﾞ(ﾘｰﾃﾞｨﾝｸﾞ) 社会科学ｱｶﾃﾞﾐｯｸｽｷﾙｽﾞ(ﾗｲﾃｨﾝｸﾞ) 名著講読(社会科学)	3前 3後 1･2･3･4前･後 1･2･3･4前･後 2･3･4前･後	2 2 2 2 2	1 1 2 2 2	玉川大学 教育学部 教育学科 准教授 (平25.4)	
51	兼担	准教授	ｺﾞｯﾀﾙﾄﾞ ﾏﾙｺ GOTTARDO Marco ＜令和3年4月＞		Ph.D. (米国) Master of Philosophy (米国) Master of Arts (米国)		宗教学 世界の宗教と文化 Japanology	1･2･3･4前･後 1･2･3･4後 3･4前	4 2 2	2 1 1	玉川大学 リベラルアーツ学部 リベラルアーツ学科 准教授 (平22.4)	
52	兼担	准教授	ｼﾓﾑﾗ ﾔｽﾋﾛ 下村 恭広 ＜令和4年4月＞		修士(文学)※		二年次セミナー201 二年次セミナー202	2前 2後	2 2	1 1	玉川大学 リベラルアーツ学部 リベラルアーツ学科 准教授 (平17.4)	
53	兼担	准教授	ｽｽﾞｷ ｼﾞｭﾝﾔ 鈴木 淳也 ＜令和3年4月＞		修士(教育学)		健康教育	1前	1	1	玉川大学 教育学部 教育学科 准教授 (平26.4)	
54	兼担	准教授	ﾀｶｷﾞ ﾋﾛﾕｷ 髙城 宏行 ＜令和3年4月＞		Ph.D. in Education (英国)		海外留学入門	1･2･3･4前･後	4	2	玉川大学 文学部 英語教育学科 准教授 (平30.4)	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏　名 <就任(予定)年月>	年齢	保有学位等	月額基本給(千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職 （就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
55	兼担	准教授	ﾀｶﾊｼ (ﾀﾁﾊﾞﾅ) ｱｲ 髙橋（立花）愛 ＜令和4年4月＞		博士（教育学）		博物館教育論	2･3後	2	1	玉川大学 芸術学部 芸術教育学科 准教授 (平22.4)	
56	兼担	准教授	ﾀﾅｶ ﾓﾄｺ 田中 素子 ＜令和5年4月＞		Doctor of Philosophy （カナダ）		Japanese Pop Culture	3･4後	2	1	玉川大学 ﾘﾍﾞﾗﾙｱｰﾂ学部 ﾘﾍﾞﾗﾙｱｰﾂ学科 准教授 (平29.4)	
57	兼担	准教授	ﾀﾆﾜｷ ｼｹﾞｷ 谷脇 茂樹 ＜令和3年4月＞		修士（経済学）		観光学入門	1･2･3･4前	2	1	玉川大学 観光学部 観光学科 准教授 (令2.4)	
58	兼担	准教授	ﾊｾｶﾞﾜ ﾋﾃﾞﾉﾌﾞ 長谷川 英伸 ＜令和4年4月＞		博士（経営学）		コーオプ･プログラム	2･3･4前･後	4	2	玉川大学 経営学部 国際経営学科 准教授 (平25.4)	
59	兼担	准教授	ﾊﾏﾀﾞ ﾋﾃﾞﾀｹ 濵田 英毅 ＜令和3年4月＞		博士（史学）		人文科学ｱｶﾃﾞﾐｯｸｽｷﾙｽﾞ（ﾗｲﾃｨﾝｸﾞ） 名著講読（人文科学）	1･2･3･4前･後 2･3･4前･後	2 2	2 2	玉川大学 教育学部 教育学科 准教授 (平29.4)	
60	兼担	准教授	ﾏﾂﾔﾏ ｲﾜｵ 松山 巌 ＜令和3年4月＞		教育学修士※		図書館概論 図書館制度･経営論 情報サービス演習B 図書館情報資源概論 情報資源組織論 情報資源組織演習A 情報資源組織演習B	1･2前 1･2前 3･4前 1･2後 2･3前 2･3後 2･3後	2 2 1 2 2 1 1	1 1 1 1 1 1 1	玉川大学 教育学部 教育学科 通信教育課程 准教授 (平13.4)	
61	兼担	准教授	ﾐﾅﾐｼﾏ ｴｲｺ 南島（長田）永衣子 ＜令和3年4月＞		修士（体育学）		健康スポーツ理論	1･2･3･4前･後	4	2	玉川大学 教育学部 教育学科 准教授 (平28.4)	
62	兼担	准教授	ﾑﾗｲ ｼﾝｼﾞ 村井 伸二 ＜令和3年4月＞		教育学修士		野外教育 TAPファシリテーションI TAPファシリテーションII 生涯学習と生涯教育 社会教育経営論A	2･3･4後 1･2･3･4前･後 1･2･3･4後 1･2後 2･3後	2 4 2 2 2	1 2 1 1 1	玉川大学 TAPセンター 准教授 (平24.4)	
63	兼担	助教	ｾｷ ﾄﾓｺ 関 智子 ＜令和3年4月＞		Master of Science (Experiential Education) （米国）		コミュニケーション論	1･2･3･4前･後	4	2	玉川大学 ﾘﾍﾞﾗﾙｱｰﾂ学部 ﾘﾍﾞﾗﾙｱｰﾂ学科 助教 (平30.4)	
64	兼担	助教	ﾔﾏﾀﾞ (ﾊﾟﾄﾘｶﾗｷｽ) ｱｷ 山田（パトリカラキス）亜紀 ＜令和5年4月＞		Ph.D. in Education （米国）		Modern Japanese History Issues in Japanese Studies A	3･4前 4前	2 2	1 1	玉川大学 ﾘﾍﾞﾗﾙｱｰﾂ学部 ﾘﾍﾞﾗﾙｱｰﾂ学科 助教 (平31.4)	
65	兼任	講師	ｱｻｵ ｹｲｲﾁﾛｳ 浅尾 慶一郎 ＜令和3年4月＞		経営学修士 Master of Business Administration （米国）		政治学（国際政治を含む。）	1･2･3･4前･後	4	2	浅尾慶一郎事務所 代表	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏　名 <就任(予定)年月>	年齢	保有学位等	月額基本給(千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職 (就任年月)	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
66	兼任	講師	ｱﾀﾞﾁ ｶｽﾞﾄｼ 安達 和年 ＜令和3年4月＞		工学士		ネットワーク入門 マルチメディア表現	1･2･3･4前･後 1･2･3･4前･後	4 4	2 2	玉川大学 工学部 ソフトウェアサイエンス学科 非常勤講師 (平8.4)	
67	兼任	講師	ｱﾗ ｶｽﾞﾖｼ 荒 一能 ＜令和3年4月＞		修士(文学)		民俗学入門	1･2･3･4後	2	1	玉川大学 リベラルアーツ学部 リベラルアーツ学科 非常勤講師 (平25.4)	
68	兼任	講師	ｱﾘﾔﾏ ﾕﾐｺ 有山 裕美子 ＜令和3年4月＞		修士(文化情報)		図書館サービス概論	1･2後	2	1	工学院大学 附属中学･高等学校 司書教諭 (平21.2)	
69	兼任	講師	ｱﾜﾀ ｳﾗﾗ 粟田 麗 ＜令和3年4月＞		学士(文学)		演技･舞踊入門※ 演技･舞踊基礎演習 演技･舞踊演習Ⅰ 演技･舞踊演習Ⅱ 演技･舞踊演習Ⅲ 演技･舞踊演習Ⅳ	1前 1後 2前 2後 3前 3後	0.1 2 4 4 4 4	1 1 1 1 1 1	玉川大学 芸術学部 パフォーミング･アーツ学科 非常勤講師 (平27.4)	
70	兼任	講師	ｲｹﾀﾞ ﾕﾐ 池田 佑美 ＜令和3年4月＞		博士(農学)		環境科学	1･2･3･4前･後	4	2	玉川大学 農学部 生産農学科 非常勤講師 (平25.4)	
71	兼任	講師	ｲｹﾐﾔｷﾞ ﾅｵﾐ 池宮城 直美 ＜令和4年4月＞		学士(造形)		シアターデザイン基礎演習Ⅰ シアターデザイン基礎演習Ⅱ 劇空間デザイン研究※	2前 2後 3前･後	2 2 1.9	1 1 2	二村周作アトリエ アシスタントデザイナー フリーデザイナー (平20.3)	
72	兼任	講師	ｲｼﾊﾞｼ ﾏｲ 石橋 舞 ＜令和3年4月＞		学士(芸術)		舞台技術基礎演習※ 上演基礎実習※ メイクアップ 上演実習A 上演実習B 舞台創造演習Ⅰ※ 舞台創造演習Ⅱ 上演実習C 上演実習D 舞台創造演習Ⅲ 舞台創造演習Ⅳ	1前･後 1後 2前･後 2前 2後 2前 2後 3前 3後 3前 3後	1.3 3.2 4 4 4 0.3 4 4 4 4 4	2 1 2 1 1 1 1 1 1 1 1	玉川大学 芸術学部 パフォーミング･アーツ学科 非常勤講師 (平23.4)	
73	兼任	講師	ｲﾁﾊﾞﾄｼﾕｷ 市場 俊之 ＜令和4年4月＞		Doktor der Sozialwissenschaften (ドイツ)		スポーツ史	2･3･4後	2	1	中央大学商学部 教授 (平5.4)	
74	兼任	講師	ｳﾗ ｺｳｷ 浦 弘毅 ＜令和3年4月＞		高校卒		演技･舞踊入門※ 舞台技術基礎演習※ 演技･舞踊演習Ⅰ 演技･舞踊演習Ⅱ 上演実習A 舞台創造演習Ⅰ※ 応用演劇演習Ⅰ 応用演劇演習Ⅱ 演技･舞踊演習Ⅲ 演技･舞踊演習Ⅳ オーディション演習※ 上演実習D 舞台創造演習Ⅳ 応用演劇演習Ⅲ 応用演劇演習Ⅳ 芸術プロジェクトF	1前 1前･後 2前 2後 2前 2前 2･3前 2･3後 3前 3後 3前･後･4前 3後 3後 3･4前 3･4後 4前･後	0.3 1.3 4 4 4 0.8 2 2 4 4 1.3 4 4 2 2 4	1 2 1 1 1 1 1 1 1 1 2 1 1 1 1 2	ステージワークURAK 代表取締役社長 (平27.11)	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有学位等	月額基本給(千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職 (就任年月)	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
75	兼任	講師	ｴﾄｳ ｹｲﾔ 江藤 圭也 ＜令和3年4月＞		修士(経済学)※		経済学(国際経済を含む。)	1･2･3･4前	2	1	玉川大学 経営学部 国際経営学科 非常勤講師 (平19.4)	
76	兼任	講師	ｵｵｶﾜ ﾀｶｺ 大川 孝子 ＜令和3年4月＞		修士(教育学)		学校経営と学校図書館 学習指導と学校図書館 読書と豊かな人間性	1･2前 3･4前 2･3後	2 2 2	1 1 1	玉川大学 教育学部 教育学科 非常勤講師 (平27.4)	
77	兼任	講師	ｵｵｸﾎﾞ ﾕｳｷ 大久保 悠貴 ＜令和3年4月＞		修士(法学)※		市民社会と法	1･2･3･4後	2	1	玉川大学 教育学部 教育学科 非常勤講師 (令2.4)	
78	兼任	講師	ｵｵｻｷ ｺｳｼﾞ 大崎 恒次 ＜令和3年4月＞		博士(経営学)		マーケティング	1･2･3･4前･後	4	2	専修大学商学部 准教授 (平26.4)	
79	兼任	講師	ｵｵｼﾏ ﾘｴｺ 大嶋 里衣子 ＜令和3年4月＞		学士(音楽)		演技･舞踊入門※ 日本文化芸術論※ 演技･舞踊演習Ⅰ 演技･舞踊演習Ⅱ 演技･舞踊演習Ⅲ 演技･舞踊演習Ⅳ	1前 1前･後 2前 2後 3前 3後	0.1 0.8 4 4 4 4	1 2 1 1 1 1	玉川大学 芸術学部 パフォーミング･アーツ学科 非常勤講師 (令2.4)	
80	兼任	講師	ｵｵｼﾏ ｻﾁ 大島 幸 ＜令和3年4月＞		修士(文学)		ELF 102	1･2･3･4前･後	16	4	玉川大学 ELFセンター 非常勤講師 (平29.4)	
81	兼任	講師	ｵｵﾓﾘ ﾃﾂｼ 大森 哲至 ＜令和3年4月＞		博士(経営学) 修士(教育学) 学士(人間関係学)		心理学	1･2･3･4前･後	4	2	帝京大学 特任講師 (平31.4)	
82	兼任	講師	ｵｶﾑﾗ ｸﾐｺ 岡村 久美子 ＜令和3年4月＞		学士(芸術学)		日本文化芸術論※	1前･後	0.8	2	日本舞踊 辰巳流 家元	
83	兼任	講師	ｶﾂﾏﾀ ﾉﾌﾞﾕｷ 勝又 暢之 ＜令和3年4月＞		博士(学術)		環境教育	1･2･3･4前･後	4	2	公益財団法人 平岡環境科学研究所 援助研究員	
84	兼任	講師	ｶﾄｳ ﾋﾃﾞｱｷ 加藤 英明 ＜令和3年4月＞		工学士		情報倫理と社会	1･2･3･4前	2	1	玉川大学 工学部 情報通信工学科 非常勤講師 (平25.4)	
85	兼任	講師	ｶﾄｳ ﾋﾃﾞｵ 加藤 秀雄 ＜令和3年4月＞		修士(文学)※		文化人類学	1･2･3･4前･後	4	2	玉川大学 リベラルアーツ学部 リベラルアーツ学科 非常勤講師 (平31.4)	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏　名 <就任(予定)年月>	年齢	保有学位等	月額基本給(千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職 (就任年月)	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
86	兼任	講師	カノウ ユウダイ 叶 雄大 ＜令和4年4月＞		学士(文学)		演技・舞踊演習Ⅰ 演技・舞踊演習Ⅱ 上演実習B 舞台創造演習Ⅱ 芸術創造演習Ⅰ 芸術創造演習Ⅱ 応用演劇演習Ⅰ 応用演劇演習Ⅱ 演技・舞踊演習Ⅲ 演技・舞踊演習Ⅳ 上演実習C 舞台創造演習Ⅲ 芸術創造演習Ⅲ 芸術創造演習Ⅳ 応用演劇演習Ⅲ 応用演劇演習Ⅳ 芸術プロジェクトE	2前 2後 2後 2後 2前 2後 2・3前 2・3後 3前 3後 3前 3前 3前 3後 3・4前 3・4後 4前・後	4 4 4 4 4 4 2 2 4 4 4 4 4 4 2 2 4	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 2	(特定非営利活動法人) アートインライフ 理事 (平29.5)	
87	兼任	講師	カワサキ トシハル 川﨑 敏治 ＜令和3年4月＞		博士(理学)		統計学入門	1・2・3・4前・後	4	2	玉川大学 工学部 マネジメントサイエンス学科 非常勤講師 (平24.4)	
88	兼任	講師	キウチ マサト 木内 真人 ＜令和4年4月＞		(論)博士(理学)		地球科学 宇宙科学	2・3・4前・後 2・3・4前・後	4 4	2 2	玉川大学 工学部 エンジニアリングデザイン学科 非常勤講師 (平31.4)	
89	兼任	講師	キシダ シン 岸田 真 ＜令和3年4月＞		文学修士		演劇史 世界演劇・舞踊史Ⅱ 日本演劇・舞踊史Ⅰ 日本演劇・舞踊史Ⅱ	1・2・3・4前・後 1後 2前 2後	4 2 2 2	2 1 1 1	桜美林大学芸術文化学群 教授 (平17.4)	
90	兼任	講師	キタオカ タマコ 北岡 タマ子 ＜令和4年4月＞		修士（コミュニティ振興学） 学士（教養）		博物館情報・メディア論	2・3後	2	1	お茶の水女子大学 リエゾン・URAセンター リサーチ・アドミニストレーター (平22.6)	
91	兼任	講師	キヌガワ ユリ 絹川 友梨 ＜令和3年4月＞		修士(学際情報学) Masters of Art (ニュージーランド)		演技・舞踊基礎演習 応用演劇演習Ⅰ 応用演劇演習Ⅱ 応用演劇演習Ⅲ 応用演劇演習Ⅳ	1後 2・3前 2・3後 3・4前 3・4後	2 2 2 2 2	1 1 1 1 1	インプロワークス株式会社 代表取締役 (平21.9)	
92	兼任	講師	クスハラ タツヤ 楠原 竜也 ＜令和3年4月＞		修士(教育学)		演技・舞踊基礎演習 上演基礎実習※ 演技・舞踊演習Ⅰ 演技・舞踊演習Ⅱ 応用演劇演習Ⅰ 応用演劇演習Ⅱ 演技・舞踊演習Ⅲ 演技・舞踊演習Ⅳ オーディション演習※ 応用演劇演習Ⅲ 応用演劇演習Ⅳ	1後 1後 2前 2後 2・3前 2・3後 3前 3後 3前・後・4前 3・4前 3・4後	2 3.2 4 4 2 2 4 4 1.6 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 2 1 1	現代舞踊 (コンテンポラリーダンサー) 演劇 (フィジカルシアター) (平12.4)	
93	兼任	講師	クドウ ケンイチ 工藤 健一 ＜令和3年4月＞		修士(文学)※		歴史(日本)	1・2・3・4前・後	4	2	玉川大学 経営学部 国際経営学科 非常勤講師 (平17.4)	
94	兼任	講師	コヌマ アキオ 小沼 明生 ＜令和3年4月＞		博士(史学)		人文科学アカデミックスキルズ(リーディング) 自然科学アカデミックスキルズ(リーディング) 自然科学アカデミックスキルズ(ライティング)	1・2・3・4前・後 1・2・3・4前・後 1・2・3・4前・後	2 2 2	2 2 2	玉川大学 経営学部 国際経営学科 非常勤講師 (平24.4)	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏　名 <就任(予定)年月>	年齢	保有学位等	月額基本給(千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職 (就任年月)	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
95	兼任	講師	ｺﾊﾞﾔｼ ﾅｵﾔ 小林 直弥 ＜令和4年4月＞		修士(芸術学)※		日本演劇・舞踊史Ⅰ 日本演劇・舞踊史Ⅱ	2前 2後	2 2	1 1	日本大学 教授 (平14.4)	
96	兼任	講師	ｺﾊﾞﾔｼ ﾏｻﾕｷ 小林 正幸 ＜令和3年4月＞		修士(社会学)※		社会学 マスメディアと社会 現代文化論	1･2･3･4前･後 1･2･3･4前･後 2･3･4前	4 4 2	2 2 1	玉川大学 リベラルアーツ学部 リベラルアーツ学科 非常勤講師 (平17.4)	
97	兼任	講師	ｻｲﾄｳ ﾔｽﾉﾘ 齋藤 泰則 ＜令和3年4月＞		教育学修士※		学校図書館メディアの構成 図書・図書館史 児童サービス論 情報サービス演習A	1･2前 1･2前 1･2後 3･4前	2 1 2 1	1 1 1 1	明治大学 教授 (平17.4)	
98	兼任	講師	ｻﾄｳ ﾔｽﾋﾄ 佐藤 恭仁 ＜令和3年4月＞		修士(化学)		プレゼンテーションスキル	1･2･3･4後	2	1	株式会社ドラポケ 代表取締役 (平17.12)	
99	兼任	講師	ｼｹﾞﾔﾏ ｾﾝﾉｼﾞｮｳ 茂山 千之丞 ＜令和3年4月＞		高校卒(大学中退)		日本文化芸術論※	1前・後	1.1	2	童司カンパニー 取締役 (平12)	
100	兼任	講師	ｼﾉﾀﾞ ｶｵﾙ 篠田 薫 ＜令和3年4月＞		準学士		上演基礎実習※ メイクアップ 上演実習A 上演実習B 舞台創造演習Ⅰ※ 舞台創造演習Ⅱ 上演実習C 上演実習D 舞台創造演習Ⅲ 舞台創造演習Ⅳ	1後 2前・後 2前 2後 2前 2後 3前 3後 3前 3後	3.2 4 4 4 0.3 4 4 4 4 4	1 2 1 1 1 1 1 1 1 1	玉川大学 芸術学部 パフォーミング・アーツ学科 非常勤講師 (平21.9)	
101	兼任	講師	ｼﾊﾞﾀ ﾄｵﾙ 柴田 徹 ＜令和3年4月＞		修士(教育学)※		情報メディアの活用	1･2前・後	4	2	玉川大学 教育学部 教育学科 非常勤講師 (平28.4)	
102	兼任	講師	ｼﾏﾀﾞ ﾋﾛｼ 島田 啓司 ＜令和3年4月＞		文学士		演技・舞踊入門※ 演技・舞踊基礎演習 演技・舞踊演習Ⅰ 演技・舞踊演習Ⅱ 所作・擬闘 演技・舞踊演習Ⅲ 演技・舞踊演習Ⅳ オーディション演習※ アナウンス・ナレーション研究	1前 1後 2前 2後 2前・後 3前 3後 3前・後・4前 3前・後	0.3 2 4 4 4 4 4 1.6 4	1 1 1 1 2 1 1 2 2	劇団S.W.A.T! 主宰 (昭58.11)	
103	兼任	講師	ｼｮｰﾙﾂ ｼﾞｪﾌﾘｰ SCHULTZ Jeffrey ＜令和3年4月＞		M.S.E.d. in TESOL (米国)		ELF 301 ELF 302	1･2･3･4前･後 1後･2･3･4前･後	8 8	2 2	玉川大学 ELFセンター 非常勤講師 (平27.4)	
104	兼任	講師	ｼﾛｾ ﾐｻｷ 白勢 美咲 ＜令和3年4月＞		Post-Master's Advanced Certificate Program in TESOL (米国)		ELF 101	1･2･3･4前･後	16	4	玉川大学 ELFセンター 非常勤講師 (平27.9)	
105	兼任	講師	ｽｷﾞｻｷ ｲｽﾞﾐ 杉崎 泉 ＜令和3年4月＞		学士(文学)		演技・舞踊入門※ 演技・舞踊基礎演習 上演基礎実習※ 演技・舞踊演習Ⅰ 演技・舞踊演習Ⅱ 演技・舞踊演習Ⅲ 演技・舞踊演習Ⅳ	1前 1後 1後 2前 2後 3前 3後	0.3 2 3.2 4 4 4 4	1 1 1 1 1 1 1	鳳蘭レビューアカデミー バレエ講師 (平20.11)	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏　名 <就任(予定)年月>	年齢	保有学位等	月額基本給(千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職 (就任年月)	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
106	兼任	講師	ｽﾐ ｼｹﾞｷ 角 茂樹 ＜令和4年4月＞		Diploma for Social Studies （英国）		East Asian History 国際関係論	4前 2･3･4前･後	2 4	1 2	玉川大学 リベラルアーツ学部 リベラルアーツ学科 客員教授 (令1.9)	
107	兼任	講師	ﾀｶﾔﾅｷﾞ ｶﾂﾋﾛ 髙柳 克弘 ＜令和3年4月＞		修士（文学）※		日本語表現 101 日本語表現 102	1･2･3･4前･後 1･2･3･4後	4 2	2 1	玉川大学 リベラルアーツ学部 リベラルアーツ学科 非常勤講師 (平28.4)	
108	兼任	講師	ﾀｹﾀﾞ ﾄﾓﾔ 武田 知也 ＜令和3年4月＞		学士（文学）		上演基礎実習※ 上演実習A 上演実習B 芸術創造演習Ⅰ 芸術創造演習Ⅱ 上演実習C 上演実習D 芸術プロジェクトD 芸術創造演習Ⅲ 芸術創造演習Ⅳ	1後 2前 2後 2前 2後 3前 3後 3前･後 3前 3後	3.2 4 4 4 4 4 4 4 4 4	1 1 1 1 1 1 1 2 1 1	玉川大学 芸術学部 パフォーミング･アーツ学科 非常勤講師 (平31.4)	
109	兼任	講師	ﾀﾆｸﾞﾁ ｱﾔ 谷口 綾 ＜令和3年4月＞		学士（芸術）		舞台技術基礎演習※ 上演基礎実習※ シアターデザイン基礎演習Ⅰ シアターデザイン基礎演習Ⅱ 舞台創造演習Ⅰ※ 舞台創造演習Ⅱ 劇空間デザイン研究※	1前･後 1後 2前 2後 2前 2後 3前･後	1.3 3.2 2 2 0.8 4 1.9	2 1 1 1 1 1 2	二村周作アトリエ 舞台美術家助手 (平21.4)	
110	兼任	講師	ﾀﾏｶﾞﾜ ｻﾔｶ 玉川 さやか ＜令和3年4月＞		M.A. （英国）		演技･舞踊入門※ 演技･舞踊演習Ⅰ 演技･舞踊演習Ⅱ 演技･舞踊演習Ⅲ 演技･舞踊演習Ⅳ	1前 2前 2後 3前 3後	0.1 4 4 4 4	1 1 1 1 1	玉川大学 芸術学部 パフォーミング･アーツ学科 非常勤講師 (平17.4)	
111	兼任	講師	ﾂﾂｲ ﾊﾙｶ 筒井 晴香 ＜令和3年4月＞		博士（学術）		ロジック	1･2･3･4前･後	4	2	玉川大学 教育学部 教育学科 非常勤講師 (平27.4)	
112	兼任	講師	ﾂﾈｵｶ ｱｷｺ 常岡 亜希子 ＜令和3年4月＞		M.A. in TESOL （米国）		英語学	1･2･3･4前･後	4	2	玉川大学 文学部 英語教育学科 非常勤講師 (平16.4)	
113	兼任	講師	ﾂﾕｷ ｶｽﾞﾋﾛ 露木 一博 ＜令和4年4月＞		学士（文学）		芸術プロジェクトA	2前･後	4	2	有限会社アートウィル 東京打撃団 正メンバー (平17.4)	
114	兼任	講師	ﾄｸﾀﾞ ｱｷﾗ 徳田 章 ＜令和5年4月＞		法学士		アナウンス･ナレーション研究	3前･後	4	2	玉川大学 リベラルアーツ学部 リベラルアーツ学科 客員教授（非常勤講師） (平20.4)	
115	兼任	講師	ﾅｶﾞｲ ﾀｸﾐ 永井 匠 ＜令和3年4月＞		修士（文学）※		歴史（世界）	1･2･3･4前･後	4	2	玉川大学 リベラルアーツ学部 リベラルアーツ学科 非常勤講師 (平30.9)	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有学位等	月額基本給(千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職 (就任年月)	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
116	兼任	講師	ﾆｼﾔﾏ ﾖｼﾀｶ 西山 由隆 ＜令和3年4月＞		博士(生物産業学)		化学入門	1･2･3･4前･後	4	2	玉川大学 農学部 先端食農学科 非常勤講師 (平21.4)	
117	兼任	講師	ﾊｷﾞ ﾕﾐｺ 萩 裕美子 ＜令和5年4月＞		博士(保健学) 教育学士 栄養学士		栄養学	3･4前	2	1	東海大学 体育学部 スポーツ･レジャーマネジメント学科 教授 (平21.4)	
118	兼任	講師	ﾊﾞﾊﾞﾉｳﾞｧ ｲﾘｰﾅ BABANOVA Irina Ognyanova ＜令和3年4月＞		MA and Ph.D. Joint Degree (米国)		ELF 201 ELF 202	1･2･3･4前･後 1後･2･3･4前･後	8 8	2 2	玉川大学 ELFセンター 非常勤講師 (平28.4)	
119	兼任	講師	ﾋﾅﾀ ﾖｼｶｽﾞ 日向 良和 ＜令和3年4月＞		修士 (図書館･情報学)		図書館情報技術論 情報サービス論 図書館情報資源特論 図書館施設論	1･2後 1･2後 1･2前 1･2後	2 2 1 1	1 1 1 1	都留文科大学 情報センター 准教授 (平22.4)	
120	兼任	講師	ﾌｼﾞｲ ｻﾕﾘ 藤井 さゆり ＜令和3年4月＞		修士(工学)		上演基礎実習※ 上演実習A 上演実習B 芸術創造演習Ⅰ 芸術創造演習Ⅱ 上演実習C 上演実習D 芸術プロジェクトC 芸術創造演習Ⅲ 芸術創造演習Ⅳ	1後 2前 2後 2前 2後 3前 3後 3前･後 3前 3後	3.2 4 4 4 4 4 4 4 4 4	1 1 1 1 1 1 1 2 1 1	玉川大学 芸術学部 パフォーミング･アーツ学科 非常勤講師 (平30.4)	
121	兼任	講師	ﾌｼﾞﾑﾗ ﾀｸﾔ 藤村 拓也 ＜令和4年4月＞		修士(文学)※ 修士(教育学)		博物館展示論	2･3前	2	1	町田市立 国際版画美術館 主事(学芸員) (平24.10)	
122	兼任	講師	ﾌﾀﾐ ﾋﾃﾞﾕｷ 二見 英幸 ＜令和3年4月＞		専門学校卒		舞台技術基礎演習※ 上演基礎実習※ 上演実習A 上演実習B 舞台創造演習Ⅰ※ 舞台創造演習Ⅱ 上演実習C 上演実習D 舞台創造演習Ⅲ 舞台創造演習Ⅳ	1前･後 1後 2前 2後 2前 2後 3前 3後 3前 3後	1.3 3.2 4 4 1.6 4 4 4 4 4	2 1 1 1 1 1 1 1 1 1	玉川大学 芸術学部 パフォーミング･アーツ学科 非常勤講師 (平23.4)	
123	兼任	講師	ﾌﾜ ﾀﾞｲｽｹ 不破 大輔 ＜令和4年4月＞		高校卒		芸術プロジェクトB	2前･後	4	2	渋さ知らズ オーケストラ リーダー(指揮者)、代表 (平1.9)	
124	兼任	講師	ﾎﾘｳﾁ ｼﾞｭｳ 堀内 充 ＜令和4年4月＞		School of American Ballet, New York		演技･舞踊演習Ⅰ 演技･舞踊演習Ⅱ 演技･舞踊演習Ⅲ 演技･舞踊演習Ⅳ	2前 2後 3前 3後	4 4 4 4	1 1 1 1	大阪芸術大学／大阪芸術大学大学院 教授 (平13.4)	
125	兼任	講師	ﾏｴﾀﾞ ｻﾄｼ 前田 悟志 ＜令和6年4月＞		博士(社会学)		Issues in Japanese Studies B	4後	2	1	玉川大学 リベラルアーツ学部 リベラルアーツ学科 非常勤講師 (平31.4)	
126	兼任	講師	ﾏｽﾓﾄ ﾅｵﾌﾐ 舛本 直文 ＜令和3年4月＞		博士(体育科学)		オリンピック文化論	1･2･3･4前･後	4	2	東京都立大学 客員教授 (昭56.4)	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有学位等	月額基本給(千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職 (就任年月)	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
127	兼任	講師	ﾐﾔｻﾞﾜ ﾖｼｵﾐ 宮澤 義臣 ＜令和3年4月＞		文学修士		ドイツ語 101 ドイツ語 102	1･2･3･4前･後 1･2･3･4後	4 2	2 1	玉川大学 文学部 英語教育学科 非常勤講師 (平4.4)	
128	兼任	講師	ﾐﾔﾅｶﾞ ﾉｿﾞﾐ 宮永 望 ＜令和3年4月＞		修士(理学)※		数学入門 解析学入門 代数学入門	1･2･3･4前･後 1･2･3･4前･後 1･2･3･4前･後	4 4 4	2 2 2	玉川大学 工学部 ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄｻｲｴﾝｽ学科 非常勤講師 (平17.4)	
129	兼任	講師	ﾐｮｳｶﾞ ﾐﾁｺ 茗荷 美知子 ＜令和3年4月＞		商学士		情報科学入門 データ処理	1･2･3･4前･後 1･2･3･4前･後	4 4	2 2	玉川大学 工学部 ｿﾌﾄｳｪｱｻｲｴﾝｽ学科 非常勤講師 (平15.4)	
130	兼任	講師	ﾒｸﾞﾛ ﾕﾘｴ 目黒 ゆりえ ＜令和3年4月＞		修士 (フランス文学)		比較文化論 外国文学 フランス語 101 フランス語 102	1･2･3･4前･後 1･2･3･4前･後 1･2･3･4前･後 1･2･3･4後	4 4 4 2	2 2 2 1	玉川大学 文学部 英語教育学科 非常勤講師 (平7.4)	
131	兼任	講師	ﾔｶﾞｻｷﾄﾓｷ 矢ケ崎 朋樹 ＜令和3年4月＞		博士(環境学)		環境教育ワークショップI 環境教育ワークショップII	1･2･3･4後 2･3･4前	2 2	1 1	公益財団法人 地球環境戦略研究機関 国際生態学センター 主任研究員 (平19.4)	
132	兼任	講師	ﾔﾏｼﾅ ﾅｵｺ 山科 直子 ＜令和4年4月＞		Doctor in Philosophy (英国)		科学史 科学技術社会論	2･3･4後 2･3･4後	2 2	1 1	筑波大学広報室 教授	
133	兼任	講師	ﾔﾏﾓﾄ ﾋﾛｼ 山本 浩史 ＜令和3年4月＞		修士(言語学)		スペイン語 101 スペイン語 102	1･2･3･4前･後 1･2･3･4後	4 2	2 1	玉川大学 文学部 英語教育学科 非常勤講師 (平31.4)	
134	兼任	講師	ﾖｼﾀｹ ﾐﾂｵ 吉武 光雄 ＜令和3年4月＞		修士(哲学)※		倫理学	1･2･3･4後	2	1	玉川大学 学術研究所 非常勤講師 (平24.9)	
135	兼任	講師	ﾖｼﾐ ｴﾘ 吉見 江利 ＜令和3年4月＞		修士(人文科学)		ボランティア概論 生涯学習支援論A	1･2･3･4後 2･3後	2 2	1 1	玉川大学 教育学部 教育学科 非常勤講師 (平31.4)	
136	兼任	講師	ﾗｰｿﾝ ﾄﾞﾘｭｰ LARSON Drew ＜令和3年4月＞		M.A. in Theatre Arts (米国)		ELF 401 ELF 402	1･2･3･4前･後 1･2･3･4前･後	8 8	2 2	玉川大学 ELFセンター 非常勤講師 (平30.4)	

別記様式第３号（その３）

専任教員の年齢構成・学位保有状況

（芸術学部　演劇・舞踊学科）

職　位	学　位	29歳以下	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65～69歳	70歳以上	合　計	備　考
教　授	博　士	人	人	人	1 人	人	人	人	1 人	
	修　士	人	人	人	2 人	人	人	人	2 人	
	学　士	人	人	人	1 人	人	人	人	1 人	
	短期大学士	人	人	人	人	人	人	人	0 人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	0 人	
准教授	博　士	人	人	1 人	人	人	人	人	1 人	
	修　士	人	人	1 人	人	人	人	人	1 人	
	学　士	人	人	人	人	人	人	人	0 人	
	短期大学士	人	人	人	人	人	人	人	0 人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	0 人	
講　師	博　士	人	人	人	人	人	人	人	0 人	
	修　士	人	人	人	人	人	人	人	0 人	
	学　士	人	人	人	人	人	人	人	0 人	
	短期大学士	人	人	人	人	人	人	人	0 人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	0 人	
助　教	博　士	人	人	人	人	人	人	人	0 人	
	修　士	人	人	1 人	人	人	人	人	1 人	
	学　士	人	人	人	人	人	人	人	0 人	
	短期大学士	人	人	人	人	人	人	人	0 人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	0 人	
合　計	博　士	0 人	0 人	1 人	1 人	0 人	0 人	0 人	2 人	
	修　士	0 人	0 人	2 人	2 人	0 人	0 人	0 人	4 人	
	学　士	0 人	0 人	0 人	1 人	0 人	0 人	0 人	1 人	
	短期大学士	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	
	その他	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	